

八代の祖松平親氏、崇敬厚く大いに堂宇を造營して永く自家の菩提所となし、法藏寺と改めたり。後花園天皇寶徳三年、勅願所の繪旨を賜はり、大神光の勅願を下賜せらる。徳川家康、其幼時當寺に入り七世教頭に就きて學びしと傳ふ。近世寺領八十三石を有す。



(堂本寺藏法)

●境内五千二百坪、東海道國道に面し、老松古杉參差たる幽邃境なり。
●本堂・書院・六角堂・鐘樓・庫裡等あり。
●塔頭三箇寺を有す。
●其他御草紙掛松(徳川家康舊跡)、寶勝水(日本武尊舊跡)・東照權現宮・松平家藏廟等あり。寺實には後花園天皇勅願・義家公具足・家康の妹矢田姫寄進枕原風・本多忠勝筆下馬札・家康使用文台等を藏す。尚ほ附近にあまごけ祭にて著名なる上衣文觀音(衣文山僧信寺)あり。
●觀世音法會(四月九日、十日)。

三 三 支 寺

●臨濟宗妙心寺派。
●興聖山と號す。明應五年の創建にして、開山は柏庭宗松なり。後真退せしを覺岩和尚再興す。往古は寺城東西三十町、南北六町に及びしも、元禄年中、松平伊豆守の所領となるに至りて縮小し、現今七百七十九坪となれり。二十一世の代、火災に罹り、經堂、鐘樓、山門を燒すの外悉く烏有に歸せし。其後再建せらる。
●古義眞言宗。
●煙巖山と號す。文武天皇の勅願により、大寶二年利修仙人の開創に傳ふ。天平勝寶年中、聖天武皇並に光明皇后の御歸依あり、皇后風來寺の額を下賜せらる。後數百年間次第に衰微せしが、建久年中、源賴朝堂宇を再興して封祿を附し、永く鎮護國家の道場たらしむ。足利の騷亂により寺領を奪はれしも、明應年間、當國長藤、築手、田峯の各城主より三千餘石を寄せらる。然るに豊臣氏に至りて五百石に減せられしが、徳川氏起るや、寺領八百五十石並に古來附屬の



(寶國)(門山寺山遊)

美濃國平野庄住人太耶大夫橋宗重の建立の寺傳す。手法樓式上、寺傳凡そ是認せらるべし。三門(三間一戸)・樓門、櫓門、屋根入母屋造(樓瓦葺)は仁王門とも呼ばれ、組物は和様三手先にして其樓式寺傳文永四年建立と大略一致す。寺實に鬼面(祖交面・祖母面・孫面)三面を藏す。
●正月元旦より七日間、修正會み執行し、天下善平武運長久、五穀成熟を祈る。結願の夕に鬼祭を行ふ。近郷の名物祭にして参拜者甚だ多し。
●臨濟宗妙心寺派。
●貞治元年、足利義滿の造營に係り、永源寺派に屬



(寶國)(堂本寺山遊)

長 興 寺

●臨濟宗東福寺派。
●集雲山と號す。創建年代不詳なるも、南北朝の初め譽母城主中條氏の創建に係るもの、如し。開基に於ても或は太陽義仲といひ、或は僧春園といひて定かならず。近世寺領百石なり。
●富寺藏すと、この佛涅槃圖(絹本着色)一幅は國實に指定せらる。三幅一舖にして、幅七尺六寸二分、横五尺一寸九分あり。三川州高橋庄集雲山長興寺常任懸永二十八年丑辛繪制日幹比丘義陸の墨書銘存す。尙附近フタツタカネと稱する地に石壇あり。石棺露れ、多くの遺物を出したり。

如 意 寺

●眞宗大谷派。
●梁命山と號し、觀音門居關東六老僧の一荒木源海の開基に係る。初め武州豐島郡荒木にありて高福寺と

三 支 寺

●臨濟宗妙心寺派。
●興聖山と號す。明應五年の創建にして、開山は柏庭宗松なり。後真退せしを覺岩和尚再興す。往古は寺城東西三十町、南北六町に及びしも、元禄年中、松平伊豆守の所領となるに至りて縮小し、現今七百七十九坪となれり。二十一世の代、火災に罹り、經堂、鐘樓、山門を燒すの外悉く烏有に歸せし。其後再建せらる。
●古義眞言宗。
●煙巖山と號す。文武天皇の勅願により、大寶二年利修仙人の開創に傳ふ。天平勝寶年中、聖天武皇並に光明皇后の御歸依あり、皇后風來寺の額を下賜せらる。後數百年間次第に衰微せしが、建久年中、源賴朝堂宇を再興して封祿を附し、永く鎮護國家の道場たらしむ。足利の騷亂により寺領を奪はれしも、明應年間、當國長藤、築手、田峯の各城主より三千餘石を寄せらる。然るに豊臣氏に至りて五百石に減せられしが、徳川氏起るや、寺領八百五十石並に古來附屬の



(堂本殿寺家風)

山林方三里を寄す。徳川家光亦大いに修復に努め、慶安元年より四箇年に亘り御靈を修營し、新に東照廟を建て、神領五百石を附し、併せて寺領千三百五十石となる。かくて徳川治世三百年間、幕府の優遇柳ノ間備禮格にて寺威諸大本山の上であり。其繁榮比類なかりしも、明治維新の際、寺領山林悉く土地となり、一山衰弊其極に達せり。
明治八年及び大正三年再度に罹りしが、大正十四年、業師堂を再建し、現植林事業を行ひ或は資金を得て寺運の興隆に努めつゝあり。尙ほ當寺は家光以來、山上の東照廟は輪王寺に屬して天台宗を奉じ、業師堂は高野山に隸して眞言宗に歸し、兩者の軋輓絶ゆることなかりしが、明治三十九年十一月、官許を得て一山眞言宗に專屬す。現に同宗高野末なり。塔頭寺院も二十一坊を數へしが、現に醫王、松高の二院を有するのみ。

●寺域三十七萬七千三百四十三坪、巖山の半腹にあ
りて海拔二千三百尺、老樹古杉其間を點綴し、眺望佳
絶、山中或は溪水あり、或は幽谷啼き、地方稀有の靈
山なり。堂宇には樓門・樂師堂・望洋閣・鐘樓・客殿・
事務所・奥ノ院・不動堂・祖師堂・東照宮等あり。本
尊は樂師如來にして利修仙人自作之傳へ、世に樂師
と呼びて靈驗を稱せらる。寺實には利修仙人作佛岳不
動尊・利修仙人像・光明皇后樂師來寺額・樂師如
來畫軸・有栖川益仁親王御筆風來寺額・冷泉爲相・二
條爲世筆源氏物語・妙法院宮教仁親王御筆風來寺額本
等其多敷を藏す。

●舊正月三日、十四日の兩日田樂會。此日大般若轉
讀、國家安全、諸人快樂の祈禱をなし、古來傳ふる所
の古雅の舞を本尊の寶前に奏す。其他四月十七日春季
大祭、五月一日より七日迄靈寶祈禱會、舊六月十七日、
十八日奥ノ院祭、舊七月朔日佛岳不動祭、十一月二十
二日、二十三日樂師大祭(秋季大祭)等を執行す。尚
ほ縁日は毎月八日及び十七日なり。

三明寺

●曹洞宗。
●龍雲山と號す。大寶二年、覺海阿闍梨の開創に係
り、古く天女垂迹の故事あり。又宇賀神垂迹の地なり
と傳へらる。應永年間、後醍醐天皇の第十一皇子無文
親王、三重塔を建立す。初め天台宗なりしが、後世、
現宗に轉す。
●本堂・庫裡・參籠殿・寶物殿・三重塔等あり。三
重塔(三間三層、屋根柿葺)は現に國寶なり。其構造、
上に行くに従つて複雑となり、軒毛二層までは二重塔
繁麗なるも、三層目は簡樸となり、屋根の反りまた第

三層最も強し。概して下は和様、上は唐様になる特異
なる建造物なり。現在相輪を缺く。細部の手法等より
推して應永年間建立の寺傳を信すべし。本尊辨財天は
大江定基の三河に國司たりし時、愛妾力壽の死を悼み
自ら刻して奉納せるものなりといひ、辨財天女の持つ
琵琶は定基愛妾の名法なりと傳ふ。境内に定基の墓あ
り。

妙嚴寺

●曹洞宗。
●圓福山と號す。後花園天皇の朝、嘉吉元年、道元
の法孫東海義昂の開創に係り、今川義元大いに伽藍を
造營し、寺領二十石を寄す。九鬼嘉隆、深く九世伊
孫に歸依し、文様役起るや、富山鎮守吒根尼尊天を船
櫃中に安置して武運長久を祈りしと云ふ。關ヶ原合戦
の朝、徳川家康、伊勢をして戰勝を祈らしめ、後其
報賽として寺領四十九石を増す。徳川氏の世、大岡越
前守忠相、厚く吒根尼尊天を信敬し、遂に副堂を其邸
内に設け、代々崇敬して明治維新に至る。偶々、明治
九年、私邸の神社佛閣禁止の命令あるに及び、改めて
之を大岡邸に近き赤坂區表町に奉祀し、以て富山の出

大願寺

●淨土宗。
●御津山と號す。もと淨光院と稱し、三論宗に屬せ
しが、文安二年五月、了庵慶善、之を再興して大願寺
と號し、現宗に改めたり。文明年中、兼善慈海、岡崎
城主松平親忠の外護を得て、新宮山より御津山(現地)
に移轉再興す。明應八年三月、後土御門天皇御旨を下
して勸願所と成し給ふ。後ち淨土眞院大願寺と改稱す
歴代住
職に松
平家と
俗縁あ
るもの
多く、
從ひて
松平家
徳川氏
との關
係殊に
深し。



(實蹟) (堂佛念寺思大)

近世寺
領百石
を有す

愛知縣 (實飯郡)

●古義眞言宗。
●陀羅尼山靈應地院と號す。三河七御堂の一にして
行基の開創に係り、後ち空海之を中興すと傳ふ。源範
賴三河守たりし時深く當寺に歸依す。永祿七年、徳川
家康、一ノ宮後詰の戦に勝つて歸陣の時、寺僧密導し
て功あり。因つて財寶の地を寄せらる。近世寺領百六
十石あり。鳥佛師の作と傳ふる千手觀音を本尊とす。
●本堂・大師堂・三十三所堂・護摩堂・庫裡・支關・
客殿・仁王門等を具へ、寺實として空海畫像・力珠懸
守本尊の文殊像・文殊筆不動尊等を藏す。

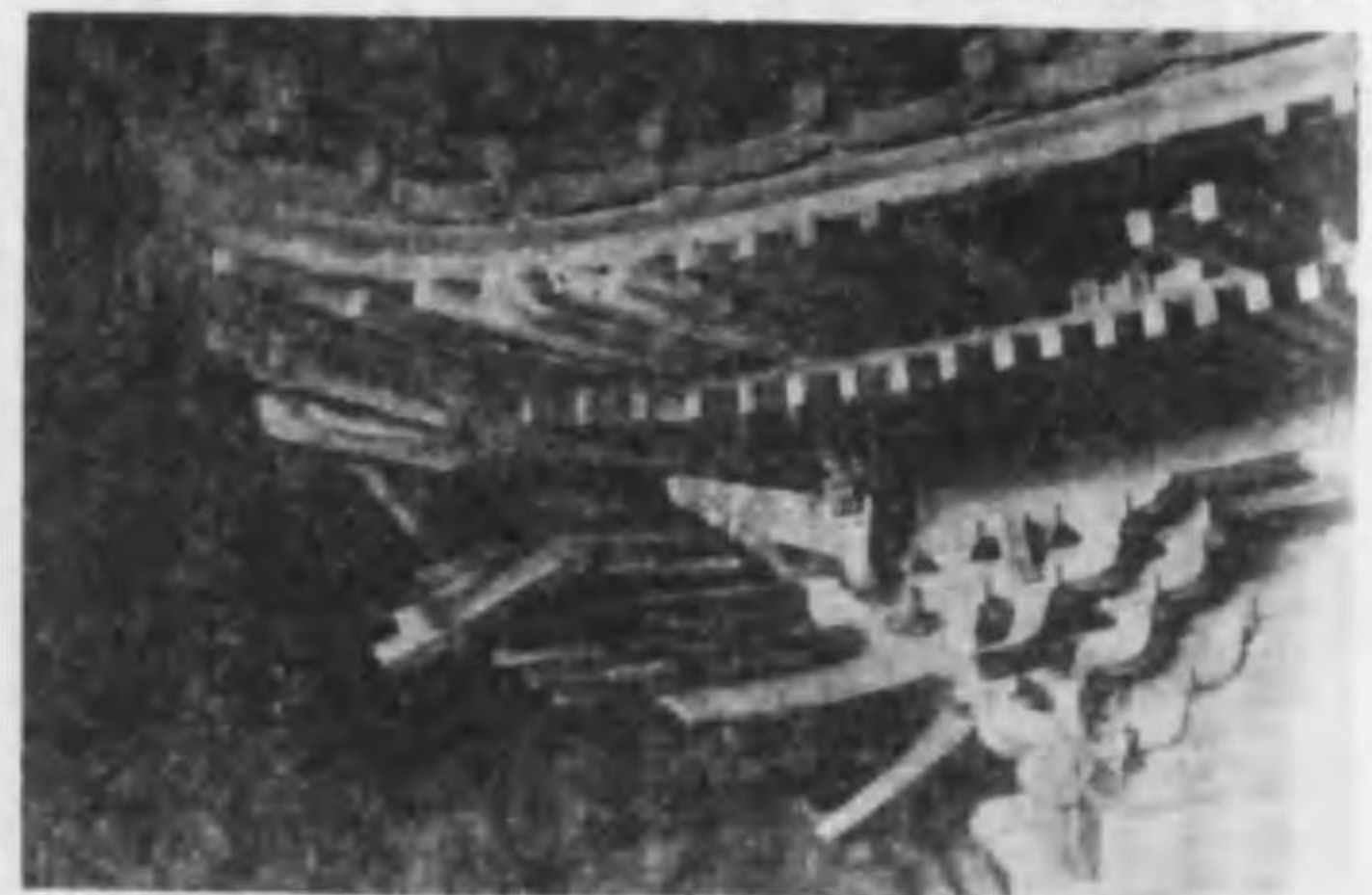
正法寺

●眞宗大谷派。
●太子山と號し、聖德太子の草創と傳ふ。弘仁七年
箱根金剛王院の中興萬巻、此地に寂するや、法弟爲に一
字を建て、萬巻を推して開山とす。後ち源範賴の長子
範圓、本寺に在りて天台宗を奉ぜしが、貞永年中、親
鸞本寺に留錫して化導をなすや、範圓遂に其弟子とな
り、了信と名を改めて、寺を眞宗の道場となす。
●傳現覺作聖德太子木像二軀を藏す。



(堂本寺嚴妙)

●古義眞言宗。
●陀羅尼山靈應地院と號す。三河七御堂の一にして
行基の開創に係り、後ち空海之を中興すと傳ふ。源範
賴三河守たりし時深く當寺に歸依す。永祿七年、徳川
家康、一ノ宮後詰の戦に勝つて歸陣の時、寺僧密導し
て功あり。因つて財寶の地を寄せらる。近世寺領百六
十石あり。鳥佛師の作と傳ふる千手觀音を本尊とす。
●本堂・大師堂・三十三所堂・護摩堂・庫裡・支關・
客殿・仁王門等を具へ、寺實として空海畫像・力珠懸
守本尊の文殊像・文殊筆不動尊等を藏す。



(第一ノ殿宮内堂佛念寺思大)

●古義眞言宗。
●陀羅尼山靈應地院と號す。三河七御堂の一にして
行基の開創に係り、後ち空海之を中興すと傳ふ。源範
賴三河守たりし時深く當寺に歸依す。永祿七年、徳川
家康、一ノ宮後詰の戦に勝つて歸陣の時、寺僧密導し
て功あり。因つて財寶の地を寄せらる。近世寺領百六
十石あり。鳥佛師の作と傳ふる千手觀音を本尊とす。
●本堂・大師堂・三十三所堂・護摩堂・庫裡・支關・
客殿・仁王門等を具へ、寺實として空海畫像・力珠懸
守本尊の文殊像・文殊筆不動尊等を藏す。

後ち廢絶に類せしを、永正年間、西明寺機外和尙再興して現在に至る。
●境内六百九十餘坪あり。銅鑪一口を藏す。天平期の面影を存し形態亦秀美なり。龍頭の奇古なる看過すべからず。現に國寶に指定せらる。

法住寺

寶飯郡大塚村大字赤根。

●曹洞宗。
●赤根山と號し、永正五年、將軍足利義澄の創建に係る。元和の頃、赤根村東山に在りて法住院と稱する小庵なりしが、慶安年間、領主松平長三郎忠高、寺基を同村西山に移して堂宇を營み、法住寺と改む。開山は忠高の歸依厚かりし三河國員吹村長圓寺三代應深和尚なり。

●境内千五百四十九坪。本堂・庫裡・開山堂・中門・總門・迴廊等を具ふ。寺寶千手觀音立像(木造)一軀はもと伊勢國度會郡宇治山田町本町上善寺に安置せられしが、明治維新、廢佛毀釋の際、當村今泉某の手に依り本寺に納置せられたり。藤原末期の作にして風趣淳樸、素地彫なり。童子に七寶鬘、菊丸紋、龜甲鬘等の鍍金様を遺存するを珍とすべし。現に國寶に指定せらる。

東觀音寺

瀧美郡二川町小松原。

●臨濟宗妙心寺派。
●小松原山と號し、三河七御堂の一なり。天平年間僧行基の開創と傳へ、聖武天皇以來の勸願寺なり。往古は寺領三箇村を有せしも、後ち次第に減す。中古、武將成は田圃を寄進し、或は堂塔を建てし事跡からず。

徳川氏の世、幕府の祈願所となる。堂宇も南海に臨み、遙に紀州熊野に對せしに因り、南海補陀落、扶桑補陀落の稱ありしも、寶永四年十月、震波の厄に罹り、遂に現地に遷移す。舊寺領百五十石なり。現に末寺二十箇寺を統ぶ。



(寶鏡) (橋本多幸齋觀東)

●地域宏壯なる勝地を占め、小松原山を以て著名。觀音堂・方丈・庫裡・書院・位牌堂・阿彌陀堂・山門・本門・多寶塔を具ふ。就中多寶塔(三間二層、屋根柿葺)一基は内外素木造、軒層榑木にして唐様の組物を用ふ。寺傳には大永八年、藤田左京亮定光の創建に係ると云ふ。様式手法上大畧この建造年代と信じ得べし。位牌堂に安置せる、阿彌陀如來坐像(木造)一軀と共に現に國寶に指定せらる。其他、應舉、權衡、牧後、雪舟、光嚴司等の畫跡を藏す。

普門寺

瀧美郡二川町谷川。

●古義眞言宗。
●船形山と號し、神龜四年、僧行基の開創に係る。中古、源賴朝大いに堂宇を造營し、寺運の興隆に努めたり。徳川氏の世、朱印領に與がる。現に同宗高野末

静岡縣

感應寺

静岡市寺町二丁目。

●日蓮宗。
●常住山と號し、日蓮宗三感應寺たる名刹なり。初め富士郡入山瀬村にありて、涌泉寺と號し、眞言宗に屬せしが、日蓮の弟子日向の來錫するや、寺僧之に歸して現宗に改む。明應年間、岩越利部大輔、父の菩提の爲め之を其封内に移して修葺し、身延山の日朝を請じて開山となし、現寺號に改む。天正年間、徳川家康、現地を寄進諸堂を造營せしも、承應年間に類焼し、安政の大震に悉く亡失す。文久二年八月に至りて一眞院日治上人、これを再興す。即ち現堂宇なり。

寶臺院

静岡市下魚町。

●淨土宗。
●金米山と號し、永正三年、觀應祐崇の開基に係る。初め龍泉寺と號し、有渡郡榑木村(現豊田村)にありしが、後ち榑屋町に移る。天正十七年五月、徳川家康の側室西福局を之に移る。局は二代將軍秀忠の母堂なりしかば、寛永五年、これが追修の禮を奉げ、奏請して從一位を贈り、寶臺院と追號す。時に堂宇を今の地に移し、寺號を寶臺院と改む。爾後、田藤三百石、紫衣勸許の寺格なりき。

●寺域九千餘坪ありて、境内園地水清く頗る風致に富む。本堂・大書院・小書院・庫裡・鐘樓・不動堂。

靜岡別院

静岡市屋形町。

●眞宗大谷派。
●明治四年三月、大谷派二十一代最如の創建に係る。初め、當市上石町一丁目に在りしが、同二十二年一月當市出火の際に類焼し、四十三年三月、現地に移して本堂を再建す。
●境内五百七十坪にして、本堂・庫裡・鐘樓等あり。

臨濟寺

静岡市大岩町。

●臨濟宗妙心寺派。
●大龍山と號す。もと善得院と稱し、享祿年間、國主今川氏親、三男僧承芳(後ち還俗して義元となる)の爲に建立する所にして、天文五年、嫡子氏輝卒するや、之を當山に移り、其法流に因みて、改めて臨濟寺と號すと云ふ。初め大原之に住せしが、和尙其師大休を開山に推し、自ら第二世に居れり。後奈具天皇、勸願所に定め給ひ、勸東海最勝禪林の勸願を下賜せらる。天文七年及び十二年、今川義元寺領を寄す。永祿十一年、武田信玄率兵に際し、諸堂其兵燹に罹りて燒燼す。翌年二月、信玄廟札を建て、同四月、寺領を寄せたり。元龜三年、正親町天皇の勸命に依り、武田勝頼之を再興す。天正十年、徳川家康、武田氏の牙城を攻むるや、加藤又復兵火に罹る。乃ち正親町天皇、勸を下して徳川家に再建せしめ給ふ。現堂宇は即ち之にして、時に家康寺領百石を納寄す。斯の如く、朝廷、幕府の尊崇深く、寺中九院を擁し、馳道二國に跨りて末寺三百餘

にして堂宇完備し、東三河地方の名刹たり。
●寺藏寶物中國寶に指定に係るもの次の如し。阿彌陀如來及び釋迦如來坐像(各木造)二軀は藤原後期の作に係る。蓋しこれ五佛中の二體なるべし。四天王像(木造)四軀又同期の作にして、當時の彩色殘存し、前記如來像と共に當地方彫像中、注目すべき遺品なりとす。銅經筒及び銅鏡(瓦蓋入)各一箇は、寺の後山より發掘せしものにして、經筒には動物師作成恒の名及び久壽三年僧勝意立願の旨を陽刻す。鏡又同期の作品にして、堂裏花唐草文様あり。尙瓦壺の蓋にも意匠を施せり。

藥師堂

八名郡八名村大字野野。

●曹洞宗。
●草創年代及び沿革不詳なれども、天正六年及び元祿十年、堂宇再興の機札存す。現に同村林光寺の管理たり。
●境内百十七坪。本堂は縦三間、横四間にして、本尊藥師如來坐像(木造)一軀は昭和六年十二月國寶に指定せらる。

僧寺を統べ寺運隆盛を極めしも、明治維新後、稍々衰頹し、末寺の廢滅するもの多く、現に僅かに三十餘寺を存するに過ぎず。從つて昔日の壯觀を失ふと雖も、伽藍の古雅にして庭園の幽靜なる、尙ほ古を憶ふに足る。明治二十七年二月、同四十五年三月、東宮殿下行啓の榮を賜へり。



(堂山開び及堂本寺眞臨)

●寺域九千餘坪ありて、境内園地水清く頗る風致に富む。本堂・大書院・小書院・庫裡・鐘樓・不動堂。

氏輝、義元等の墓を存す。
十月一日、二日の兩日は開山忌及び開運摩利支天尊大祭執行、晝夜花火の打揚ありて参詣者數萬に上るといふ。

本覺寺 静岡市池田。

日蓮宗。
青龍山と號す。正應二年、日位の開基に係る。初め、駿河國海原郡中の郷にありしが、後ち安倍郡宮ヶ崎に移り、延慶二年、現地に轉す。爾來六百年、曾て回祿の災に罹れることなし。現に同宗本山なり。
本堂の側に本佛堂あり。元亨年間、二世日嚴の建立に係り、海中出現の釋迦佛を奉安す。建立以來六百年間、曾て開扉のことなしといふ。

善正寺 濱松市榎屋町。

眞宗大谷派。
善法山と號し、親鸞の弟子專信の開創に係る。もとの當地名古里にありて親鸞關東より歸洛の途次、錫を留めし舊跡なりと云ふ。元龜年間、現地に移る。初め善勝寺と稱せしが、後年善正寺と改む。
蓮如筆六字名號並に法語一通を藏す。

鴨江寺 濱松市鴨江町。

古義眞言宗。
甲江山と號す。大寶三年、宰相長者願主となりて僧行基之を開創すと傳ふ。南北朝の頃、寺運甚だ隆昌にして、時に後醍醐天皇の繪旨を賜ふ。戰國時代、僧

妙覺寺 沼津市本字下河原町。

日蓮宗。
高松山と號し、日蓮の弟子日安の開創に係る。初め、平氏の六代君文覺上人の徒弟となり妙覺と號す。建久年間、文覺上人不軌を謀るや、妙覺連座して斬に處せらる。茲に於て、家臣齊藤六郎、首級を駿河國沼津郷馬門千本の濱に懸り、庵を結びて冥福を修せしが、後日蓮の弟子となりて日安と號し、庵室に妙覺寺と名附くと傳す。天保二年表上、近年重興せらる。

乘運寺 沼津市本町。

淨土宗。
千本山と號す。天文六年、増善長圓、府中より錫を移して當地海濱に近き荒原に來り、千本の松樹を植ゑて田圃居家の風害を除く。即ち里人の歸嚮を得、此處に一字を創して乘運寺と號すと傳ふ。天正八年、武田勝頼、沼津築城の朝、奉行土屋右衛門、三世大譽に歸依し、其餘材を以て堂宇を修營す。時に勝頼、諸役

海長寺 清水市村松。

日蓮宗。
水山と號す。
文應天
皇仁壽
二年、
慈覺大
師の開
創に係
ると傳
ふ。初
め、有
度山麓
八ッ原
の地に
ありて
村松山
叢岳寺
と稱す。寛弘八年、山津濱に堂宇開創せしにより現地



(堂本寺長海)

に移る。文永九年、日蓮の弟子日位、此地に來りて住持慈燈と法義を論ず。慈燈、遂に服して寺を日蓮宗に改め、日位を開祖となし、且つ寺號を龍水山海長寺と改稱す。文明年間表上す。明應六年八月、八世日圓の時、大寶災に遭ひ、貫主以下衆僧亦機津小河に於て海嘯に没す。九世日海再建に努め、同九年、落成して中興開祖となる。かくて寺運漸く振ひしに、明暦の暴風、寶曆、天保、安政等數度の震災に遇ひて寺門頓に衰頹す。嘉永二年、祖師堂及び本堂の再建修繕完成し、文久二年、釋迦堂竣工す。維新の際、寺領土地となり、數坊の塔頭亦廢せらる。明治二十一年、鐘樓を再建し、南大門を廢して石門を建造す。大正十年三月、火を蒙りて鐘樓及び庫裡を除き、他悉く烏有に歸す。翌十一年再建を企圖し、昭和五年に至りて漸く竣工す。
境内千二百坪。本堂・祖師堂・鐘樓・庫裡・書院・寶藏等あり。寺寶には日蓮眞筆紺紙銀泥法華經七卷(元順宗帝元統元年、筆者不詳)、光明皇后御筆紺紙金泥法華經卷六・三井寺日光菩薩面・春日作天の面・叢岳寺天願元年銘記・銀鈎燈籠等を藏す。

龍華寺 清水市村松。

臨濟宗妙心寺派。
龍濟宗妙心寺派。
補陀落山と號す。推古天皇の朝、當國守護久能忠仁、當寺を創建して本尊開淨檀金千手觀世音を安置し補陀落山久能寺と稱せりと傳ふ。地は今の久能山東照宮の境地なり。元正天皇養老七年、僧行基、東國巡錫の朝、當寺に到りて千手觀世音の木像を彫刻し、さきの黄金佛を其胎内に納め、七堂伽藍を建立して之を奉安す。當時、僧坊三百六十箇院、衆徒二千餘人を擁せりと傳ふ。其後源賴朝、伊豆國に於て二百町歩を寄

す。武田信玄討州を領するに及び、久能寺を現地に移し、其跡に久能城を築く。徳川幕府朱印二百二十五石を附與せしが、明治維新の際、寺領土地となり、寺門殆ど廢滅す。明治十六年、山岡鐵舟之を復興す。因りて寺號を鐵舟寺と改め、臨濟宗に屬せしむ。
境内二千四百坪、風光絶佳なり。堂宇には方丈・佛殿・鐘樓・觀音堂・不動堂・茶所・毘沙門堂・仁王門・山門・書院等あり。寺寶中、法華經(親善眞經)十九卷(紙本墨書)は世に久能寺經と稱せられ、卷末には每卷別筆を以て持賢門院、通憲入道信西等各筆者名を記せり。鳥の子白紙或は澱色の料紙に金銀界線を施し、金銀砂子及び金銀線青群等を以て、草花、小鳥、天女等の下繪を描き、其上に經文を墨書す。もとの全三十卷完備せしものなるべし。有名な平家納經(豊島神社所藏)の先驅をなすものとして注目すべき遺物にして現に國寶たり。

龍華寺 清水市村松。

日蓮宗。
親富山と號す。寛文十年、日蓮の開創に係る。日近は甲斐國日蓮宗本山本遠寺四世の法嗣にして、徳川頼宣の從兄弟なり。深く富嶽を愛し、此地の絶勝を相して一座を建立し、以て親富山と號す。寺號龍華寺は東山天皇の御命名と傳へ、天皇の第五皇子公辨親王より右扇額を賜はる。世々紀水兩藩の歸依厚く、現に其寄進に係る什貨を多く傳へたり。本寺古來風光の絶佳なるを以て著聞し、渡邊華山、服部洪齋等文人墨客の來遊殊に多し。
清水市の西方有度山麓丘上に位置して寺域千百十五坪、三保原より東、駿河灣を隔て、富士の秀峯

玉泉寺 賀茂郡濱崎村大字柿崎。

曹洞宗。
海上山と號す。古くは、眞言宗の小庵なりしが、天正年間、一僧榮來錫して現宗に改む。元禄二年、四世心齋三悅の時、名主稻葉九右衛門の寄進により、



(堂本寺華玉)

上ノ山の地に移轉改築す。後次第に衰頽せしが、天保六年、十九世大陵道胤、私財を投じて再興を圖る。業中にして道胤歿したれば、遺弟眉毛、師の志を繼ぎ、嘉永元年三月、現地に移して堂宇を新築す。安政三年八月六日、米國使節タウンセンド・ハルリス、當寺内に初めて領事館を置き、以後、翌年十一月二十三日迄此地に居住せり。其後寺運再び傾き、庫裡、梵鐘堂、位牌堂等潰滅して僅かに本堂のみ殘る。大正十五年十月より本堂修繕に着手し、昭和二年一月落成す。

●境内三百四十八坪、下田港の東、伊豆南岸の漁村に臨む丘上にありて景勝の地を占む。境内にハルリス記念碑(昭和二年建立)及び屠牛木供養塔(昭和六年建立)、其他當時疫疔中に死亡せし米露海軍々人の墓あり。ハルリス滞在の間、庭前の佛手柑樹に牛を繋ぎて之を屠殺し、以て食用に供す。蓋し我國に於ける屠牛の嚆矢なりとす。依りて一塔を建て、上に牛王如来を安置す。ハルリス使用遺品・當山住職眉毛和尚の銀版寫眞(ハルリスの通譯ヒュースケンの撮影せるもの)、眉毛和尚手記の見聞記等を藏す。尙ほ附近に吉田松陰に著著名なる柿時天及び柿時海水浴場等あり。

長谷寺

●曹洞宗。賀茂郡朝日村大字田井。
●曹洞宗。天平年間、僧行基の開創に係る。傳へ、初め、西光山昌善寺と號せり。後奈良天皇天文十四年、長谷寺と改稱、明暦元年二月、眞言宗を現宗に改め、當村大賀茂曹洞院九世來室榮嶽を請じて開山とす。
●本尊木造阿彌陀如来坐像は丈二尺八寸、形相結願狀坐、上品上生の印を結び、頭上羅髮にして密教の阿彌陀佛なり。

彌陀佛なり。鎌倉時代の製作に係り、現に國寶たり。寺傳に、此像は高倉天皇治承四年、田牛村字道隈の岳浦に漂着し、住僧弘經、之を同地の岩窟内に安置す。歷三年八月、字觀音堂に移し、更に嘉吉二年二月、現境内に阿彌陀堂を建て、安置すといふ。

修福寺

●曹洞宗。賀茂郡竹麻村大字溝。
●創建年代不明なり。もと眞言宗なりしが、室町末期、實宗宗梅、之を現宗に改む。二世寂用英順の代、北條氏より寺領を寄せたり。其後の沿革詳ならず。
●境内六百一十一坪。寺寶中、紙本墨書大般若經五百三十九卷は國寶にして、大治五年、國司通國源盛頼等の奥書あり。尙ほ内十五卷は安永二年の補寫に係る。

三養院

賀茂郡上河津村大字川津濱場。
●曹洞宗。
●千手山と號す。天正十八年、下田城主清水上野守夫妻及び其子能登守、遁れて此地に來る。後、能登守一字を削して、能登和尚を開山となし、二養院と號す。爾來清水家累代の菩提所たり。
●境内千八十坪あり。

般若院

田方郡熱海町伊豆山。
●古義眞言宗。
●走湯山と號す。其の創建年代詳ならず。もと密嚴院東明寺と稱し、空海、此地に留錫し、桓楚之を中興すと云ふ。鎌倉中期の住僧覺海は、足利善氏の男頼氏

の弟にして、其學徳を稱せられたり。當時、大坊にして、多くの支坊を有し、僧徒常に群衆せし事著せし等に見ゆ。尙ほ源頼朝進に政子當山にありし事、足利尊氏の子竹若高院に居住のこゝ等、同書及び太平記に見えたり。現に同宗高野末に屬す。
●寺寶中、木造伊豆山權現立像一軀は、もと伊豆山權現別當の護持したる本尊にして、烏帽子を被り、直衣袴を着け、袈裟を懸け、腰を穿ち、右手に笏を執り(平鉢持す)、左手寶鏡を持ちて岩座上に直立する珍像なり。鎌倉時代の作にして現に國寶たり。

佛現寺

田方郡伊東町須美。
●日蓮宗。
●海光山と號し、現に同宗本山にして日蓮開居三年の遺跡なり。弘長元年五月十二日、日蓮四十歳の時、執權北條時頼、之を當地に配流せしが、偶々、地頭伊東八郎左衛門朝高、熱病に冒され命且夕に迫りしかば日蓮を請じて祈禱を乞ひしに新曆三日にして快癒することを得たり。即ち海中出現の釋迦如来立像を布施し新に毘沙門堂を建立して日蓮を開山とす。後年改めて寺となし、海光山佛現寺と號す。朝高亦剃度して弟子となり法名を日蓮といふ。
●本尊厄除日蓮上人像は上人流罪救免の時、朝高に授くる所なりと傳ふ。其他日蓮筆十界曼荼羅圖を藏す。

佛光寺

田方郡伊東町須美。
●日蓮宗。
●國語會(五月十一日—十三日迄)、會式(十月十二日)。

●海上山と號す。日蓮の弟子日預を開山とす。初め日預、伊東八郎左衛門朝高と稱し、この地に地頭たりしが、上人の教化を蒙りて其門に入り、佛現寺を造營して法華の行を修す。其臣崎部正清亦日蓮に就き出家して日休と號し、佛現寺守護の爲め朝高の邸址に一字を削し、海上山佛光寺と號す。日預を開山、日印を二祖となし、自らこれに次ぐ。大正七年、堂宇近火に類焼す。
●本堂内に朝高の像を安置す。寺域に日預並に日休の墓あり。

松月院

田方郡伊東町湯川。
●曹洞宗。
●洞源山と號す。銀秀法印の開創にして、もと眞言宗たり。初め當町松原長田にありしが、寛永年間、洪水に流没す。享保二年、現地に再興し、時に現宗に改めて現在に至る。

●寺域三百餘坪、前面に海を望みて風光開瀾なり。堂宇には本堂・庫裡・鐘樓・山門・辨天堂等を具ふ。境内の泉石頗る趣あり。

長谷寺

(穴觀音) 田方郡網代町。
●曹洞宗。
●根越山と號す。大永年間、大觀和尚の開創に係る。本尊觀音は屏風岩の洞窟より大觀の奉遷せしものと云ひ、行基作と傳へて古來里人の崇敬甚だ厚し。
●前面海に臨み、境内宏瀾にして老樹蒼鬱、現に網代町公園として、風光の美に富む。

修禪寺

田方郡修善寺町。
●曹洞宗。
●寶藏山又は走湯山と號し、又地名に因みて桂谷山寺ともいふ。大同年間、僧空海留錫の靈跡たり。延喜式に、伊豆國禪院一千東とある官寺にして、高僧傳に據れば、釋吳隣、空海の道法高きを聞き、隨從して當寺を建て、第一代となり、國內士庶の信仰厚しと云へり。建久五年、源頼朝此地に幽棲せられ、源賴家亦建仁四年、當寺に歸りて歿す。後、二位尼、賴家追福のため一切経を建て、元版の大藏經一部を納む。天正十八年の亂に經卷を山中に隠し、多く腐敗す。慶長十五年、徳川家康の命に依り東京芝増上寺に其三十卷を贈り、三大藏經の隨一として現に國寶たり。建長年間、道隆關漢來住し、眞言宗を改めて臨濟宗となす。宋の理宗皇帝使を遣し大宋勅賜大東福地寶藏山修禪寺の額を贈ると云ふ。情むべし、同額文久三年焼失せり。正安年間、元僧一山來住す。延徳元年、北條氏本州を領するに及び、諸堂を重修し、一族の出身たる隆深禪師を住せしむ。後、幾許もなくして曹洞宗に轉じ、遠江石雲院の末寺となる。永正十六年、北條早雲歿するや、本寺に歸り、爾來北條氏より寺領十五石を給す。天正十八年、徳川家康朱印地三十石を寄せたり。文久三年二月、同縁の災に罹り、明治二十年、再建の工を竣る。當時は正覺院、信功院、東陽院、白雲寺、中經寺、松竹院、梅林院、放光院等村内にありしが、漸次衰へ、今僅かに奥ノ院正覺院のみを存せり。

●本堂・大師堂・方丈(般若台)・接寶(鶴夢樓)・講堂(聖龍閣)・佛壇堂・正覺院等あり。所藏の什寶に弘法大師將來と傳ふる猊形香爐・青磁大瓶・傳日蓮筆法華經藕絲三尊の懸像・尼將軍寄宋版放光般若經・北條

の弟にして、其學徳を稱せられたり。當時、大坊にして、多くの支坊を有し、僧徒常に群衆せし事著せし等に見ゆ。尙ほ源頼朝進に政子當山にありし事、足利尊氏の子竹若高院に居住のこゝ等、同書及び太平記に見えたり。現に同宗高野末に屬す。
●寺寶中、木造伊豆山權現立像一軀は、もと伊豆山權現別當の護持したる本尊にして、烏帽子を被り、直衣袴を着け、袈裟を懸け、腰を穿ち、右手に笏を執り(平鉢持す)、左手寶鏡を持ちて岩座上に直立する珍像なり。鎌倉時代の作にして現に國寶たり。

妙法華寺

(玉澤寺) 田方郡錦田村大字玉澤。
●日蓮宗。
●經王山と號す。弘安七年、日蓮の弟子日昭の開創に係る。天文七年、北條氏康、上杉憲氏と戦ひし時、十二世日弘、上杉一族なるを以て氏康の攻むる所となり、一山夷上し日弘は越後國村田妙法寺に走る。居る事五十年、文祿三年、十四世日蓮、伊豆、加殿に遷りて堂宇を再修せしが、元和七年、十五世日蓮、寺基を現地に移せり。寛永二年、徳川秀忠、寺域百八十町歩を寄す。現に日蓮宗本山にして、末寺五十餘を統ぶ。

●境内一萬三千坪。堂宇三十餘棟ありて規模頗る宏壯なり。寺寶中、日蓮上人像(絹本着色)一幅・繪曼荼羅(絹本着色)一幅は共に國寶にして、前者は一に水鏡御影と稱し、日蓮の拂子を手にし椅子に坐して講説する姿にして、本尊壇具、武家の夫妻等を描き添ふ。後者は日蓮の創意なる文字曼荼羅の十界圖具を畫像にて描出せるものなり。兩者共に鎌倉末期の優作なり。

國清寺

田方郡菟山村大字奈古谷。
●臨濟宗圓覺寺派。

●多寶富士山と號す。永仁元年十月、日蓮眞第六老の隨一日興の開創に係る。初め日興、身延山久遠寺別當たりし折、富士山を中心として本門戒壇を建立し以て師の遺命を果さんとの志を抱く。偶々久遠寺祖廟別當の事につき、檀越波木井氏及び日昭、日朝等と合はす、正應元年、遂に下山す。同三年十月、上野郷主南條氏の請に應じて先づ大石寺を創せしが、同四年九月重須郷丸山に移る。石川能忠の歸依を受け、永仁元年十月、其節を拓きて一字を草す。即ち本寺の濫觴なり。次で本堂、御影堂、垂迹堂を建立し、同六年二月、開眼供養を行ふ。明治九年二月、大石寺等と共に興門派を稱せしが、同三十二年、本門宗と改む。現に同宗本山として塔頭八箇寺、末寺二百箇寺を統ぶ。(大石寺條参照)。

●寺域一萬六千三百餘坪。東北方に富士の雄姿を眺め、南方は平原を隔て、渺茫たる大洋を展開し、絶巖殊に貫すべし。山内老樹地を覆ひ、溪水靜かなる聖境にして、香雪和尚曾て高山八景を選びて著聞す。堂宇には本堂・庫裡・客殿・御影堂・垂迹堂・五重塔・書院・支關・寶藏・本願所・黒門・鐘樓・鬼子母神堂等ありて結構頗る莊嚴なり。什寶の主なるものに日蓮筆墨茶羅・同前紙金泥法華經八卷・同書狀十三通・日興筆墨茶羅等、其他古書古文書多數を藏す。

大石寺 富士郡上野村大字上條。

●日蓮正宗。
●大日蓮華山と號し、本宗の總本山なり。正應三年十月、日蓮の上足日興の開創に係る。初め日蓮池上の地



(門山寺石大)

に示寂するや、遺命に依り遺骨を身延山に葬り、日興等の六老僧輪次に廟を守る。弘安八年、偶々日向住山に際し、檀越波木井氏、輪次交替の制を廢して永く日向の留任を請へり。日昭、日朝等皆其議を容れしが、日興獨り命を執りて許す。終に日昭、日朝及び波木井氏と絶ちて、正應元年冬身延山を下る。これ日蓮宗に分派を生ずるの濫觴なり。而して上野郷主南條時光の請に應じ當地に來り、富士山を本門の戒壇に擬して、當寺を創し、一流を唱へて大法を弘宣す。後ち徳川家光の時敬台院、御影堂等を建立し、徳川家宣の室、天英院又七堂伽藍を申興す。日興建立する所に本門寺あり。即ち大石、本門の兩寺永く各本門戒壇の根本道場たるを主張して和せず。明治九年二月、共に興門派を稱せしが、明治三十二年、改めて本門宗と云ふ。次で同年五月、當寺別立して日蓮宗富士派と稱せしむ。同四十年



(堂本寺石大)

五年六月、現在の日蓮正宗を公稱するに至れり。現に末寺教會二百箇寺を統べ信徒全國に十餘萬人を有す。
●境内二萬七千三百餘坪。地高丘を占め瀧水清く、老杉鬱たる幽邃境にして、特に櫻樹多く花時滿山麓部たり。且つ東北に當り富岳望え、南望すれば駿河灣脚下に展開して遙かに豆相の翠巒に對し、景光頗る絶佳なり。堂宇には本堂・客殿・五重塔・寶藏・書院・六室・庫裡・經藏・常鳴堂・鐘樓・鼓樓・仁天門・山門・總門・不開門・裏門・鬼門及び支院十四箇坊等整備す。寺寶中、太刀一口(銘吉川、附、元禄十三年極月折紙一通)は現に國寶に列格せらる。其他、日蓮筆本門戒壇大本尊同筆書寶殿本尊み初め古文書・古器物、傳持の美術品等多數を藏す。
●寶物虫拂大法會(四月十四日、十五日)。宗祖禮贊會(十月十二日、十三日)。

本門寺 富士郡芝宮村大字西山。

●本門宗。
●富士山と號す。康永二年、日興の嫡弟日代の開創に係る。初め日代、北山本門寺實主たりしが、故ありて辭し本妙寺に留錫す。時の郷主大内安清、日代に深く歸依し、其地を寄せて伽藍を建立し、日代を開山となし、寶七山本門寺と號す。徳川時代朱印領を受く。後ち興門派の本山となりしが、明治三十二年、北山本門寺と共に獨立して本門宗を公稱す。現に同宗本山にして末寺十七箇寺を統ぶ。

●境内一萬三千二百餘坪。老杉古樹多く幽邃森嚴たり。堂宇には本堂・祖師堂・開山堂・庫裡・寶藏・鐘樓・垂迹堂・總門・黒門・中門等を具ふ。寺寶には日蓮、日興、日代各筆墨茶羅・一品親王御筆紺紙金泥法華經・紺紙金泥方便、壽量品一卷、御新經一卷、日蓮遺化記録・巻物・消息・遺狀八通等擧げて數ふべからず。

清見寺 庵原郡興津町清見寺。

●臨濟宗妙心寺派。
●巨巖山と號し、一に興國寺と稱す。天武天皇白鳳年間、清見園を此地に置くや、關合鎮護のため一淨刹を建立し、唐僧教聖を請じて之に住せしむ。これ當寺の濫觴にして、降りて寛元年間、僧圓聖、土家淨見某の歸依を受けて之を中興すと傳ふ。當時は天台の一本山にして禪教兼修の道場たりしが、康永年間、將軍

靈山寺 庵原郡高部村大字大内。

●古義眞言宗。
●靈峯山と號す。天平九年、僧行基、之を開創す。



(堂園)(門王仁寺山靈)

足利尊氏、更に之を重興し、清見興國寺と改めて臨濟宗となす。而して伽藍を遺棄し、寺域を附し、本朝名號十刹の一に列せしむ。天文年間、今川義元の族叔たる野齊長老來り住するや、改めて妙心關山門下に歸し中本山として末寺百五十を數へたり。天正年間、兵燹に罹りしも、秀吉、家康の歸郷厚く、直に再建成る。徳川家光朱印二百石を寄せ、寶永年間、禪堂修理に當りては、徳川家宣稱二高挺を喜稱す。明治二年、明治天皇、東幸の御前、特に聖駕を當山に枉げ給ふ。又、英照、昭憲兩皇太后及び大正天皇の各行幸啓を知く。當山古來風光の絶佳なるを以て聞へれば、貴顕名士の往詣する者殊に多く、飛鳥井雅世、三條實枝、北條氏康、二條康道、鳥丸光廣等の當寺に詣して和歌、詩文を作り其風光を賞せし事史乘に見へたり。
●地、高丘に位置して境域五千餘坪。清見湖、田子浦、三保松原を脚下に眺め、富士、愛鷹の連峯亦顯阿の間にありて、所謂三國一の勝景を稱せらる。所なり。堂宇には佛殿・大方丈・鐘樓・大書院等十有五種を具ふ。寺寶として清見園當時の産刀・三ツ道具・茶釜・足利尊氏自作木像・千利休茶杓・家康筆六字名號・豐舟筆釋迦等々藏す。尙ほ寺内に七勝あり。所謂清音閣、清淨觀、利生塔、廣經亭、四分壇亭、將軍石、九曲之泉、是れなり。

院と號す。上人歸洛に際し、當寺を眞觀房感西に附屬し、感西之を弟子發演に授け、爾來、法統連續として今に至る。また當寺より三里半の地に櫻ヶ池あり。古傳に、法然の師皇阿闍梨、衆生救濟の誓願を樹し、此地に入定すと云ふ。

●境内約六千坪。頗る幽邃に富む。堂宇には本堂・山門・客殿・庫裡等を具ふ。境内に法然塚、熊谷蓮生坊發願の松、片葉の慶、皇阿闍梨廟、弘法大師銅像等あり。寺寶として足耳なしの伏籠一口(一に兩乞の鉦といふ。早魁の時、これを櫻ヶ池の眞中にて洗へば降雨ありといふ)。法然筆紺紙金泥名號・同消息文一通・皇阿闍梨の笠及び杖等を藏す。尙ほ後丘に西國三十三所觀音の石像あり。其周圍に四國靈場の土砂を納む。參詣者多し。

●秋彼岸の申日に豐年祭を行ふ。水練に連したる村内の若者十五六名、各々情作の赤飯を納めたる櫃を櫻ヶ池に浮べ、泳ぎて池の中央に之を沈め、大蛇に赤飯を獻するなり。世に御饗納めの式典といふ。

大洞院

周智郡森町。

●曹洞宗。●橋谷山と號す。應永十八年、忍仲天開の開創に係り、其師梅山開本を勧請開山となし自らこれに次す。足利義持、深く忍仲に歸依し、寺地を寄せ、食祿を給す。忍仲の寂後、其の遺命により當山住職は三箇年の輪番制たりしが、文明初年より一箇年の輪番となり、明治五年、獨住となる。同九年、祝融の災に罹り、堂塔伽藍悉く烏有に歸す。爾來、再建に努め、寺内漸次舊觀に復す。現に當宗專門僧堂を設け、門首六、須門首一、直末十二、近門五、平末一箇寺を有す。

●境内六千餘坪。本堂・庫裡・鐘樓等を具ふ。本尊地藏菩薩は一に麻苳地蔵と稱し、五體豐饒を祈りて靈驗著なりといふ。其他、子安地藏・馬頭觀音・身代觀音等を安置す。尙ほ境内に御影水、誠谷等の名所あり。



(堂本院洞大)

西樂寺

周智郡刈村大字春岡。

●新義眞言宗智山派。●行基の草創に係る。後寛治元年、右大臣源房房之を再興して眞言宗となす。天正年間、武田氏の兵火に罹る。徳川家康、當寺を以て祈禱所となし、舟明山親會、十月七日開山會等を嚴修す。

の樺木二高本を寄せたりといふ。本派檀林にして、舊寺領百七十石なり。

可護齋

周智郡久野西村大字久能。

●曹洞宗。●萬松山と號す。應永十四年、承陽大師の法孫忍仲天開、こゝに草庵を結ぶ。五世の法孫大跡道和尚堂宇を建て、東陽軒と號す。十一世等請、徳川家康の歸依を得て之を改築し、駿、遠、三、豆四箇國の僧徒司に任ぜられ、寺名を現號に改む。爾來、難多の變遷あるも、遍く東海の名刹として著聞する所なり。

金剛院

周智郡三倉村。

●古義眞言宗。●曹洞宗。●廣澤山と號す。大寶三年、開空の創建に係る。本尊觀音如來は海中より出現し、初め濱松城西、西宮郷中馬鞍村に安置せしむ。天正年間、當山に遷座すと云ふ。貞觀年間、定額寺に列せられ、天正十八年、豐臣秀吉、寺領二百石を寄せ、慶長八年、徳川家康、又二百石を附す。延寶年中の大災、嘉永七年の震災其他水害等に罹り、大いに衰頹せしが、明治十一年再興せらる。現に同宗高野末なり。

本興寺

(文島寺) 濱名郡繁津町。

●大日山と號す。養老二年、行基の開創に係り、海中出現の大日如來銅像を本尊とす。中古、屢次兵燹に罹り、寺運傾きしが、元和年間、矢部定政、之を再興す。明治四十年表上、後ち再建せらる。●本堂・仁王門・方丈・客殿・庫裡・大師堂・護摩堂・大日堂等あり。寺寶には運慶作受樂明王木像・空海作觀音木像・源信筆彌陀三尊畫像・探幽筆惠比壽大黒天畫像等を藏す。



(寶國)(堂本寺興本)

頭陀寺

濱名郡芳川村。

●古義眞言宗。●日蓮宗。●長光山と號し、應長元年、日蓮の直權金原法橋左近の草創に係り、上人の法孫日像を以て開山とす。三方原合戦の時、徳川家康逃れて當寺に隱る。これより家康の保護大いに厚し。寺内法堂寺はその所建なり。●境内三千六百坪。本堂・七面堂・開山堂・鐘樓・庫裡等を具ふ。

妙恩寺

濱名郡和田村大字橋羽。

●長光山と號し、應長元年、日蓮の直權金原法橋左近の草創に係り、上人の法孫日像を以て開山とす。三方原合戦の時、徳川家康逃れて當寺に隱る。これより家康の保護大いに厚し。寺内法堂寺はその所建なり。●境内三千六百坪。本堂・七面堂・開山堂・鐘樓・庫裡等を具ふ。

普濟寺

濱名郡富塚村。

●曹洞宗。●廣澤山と號す。正長元年、引開城主吉良氏の開基に係り、梅原義東を勧請開山とし、華嚴義慈之に次ぐ。初め敷地郡寺島郷にありて隨緣山普濟寺と號せしが、其後、水腫に罹り、永享四年、現地に移り、廣澤山普濟寺と改めて七堂伽藍及び十三堂司を建て、今川氏黒印三百石を寄せ、東海曹洞日本第二本寺と稱せらる。名刹たりしが、天龜年間、武田徳川の合戦に表上す。天正十年、徳川家康之を再興し、慶長八年、朱印八十石を寄す。明治二十九年表上、近年復興せり。現に末寺子院五百有餘を有す。

摩訶耶寺

引佐郡三ヶ日町摩訶耶。

●古義眞言宗。●曹洞宗。●廣澤山と號す。正長元年、引開城主吉良氏の開基に係り、梅原義東を勧請開山とし、華嚴義慈之に次ぐ。初め敷地郡寺島郷にありて隨緣山普濟寺と號せしが、其後、水腫に罹り、永享四年、現地に移り、廣澤山普濟寺と改めて七堂伽藍及び十三堂司を建て、今川氏黒印三百石を寄せ、東海曹洞日本第二本寺と稱せらる。名刹たりしが、天龜年間、武田徳川の合戦に表上す。天正十年、徳川家康之を再興し、慶長八年、朱印八十石を寄す。明治二十九年表上、近年復興せり。現に末寺子院五百有餘を有す。

大乗山と號す。神龜三年、行基の開創に係り、元正天皇、大乗山摩訶耶寺の勧修並に勧願所の繪巻を賜ふと傳ふ。舊寺領七十石を有す。現に同宗高野末なり。境内に觀音堂あり。濱名三十三所第一番の札所なり。本尊木造千手觀音立像一軀は藤原前期の作に係り他に、鎌倉時代の優作なる木造不動明王立像一軀を藏す。共に國寶に列せらる。

大福寺 引佐郡三ヶ日町。



(大福寺の殿)

寺の勧願を賜ふ。大福寺の稱蓋しこの前後に由来すべし。戰國の世、應次領地を掠奪せられんとせしが、後小松天皇の御下文に依り、幸うじて其難を免れたり。天正元年、徳川家康列物を寄せ、同十八年には、豊臣秀吉、慶長八年には家康各々朱印を附し、同十七年正月、特に納豆料除地を寄進す。舊寺格申本寺にして、坊末三十坊を有し、幕府登城には白書院備禮格として優遇せらる。現に同宗高野末なり。境内八千餘坪。濱名湖畔に位置し、風光明媚なり。本堂・大師堂・六角堂・鎮守堂・護摩堂・鐘樓・客殿・寶藏・仁王門等の堂宇あり。寺寶中、國寶に指定せらるゝものを掲ぐれば、次の如し。普賢十羅刹女像(絹本着色)一軀は、藤原信實筆と傳へられ、源頼朝の妾當國橋本長者の娘相尼、頼朝の死後、其菩提を弔はん爲め當山に寄進する所なりといふ。堅五尺八寸、幅一尺七寸、普賢は正面に向きて坐し、左右に宮女の扮装せる十羅刹女を配す。作優秀にして其製作年代恐らく鎌倉時代を下らざるべし。笈(鍍金装桐木地)一箇は前面に鍍金の金具をつけ、上部、冠板扉等に不動、毘沙門、俱利伽藍、唐草等を打出す。寺傳卜部季武の納寄する所と云ふも室町時代の作に係るべし。瑠璃山年録殘卷(絹本着色)二巻は、延慶年間(應永)の當山記録なり。其他、佛像・佛畫・古文書等寺寶數十點を藏す。

方廣寺 奥山(牛前坊) 引佐郡奥山村。

文は後醍醐天皇の皇子、觀應年間、元より歸朝して當國を遷化するや、奥山氏之に歸して、當寺を創し、以て開山に仰ぐと云ふ。無文在住八年にして遷化し、會下の四哲相次で住持となる。後年輪番制となれり。第二世悅應、東隱院を建立し、次で臥雲院、三生院、藏龍院等漸次に創建せらる。天正八年九月、徳川家の新願所となり。同十五年六月、後關成天皇より勅願所勸願旨を賜はる。爾來皇室及び徳川家の尊崇厚く、宮中、府中に於て五山上位の待遇を受け、慶應四年、紫衣入院を許せらる。舊寺領五十石なりき。古來、末寺百九十箇寺を統べ舊格を維持し、堂房莊嚴を極めしが、明治十四年一月、山火の爲に一旦悉く燒滅す。同十八年、牛前坊現の拜殿、本堂並に開山堂を建立、同四十年開山堂の唐門落成し、次で本堂の上棟を見、稍々舊觀に復したり是より先き明治六年、一時南禅寺派に屬せしが、同三



(方廣寺の本堂)

十六年、獨立して方廣寺派を公稱し、その大本山となる。現に塔頭九院、末寺二百餘箇寺を統轄す。

●境内五千餘坪。山深く水清き幽邃の靈地にして塔頭九院、三十餘棟の堂房、老杉巨楡の間に介在す。就中、黒門は登山第一の總門にして結構壯大を極め、參籠堂は東西二十八間、南北二十六間餘、銅瓦葺、巍然たる三層の樓閣にして、松ノ間、竹ノ間、梅ノ間、櫻ノ間等頗る精美なり。所藏の寺寶中主なるものを舉ぐれば、後醍醐天皇宸翰及び寶鏡・吉野行宮古圖・宗具親王及び開山國師畫像・徳川家康朱印狀等にして其他佛像・書畫・古文書等數多し。寺内西北に所在する牛前坊権現祠は當山の鎮守にして、一山の堂宇中、特に壯麗を極め、遠近其靈驗を傳へて、賽者絶ゆることなし。黒色の鳥居に掲げたる「奥山大権現」の額面は、關白近衛龍山公の筆に係ると云ふ。境内に虎豹石、牛馬石、遊龍窟、龍盤杉、抱腹岩、龜背橋、支聖園、靈仙洞、貝葉溪、白崖峯の十勝あり。堂後の山腹に後醍醐天皇の靈殿及び開山國師の廟あり。國師廟は默靈塔と呼び、明治維新後皇族御陵に編入せらる。

寶林寺 引佐郡中川村。

●初山と號す。寛文九年、當郡領主近藤諸石之を開創、支那僧獨湛禪師を開山に請す。後、近藤登之助貞用の歸依厚く、寺領に百石を附せらる。徳川家康・同秀忠(台徳院)・同家光(大猷院)三代の靈牌を安置するを以て、徳川氏累代之に茶料を寄す。

龍潭寺 引佐郡井伊谷村大字井伊谷。

●臨濟宗妙心寺派。萬松山と號し、もと冷湛寺に作る。後醍醐天皇第二皇子宗良親王の香火の地なりと稱す。寺傳に依れば天中二年八月十日、宗良親王井伊館に覺せらる。即ち其追福のため、同三年、本寺を創建し、法堂に因みて冷湛寺と號す。されど宗良親王井伊谷奉養の事は、これを風土傳に載すのみ。(神社篇一五頁參照)。風土傳に信濃宮傳に據り、信濃宮傳は近世好事家の撰作に係り之を遂に信す可らず。且つ無文和尙行狀記に奥山の井伊氏を訪ひ、方廣寺建立の次第を詳記すれど、一言片句宗良親王冷潭寺の事に論及せざれば、此事なかりしを見るに足る。然るに又鎌倉大草紙には信濃河原宮、湊合に覺去の事見ゆ。果していづれか今遽かに斷ずべからず。記して備考に待つ。併して本寺は後ら、久しく荒廢せしが、天文年間に至り、領主井伊直盛、之を再興し、默宗禪師を開山に請す。又寺領若干を附し、自家の香華院となし。寺號を安養寺と改めたり。永祿三年、同様に禪師、諸堂烏有に歸せしが、其後、之を再建して龍潭寺と改稱す。近世寺領八十三石を有すといふ。

興寺 引佐郡伊平村大字伊平。

●臨濟宗方廣寺派。百香山と號す。嘉慶元年、悅齋禪師の創建に係り本尊には行基菩薩作と傳ふる聖觀世音を安置す。享保十三年、同縁の興に據り諸堂宇等悉く烏有に歸せしが

庚申寺(猿寺) 引佐郡鹿玉村大字宮口。

●臨濟宗方廣寺派。俗に猿寺の名を以て開山。神龜年中の開創なりと傳ふるも詳らかならず。風土傳には延喜式所載若俊神社はもと此地にあり、其後、轉じて庚申堂となりしものならんと論ぜり。現に庚申尊天を祀る祠堂ありて、本寺は其供僧房たり。寺境廣潤にして、堂宇宏壯、地方の名刹たるに恥ぢず。本尊に庚申尊天を安置す。毎月庚申の日を縁日とし、賽者雲集す。

山梨縣

尊體寺 甲府市金手町。

●淨土宗。功徳山深草院と號す。大永年間、武田信虎の建立に係り、忠護社神像を請じて開山とす。初め古府の御小路にあり。天文二年、奏請に依りて勅額を賜ふ。其後觀瀛の災に遭ひて堂宇炎上し、文祿年間、今の地に移る。徳川家康、屢次當寺を宿陣に充て、祈禱を命じたり。明和年中、再び同様に遭ひしも、其の後幾許もなく再建せる。壽寺領七石餘、末寺十九坊を有せりと云ふ。

●境内地千三百六十七坪。本尊眞向御院三尊像は寺傳して云ふ、唐僧善導の作にして道隆の傳來に係り、初め熱裡に奉安せられしを、後年石清水を経て信成に傳はりしものなりと。他に寺寶少からず。

一蓮寺 甲府市大田町。

●時宗。●相久山と號す。壽永三年、一條次郎忠頼、源頼朝に謀せらるゝや、夫人齋髪して尼となり、其館跡を改めて寺となし、以て眞福を祈る。正和年間、忠頼の子孫一蓮源八時信、大いに之を修飾造營す。偶々、遊行二世他阿眞教の來錫するあり、時信其教化を蒙りて受戒入道し、一蓮寺殿佛阿と號す。爾來相久山一蓮道場一蓮寺と號し、時宗に屬する事となれり。中興開山は時信の俗弟法阿朝日なり。其後美上せしが、文安年間復舊せらる。當時一門の菩提所として寄附の寺領十七町あり。

信立寺 甲府市若松町。

●日蓮宗。

●廣教山と號す。大永二年、武田信虎、自邸甲府館に近き穴山小路(現今の元穴山町邊)の地に一字を削して眞立寺と號し、身延山主十三世實樂院日傳を請じて開山となす。これ即ち當寺の遺蹟なり。天正十一年四月、徳川家康當寺に入るや、寺名を改めて信立寺と稱せしめ、次で文祿三年三月、築城の爲に、寺基を移して現地に再興せしめたり。然るに享保六年二月、同十二年十二月、享和三年四月、文政元年四月、嘉永七年三月等數次の顛燒に遭ひ、洪基空しく盛業も亦舊に復せざること久しかりしを、明治十五年、四十七日覺の入山するや、大いに工を起し、二十九年に至りて漸く本堂成る。爾來諸堂宇の改修相續ぎ、昭和六年遂に輪奐莊嚴にして漸く一山の景觀整ひたり。當寺古來、由緒別格の故を以て或は身延隱居所と云ひ、或は身延別院と稱せられ、當宗風指の古名刹たり。

玄法院 甲府市久保町。

●眞言宗臨禪派。●臨濟宗妙心寺派。●瑞雲山長禪安國禪寺と號し、甲府五刹の一なり。開山は夢窓國師と傳へ、初め巨摩郡粘澤にありしが、後ち武田信玄現地に移す。仍つて當時の住僧岐秀を淨閑山と稱し、信玄の歸依厚かりき。天文二十一年五月、信玄の母大井氏奉するや、當山に歸り、本尊釋迦如來を安置す。天正年間、兵亂に弊滅し、住僧高山、織田氏の兵に害せられたり。慶長年間、陽室、之の中興せしより、法統連續として今日に至る。

夏目原の池中より出現せし靈像と傳へ、古來其靈威を稱せらる。寺寶には、日蓮、日朝、日傳、武田信虎の各木像・日蓮七面教化畫像・武田信虎壽像・日蓮眞蹟辨殿御消息・其他書蹟・古文書等多數を藏す。尙ほ境内に開山五輪塔、武田信虎、佛人風外日叢の各墓碑等所在す。

遠光寺 甲府市伊勢町。

●日蓮宗。

●寶塔山と號す。建暦年間、加賀美次郎遠光一寺を興さんとして、榮西を請ぜしに、榮西其弟子宗明を派して山梨郡小曲村の地に一字を建立せしめ、感應山遠光寺と名付く。元仁元年、遠光歿後、寺基を遷澤に移す。文永年間、宗明身延山に赴きて日蓮に歸依し、法名を最上院日宗と改む。爾來當寺亦日蓮宗に屬し、次で山號を寶塔山と定む。天文年間、今の地に移り、爾後屢次堂宇修營あり。近世寺領二十石を有せり。現に祖山總末頭中本寺格に列し、末寺十六箇寺を有す。

甲府別院 甲府市三吉町。

●眞宗大谷派。

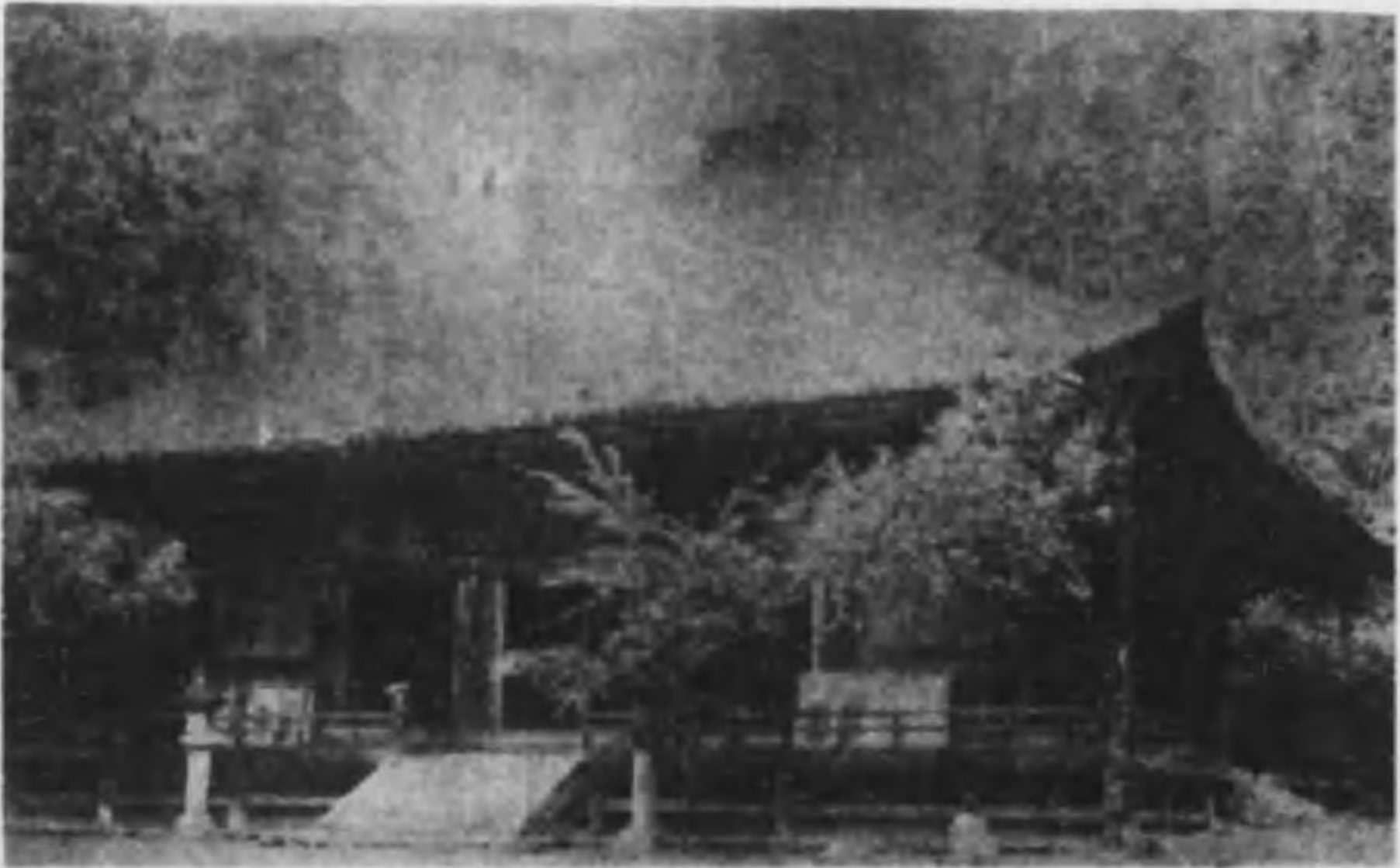
●眞宗大谷派。

大善寺 (柏尾寺) 東山梨郡勝沼町。

●新義眞言宗智山派。

●柏尾山と號す。天平年間、僧行基の開創する所に於て、聖武天皇の勅願所たりと傳へ、甲州最古の名刹なり。往古七堂伽藍完備し、寺運隆盛を極めしが、同郡菩提山と争ひて一時衰頽せしを、高倉天皇の御宇、平氏之を再興す。以後、源賴朝、北條氏、武田氏等歴代の歸崇を得しが、屢次回祿の厄に遭ひて、漸く衰運にむかふ。天正十年三月、武田勝頼、織田氏の軍に敗れ、其没落の前に當寺に隠れたり。舊寺領三十二石なりき。

●勝沼町の東方に位置して寺域四五千餘坪、背後に柏尾山を負ひ、東方葎子峠、西方甲州盆地を一眸に收めて、眺望絶佳なり。境内、綠樹鬱蒼たる間に本堂



(大善寺本堂) (實圖)

(樂師堂・行者堂・鐘樓堂・樂屋堂・稚兒堂等の堂宇あり。就中、本堂(方五間、單層、屋根四注連、檜皮葺)は弘安九年、北條貞時の再建に係ると傳へ、以來數度の災厄を免れて今日に及ぶ。其形態、三河湖山寺本堂に類似し、和様に唐様を文へて手法頗る雄大、よく鎌倉中期の特色を表す。現に國寶建造物たり。本尊木造樂師

如來及び兩脇侍像(中尊高さ二尺八寸、脇侍高さ三尺四寸)三軀は體軀肥大、面貌雄偉にして、古式を傳ふる藤原初期の優作たり。現に國寶に列す。其他寺寶に、理慶尼記、平清盛、源賴朝、足利氏、武田氏等の古文書を藏す。殊に理慶尼記は時頼の乳母理慶尼の手記にして、武田氏滅亡當時を撰る重要な史料なり。尙ほ寺域内に芭蕉の句碑あり、勝沼や馬子も芭蕉を食ひながらと刻す。當地方は葡萄の産地として著名なるは周知の事實なり。附近に柏尾坂古戰場、武田不動尊、御徒橋手、御酒淵、鞍懸、血洗澤等武田氏に關する遺蹟多し。

萬福寺(杉の御坊) 東山梨郡等々力町。

●眞宗本願寺派。●等力山と號す。聖德太子の舊蹟と傳へ、初め法相宗なりしが、元久の頃、天台宗となりて、天眼寺と號す。親鸞東國運化の嚮、當山に留錫す。住持源齊、之に歸して眞宗に改む。源海坊光信、甲斐に來りて當山に住し、後ら武藏國兒五郎末木に萬福寺を開く。建武元年後醍醐天皇より祈願修の輪旨を賜ふ。正平七年、足利尊氏御教書を下す。國守武田氏の崇敬殊に厚かりき。天正年間、兵燹に罹りて諸堂焼失せしが、幾許もなく回復し、同十九年並に文祿三年、朱印狀を下附せらる。十世順能寂後、慶安二年、東派に轉ぜんり。配下の寺院より本山に訴へ、別に等力山萬福寺を日川村下栗原に建立し、當山は福下輪香となる。寶延二年、回縁に罹り觀覽手植杉等焼失す。●寺寶に土佐光業筆聖如鏡觀音繪六幅・當寺縁起一幅及び多數の古文書等を藏す。

向嶽寺 東山梨郡鹽山町。

●臨濟宗向嶽寺派。●鹽山と號し、現に同派本山なり。永和、康暦の交、秀庵主、當寺を創し、披藤得勝(惠光大圓禪師)を請じて開山とす。國主武田信成其大禮越たりき。爾來武田家の歸依厚く、天文十七年十一月、武田晴信、千野の地を寺領に寄す。天正十一年、徳川家康當國に入るや朱印地三十六石餘を寄せて之を保護す。天明二年、回縁に遭ふ。明治維新後制度改革の結果、一時南禪寺派に屬せしが、明治二十三年四月、向嶽寺派公稱の官許を得、同四十二年九月、更に管長別置の許可ありて獨立の一派となり、本寺其大本山となれり。往昔塔頭八院、頭舎三十三、末寺八十箇寺ありしが、今は塔頭八院、末寺六十一箇寺を有す。大正十五年、火災ありて本堂焼失、現に開山堂を修築して之に充つ。●寺境五千七百坪にして幽邃佳極。佛殿は開山堂を合棟し、二層銅葺なり。寺寶中、絹本着色蓮華像・同三光國師像(至徳三年得勝の贊あり)同大圓禪師像(明徳四年白支の贊あり)の三幅は國寶に列す。遺蹟像は堅四尺七分、幅二尺二寸、建長寺道隆開溪の贊あり。赤衣の全身像にして岩上に元座す。描筆流麗にして、しかもよく麗麗なる趣を表はせり。尙ほ堂後に鹽山の絶壁あり。附近に差出の瀧(雷吹川沿岸)の奇景と共に風に其名著り。鹽山温泉は約十町を距つ。●開山忌(三月二十日)。鎮守秋葉三尺坊察(四月十八日)。

清白寺 東山梨郡後屋敷村。

●臨濟宗妙心寺派。

●海涌山と號す。元弘三年、足利尊氏の開基にして夢窓國師遺石を開山となす。もも、今の地より北方約二町餘の古寺家と云へる地にありしが、後ら現地に移る。中興は昭州康元なり。慶長年間、徳川家康境内七百二十八坪の黒印を寄す。天和二年祝融の災に罹り、僅に本尊並に佛殿一字を残して、他悉く焼失せしが、貞享年間、開、開室周芳之を再興す。●爾來妙心寺派となれり。●境内千三百六十坪、總門・山門・佛殿等全具ふ。佛殿は元弘二年創建當初の建築にして(方五間、重層、屋根入母屋造、檜皮葺)よく禪宗建築の特徴を表せり。現に國寶建造物に指定せらる。境内欄樹多し。一井泉あり、古記に取訪水とあるもの即ち之なり。



(寶蹟) (殿佛寺白清)

圓福寺 東山梨郡加納岩町。

●淨土宗。●石森山と號し、文永三年、道隆開溪の開創に係ると云ふ。後年領主武田氏の時に至り、其歸信頗る厚く寺領五百石を寄す。當時、寺域三千餘坪あり、當郡松里村惠林寺と共に峽東の名刹と稱せられしが、正親町天皇天正十年、織田氏の兵燹に罹りて、一山悉く瓦上す。同末年、爰譽之を今の地に再興するや、現宗に改む。即ち爰譽を以て當寺中興の祖とす。元祿元年、再び祝融の災に遭ひし、五世爰譽の時、再建成る。其後天保十一年、明治十四年の兩度、回縁に罹り、爲めに寺運大いに衰頹せしが、同三十五年、二十四世爰譽の時に至り、本堂以下諸堂宇を再建して寺觀を復し、以て今日に及べり。●堂宇に本堂・觀音堂・庫裡・鐘樓・山門等を具へ。觀音堂安置の觀音菩薩像は空海法淨寺留錫中の作なりと云ふ。

永昌院 東山梨郡平等村。

●曹洞宗。●龍石山と號し、文明年間、神岳通建の開基に係る。初め眞言宗に屬し、禪定院と號す。永正年間、武田信昌之を再興して堂宇を建立し、現宗に改む。其後信昌の法號永昌院殿に因みて現寺號を定む。當時寺領五十石、山林七十五町歩を有せり。十八世祖門の時、常恒會地と定めらる。次で十九世大機の時、諸堂宇完成す時に甲武二州に末寺九十六箇寺を有して當國七刹の一に列し、雲龍派と號して法威大いに揚りしが、明治四

松智院 東山梨郡初鹿野村。

●淨土宗。●初鹿山圓通寺と號す。往昔は一小庵にして、本村丸井に存せしが、元龜元年、大譽現地を下して堂宇を建立し、明石山清水寺と號す。文化七年、願譽の代に江戸増上寺爰譽より初鹿山圓通寺の號を許され、直筆の額を受く。現今の山門に掲ぐるもの即ち之なりと云ふ。明治九年、山崩れの爲に本堂、書院、庫裡等破壊し、次で同二十七年、大雨の爲め庫裡全壞す。爾來其再建に努め、漸次舊觀に復せり。●境内五百坪、本堂・庫裡・山門・鐘樓等の堂宇を具ふ。本尊阿彌陀如來は春日作と傳へたり。

大藏經寺 東山梨郡岡部村。

●新義眞言宗智智山派。●松本山と號し、新義眞言宗檀林七箇寺の一なり。聖武天皇の朝、僧行基の創する所と傳ふ。中興開山は觀道なり。往昔、三重塔ありて唐本一切經を藏せしが、元祿年間焼失す。徳川家康、本寺を以て祈願所と定め武運長久を祈れり。本尊に不動明王を安置す。●本堂・庫裡等建物二十棟あり。寺寶中、絹本着色佛涅槃圖一幅は現に國寶に指定せらる。描寫精緻にして、諸衆悲歎の狀見るが如し。寺傳に靈彩筆とあり。元、明間の支那畫と推定せらる。

慶徳寺 東山梨郡中枝村。

●臨濟宗妙心寺派。●鮮雲山と號す。寺傳に、大治二年、武田甲斐守義清、其父義光の菩提の爲に當村開福原に寺宇を建立して、如意輪觀世音を安じ、中谷山景徳院と號せしを以て當寺の濫觴なりと云ふ。建久五年、兵燹に罹りて將に廢滅に歸せんとして、興國元年、夢窓遺石此地に草庵を設けて之を再興す。次で正平年間、足利尊氏臣倉科七郎左衛門、現在の地に堂宇を建立して如意輪觀世音を奉じ、尊信極めて厚かりき。天授二年、一溪西堂更に修興して慶徳庵と號す。其後徳川氏、境内地七百三十坪を寄す。承應二年、大機道樹、寺號を慶徳寺と號めて大いに寺宇を改む。即ち當寺の中興とす。明治十八年二月、祝融の災に遭ひて堂宇瓦上せしが、幾許ならずして榮宗之を再建し、以て今日に及べり。

惠林寺 東山梨郡松里村大字松里。

●臨濟宗妙心寺派。●乾徳山と號す。元徳二年、二階堂出羽守藤原道隆の開創にして、夢窓國師を開山となす。後ら武田信玄歸依して壽藏所とし、永祿七年、美濃崇福寺の快川國師を招じて住せしめ、寺領三百貫文を寄す。天正十年、佐々木承禎等、逃れて當寺に匿れしに依り、織田氏の軍に焼かれて一山灰燼に歸す。時に快川、山門に登り「安禪不三必須三山水、滅却心頭一火自涼」の一偈を遺し端然として猛火の中に寂せしは著名なる話柄なり。天正十三年、徳川家康當國に入るや、瑞鳥をしてこれを再興せしめ、寺領五十九石餘を寄す。享保年間、柳澤

吉保更に之を修補す。爾來、寺運漸々振ひしが、明治三十八年二月、再び炎上し、開山堂等數字を燒して、他悉く燒亡す。爾後、再建に着手し近時、本堂、大庫等次第に竣工して寺觀漸く恢復せり。

立正寺

●日蓮宗。

●境内八千五百三十九坪にして、規模頗る大なり。堂宇には本堂・庫裡・四脚門等を具ふ。就中、四脚門(屋根切妻造、檜皮葺)は天正年間之建立にして、中門又は赤門とも謂ひ現に國寶建造物なり。構造簡素なるも、雄大なる趣を具へたり。寺寶中、太刀(銘東國長、持絲卷太刀、柳澤吉保寄進)一口・短刀(銘備州長船倫光應安二年八月日)一口は何れも國寶なり。其他夢窓國師書蹟・同書像・牧溪筆羅漢十六幅・同筆達磨・道謙軒筆不動明王・快川國師書蹟等を藏す。境内庭園は夢窓國師自作として著名なり。尙ほ武田信玄廟、柳澤吉保の墓あり。信玄廟には不動明王形の信玄像あり。武田不動尊と俗稱して民間の信仰集まる。寺境幽邃にして惠林十勝を數ふ。

放光寺

●新義真言宗智山派。

●高橋山と號す。實賢僧都の開創と傳ふ。初め、萩原郷高橋にありしが、建久二年、安田遠江守實定、現地に遷して再興す。天正年間、織田氏の兵燹に罹り、伽藍及び十二の塔頭等悉く烏有に歸す。舊寺領十七石なり。

●境内地三千二百坪あり。本尊木造大日如來坐像一軀・同阿彌陀佛坐像一軀・同受樂明王坐像一軀の三像は、共に大略藤原末期より鎌倉初期に作る。

●作品にして、就中、受樂明王像は、同種作品中時代最も古く且つ製作の優秀を以て著聞する所なり。尙ほ以上三像何れも元祿二年佛師圓道修理の銘を有し、現に國寶に指定せらる。

鹽澤寺

●新義真言宗智山派。

●休息山と號す。初め眞言宗に屬し、金剛山胎藏寺と號せしが、文永十一年當時の住僧、辻の坊首範、日蓮の教化に歸し、弟子となりて日蓮と改名し、寺を改めて法華の道場となす。即ち日蓮を開山とし、日法を二世となし、自らは其第三世となる。天正十九年、十三世日定の代、身延山に屬す。

萬勝寺

●眞宗大谷派。

●甲山と號す。應永三年の創建に係り、初め山梨郡立川庄岩下郷の地にありて兜山信樂院と號し、天台宗に屬せり。寛正六年、兵燹に罹りて堂宇炎上せしも、文明三年、同郷牧之庄中牧郷に移りて堂宇を再建し、甲山萬勝院と改號す。大永二年、四世了尊、本願寺實如に歸依して、現宗に轉じ、萬勝寺と改稱す。慶長十年、六世順明、教如に歸依して東本願寺直末となる。後安永三年、祝融の災に遭ひしも、次で天明三年、再興を遂ぐ。

仁勝寺

●臨濟宗向嶽寺派。

●風雲山と號す。開山は一音嶽西堂、大檀越は武田氏及び巨瀬氏なりと傳ふ。

善光寺

●淨土宗。

●定額山と號す。永祿元年十月、武田信玄、信州善光寺本尊阿彌陀如來を遷して本寺を開創すと傳ふ。開山は信州善光寺大本願鏡空なり。永祿七年七月、金堂落成す。天正十年、織田信長當地攻め、本尊を美濃岐阜に遷し、更に尾張及び遠江等に遷されしが、遂に本寺に歸る。慶長二年、豐臣秀吉更に之を京都方廣寺に遷せしが、翌三年、信濃の善光寺に返さる。に至るさいふ。依りて其間當山本尊無住四十年に及べり。

●法蓋山と號す。弘長年間、關原道隆の開基に係る。後武田信玄の太子太郎義信、之を中興す。當山の西に稱稱國母地藏堂あり。往古は法成寺と號せしが、今は東光寺の所轄なり。

興因寺

●曹洞宗。

●増福山と號す。新羅三郎義光嫡男佐竹義業の開基に係り、後拈笑宗英來りて之を再興す。爾來當宗五派の一拈笑派に屬せり。其後祝融の災に遭ひて一山の堂宇、古記録等を失ふ。後徳川家康朱印地を寄せ、寛永二十年、八宮貞純親王、湯島より當山に入興あり。享保十八年、官藏に依り一派三百六十餘箇寺の總本寺と號する。舊寺領二十五石を有せりと云ふ。今一派常法幢七箇寺の一たり。

大泉寺

●曹洞宗。

●曹洞宗。僧天桂の開山にして、開基は武田信成なり。もと下總國府務總事寺末にして、甲斐國曹洞

一派八百餘寺の員司を勤め、寺領三十六石を有せり。五世甲天の代、同様に罹り、永祿十年、殿堂再建せらる。文祿二年、淺野長政當國府中に封ぜらるゝや、當寺を以て其菩提所とせり。

遠妙寺

●日蓮宗。

●境内五千四百餘坪、總門・本堂(桁行十四間、梁間九間)・寶殿等の堂宇あり。寶殿は武田家三代の影堂なり。堂後に武田信成、同晴信、同晴頼の墓あり。

東光寺

●臨濟宗妙心寺派。

●定額山と號す。永祿元年十月、武田信玄、信州善光寺本尊阿彌陀如來を遷して本寺を開創すと傳ふ。開山は信州善光寺大本願鏡空なり。永祿七年七月、金堂落成す。天正十年、織田信長當地攻め、本尊を美濃岐阜に遷し、更に尾張及び遠江等に遷されしが、遂に本寺に歸る。慶長二年、豐臣秀吉更に之を京都方廣寺に遷せしが、翌三年、信濃の善光寺に返さる。に至るさいふ。依りて其間當山本尊無住四十年に及べり。

曹洞宗

●大永年間、僧天桂の開山にして、開基は武田信成なり。もと下總國府務總事寺末にして、甲斐國曹洞



(門總寺妙遠)

堤上にありしが、明徳元年、現地に移して順次伽藍を造營す。慶安元年、寺領十石を附せらる。享保二年、其上す。其後再建成りしも、天保四年、總門、仁王門を除き諸堂灰燼に歸す。明治十二年再建。即ち現今の堂宇なり。創建以來六百餘年、法統連續として、五十代を重んじ、現に總本山身延山久遠寺なり。

●本堂・庫裡・仁王門・總門・七面堂・寶藏・輪廻堂・願生禱堂・鐘堂・倉庫等を具ふ。寺寶には、鶴岡濟度日蓮立像一軀・同流寶像一軀・日蓮、日向立像二軀等を藏す。尙ほ富山西南八町に御現水、御經塚等の舊跡あり。

●舊曆七月二十八日、二十九日川施餓鬼を行ふ。

園樂寺

東八代郡右左口村大字右左口。

●新義眞言宗智山派。

●七堂山と號す。新義櫻林七箇寺の一なり。文武天皇御宇、役小角の開創なりと云ひ、大寶元年、小角初めて富士登山の險路を開くや、當寺を以て其草場場すと傳ふ。降りて文明年間、道興准后當寺に登りて誦誦の事ありき。舊時、寺領二十九石餘を有せりと云ふ。因みに甲斐縣には右左口の地名は、往昔當寺を後廢堂と云ひしより起れるにあらざるやとせり。

●境内地二千五百六十餘坪。寺域老樹繁茂して幽邃靜寂の地なり。堂宇に本堂・客殿・役行者堂・六角堂・鐘樓・總門・王子権現社等を具ふ。尙ほ講堂・五重塔址あり。本尊藥師如來立像は運慶の作と傳へ、他に彫刻世音像(客殿本尊)・役行者所持錫杖、鈴、五結、寫經・佛書等を藏せり。

福光園寺

東八代郡花鳥村大字大野寺。

●新義眞言宗智山派。

●大野山と號す。聖德太子の創建なりと傳へ、往古駒嶽山大野寺と稱せしが、後ち大野山蓮華淨院福光園寺と改む。保元二年、領主大野對馬守重包、僧繁安を請じて之を申興す。三十二世普賢の時、武田信玄の歸依する所となり、寺領、佛具等を寄す。安永七年、寛政十二年の兩度火災に罹り、全く舊觀を留めざるも、寺域の宏壯以て往古を語るに足る。本尊に不動明王を安置し、近世寺領二十六石餘を有せり。

●信玄の寄進に係る什寶、其他古文書等を藏す。境内に開山安賢上人の墓あり。

棲雲寺

東八代郡木賊村。

●臨濟宗建長寺派。

●天目山と號す。貞和四年、國主武田信滿の開基に係り、本淨(業海)を開山とす。當山も木賊山と稱せしが、本淨元元し、中興明本國師に參禪、歸朝して本寺を開き、天目山と號す。應永二十四年、武田信滿、當寺に於て自盡す。織田氏の兵火に炎上せしが、後ち德川家康、寺領を寄す。往古、塔頭二十五院ありしが、今は廢滅す。寺格中本寺にして、塔頭なり。

●境内に武田信滿の墳墓、勝頼の首級及び梵音洞、金剛窟、羅漢石、坐禪岩等あり。開山禪師、曾て天目山十境の勝地を選び、詩十首を題し、武田信滿亦和歌十首を詠せりと云ふ。現に之を傳へたり。山門は一に對面關といひ、富士山に相對し、其高さは八合目に當るといふ。

龍華院

東八代郡上曾根村。

●曹洞宗。

●吉國山と號す。往昔眞言宗に屬して前附山大祥寺と號し、今の境川村大字寺尾の地にありしが、歷應年間、僧威韓現在の地に移して再興す。其後貞頼久しかりしを、永正年間、曾根氏之を重興し、桂藤末昌を請じて開山とし、吉國山龍華院と號して現宗に轉す。天正十年三月、德川家康當國政略の際、當山に駐陣す。近世寺領六十九石九斗餘を有せり。

●本堂・庫裡・總門等の堂宇を具へ、本尊に釋迦三尊を安置す。寺寶として、德空海作觀音菩薩像及び聖天像・月舟筆總門扁額等あり。境内附近に蟠龍池、龜結水、梵字石等の古跡を存す。

國分寺

東八代郡一宮村大字國分

●臨濟宗妙心寺派。

●天平年間、聖武天皇の勅願に依り、諸國に建立せられたる金光明四天王護國寺の一なり。往昔、御靈宏壯を極めしも、建長七年、同條の災に遭ひ、一時花園天皇の御宇再興せられしも、後ち再び衰頹、室町末期には廢滅に瀕したり。正親町天皇の朝、武田信玄、之を情みて重興し宗悅をして法燈を守らしむ。當寺の禪宗となりしは花園天皇代の中興以後の事なるべし。

●境内二千八百坪あり。現今堂宇のある所は舊護摩堂の址なり。往昔の大礎今に残り、時に被其を發掘すると云ふ。現に史蹟に指定せらる。

瑞蓮寺

東八代郡一宮村大字田中。

●淨土宗。

●曹洞宗。

●慈眼山と號す。聖德太子掛錫の遺跡にして、大同四年、空海亦當山に留りて六面塔を建立せりと傳ふ。降りて慶長年間、土家今川義行開基となりて初めて七堂伽藍を建立す。爾來一宗の小本寺格にして寺運甚だ隆盛なりしが、其後再度親鸞の災に罹りて遂に舊觀を留めず。近年堂宇を改修して漸次寺觀を改めたり。

●堂宇に本堂・禮拜堂・位牌堂・參籠閣・庫裡・山門等を具ふ。境内の庭塚は一に圓蓋窟と云ひ、又黒駒に近きを以て馬塚とも稱し、其洞穴の奥に觀音菩薩像を安置す。寺傳に聖德太子の遺跡と云ふ。太古穴居の跡なり。

南照院

東八代郡錦村。

●曹洞宗。

●慈眼山と號す。聖德太子掛錫の遺跡にして、大同四年、空海亦當山に留りて六面塔を建立せりと傳ふ。降りて慶長年間、土家今川義行開基となりて初めて七堂伽藍を建立す。爾來一宗の小本寺格にして寺運甚だ隆盛なりしが、其後再度親鸞の災に罹りて遂に舊觀を留めず。近年堂宇を改修して漸次寺觀を改めたり。

●堂宇に本堂・禮拜堂・位牌堂・參籠閣・庫裡・山門等を具ふ。境内の庭塚は一に圓蓋窟と云ひ、又黒駒に近きを以て馬塚とも稱し、其洞穴の奥に觀音菩薩像を安置す。寺傳に聖德太子の遺跡と云ふ。太古穴居の跡なり。

藥王寺

西八代郡上野村。

●古義眞言宗。

永泰寺

西八代郡上九一色村大字古園。

●臨濟宗建長寺派。

●靈龜山と號し、同派小本寺格なり。元亨年間、夢應親石の開創に係ると傳ふ。寺傳によれば、初め、建治二年七月、當地方靈園のため山崩あり。釋迦居士の釋迦堂に安置せられし釋迦如來像堂宇と共に山麓に流漂す。土人即ち寺川に一小堂を設けて之を奉安せしが元亨四年五月に至り、再び水難あり、人畜の溺るも、の敷を知らず。偶々當地にありし疎石大いに之を掩みて施餓鬼を營みしに、奇端に遭ふ。依りて此地に一字を建立し、彼像を安置して本尊となし、靈龜山永泰寺と號すと云ふ。

●本尊木造釋迦如來立像は三國傳來の靈佛と傳へ、丈高三尺、毘首觸作と稱す。他に佛光殿司筆畫幅を藏す。

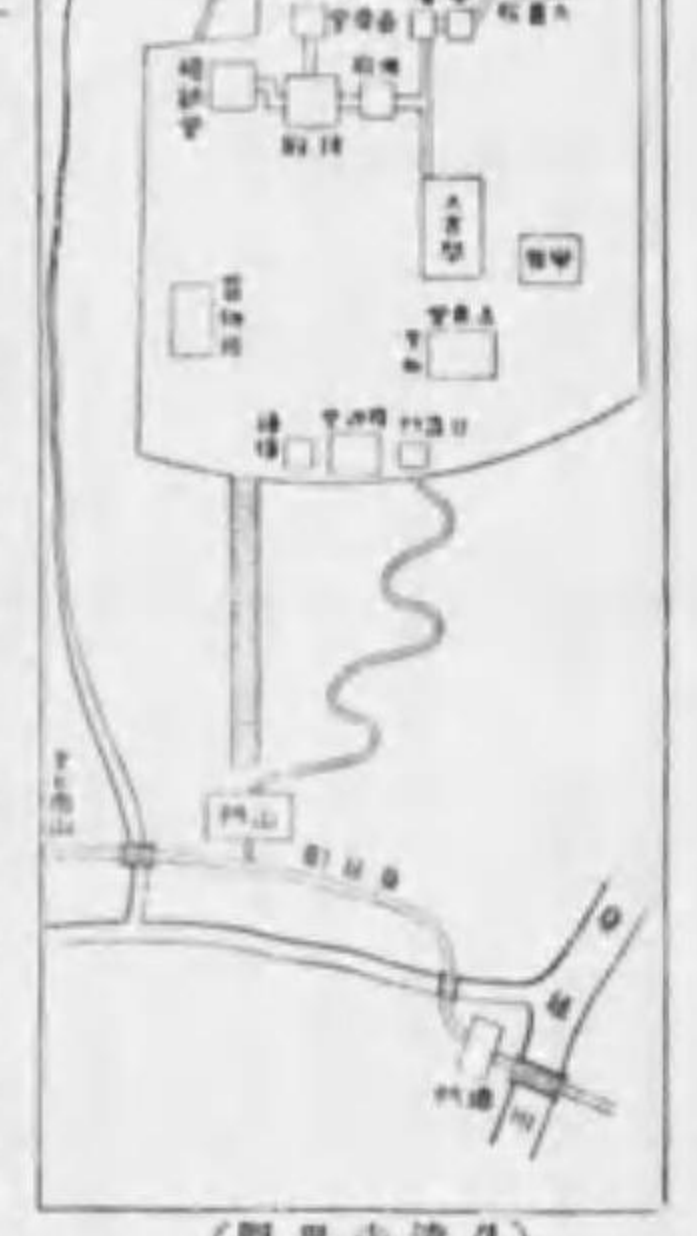
久遠寺

南巨摩郡身延町。

●日蓮宗。

●身延山妙法華院と號し、當宗總本山にして、宗觀日蓮開闢の根本道場なり。文永十一年三月、日蓮佐渡を出で鎌倉に歸來するや、横越波木井六郎實長の請に應じて、同五月鎌倉を發し、波木井に到る。即ち實長の精舎建立を辭して富山西谷に一草庵を結びしが、翌六月十七日、初めて身延の深に入る。當時の庵室、七尺に充たぬ茅屋なりしも、門弟道信相傳へて四方より集りしかば、弘安四年十月、實長別に十間四方の一字を建立し、翌十一月、其開堂式を舉ぐ。是即ち當山の開闢にして、身延山久遠寺の號は日蓮自ら之に附す所なり。かくて日蓮當山に住する、こゝ九年、弘安五年秋、微恙を感じて山を出で、武藏國池上宗仲が邸に入りしが、同年十月十三日遂に寂す。遺命によりて骨を當山に納め、弟子日法實て刻む所の影像を堂に安じ、翌年更に一堂を建て、遺骨を奉す。門下の六老僧輪次に之を守護せしが其後、波木井實長、輪番の制を止めて一主制となし、日向を推して第二代と定む。時に日興之を肯せず、遂に山を下りて富士の重嶺に到る。以て當宗分製の遺勅とす。文明六年、十一世日朝、西谷の地狹隘なるを以て寺基を鷺谷に移し大いに堂宇を造營す。現今の堂宇是なり。當時宗風大いに興り、一山の聲望、樓閣周備整頓して、山上忽ちにして一大華界を開けりと云ふ。即ち日朝を以て當山中興となす所只なり。天文以後、武田氏以下武將の信仰を得て備々隆盛となる。

就中、武田氏の崇信殊に厚く、信虎は十三世日傳に就きて受戒得度し、其子信玄また外護に努め、或は地を寄せ、或は國中諸末寺の進退を許容す。時に身延山初めて官寺となる。天正十六年、徳川家康富山に詣りて列物を與へ、且つ莊田一千石を附せんせしが、十七代日新之を辭す。依りて護法の印を附し、東都に停住の地を與へたり。又豐臣秀吉の姉婿龍院日秀尼、堂塔を増修す。元和二年十二月、同秀忠同じく列物を授く。爾來徳川氏歴代之に従ふ。元禄元年、三十一世日説に紫衣を賜ふ。寶永三年、三十三世日享、勅願寺並に永代紫衣の輪旨を賜はる。享保三年、三十四世日裕の時、上人號を勅許せらる。明治七年、七十三世日廣、檀越、町中萬代法式の山規を改め、支院及び西谷檀林の聯合を計り、宗風を興起す。同九年、同院に攝る。同十一年宗會の決議を以て總本山となる。同二十三年、山門、佛殿、寶藏等焼失せしが、同四十年之を再建す。往時、塔頭百六十七坊ありしが、今は三十二坊を有し、日蓮宗總本山として四大本山三十九本山、三千七百十一の末寺を統ぶ。



(圖景寺遠久)

元政上人の聖塔あり。門前に日蓮手植と傳ふる二大老杉存す。尙ほ日朗開闢の靈地七面山は本院より西方五里、山頂に總門・鐘樓・隨身門・本殿・拜殿・參籠所・池太神社等あり。附近傳説に富む。當山所藏の什寶は、屢次火災に燒失す。雖も、尙ほ彫刻、繪畫、古文書、古器具等數百點に上り、これら現に境内寶物館に陳列せらる。所なり。其主なるものに、紙本墨書傳野元信筆農夫耕作圖四幅・同釋迦三尊像三幅・後陽成天皇宸筆七字額目・靈元天皇宸筆日蓮大菩薩讚・日蓮及び歷代山主書經・紫衣參内輪旨十一通・武田信玄・徳川家康・豐臣秀吉等の文書あり。就中、絹本淡彩夏景山水圖一幅は國寶にして、寛文十二年、太田備中守源實宗の寄進に係る。堅三尺九寸、幅一尺七寸四分、京都金地院藏傳靈宗皇帝筆秋山水圖と同一にして、も四季四幅對の中、春景の散逸せしものなるべし。宋末院藏系統の逸品にして、氣品高く醇麗なる趣、畫面に溢る。因みに本圖のみを胡直夫作と傳ふれど、其據所明ならず。

堂・鐘樓・寶物館・法喜堂・大客殿・拜殿・佛殿・眞骨堂・水鳴樓・大書院・寶庫等數十棟・總稱して本院といひ莊嚴を極む。〔總門〕當山に入る最初の門にして、三間中に二間中の黒塗門なり。寛文五年の遺構なりと云ふ。〔山門〕間口十三間、奥行五間の大樓門にして、五間に三間の廊門あり、一に羅漢閣といふ。寛文十九年創建、慶長元年焼上、同二年假門竣工、明治二十三年再び焼け、同四十年再建せらる。定朝作と傳ふる仁王像(高さ七尺六寸)を安置す。〔佛殿〕十五間四間、南向、豐臣秀次母瑞龍院日秀尼の創建に係り、明治九年、同二十三年兩度焼上、同四十年再建せらる。其後又焼失し、現堂は昭和六年三月完成す。〔祖師堂〕當山第一の伽藍にして、十二間に二十間明治十三年の再建、金碧の柱懸願する華麗なり。本尊宗祖木像は日法上人の作にして、本宗に於ける崇敬比なき祖像中の一なり。〔眞骨堂〕八角形五間四間。舊名眞骨不滅堂、慶長年間、西谷より移して改建、文政十二年焼上、天保二年再建、明治八年同修、同十四年現堂成る。尙ほ前面

に五間に六間の拜殿あり。〔水鳴樓〕小方丈また小書院、或は上の座、古法眼ノ間と稱し、古法眼元信の畫室なりき。文政十二年同修、天保六年再建、明治八年再び焼失、翌九年西谷清水房の書院を移建す。樓下の林泉は眞知海と云ひ、老樹古石趣致あり、清泉亦清冽なり。〔大書院〕五間に七間、一に對面所といひ、寛文十五年建立、文政十二年焼上、其後再建せられしも、明治八年焼失、同九年再び遺構せらる。祖師堂の裏より觀音たる老樹の間を登る事五十町、即ち奥ノ院あり。身延山頂にして一に尊陀製菓と稱し、觀望絶佳なり。途中、草庵舊址・丈六堂・八輪社・三光堂・本地堂・思觀閣等所在す。〔草庵舊址〕日蓮九箇年在住の地、十間四間の石の五輪は其堂址を劃せしものなり。背後に崩所あり。銅瓦葺三間四間の建築にして天正十三年の建立なりと云ふ。當園に歷代山主及び波木井氏、富木氏等大檀越の墓碑を存す。〔三光堂〕三間半四間、外棟造り、別當寮を大光庵といふ。寛永二十年祖師堂の上より移して建立す。〔本地堂〕二間四間二階建、寛永七年創建、文政七年焼上、嘉永五年再建せらる。〔思觀閣〕奥ノ院の祖師堂にして、六間四方の外棟附拜殿は六間半に四間あり。日蓮在住九年間、常に登りて遙かに房州を望み、兩親を追慕せし靈跡にして、一に青蓮堂とも稱す。高祖入滅の翌年日朗の創建に係り元禄年間再建せらる。〔奥ノ院〕別當所を孝東院(一に大學院)と稱し、四間に七間、二十八世日覺の創立にして、元禄・安政兩度の再築を経たり。仁王門・鐘樓等を具ふ。門内に深草

元政上人の聖塔あり。門前に日蓮手植と傳ふる二大老杉存す。尙ほ日朗開闢の靈地七面山は本院より西方五里、山頂に總門・鐘樓・隨身門・本殿・拜殿・參籠所・池太神社等あり。附近傳説に富む。當山所藏の什寶は、屢次火災に燒失す。雖も、尙ほ彫刻、繪畫、古文書、古器具等數百點に上り、これら現に境内寶物館に陳列せらる。所なり。其主なるものに、紙本墨書傳野元信筆農夫耕作圖四幅・同釋迦三尊像三幅・後陽成天皇宸筆七字額目・靈元天皇宸筆日蓮大菩薩讚・日蓮及び歷代山主書經・紫衣參内輪旨十一通・武田信玄・徳川家康・豐臣秀吉等の文書あり。就中、絹本淡彩夏景山水圖一幅は國寶にして、寛文十二年、太田備中守源實宗の寄進に係る。堅三尺九寸、幅一尺七寸四分、京都金地院藏傳靈宗皇帝筆秋山水圖と同一にして、も四季四幅對の中、春景の散逸せしものなるべし。宋末院藏系統の逸品にして、氣品高く醇麗なる趣、畫面に溢る。因みに本圖のみを胡直夫作と傳ふれど、其據所明ならず。

●元始新禪會、日向上人慧會(一月三日)、御頭會(一月十三日)、涅槃會(二月十五日)、宗祖誕生會(二月十六日)、立正會(三月二十八日)、釋尊降誕會(四月八日)、伊東法親會(五月十二日)、傳教大師會(六月四日)、開闢會(六月十三日)、六日開闢、靈前盛博會(八月七日)、龍ノ口法親會(九月十二日)、七面會(九月十九日)、圓師會(九月二十五日)、會式(十月十一日より四日間)、小松原法親會(十一月十一日)、天台大師會(十一月二十四日)等。以上の中、四月降誕會、六月開闢會、十月會式を三大會と稱す。

●臨濟宗妙心寺派。●正福壽山と號す。永祿九年、穴山梅雪の創建にして、天輪寺梅隱を請じて開山とす。初め武田信虎の女穴山伊豆守信友に嫁して梅雪を生み、永祿九年四月、歿して南松院殿安理院大姉を法諡せらる。梅雪即ち其亡母の菩提の爲に當寺を建立して南松院と號すといふ。近世寺領二十五石を有したり。●本尊は釋迦如來像にして寺寶に三十三所觀音像・法華經八卷・打板十六卷・涅槃像・達磨像・菩提相像・開山梅隱像・南松院寶像・大般若經六百卷、其他快川、隱元、木庵、龍溪等の書畫を藏す。大般若經は康曆二年乃至德二年の書寫にして、穴山伊豆守信友再修の奥書あり。又境内に長さ約二尺七寸の龜石あり。南松院、信友に嫁せし時、其父信虎に乞ひて移し來れる愛蔵の奇石なりと傳ふ。●龍雲寺 南巨摩郡下山村。●曹洞宗。●華岳山と號す。初め眞言の古刹にして、久しく荒廢せしが、享祿三年、領主穴山甲斐守信綱之を再興して現宗に改め、其菩提所となし、悅江築敷を請じて開山とす。もと末寺五十餘箇寺を有し、寺領十石を附せられしも、後ち觀瀾の異に遭ひて舊觀を失ふに至れり。●本尊十一面觀世音像は空海作と傳へ、寺寶として日蓮筆寫無量壽經・同普賢觀經・牧溪筆觀世音像・悅江築敷の書・信綱所用鞍履等を藏す。境内に信綱墓あり、五輪石塔にして龍雲寺殿一棟義松大居士と刻す。●古義眞言宗。●最勝山と號す。聖武天皇天平年間の草創と傳へ、初め三論宗なりしが、弘仁年間、現宗に改む。往昔、七堂伽藍整備して寺運隆盛を極めしも、天正年間、兵亂に罹りて衰微す。舊寺領二十六石あり。現に同宗高野末に屬す。●觀音堂・客殿・仁王門等の堂宇を具ふ。因みに身延山久遠寺の梵鐘は、弘安六年當寺より移されしこと其銘に見ゆ。●三十三年毎に本尊觀世音の開扉式を行ふ。●福壽寺 南巨摩郡増穂村。●日蓮宗。

●壽命山と號す。永仁年間、小室妙法寺開祖日傳の實弟日全の開基に係る。日傳、爲に宗祖の像を贈り、壽命山と號せしむ。十二世日法、伽藍を修營し、之を中興す。偶々、靈元天皇、御齋重らせ給ひしかば、日法勅命により御平癒祈願の修法を行ひしに、一七日にして御快癒あり、仍りて勅額並に寺額を賜ふ。現に靈驗の顯著を稱せらる。虫切の妙符加持は、即ち日法修驗の遺法なりと云ふ。

●本堂・支那・庫裡・書院・寶藏・鐘樓・七面堂・祖師堂等あり。寺寶として日蓮眞蹟・日法の看經佛たりし安産鬼子母神・龍體加持の念珠・虫切御符書等を藏す。

南明寺 南巨摩郡増穂村。

●曹洞宗。

●補陀山と號す。常法檀林の一にして明華派本寺たりき。元弘三年、大井輝正少弼明春の創建にして、明華派首を以て開山とす。三世極林の時、寺宇を修造し境内山林八町に及ぶ。天正十一年、徳川家康當國巡視の途次、數日當寺に滯留す。延享二年、祝融の災に罹りて御座間(家康滯留の遺跡)等を失ふ。近世寺領二十石を有せり。

●本尊に聖觀世音を安置す。寺寶として家康滯留の際遺營せし舞臺圖等を藏す。

明王寺 南巨摩郡増穂村。

●新義眞言宗智山派。

●金剛山と號す。寶龜年間、興丹行圓不動明王を感得して本寺を開創すと傳ふ。寺領二十石餘を有し、

常法檀林、新義眞言七箇寺の一たりき。

●寺寶として不動明王畫像二幅・如來鬼神畫・開山上人所持雨龍の劍・開關縁起、其他古文書等を藏す。就中、木造藥師如來立像一軀は國寶に指定せらる。矮軀肥大、衣紋の刀法等より一見古作と見ゆるも、其面觀、手法より推して大略鎌倉時代の作と認めべし。

妙法寺(小身延) 南巨摩郡増穂村。

●日蓮宗。

●徳榮山と號し、現に本宗本山なり。世にまた小室山、小身延と稱す。文永十一年、日蓮身延隱棲の途次當地に惠長法印なる者法術を以て著る。日興、日向を伴ひ來りて法論を試み之を説服す。法印歸りて之に歸し、一日、毒餅を携へ來りて日蓮を毒殺せんとせしに看破せられ、遂に前非を悔ひて其弟子となる。日蓮即ち日傳と名し、中老に列せしむ。而して眞言宗を改めて法華の道場となし、日蓮を開山に推して自ら之に次すと云ふ。

●境域山に倚りて高く、三門・總門・祖師堂・本堂・不退堂・鐘樓・客殿・方丈・本願所等所在す。本堂には十界茶室並に日傳の法見日法手刻の日蓮像を安置す。寺寶には、日蓮法華經・同受茶室・日傳所持の笈、鈴、獨鈷、錫杖、法螺貝等を藏す。境内に法論の遺跡と傳ふる法論石あり。十町にして開創井を見る。背後の山を西峯と稱し、七面明神の祠あり。

慈照寺 中巨摩郡重王村。

●曹洞宗。

●有富山と號し、一に西山禪林と稱す。此地はもと

眞言の廢寺址たりしが、延徳年間、武田信玄、諸角豐後守昌清菩提の爲に新一寺を興し、眞義宗見を請じて開山とす。現今當宗願會七箇寺の一にして常恒會地たり。

●境地頗る清麗にして、本堂以下の諸堂整然たり。本尊釋迦如來像は行基作と傳へ、丈高四尺、文殊菩薩兩脇侍像を安置す。境内の泉水は俗に龍土地と呼び、開山眞義の龍女授戒の古蹟なりと傳へ、地名亦之に因ると云ふ。

長谷寺 中巨摩郡田之岡村。

●新義眞言宗智山派。

●八田山と號す。僧行基、大和の長谷寺に擬して本寺を創建し、自刻の十一面觀世音を安置すと傳ふ。寶龜年間、僧道明之を再興す。もと豐山と號せしが、地、八田莊なるを以て現號を稱すと云ふ。

●境内千六百四坪、本堂・客殿・庫裡・鐘樓・仁王門・階橋等あり。本堂(方三間、單層、椽根入母屋造、檜皮葺)は又觀音堂とも稱し、現に國寶遺物なり。外形簡素にして、前に一間の向拜を出し、内部は和唐兩様を折衷す。室町中期の建立なり。

●七月二十日の夜、祭會を執行す。近郷の信者群參し、鼓樂を極む。

歡盛院 中巨摩郡三町村大字三條。

●曹洞宗。

●創建年代及び沿革不詳。

●寺寶中、木造藥師如來坐像一軀は國寶に指定せらる。應永初期の作と推定せられ、破損甚だしく、且つ

永源寺 中巨摩郡三町村。

●曹洞宗。

●豐田山と號す。地頭河東梵見の開基にして、開山は眞圓禪師なりと傳ふ。天正元年、僧惠安之を再興せしむ。文祿六年、洪水の被害あり。慶長元年、寛文八年の兩度修理造營せらる。

●境内に觀音堂あり。木造聖觀音立像一軀を安置す。開創は明治初年、附近の曹明寺より移安せしものにして藤原末期の作と認められ、現に國寶たり。

天澤寺 中巨摩郡津村。

●曹洞宗。

●巨摩山と號し、曹洞檀林七箇寺の一なり。文明年間、飯富氏の草創に係り、靈岳宗後を請じて開山とす。其後回祿の災に遭ひて古記録等を失ひ、沿革を詳にせず。近世寺領二十五石餘を有し末寺二十七箇寺を統ぶと云ふ。

●堂宇に本堂・開山堂・庫裡・總門・山門等を具ふ。本尊は釋迦如來像にして、開山堂結集成の扁額は丹舟筆、總門北岳禪林の額は總持常山の書、山門天澤寺の扁額は江南陸南の筆なり。

法善寺 中巨摩郡三惠村。

●古義眞言宗。

●加賀美山と號す。僧空海の開基に係る。後年承久三年、加賀美次郎遠光、大師の靈夢を感じて本寺を再

修し、高野山より僧覺應を請じて中興開山となし、寺號を加賀美寺と稱す。初め村内寺部にありしを、遠光の子孫遠經、遠光の館址に移す。現寺地是なり。天正の兵燹に燒け、其後再建せられしも、天明元年、再び美上す。舊寺領九十九石を有す。今の寺號は後世の改稱にして、現に高野末なり。

●金堂・釋迦堂・御影堂・本願堂等あり。寺寶中、紙本墨書大般若經五百六十一卷は國寶なり。奥書に依り建長六年以前の書寫にして、武田信玄の寄進に係る事を知る。其他、弘法大師筆紺紙金泥經・智證大師筆不動明王像・日蓮假名御書等古畫、古文書を多く藏す。

備前院 中巨摩郡津村。

●曹洞宗。

●大神山或は如意山と號し、伊豆最勝院の末寺たり。州安渡の本寺にして甲州定法檀林七箇寺の一に位す。文龜年間、當地神部社神官今津貞重、家職を其子右近三郎に譲りて佛法に歸依し、僧茅屋に此地を興へて寺宇を建立せしめ、其師祖經を請じて開山とす。永正十二年三月、回祿の災に罹りしも、大永四年以降、漸次堂宇の再建を遂ぐ。永祿七年、奥州奉金院より州安一派の本寺を當寺に譲りしを以て、州安を請じて中興第一祖とす。近世寺領六十石餘あり。

●高尾山腹に位置し、舊神部社禪座の地にして境内頗る高嶽なり。本尊は佛舍利にして今七重の寶塔に藏む。寺寶に釋迦如來像・大般若經六百卷・古文書數點を藏す。

深向院 中巨摩郡五明村。

●曹洞宗。

隆昌院 中巨摩郡大井村。

●曹洞宗。

●江草山と號し、本宗小本寺格たり。元暦元年、弘徽知法の開創に係る。初め當郡三惠村十日市場にありて經讀山隆昌寺と號し、天台宗に屬す。後ち歴次水害を蒙りて衰頹久しかりしが、永享六年に至り、第壹舉一、土藏下條兵部少輔長輔の歸依を得、之を現地に移して再興を遂げ、時に曹洞宗に轉す。明治維新の際、堂宇破却の難に遭ひしも、其後次第に諸堂を再建し以て今日に及ぶ。

●境内地八百六十六坪。堂宇に本堂・庫裡・經藏・鐘樓等を具ふ。本尊は千手觀世音像にして脇侍に不動明王、毘沙門天像等を安置す。

妙善寺 中巨摩郡飯野村。

●日蓮宗。

雲岸寺 北巨摩郡重崎町。
 ●曹洞宗。
 ●佛窟山と號す。創建年代詳ならず。寺傳には僧空海の開創に係ると云ふ。七里岩の中腹、數十丈の高所を穿ちて御堂を造り、僧空海作聖觀世音菩薩を安置す。古歌に曰く「切り通し岩に御堂を掛作り大悲の誓ひ深き河原部」と。明治初年火災に罹る。
 ●境内約四百坪。御堂は木造板敷根にして、間口七間奥行三間中なり。
 ●春彼岸の中日に祭會を執行す。賽者多し。

雲岸寺

清泰寺 北巨摩郡清春村。
 ●曹洞宗。
 ●靈長山と號す。新羅三郎義光の子武田冠者義清の開基に係り、初め天台宗を奉ず。後ち寺運漸く真願せ

清泰寺

しが、應永三十二年、靈雲玄俊之を再興して現宗に改む。往時は甲信境十八箇村當寺の檀家たりしも、天文十一年、武田信玄之を諏訪頼義へ女子化粧料として攝へ、當山取願寺三堂に附屬せしめたりと云ふ。慶長八年三月、徳川氏黒印五百四十四坪を附す。現に末寺十七箇寺を有せり。
 ●本尊聖師如來像は行基作之傳へ、他に玄俊將來黄金佛像を藏す。

實相寺

日蓮宗
 ●大津山と號す。永和元年四月の開創にして、實相院日蓮を開山となす。日蓮は波木井六郎實長四世の孫にして、伊豆守實氏と稱せしが、身延山五世鏡圓の弟子となり、日蓮と號す。時に當村字大津に古義眞言宗の古刹ありて、住僧眞理法印なる者、屢次日蓮と法義を論じ、遂に説破せられて其弟子となり、寺を擧げて日蓮に譲る。日蓮即ち自ら開山第一祖となり、宗を改め、大津山實相寺と號す。永祿四年、五世日蓮の代、武田信玄、川中島の合戦に方り、其臣を遣し、武運長久の祈願を命じ、更に永代祈願所とす。一條次郎忠頼の城址に寺基を移さしめて寺額等を寄せたり。これ即ち現寺地なり。
 ●境内二千坪、本堂・祖師堂・七面堂・鐘樓堂・庫裡・書院・總門等を具へ、日蓮眞筆断片・日蓮筆一廻首題・傳運慶作佛像・諏訪和四郎兼山神迦圖等を藏す。城内に名譽神代標(妙法標)あり。高さ九十尺、枝葉東西十五間、南北十七間、周圍六十尺餘、日本武尊御東征の御、手植せられたりしものなりと傳ふ。後年枯死せ

んさせしを、日蓮、此地留錫の御、之を惜みて養生を祈りしに樹勢一變、以て今日に及べりといふ。現に天然記念物に指定せらる。

萬休院

曹洞宗
 ●長松山と號す。天平年間、行基當地に留錫し、小庵を結びて觀世音像を安置すと傳へ、四りて當地觀音屋敷の稱あり。降りて元龜二年、馬場美濃守信房茲に堂宇を建立し、利山支益を以て開山に請す。寛永十五年、祝融の災に遭ひしも、寛文元年、堂宇の再建成る。明和三年、再び回縁に罹りしが、後ち再興す。
 ●境内風致絶佳にして前庭に老松あり。幹圍十尺餘其形容舞鶴に似たるより舞鶴松と稱す。寺實に大般若經六百卷・馬場信房寄進龍虎圖等あり。

海岸寺

臨濟宗妙心寺派
 ●津金山と號す。僧行基の開創と傳へ、天平九年、聖武天皇より光明殿の勅額を賜ふ。後ち新羅三郎義光之を修營す。天正年間、織田氏の兵亂に荒廢せしが、徳川時代、中興石室大いに堂宇を修營す。
 ●本堂・書院・庫裡・文庫・經堂・觀音堂・地藏堂等あり。觀音堂の本尊木造千手觀音坐像一軀は國寶に指定せらる。刀法精巧且つ精緻を極めたる蓮影の舟形光背を具す。高さ約二尺、室町初期の優作なり。寺實として一切經・狩野法眼筆普賢像・同探幽筆文殊像等を藏す。

長生寺

曹洞宗
 ●大儀山と號す。文明年間、武田信昌、其室の安産祈願經費として創建せし所にして、靈岳宗後を請じて開山とし、生兒の長生を祈りて以て寺號とすと云ふ。大儀の山號は唐の大儀山に似たるに由れり。初め金井の地にありて用津院とも稱せしが、永正年間、小山田信有、之を現在の地に移して堂宇を再建し、山林散町及び寺額若干を附して累代の香華院と定む。同氏歿後、鳥居元忠封を同地にうけしが、尊信舊に劣らず。爾來歴代領主の菩提所たり。當時寺額三十五石を有し寺運隆盛を極む。然るに寛政三年七月、祝融の災に遭ひ、寺運殆く傾く。幾許もなく再建成りしが、明治十五年九月、再び美上し、諸堂悉く灰燼に歸す。現存の堂宇は同十七年の再建に係る。

東漸寺

日蓮宗
 ●大法山と號す。明高院日理の草創に係り、其師日目を請じて開山とす。日理俗姓は石川式部入道勝重、鎌倉執權北條義時孫なり。初め勝重幼にして佛道に志し、當地に眞言の小寺を建立して光明院と號せしが、元龜元年、駿河國富士郡大石寺二世日富國教化に際

妙法寺

本門法華宗
 ●本山と號す。之に歸して其門に入り、寺を改めて法華の道場となし、師を請じて開山に推す。次で又寺號を大法山東漸寺と改めたり。天文十九年、教運坊日威の時、身延山久遠寺直末となる。
 ●本尊は久遠寺十四世日鏡開眼の古佛と云ふ。他に寺寶少からず。



(堂本寺法妙)

寶鏡寺

曹洞宗
 ●金冠山と號す。濱松普濟寺の末寺なり。龜形永金(寛正三年窟)の開基に係る。二世聖天義賢の時、諸堂を増建して寺觀大いに革まる。即ち聖天を當寺中興祖と稱す。天文十年十二月、回縁に罹りて堂宇美上せしも、翌年再建成る。十四世大圓覺舟は傳學能書の名僧にして甲斐小建磨の稱ありき。
 ●堂宇に本堂・開山堂・客殿・剎廊・衆寮・庫裡・鐘樓・總門・山門等を具ふ。本尊は釋迦如來像にして脇侍文殊普賢兩像を安す。寺寶として永金所持笈、香爐・義賢筆首楞嚴義疏註經十冊・心越筆書畫等を藏せり。

西念寺

南都留郡地村。

●時宗
●吉積山と號し、藤澤清淨光寺末寺たり。寺傳によれば、養老三年、行基富山を開きて富士道場と稱す。後永仁六年、時宗二祖他阿具教、甲州遷化の節、當山に留りて法門を弘むるに及び、堂宇を改修して時宗に改め、眞海を推して開山とす。次で武田一族一條右衛門大夫吉積諸堂を再建して山號を吉積山と定む。天文二年、祝融の災に罹りて一山概れ烏有に歸す。同二十三年、武田信玄より當寺再建のため富士參詣の道者よりの勸進を許され、更に元和五年六月四日、登山者に對し元箱買却の事公許あり。これ當時道者は元箱を製成に擬して肩にかけたればなり。爾來漸次諸堂の再建成り、以て今日に及べり。

寶林寺

北都留郡野子村。

●臨濟宗妙心寺派。
●白野山と號す。應永三年、淨心淨公の開創に係る。傳ふ。八世雪叟の時、同宗建長寺派に歸し、後禪師に至りて今派に轉す。
●堂宇に本堂・開山堂・禪堂・庫裡・書院・山門等を具ふ。本尊は延命地藏尊にして脇立菩薩觀音兩童子と共に運慶の作と傳ふ。寺寶として後柏原天皇宸翰・雪野兼遠磨像等を藏せり。

眞藏院

北都留郡藤岡村。

●新義眞言宗智山派。
●岩殿山と號す。寺傳に、和銅年間、行基東國遊化

の途、當山に掛錫し、岩窟に一字を鑿みて自作十一面觀音、毘沙門天像を安置し、併せて伊豆、日光、箱根、白山、藏王、熊野、山王の七社權現を勧請せしが、後ち當寺を建立して、十一面觀音像を之に移安し、他に二院(修驗深澤常樂院大坊)を創すと云ふ。初め圓通寺と號せり。其後源賴朝富士郡野に狩するに方り、當寺に寶して堂宇を改修す。文明十九年正月、聖護院道興准后當寺に留錫あり。永祿年間、武田信玄、其臣小山田信茂に命じて七社拜殿を建立せしむ。其後、慶長兵亂に遭ひて寺運漸く衰微せしが、貞享三年、賢弘住するに及びて大いに寺觀を改む。即ち當寺中興開山とす。維新後、修驗深澤常樂院大坊を廢す。近年圓通寺を改めて眞藏院と號し、以て今日に及べり。

●境城岩洞自然に殿閣を望むが如き狀あるに依り俗に此地を岩殿と稱す。堂宇に觀音堂・三重塔・庫裡・七社權現廟等を具ふ。三重寶塔は建立年代詳ならず。竹形斗拱に經文を刻し其末に「正平三年七月二十五日大檀那孝阿羅尼」とあり。塔の南方なる宅址を孝阿比丘尼の庵と云ひ、附近に其墓塚と傳ふるものあり。七社權現廟は俗に岩殿七社と稱し、拜殿(東西十間)は永祿年間、武田信玄の建立に係り、岩窟に柱を立て床を張り、天井即ち岩石なり。岩殿の名之に因る。窟中よりは如意、葛野の村里を下瞰すべく絶勝の地たり。寺寶として傳空海筆不動明王像・大般若經六百卷等を藏せり。大般若經は諸卷亂段中に、甲斐州都留郡、岩殿山圓通寺、應永六年、己卯六月、勸進僧順翁、有通、知客金剛佛子明賢、永和四年正月、開板、奉施入、七所大權現御寶前、應永七年庚辰九月、康野元己未八月、開板、應永八年桶月下看、撰畢、甲斐州都留郡、岩殿山圓通寺、都留郡島倉郷、岩殿山、應永八年、辛巳十二月、撰下畢、同十六年己丑、閏三月奉供、等とあり。且つ其經

福泉寺

北都留郡七保村。

●臨濟宗建長寺派。
●德藏山と號す。應永三年、僧義秀の創建に係る。傳ふ。降りて元祿五年、堂宇の再興成りしが、明和二年同様に罹りて灰上す。更に天明八年、比隣の失火に類焼し、伽藍、什寶概れ烏有に歸す。文政元年、本堂及び庫裡の再建を發へ、其後漸次諸堂を修營して以て今日に及べり。
●堂宇に本堂・庫裡・山門・鐘樓・鐘守堂・山門等を具へ、本尊には釋迦如來脇侍文殊菩薩兩像を安置す。

岐阜縣

常在寺

岐阜市梶川町。

●日蓮宗。
●鷲林山と號す。寶徳二年、賴實山城主齋藤利勝の創建に係り、京都妙覺寺世尊院日蓮上人を開山に請す。大永年間、齋藤利直より寺額五百貫を寄せらる。爾來幾多の盛衰ありしと評ならず。
●堂宇に本堂・庫裡・支關・祖師堂・寶庫等を具ふ。本尊文殊菩薩は齋藤道三念持佛と傳へ、俗間之を大難除文殊と呼び、靈驗顯著を稱せらる。寺寶として齋藤道三、一色義龍各磨像・道三の書簡等を藏す。

美江寺

岐阜市美江寺町。

●天台宗。
●大日山觀昌院と號し、美濃三十三所第十八番なり。養老七年、元正天皇の勅願によりて開創せられ、勸修僧正を開山とす。本尊十一面觀音は、もと伊賀國名張郡伊賀寺(後に座光寺と改む)にありしが、元正天皇養老老體行幸の節、尊像を觀覽あり、長屋王に勅し、養老三年六月、本堂郡中仙道美江寺宿の地に伽藍を造立し之に安置せしめ給ふ。後ち再び行幸あり、僧三藏を導師に請じ落慶供養を修せられ、美江寺と改めらる。時に養老七年なり。文治二年、藤原定家、左衛門尉則重に命じて之を再興して船水莊六郷を寄せ、元徳二年、土岐頼貞、齋田、落合の二郷を寄す。永正三年、土岐美濃守成頼、家臣十六條城主和田佐渡守に命じて堂坊二

十四院を修理せしむ。天文年間、齋藤山城守道三、岐阜城築造の際、現地に移す。天正十年、織田信孝、月成夫妻三千貫文を寄進す。慶長十五年、徳川家康寺領十石を寄せ、元文六年、前寶鏡寺宮より大日山美江寺の匾額を賜ふ。
●境内二千六百十五坪。本堂・仁王門等あり。本尊十一面觀音立像(乾漆造)
一軀は元正天皇の御崇敬佛なりと傳ふるし、蓋しこれ天平期天平期的手法を遺存せる弘仁期の作なるべし。其形相端嚴靜平にして、衣の摺襞に現はる、刀法流麗を極む。殊に頭部額上に廻らざる、璎珞は注目に値す。されど後世の修補多く著しく原形の美を害へり。現に國寶に列せらる。
●毎年陰曆正月元日より一箇月間、修正會を執行し天下善平養賢觀護の大修法を行ふ。祈願満日の正月晦日には莊嚴なる古式の祭典を勤修す。俗に美江寺祭、



(門王仁寺江美)

岐阜別院

岐阜市西野町。

●眞宗本願寺派。
●長八年准如の開基に係る。此地、觀覽及び蓮如の遺跡たり。天平年間願如巡化の節一柳直高なるもの之が信徒となり、續男直末に遺命し、歿後墳墓の側に眞宗の一字を建立せしむ。これ本院の濫觴なり。慶長六年、准如巡化の時、直末遺志を具申し、遂に本院設立を願ひ慶長八年坊舎を建立す。後ち願誓寺及び妙慶寺等境内に寺基を移す。天和四年六月、攝州信淨寺了本、准如の命を奉じ初めて坊舎留守居役となる。正保二年本堂を再建す。當時本堂、御殿、庫裡、本門、二ノ門、總門



(院別阜岐)

鐘樓、大鼓門等の結構充實せしが、正徳三年閏五月、火を失して諸堂悉く烏有に歸し、境内願誓寺亦頗焼に罹る。直に再建に着手し、享保五年入佛供養を行ふ。寶曆六年九月、總門竣工し、安永六年三月、鐘樓成る。文化七年四月願正寺の留守居役を解き、速成寺義教を輪番に任ず。これ本院輪番の嚆矢とす。弘化四年六月本院の修營に着手し、十一月に至り成就す。文久二年御殿、廣間、支那、書院等の再建、本院の修營等に着手せしが、時恰も幕末に際し、世相騒然たるものあり、明治初年に至りて漸く其工を成就す。明治十一年、明治天皇の行在所となる。同二十四年、濃尾大地震のため堂宇の損傷頗る多く、翌二十五年五月、修營の工を遂む。同三十一年及び四十二年、大正天皇の東宮にまじし、時、行啓ありて本院に御駐蹕あり。同四十二年、再び行幸あり、本院を御座所に充てらる。大正四年九月、本山集會所落成す。

●境内四千六百六十二坪、本堂・新御殿・書院殿・對面所・使僧間・齋所・集會所・門・鐘樓等あり。觀望高麗一編・現覽繪傳四幅・蓮如、准如、真如の各書蹟・有栖川宮徳仁親王殿下御親筆額等を藏す。

岐卓別院

●眞宗大谷派。
●慶長年間、坪内總兵衛なるもの、教如に歸依し、美濃國書各郡新加納村(現に稲葉郡那加村に屬す)に一字を創し、近邊末寺門徒の崇敬道場とす。元和八年、現地に轉じ、明治二十年、別格別院となる。同二十四年十月、濃尾大震災に諸堂宇大半烏有に歸す。現今の堂宇は其後の再建なり。

●境内三千餘坪。本堂・庫裡・大廣間・總門・鐘樓。

鐘樓・經藏・會所等あり。寺寶として阿彌陀如来木像一編・觀覽高麗・同繪傳・太子七高僧畫像等を藏す。なほ圓山應舉の筆なる松竹梅樺十一枚・觀音障子・張壁大小七枚等あり。

瑞龍寺

●臨濟宗妙心寺派。
●金寶山と號す。應仁年間、寶藤妙椿、其主土岐成頼の冥福を修する爲、天台寺院の舊跡を興して本寺を創し、僧悟溪を請じて開山となし、成頼の法號に因みて瑞龍寺と稱す。慶長五年、石田三成の家人、本寺に啓を構へしが、淺野幸長に依りて攻取せらる。●堂宇宏壯にして老樹之を圍繞す。塔頭に開善院あり。妙椿の位牌を安置す。往昔、本寺勢嚴鐘を開板して、世に布けり。

樂福寺

●臨濟宗妙心寺派。
●神護山と號す。文明元年二月、土岐成頼の臣、齋藤長弘の開基に係り、開山は法智善濟禪師(獨秀乾才)なり。永祿十年、織田信長當寺を菩提所と定め、禁制體文等を寄す。天正十年六月二日、信長の没去するや、其經某密かに使者をして公の首級を岐卓に歸らさしめ當寺に埋葬すと云ふ。歴世、仁徳、快川、柏堂、康庵、一雨、慶甫、物堂等の高僧輩出し、寺運隆盛なりき。古來有栖川宮家の菩提所と稱し、慶甫兩和尙に御歸依あり、時に御祈願所となし給ふ。昭和三年九月、高松宮家より佛法阿彌陀經一巻、同四年十二月、有栖



(堂本寺福樂)

護國之寺(雄雄觀音)

●古義眞言宗。
●雄雄山千手院と號す。聖武天皇大佛鑄造の御、行基に勸じて其治工を諸國に求めしめ給ひしに、美濃國厚見郡日野郷に金王丸なる小童あり。よく佛像を鑄するを見て行基京に伴ひ歸り、奏聞して大佛を鑄せしめたり。小童は觀自在三十三身の分身化現にして、そ

が初めて試鑄せし觀世音像を本尊となして當寺を創せりと傳へらる。現に高野末なり。

●寺寶中、金銅鉢一箇は國寶に指定せらる。高四寸七分、徑八寸九分五厘、圓蓋鉢形にして、外面には魚子地に毛彫文様あり。其意匠高麗にして、曲線亦極めて流麗なり。唐初若くは其直流たる平安朝の製作に係るべく、當時の遺品中稀有の傑作たり。

大垣別院(開闢寺)

●眞宗大谷派。
●正しくは開闢寺と云ふ。もと平尾願正寺の掛所に於て、寛政年間、達如に請ひて、本山兩堂再建の殘木を以て大垣城東の地に堂宇を築造す。後ち大垣城主戸田氏正、本山に請ひて本山掛所に改め、開闢寺と號す。嘉永六年、諸堂竣工整備せしが、明治二十四年十月、濃尾大震災に倒壊し、續いて炎上す。爾後更に寺域を擴張して再建を圖る。現在の堂宇是なり。

●境内千二百六十餘坪、堂宇に本堂・庫裡・書院・茶所等あり。

受圓寺

●眞宗大谷派。
●佛敎山と號す。弘仁六年の創建にして、最澄を開基とす。當時、莊嚴院護法堂と號せり。爾來天台の佛寺として寺門榮えしが、二十二世淨念の時、現宗に改め、佛敎山受圓寺と號す。其後領主土岐氏之に二百石の寺領を附す。二十六世賢尊の頃、織田信長の兵燹に罹りしが、天正年間再建成る。明治二十四年十月、濃尾大地震のために堂宇悉く倒壊す。其後再建せしもの

久運寺

●曹洞宗。
●龜松山と號す。文明元年、尾州春日井郡三浦村正眼寺第六世久翁の開闢なり。天正七年、久山伽藍を改修す。寛永十六年、加納城主大久保加賀守、第五世龍山に深く歸依し、播州明石城へ轉封の際、龍山を同伴し、同地に雲晴寺を建立す。第六世雲心の時、諸堂回縁に罹る。明治二十四年十月、濃尾大震災に堂宇倒壊し、其後再建せられ、現今に及ぶ。

●境内に三尺坊嗣、永井伊賀守の墓あり。

光國寺

●臨濟宗妙心寺派。
●慶長十九年十月、奥平信昌の三男忠政卒するや、其母忠政追福の爲、一字を創建し、其法號に因みて光國寺と號す。當時寺領五百石、境城三萬坪を占め、堂宇亦宏壯なりしが、忠政の子忠隆以後其家統斷絶し、本寺又衰びて漸次衰頹に赴く。即ち武州忍城主松平下總守其檀越となりて維新に至る。

●寺寶として蜀江錦戸帳・信昌筆筆源氏物語布目紙寫本・徳川秀忠書簡・奥平信昌墨印・信昌及び其室畫像等を藏す。境内に忠政、忠隆の墓あり。

專福寺

●眞宗大谷派。
●大倉山と號す。俗に河野專福寺の名を以て顯れ、

乙津寺(梅寺)

●臨濟宗妙心寺派。
●瑞甲山と號し、俗に梅寺と稱す。天平年間、行基の開闢に係る。弘仁年間、空海七堂伽藍を建つ。時に空海佛法繁昌を祈り、梅枝を地に挿せしに枝葉を生ずるの奇瑞あり、依りて一に梅寺と稱すと傳ふ。宇多天皇、觀梅場の勅額を賜ひ、永祿年間、織田信長、豊臣秀吉、各々寺領を寄す。徳川家康亦關ヶ原役の御、本寺に參詣す。

●本堂・大師堂・鎮守堂・庫裡・鐘樓・中門・大門等あり。什寶中、本尊木造千手觀音立像一編は弘仁朝の作なり。同鬼沙門天立像一編は鎌倉時代の作に係り

玉眼嵌入盛上げ彩色を施す。但し、盛上の彩色と岩座は後補なる如し。同章駄天立像一軀亦玉眼入、鎌倉末期の作なるも、類品中の古作として注目せらる。以上の三軀何れも國寶たり。此外、秀吉畫像・同書簡・朱印状・秀次書簡等を蔵す。

立政寺

稲葉郡市橋村大字西ノ庄。

●浄土宗西山派。●龜甲山護國院と號す。文和二年、吉水六世の嗣法智通之を創建す。後光嚴院、後圓融院、後小松天皇より勅願所の繪旨を賜ふ。足利氏以来、歴代の將軍各朱印を寄す。往時は堂舎壯麗なりしも、明治二十四年、大震災に罹る。しかも其後直に復興し、常葉衣櫃林寺として法燈燭々輝き、現に西山禪林寺派に屬し、末寺三十七箇寺を統ぶ。

大安寺

稲葉郡鶴沼村。

●臨濟宗妙心寺派。●濟北山と號す。應永二年、國守土岐美濃守頼益の創建にして、開山は圓應大機なり。當初南禪寺末なりしが、同十八年圓應入寂の後輪番地となり、寺領七百石、堂塔整備し、塔頭百箇院を有し、頗る盛觀を極めしが、其後度々兵燹に罹りて寺領を失ひ、漸次衰頽に赴く。慶長元年、春叔之を再興し、爾來妙心寺に屬す。

る事となれり。●本堂の外に觀音堂あり、行基作と傳ふる聖觀音を安置す。寺寶として後小松天皇宸翰・村雨の茶盃・堆朱の香合等を蔵す。境内に土岐頼益、齋藤利永の石塔あり。

少林寺

稲葉郡那加村大字新加納。

●臨濟宗妙心寺派。●龍慶山と號す。正和元年、礎石の開創に係ると云ふ。もと羽栗郡小畑島にあり。其後中絶せしを、明應二年、加賀の太守薄田司農、之を各務郡新加納村(現稲葉郡)に移建し、東陽英朝を住持とす。後ち織田氏の兵燹に罹りしが、寛永年間に至り、坪内玄蕃頭家定堂字を復興し、體道和尚を中興の開山とす。次で寺領若干を寄せ、其香華院とす。

毘沙門堂

岩手山毘沙門堂、稲葉郡岩村大字岩嶋。

●なし。●天平十年の創建に係り、聖武天皇の勅願所なり。毘沙門天を祀り、七堂伽藍を具へしも、永祿三年、織田信長の兵燹に罹る。往昔、天台宗に屬せしが、今は寺領を有せず、管理人を置く。●本堂及び仁王門あり。本尊木造毘沙門天立像一軀は、丈高四尺九寸三分、行基作と傳ふれど、鎌倉末期の作と推定せらる。但し其彩色と足下の邪鬼は後世の修補なり。現に國寶に列せらる。●大祭(正月初寅日、舊七月七日)、例祭(毎月朔寅日)あり。

眞聖寺

稲葉郡芥見村。

●黄檗宗。●大華山と號す。本尊十一面觀世音は三國傳來と傳へ、越後太守長尾景勝の崇敬佛にして、其歿後、澁谷三右衛門之に奉仕す。澁谷氏、後年美濃太守に仕へ、戸田治部左衛門と改めしが、時に一字の堂を結び心光庵と號して尊像を安置す。これ本寺の靈廟なり。寛文十一年、土藏日置江氏更に堂宇を營み、眞聖寺と號し月海和尚を請じて之に住せしむ。元祿十四年、別到大悲殿を遺營し、觀音像を奉安す。其後、當村室賀領となるや、其先祖累代の靈牌を納め、供養田を附す。明治二十四年十月、濃尾大震に會ひ、堂宇悉く倒壊し、現在の堂宇は其後の再建なり。

願成寺

稲葉郡芥見村大字大洞。

●新義眞言宗智山派。●如意山と號し、當國三十三所、二十三番の札所なり。天武天皇の御宇、村國男依之云へる者、壬申の亂に功あり、天皇より高麗傳來の佛舍利並に十一面觀音像を賜はりて一字を創し、山開堂と號す。養老年間、僧奉澄之を現地に移し大洞山清水寺と改稱す。天平十七年、東大寺大佛建立に際し、當寺觀音の靈驗顯著なるもあり。依りて聖武天皇、如意山願成寺の寺號を下し給ふと云ふ。僧行基、七堂伽藍並に寺中十二坊を遺營す。弘仁九年、空海此地に來り、金剛界大日如

來と自作像(俗に身代大師といふ)を安置す。承平七年同様の厄に罹り、本堂一字を壊して他處に搬上す。承久年間、鎌倉將軍頼朝、小島太郎重俊に堂宇の再興を命じ、寺領三百石を附す。次で土岐美濃守、其祈願所となす。明應六年、長山太郎、其臣櫻井一角に命じて修營せしめしが、永祿七年、織田信長稲葉山に來攻せし時、兵火のため焦土と化す。其後、僧官遍之を再興して、現在に至る。

笠松別院

羽島郡笠松町。

●眞宗本願寺派。●創建年代詳ならず。弘化三年、笠松町新町より現地に轉す。明治二十四年、濃尾大震の際、諸堂倒壊或は喪失す。翌二十五年、假本堂及び庫裡の遺立成り、同三十年十一月、鐘樓並に梵鐘を營築す。●境内二百五十四坪、本堂・庫裡・鐘樓等を具ふ。

笠松別院

羽島郡笠松町。

●眞宗本願寺派。●天保二年、當地の信徒協謀して一字を創し、會所と名付く。これ本院の靈廟にして、爾後掛所に改め、更に別院となす。明治二十四年十月、濃尾大震災に堂宇悉く倒壊す。其後漸次堂宇を修營し、爾、舊觀に復す。●境内九百九十坪、本堂・支關・鼓樓堂・接見所・鐘樓・客殿其他數字あり。

光昭寺

羽島郡竹ヶ鼻町。

●眞宗本願寺派。●浄土宗西山派。●法輪山と號し、天正年間、空圓慶立の開創に係る。寛政十年、十五世戒嚴の時、木曾川汎濫し、堂宇、什寶、舊記等悉く流失せしが、堂宇は同十二年再建せらる。明治十年一月、十八世圓空淨融の代、同様に罹り同十三年重建成る。明治二十四年十月、濃尾大震あり。當寺堂宇亦倒壊の厄に遭ふ。其後再興せられて現在に及ぶ。當寺鐘樓林たり。●堂宇に本堂・支關・鐘樓・庫裡・書院・善光寺堂。

西方寺

羽島郡足近村大字直道。

●眞宗大谷派。●寺田山澁谷西方寺と號す。尾張六坊の隨一たり。推古天皇の朝、聖德太子の開創に係ると傳へ、太子自刻の阿彌陀如来像を本尊となす。初め天台宗なりしが、嘉祿年間、觀覺の弟子西園改めて眞宗となす。西園は澁谷七郎の末孫にして祐善と稱し、當寺に居りしが、觀覺三河國矢作留馬の際、之に歸依して弟子となり、尾張中野に一字を營みて西方寺と號す。天正年間、住持祐慶、石山本願寺の爲に盡力せしに依り、地頭加賀野井備八大いに感激し、織田信長の命なりとて本堂を燒却す。時に殿宇、什寶の大半を失し、美濃足近に轉

竹ヶ鼻別院

専福寺・水瀬御坊、羽島郡竹ヶ鼻町。

●眞宗大谷派。●水瀬御坊と稱し、一に専福寺といふ。觀覺關東より歸洛の途次、尾張國粟栗郡水瀬に留錫す。門徒九人其遺跡に一字を創し、水瀬草庵或は河野道場と稱す。文明年間、蓮如之を再興し九門徒の子孫をして永く輪番たらしむ。元龜天正の頃、兵燹に罹りて諸堂灰燼に歸す。慶長七年、寺基を現地に轉じ、本山掛所となす。九門徒中、河野専福寺忍語、教如に仕へて功あり、石山に於て職受するに及び、其子孫を常輪番に任す。明治八年、寺僧宗制の改正に應ぜず、官に訴ふ。翌年六月、裁定ありて別院となる。同二十四年十月、濃尾大震に諸堂崩壊し、爾來再建に力め、漸次舊に復したり。●境内三千四百餘坪、本堂・客殿・齋所・輪番所・茶所等あり。

西方寺

羽島郡足近村大字直道。

●眞宗大谷派。●寺田山澁谷西方寺と號す。尾張六坊の隨一たり。推古天皇の朝、聖德太子の開創に係ると傳へ、太子自刻の阿彌陀如来像を本尊となす。初め天台宗なりしが、嘉祿年間、觀覺の弟子西園改めて眞宗となす。西園は澁谷七郎の末孫にして祐善と稱し、當寺に居りしが、觀覺三河國矢作留馬の際、之に歸依して弟子となり、尾張中野に一字を營みて西方寺と號す。天正年間、住持祐慶、石山本願寺の爲に盡力せしに依り、地頭加賀野井備八大いに感激し、織田信長の命なりとて本堂を燒却す。時に殿宇、什寶の大半を失し、美濃足近に轉

す。天正九年三月九日、使僧を遣し、御書を寄せらる。世に之を泪の御書と云ふ。祐慶直に祀伊賀の森本願寺に謝辭を述べしに宗祖左上の影像を賜へり云ふ(今同郡竹ヶ鼻西岸寺に傳存す)。

●本尊阿彌陀如來は聖德太子作と傳へ、他に觀音、蓮如各筆名號・最澄作眉間光阿彌陀如來像・光嚴司軍太子像・古文書・古刀等十數點を藏す。

高須別院(二恩寺)

●眞宗大谷派。

●正しくは二恩寺と云ふ。創建年代詳ならず。初め伊勢桑名別院の支院たり。曾て高須藩主松平義建、地を寄せて寺域を擴張し、大いに堂宇を興さしむ。爾來二恩寺と稱す。明治十一年、獨立して高須別院と號す。同二十四年十月、濃尾大震災に倒れ、同二十九年夏、水害を蒙る。爾來再興に力め、寺觀漸次舊に復せり。●境内三千六百坪、本堂・鐘樓・茶所・客殿・鼓樓等あり。

行基寺

海津郡城山村大字上野河戸。

●淨土宗。

●臥龍山と號す。聖武天皇の勅に依り、僧行基當山を開き、七堂伽藍を建つ。天平寶字元年、行基滅を七所に取る。本寺も亦其一なりと傳ふ。後武の兵亂に堂宇悉く焼滅す。其後荒廢甚しかりしが、元祿十五年、高須藩主松平權守源義行由緒を稽へ、内城別に擬して之を再興し、自家の香所となす。現堂即ち是

れなり。

●境内七千二百餘坪、本堂・庫裡・大書院・小書院・山門・鐘樓・御書屋・觀影・辨・天堂・開山堂等三十餘棟を具ふ。



(門山寺基行)

會式(四月一日・八日)を主要なる法會とす。此他に節分會、心經讀誦會等あり。

養老寺

養老郡養老村大字白石。

●眞宗大谷派。

●養老山元正院と號し、一に龍壽山ともいふ。開基は養老孝子源泰内にして、其孝心厚き事上聞に達し、寶龜三年九月二十日、天正天皇、當山の美泉に行幸の節、龍泉を御ひ給ひしに御願願う應り、實感のあまり養

老と改元し、七堂伽藍及び寺家三十坊を建立し、勸願の誓刻をなし給ふ。加之、龍守護不動明王を勧請せられ、寺領に三百石を寄せ給ふ。同二年重行して行幸あり。天平十二年十一月、聖武天皇亦行幸なされ給ふ。降りて天正年間、横田信長の兵燹に罹りて、堂塔悉く灰燼に歸す。同十八年、伊藤長門守假堂を再建し、慶長十二年、當國高須城主水石見守壽昌、現今の堂宇を再建す。正保五年小笠原土佐守、寛永六年、岡田將監等各寺領を寄進せしが、明治三年上地す。同三十四年、諸堂の修營あり。同四十年、古蹟維持會組織さる。往古は法相宗、中古に至り天台宗となり、今眞宗に屬す。

●寺域養老公園内にありて本邦屈指の名勝なり。境内二千五百五十五坪を占め、本堂・不動堂等の堂宇を具ふ。本堂には元正天皇天牌、龜元天皇天牌等を奉安す。寺寶中、木造十一面觀音立像一軀は國寶なり。丈高三尺三分、鎌倉初期の作と推定せらる。但し相好は後世の修理加はり、幾分原形を損ず。なほ大刀(龍國光、新藤五)一口、劍(銘不明)一口共に國寶に列せらる。此他寺寶として傳行基作阿彌陀如來木像一軀・養老孝子木像・十三佛壽像・聖德太子壽像一軀・眞見大師名號一幅・勸願所額面・養老孝子繪傳二幅(高須城主源水再寫)・後水尾天皇宮輪額面・刀劍八口等數十點を藏す。尙に養老瀑布は高さ十五丈五尺、幅二間餘、傍に石碑あり、養老美泉神と號し、圓山東勝の文を刻す。附近に養老神社、瀨水、白山神社、行宮神社等其他名勝多し。

身延別院(妙見堂)

養老郡養老村大字白石。

●日蓮宗。

●寛永三年、身延山二十一日世日乾、當地遷化の節、

大旱あり。四月て播津能勢妙見大士を勧請して雨乞ひをなす。明治十五年、養老公園開設の際、其舊跡に妙見堂を建立して今に至る。丈六釋尊像を安置す。

●妙見堂(能勢妙見堂に模す)・庫裡・客席・龍堂・群靈塔等を具ふ。境内約千五百坪。櫻楓に富み、風致園内第一と稱せらる。

●春季例祭(四月十五日)、秋季例祭(十月十五日)。

安樂寺

不破郡赤坂町。

●淨土宗。

●御勝山本明院と號す。推古天皇の御宇、聖德太子の開創になると傳ふ。壬申亂に堂宇炎上す。寛正年間足利義親入道して本寺に住せし事あり。慶長五年、關ヶ原の戦に於て徳川方の本陣に充てらる。慶安、天保年間、兩度の同様に罹り、嘉永年間再興せらる。往時は法相宗、次で天台宗に歸し、現に淨土宗となれり。●境内二千七百坪。山上の寶篋五重印塔は大友皇子菩提のため建立せし古塔なりと傳ふ。又寺中の梵鐘は慶長の亂に陣鐘として播州より齎す所なりと云ふ。寺寶として徳川氏寄進に係るもの多數を藏す。

明星輪寺(赤坂虚空藏)

不破郡赤坂町。

●新義眞言宗智山派。

●金生山と號す。俗に赤坂虚空藏と云ふ。持統天皇二年七月、役小角之を開創し、自刻の虚空藏菩薩を祀る。時に持統天皇、明星輪寺の寺號を賜ふと傳ふ。後暫く申絶せしが、延暦二十三年、空海之を中興し、自ら不動・多聞の二大士を刻みて本尊の兩脇となす。桓武天皇御ち封戸三百石を寄せて伽藍を修理し、勸願

を下し給ふ。久安四年七月、同様の災に罹り、幾許もなく再建せられしも、幸運甚の如くならず。然るに慶長十四年三月に至りて高須城主の歸依厚く本堂、仁王門を初め諸堂宇再建修營せらる。明暦二年七月、大垣城主戸田氏信、更に修理を加へ、萬治三年五月、寺領十石を寄せられ、寺門漸く隆昌に向ひしも、明治維新の際、従来の黒印地帯く上地となりて殆ど衰頹せしが、漸次舊觀に復す。

●境内三千坪、濃尾平野を一時に收むる景勝の地を占め、境内の風光亦絶佳、屏風岩或は御亭の如き奇岩、怪石突元たり。堂宇に本堂・庫裡・客殿・茶所・仁王門・地藏堂・事務所・手洗水屋・稻荷堂・藏王權現堂・寶庫・鐘樓等あり。地藏堂に安置する木造地藏菩薩半迦像一軀は藤原時代の優作にして現に國寶に指定せらる。この外梵鐘(集古十種にも載せられ、室町時代作なりと云ふ)・如法經板碑(久安四年作)・小栗宗日軍板額一面等の寺寶を藏す。



(寶鏡)(像群靈地安子寺輪星明)

●初會式(二月十二日、十三日)、無縁供養會(三月二十一日、九月二十一日)、藏王權現社祭(四月十一日、十二月)等あり。

願證寺

不破郡府中村大字平尾。

●眞宗大谷派。

●永正年間、蓮澤の開基に係る。享保三年、漢尊伊勢國專修寺に依り門徒擴張せしため、本願寺派本山之を官に訴ふ。官府よりて養老、尾張名古屋、伊勢松坂、長島の四別所を没收し、後養老並に名古屋を本願寺派に還附す。安永二年五月、東本願寺、美濃平尾眞德寺を以て願證寺と改め、佐禰の後裔眞高を以て當寺六世となす。天明三年、眞宗寺親尊の息蓮尊を以て嗣とし、眞高は本德寺に轉す。古く平尾御坊と稱して、末寺二百有餘を統べたりき。

妙應寺

不破郡今須村。

●曹洞宗。

●青坂山と號し、本宗の僧徒所たり。延文五年、能登庵持寺二世峨山の法嗣大徹、領主長江八郎左衛門尉重景の母を濟度す。重景即ち館を喜捨して當寺を創せりといふ。近世寺領二十石を有し、現に伏見宮願所なり。

●境内約三千坪、本堂・開山堂・衆寮・禪室・鐘門・鐘樓・庫裡・方丈・書院・開山廟・地藏堂等十七字あり。

正行院

不破郡宮代村。

●天台宗。

●大日山兩界寺と稱す。延暦十二年、最澄の開創に據ると云ふ。降りて天正年間、豐臣秀吉南宮神社々領

の若干を割譲して寺領とし、以て該社家の香華院とす。慶長五年、關ヶ原の役に兵燹に罹り、一山焦土に歸す。爾來假堂の僅なりしが、寛永十九年、南宮神社の再造に際し、本寺も亦再建せられ、寺領七石四斗餘の朱印を受く。後年本尊樂師如來を別堂に安置し、阿彌陀如來を本尊とす。明治維新の際、樂師堂を廢す。

分寺

●古義眞言宗
●金
●銀山
●聖武天皇の勅願に係る諸國國分寺の一行基之に自作の樂師如來像を安置す爾來寶度かの六災の爲め荒廢に歸し、本尊亦水く土中に埋没せり云ひ、口碑によれば、慶長の亂に本尊の骨部を以て馬廐に使用



(寺分七重路址)

す。傳ふ。故に馬野樂師の稱號あり。元和年間、眞教現地に小堂を築きて同像を安置し、其昔一國一寺の靈刹たりし面影を僅かに再現す。明治以後、古社寺保存の規定に基き、大伽藍寺址は内務省直轄となる。現に高野末なり。

興寺(吉祥院)

●天台宗
●藤尾山と號す。延暦年間、僧最澄の開創に係り、開基は青島長者池田大炊助なりと傳ふ。初め村内圓興寺にありて七堂伽藍塔頭三十六箇院を具へ、寺領五千石、末寺百二十有餘箇寺を統べし名刹なりしが、天正年間、織田信長の兵火に炎上す。後年現地に轉じて再興せらる。其後幾失する事再三、其間の沿革詳ならず。永く城主稻葉氏の菩提所たりき。

善學院

安八郡神戶町神戶。

●影向山神護寺と號す。弘仁八年、郡司安八大夫安次の開創にして、開山は最澄なりと傳ふ。同九年、嵯峨天皇より神護寺の勅額を下賜せらる。時に小野菫當山に罷り、遠久元年、源賴朝寺領五百町を附し、天正十七年、豐臣秀吉亦二十石の朱印を寄す。松尾芭蕉此地に來り、伊吹を見ては冬籠りの句を詠せしと傳へらる。

永壽寺

安八郡多藝島村。

●眞宗大谷派

●もも天台の梵刹にして、足近郷大藪村にあり。觀覺の法弟教信之を中興して眞宗の道場とす。教信は俗姓片桐左衛門教衛と稱し、當國福島の山人なり。晩年佛道に歸依し洛陽に止住す。後ら觀覺の門に入りて、常隨給仕す。觀覺流傳りて、之に自ら影像を描きて與ふ。教信之を奉持して東國に歸り、當寺を改めて眞宗とす。後年現地に轉ず。

華嚴寺(谷汲觀音)

安八郡多藝島村。

●天台宗
●本堂の東に鐘樓あり、その北石段上に阿彌陀堂(佛心僧都作阿彌陀如來を安置す)存す。これより稍々北に登れば奥ノ院に達す。此他滿願堂・辨財天堂・本坊(庫裡・客殿・禮雲閣・山亭・茶席等あり、庭園亦頗る幽邃なり、客殿に所謂笑ひの地藏尊を安置す)、三十三所觀音堂・一切經堂・大佛堂・羅漢堂・十王堂・不動堂等あり。なほ境内及び其附近に昔の水池藏尊、本尊御杖白藤、念佛石、放生池、妙法ヶ池、誓池、普公參籠の岩屋、天吹の立願、念佛橋等の名蹟あり。寺寶中、本尊の右脇土木造毘沙門天立像一軀は丈高五尺五寸五分、菅原道真作と傳へ、面相雄偉、弘仁時代の佳作なり現に國寶に指定せらる。其他、花山法皇の御禪衣・御杖・青蓮院尊則法親王筆出山の釋迦如來畫・弘法大師筆不動明王・光嚴司筆涅槃像・巨勢金剛筆十二天王像等を藏す。

●谷汲山と號し、俗に谷汲觀音と云ふ。西國三十三所結願寺なり。延暦十七年、大日大領の本願により草創せられ、豐樂之が開山たり。大領は奥州會津の住人にして、奥州水井庄文殊堂に觀り有緣の靈木を求む。歸途水井の里に靈木を得て京師に上り、十一面觀音像を刻ましむ。奥州下向の途次、此地に到り豐樂と相知り本寺を創建す。此時廟中より石油、泉の如く湧出する奇蹟あり、仍りて谷汲山と稱すといふ。醍醐天皇より華嚴寺の匾額を賜ふ。朱雀天皇天慶七年、勅願寺の繪旨及び佛供福田一萬五千石を賜ふ。花山法皇、西國三十三所靈場巡幸の御、當寺を滿願所と定め給ひ、御禪衣、御杖及び三首の御製を奉納せらる。後白河法皇、供奉千有餘人を從へて御參幸ありき。爾來朝野の尊崇極めて厚く寺運隆盛を極めしが、承久の兵亂に寺領沒收せられ寺觀亦衰頹す。建武元年十一月、新田、足利兩氏の兵燹に罹り諸堂悉く燒亡、纔に本尊のみ難を免る。爾後、正中元年より文明十一年の再興まで三度兵亂に炎上、寺門全く荒廢に歸す。後土御門天皇の朝、薩摩國鹿兒島慈眼寺住職道禪拾遺、當山觀音の夢託を蒙り、當山に來りて堂宇を再興す。明治十二年本堂の再建なる。同三十五年一切經堂を建立す。現に塔頭明王院、一乘院、法輪院、地藏院の四箇院を統べ、

●寺地山に倚りて三方觀音たる樹木に圍繞され、境内宏潤にして結構亦宏壯なり。南面して聳立する丹塗の仁王門を入れば本堂に到る。向拜の兩柱に青銅を以て模鑄せし鏝を打つたり。こは遷都者が越國結願して歸國の途につくに際し、指にて之を摩して誓め精進落の印となすと云ふ。本尊は十一面觀世音(身に華嚴



(華嚴寺略圖)

經を書き製基に三千佛並びに諸尊の三昧形を記せりといふ)にして勝土に不動明王・毘沙門天王(國寶)を安置す。寶持堂には花山法皇像・熊野権現像等を奉安す。又遷都者滿願の印として奉納せる寶持堂内に山積

横藏寺

揖斐郡横藏村大字神原。

●天台宗
●兩界山と號す。弘仁六年、桓武天皇の勅願により僧最澄之を開創す。三輪次郎大夫藤原助基之が大檀越たり。時に最澄自ら樂師如來像二體を刻し、一體を延壽寺根本中堂に記り、一體を本寺の本尊とす。尙ほ本尊につき或は傳ふ、最澄唐より將來する所なりと。當時伽藍宏壯にして坊宇三十八を數へ、正統として千石千貫を賜ひ、末寺三百餘坊あり。寺運大いに振へり。

向は觀山を構し、山麓に日吉山王を勧請す。元暦元年、村上天皇の勅により會式を舉ぐ。熊谷蓮生坊晚年山内蓮樂院に住し、承元二年九月十四日示寂すと傳ふ。花園天皇の朝、齋門弘通殿の勅額を賜はる。元龜年間、比叡山延壽寺兵燹に罹り、天正十三年再興せらる。や、當寺の本尊を根本中堂の本尊に轉座せり。依りて天正十七年、別に最澄作樂師如來を移し、以て當寺の本尊となす。天文以來、屢次戰禍を蒙り、寺中三十八坊及び末寺三百餘坊或は廢散し或は轉派し、寺運の衰廢著しかりしが、慶長十五年、徳川家康、境内山林及び坂本一箇村を來印として寄す。寛文年間、舊堂宇を縮小し、現地に移して再建す。開基以來一千有餘年、法脈繼承して百有九世に及ぶ。

●現境内千四百五十一坪、櫻及び紅葉の名勝地として夙に著聞す。本堂・庫裡・客殿・仁王門・三重塔・寶藏・天堂・持佛堂等の堂宇あり。俗に美濃の正倉院と稱せられ、寺寶頗る多し。本尊木造樂師如來坐像一軀は玉眼嵌入の塗箔像にして、高さ二尺八寸七分、最澄の作と傳ふるも、鎌倉時代の作なり。三重塔の本尊同大日如來坐像一軀は高さ二尺二寸七分、慶長に弘安七年三月上旬徳左近尉藤原友景の銘を有す。同深沙大將立像一軀は技法巧みなるも頗る異相なり。藤原初期の作と推定せらる。板影法華受茶羅一面は堅六寸、幅五寸、厚五分の小板面に法華受茶羅を彫刻せるものにして所謂枕本尊の系統に屬す。藤原末期の傑作として注目し、木造十二神將立像十二軀・同四天王立像四軀・同金剛力士立像二軀はすべて鎌倉時代の作なり。以上述ぶる所總て現に國寶たり。他に蓮生坊の遺物及び古文書等多數を藏す。なほ墓地内に熊谷蓮生坊の墓あり。附近に天然記念物に指定せられし龍木遺理木あり。●僧師會式(八月二十日)、蓮生忌(九月十四日)等あり。

來振寺

●新義眞言宗智山派。寶龜元年、僧行基の開創なりと傳ふ。もと新福寺と號せしが、神龜二年、聖武天皇勅して來振寺と號せしめ給ふと云ふ。京都松原極樂寺の成運來錫し、來振神社の別當たり。寶永八年、智積院第十三世備山之中興す。●寺域九百三十六坪。堂宇に本堂・庫裡・觀音堂・聖天堂等を具ふ。

安國寺

●臨濟宗妙心寺派。●臨濟宗妙心寺派。●攝津山と號す。曆應二年以降、足利直義、六十六國に一寺一塔を造りて安國寺と稱す。當寺は其一なり。其後廢絶せしが、織田信長之を再興し、天正十一年、同信雄制札を下附す。●境内に白雲塚あり。千人斬にて著名なる僧白雲の墓なり。

西法寺

●眞宗大谷派。●五雲山と號す。僧圓澄、本郡池田郷に一字を建立し、傳教大師自作の樂師如來を安置せしに創まる云ふ。初め天台宗にして、廣海山十知院と號せり。仁和三年、靈驗の流行ありし時、住持融元、之が退散を祈念し、大般若經を書寫す。般若の地名此處に由来す。

瑞嚴寺

●臨濟宗妙心寺派。●萬松山と號す。後醍醐天皇の朝、美濃國守護土岐頼康、父頼清の冥福に實せんが爲、僧大林を請じて一寺を創始し、其法號に因みて瑞嚴寺と號す。頼清、地藏菩薩及び不動明王を崇信し、二小堂を小島に造營して安置せしが、頼康の本寺を稱するに及び、地藏菩薩を本殿に遷座して以て本尊となす。不動堂は之を改めて一院となし、金剛院と號して末院たらしめ、別に熊野權現、白山權現を勧請して鎮守となしたりといふ。文和二年、後光嚴院、小島に行幸あり、當寺の名、これより著る。同四年、瑞嚴經國禪寺の勅額を賜はり、足利義隆、寺領を寄す。頼康、聖旨を拜して感激し、新に工事を起して諸堂を修營す。時に塔頭藥師庵、多福庵、退祥庵、維心院、十輪院、長洲院、金剛院、明智院、彌勒院、不動院等あり。開祖大林の會下を慕ひて諸弟子の來歸するもの多く、一方の大叢林たりき。應永元年、栗原庵美上せしが、同五年梅嶺首座これを再建す。應仁二年栗原庵を除き諸堂大半火に罹り、什寶悉く灰燼に歸す。十世禪統、栗原庵を以て本坊に充て、延徳元年、十一世堪堂、同庵の鐘樓を建つ。次で明應元年、本坊を再建、續いて多福庵、退祥庵、維心院等各再興せらる。然れども土岐氏既に滅び、加之、天

と傳ふ。慶長年間、時の住僧千尋(今川義元の三男三郎義賢)本願寺教如に歸依し、法名を西津と號し、寺を又眞宗に改む。●堂宇に本堂・庫裡・客殿・經藏・鐘樓・太鼓堂・表門等を具ふ。舊時の本尊樂師如來は境外の別堂に安置す。

慈恩寺

●淨土宗西山派。●玉保山と號す。建久六年三月、源三位賴政追福の爲め山縣藏人源國盛等の開創に係り、天台座主慈源を開山に請す。爾來僧房、子院十餘院を有する屋指の名刹なりしが、惜くも兵火に罹りて美上す。仍りて僧智通、後龜山天皇の勅を拜して之を再建す。文明八年、石河院河守光清、山縣頼賢、各々權門及び高麗門を寄進造營す。天正三年、徳川家康境内諸役免除の書を寄す。現に鐘樓の格にして縣下名刹の一なり。●寺寶として、木造千手觀音像一軀を藏す。一木彫の塗箔像にして藤原初期の作と推定せらる。現に國寶たり。

延算寺

●古義眞言宗。●岩井山と號す。弘仁六年、僧空海の開創に係り、清和天皇貞觀六年、勅願寺に列し、且つ岩井山の山號を賜はる。爾來、寺運隆盛にして僧房十二坊を有せしが、永祿、天正年間、兵火に罹りて美上す。徳川時代無礙無懼にして衰微甚しかりしも、法燈絶ゆることなく七十六世を相承して現在に至る。●境内二千八百六十二坪、本尊木造樂師如來立像一軀は丈高五尺、一木彫成にして弘仁期の作と推定せらる。現に國寶たり。寺寶として智澄大師筆不動尊、清

圓鏡寺

●古義眞言宗。●池鏡山補陀落院と號し、所謂岐阜三弘法の一なり。弘仁年間、僧空海、勅願に依りて本寺を創し、自刻の不動明王像を安置して定願寺と號す。其後補陀落和尚聖觀音を安置して、補陀落院と云ふ。永延年間、僧具祐、之を中興す。當時寺運隆盛にして堂塔僧坊十六院を連ね輪奐莊嚴を極む。舊寺領五十石、現に同宗高野末なり。



(實圖) (門橋寺鏡圓)

●本堂・大師堂・灌頂堂・樓門・庫裡・稻荷堂・樂師堂・地藏堂・經藏・寶塔・總藏・鐘樓・赤門・温室入等あり。就中、樓門(三間一戸樓門、屋根入母屋造、檜皮葺)は國寶建造物にして永仁四年の建立に係り、總丹塗にして、純然たる和様の手法に成る。屋根の流緩やかに優美輕快の姿致に富み、軒二重木繁檼、椽組三手先斗、上檼、下兩層の構衡、整美にして安定感あり。内廊、内部は格天井にして、繁紅檼を架す。總じて其形態に於て、其細部の手法に於て、耐く迄輕快にして高雅、純和様樓門遺構中の傑作なり。上檼に永仁四年の銘記を存す。樓門の正面兩脇間には金剛權を設けて木造金剛力士立像二軀を安置す。共に體軀整ひて、此種の像に見る誇張と粗漫の感なし。門と同じく永正前後の作なるべし。本尊木造聖觀音立像一軀、同不動明王立像一軀は共に鎌倉時代の作にして、前者は丈高五尺五寸、後者は六尺なり。

和天宮(高野山)を祀す。

●新時會(正月三日)、弘法大師御影供(六月二十一日)、唐妙樂如來祭(七月八日)、本尊樂師祭(八月二十一日)等。

眞長寺

●古義眞言宗。三輪山と號す。天平年間、僧行基の開創に係る。永祿元年八月、同様の災に罹り、堂宇舊記等悉く焼失す。現に同宗高野末なり。

●本堂・庫裡・禪堂・玄關・表門等あり。禪堂に安置する本尊木造釋迦如來坐像一軀は弘仁期の作にして、現に國寶に指定せらる。寺寶として織田信長、徳川家康、同家光以下歴代將軍の朱印狀等を藏す。

慈明院

●天台宗。●神宮山と號す。俗に子育觀音と云ふ。貞治三年、郡主水井定信の開創に係り、開山は直海僧正なり。定信、之に寺領若干を附して自家の菩提所とす。文明年間、齋藤氏(持提院)の奏請により慈明院の額を賜ふといふ。其後天文、弘治、永祿、元龜の四度災上し、寺觀全く荒廢す。慶長十四年、徳川秀忠寺領十石の朱印狀を寄す。爾來寺運漸く振ひし、文久二年八月、回縁に罹り、堂宇、舊記悉く失ふ。後年再建成りて、漸次舊觀に復し現在に至る。

●堂宇に本堂・庫裡・書院・鐘樓・表門等を具ふ。本尊觀音は寺傳に聖德太子の作と傳へ、乳のまじき婦人の信仰厚し。

東光寺

●臨濟宗妙心寺派。

●富士山と號す。明應年間、華翁禪師當地に草庵を營みしが、後ち希雲和尚之を中興し、寺となして東光寺と號し、其師東陽和尚を開山に請す。其後、次第に寺觀荒廢するに至りしが、加茂郡細目村大仙寺第五世以安之を復興す。往古、塔頭十箇寺を數へしが、現に一院を存するのみ。

●寺域三千八百坪、本堂・庫裡・小庫裡・書院・大師堂・山門・鐘樓・藥師堂・經堂・不動堂・總門・寶庫等整備す。境内に登龍松と稱する名松あり。

長瀨寺

●天台宗。

●阿名院と號す。養老年間、善澄の開創に係る。も法相宗に屬せしが、天長五年、天台宗に轉じ、其後白山権現の別當となる。盛時、六谷六院、神廟佛宇三十有餘、僧坊二百六十を數へ、天台別院の輪旨を賜はると云ふ。然るに明治維新の際、神佛判然の令出で神祠を分ちしに依り、寺運漸々衰へたり。

●大講堂・經堂・金剛童子堂・辨天祠・十王堂等の堂宇を具ふ。就中、大講堂は慶長元年の建造にして、傳運慶作大日、釋迦、彌陀の三尊並に四天王像等を安置す。

新長谷寺

●新義眞言宗智山派。

●吉田山と號し、貞應元年、僧運忍の開基に係る。

嘉祿二年、七堂伽藍の建立成るや、後堀河天皇勅して新長谷寺の號を賜ひ、永く鎮護國家の勳績遺徳となし給ふと云ふ。正安二年四月八日火を蒙り、堂塔伽藍悉く灰燼に歸せしが、七世隆覺、俗兄二階堂出羽守行藤朝臣之力を勤め、嘉元二年より徳治二年に至る前後四箇年にして再建を遂げ、漸く舊に復す。即ち隆覺を中興の開祖とす。

●時以後伏見天皇、新長谷の勳績を賜ふ。長祿元年八月二十二日、伽藍の一部及び本堂再び回縁の災に罹りしも、寺主周運阿闍梨、村山三河守及び山内式部丞利通等の援助を得て再建す。時に寺領三百貫なり。天正年間、豐臣秀吉朱印寺領を五十二石に減せしにより、爾後、盛衰の如くならず。廢坊に歸するもの次第に多かりき。明治十三年、同二十年次第に再建せられ、寺運又隆盛に向ふ。



(寶圖)(堂本寺谷長新)

清泰寺

●臨濟宗妙心寺派。

●安住山と號す。永祿六年、城主佐藤六左衛門尉清信當地古町に一字を創し、圓覺寶通を開山に請じて阿育山保寧寺と號す。而して寺領三十石を寄せ、自家の菩提所となす。文祿元年、佐藤隆成守秀方伽藍を改造し、奉安山以安寺と改む。天正十七年、豐臣秀吉寺領三十石の朱印狀を寄す。慶長十年、小倉山城主金森長近之を城内に移建して現寺觀に改め、寺領を百石に増加す。末寺四十餘箇寺を數ふ。

●境内宏潤にして本堂・庫裡・開山堂・鐘樓等所在す。壁面に金龜法印刷、佐藤清信、同秀方等の墳墓あり。

汾陽寺

●臨濟宗妙心寺派。

●乾徳山と號す。領主齋藤利水の開創に係り、雲谷玄祥を開山とす。其後廢絶に歸せしが、利水の孫利國之を再興して寺領若干を寄せ、岐阜瑞龍寺開祖心宗を

日龍寺

●古義眞言宗。

●高深山と號し、當國三十三所中第二十五番札所、俗に高深觀音と稱す。仁徳天皇の朝、飛騨國蜂賀の觀窟より出生せる兩面四手の異人、當地深山に栖む神龍を征伏す。此事上聞に達し、勅して一字を創せしめ日龍と號せしめ給ふと云ふ。後年其しく伽藍荒廢せしが、僧行基、來りて之を造營す。降りて建久年間、鎌倉尼將軍亦之を再興増築し、法華千部を奉寫せしめ、八十町の地を寄す。然るに後世、兵亂に遭ひて堂宇悉く其上し、境内に多寶塔一字のみ尼將軍時代の面影を残す。現に高野末なり。

●境内千三百五十坪、本堂・庫裡・多寶塔・藥師堂・接待所・鐘樓等あり。就中、多寶塔(三間二層塔、屋根檜皮葺)は國寶建造物にして建久五年の建立と傳へ、内部に極彩色を施せり。鎌倉時代多寶塔少數の遺構の一として注目し、門外に大日、東光の二坊あり。寺寶として空海鼠心經・傳惠心僧都三尊來迎圖等あり。

●本尊法樂(毎月十七日)。

宗休寺

●天台宗。

●妙音山と號す。俗に善光寺と云ひ、安樂院末なり。延享二年、當地廣瀬新太郎忠なる者、祖父(法名宗休)及び祖母(同妙音)の遺言に依り此地に小庵を建て比叡山南樂坊智堂を請じて開山とし、妙音山宗休寺と號す。是れ本寺の濫觴なり。寶曆三年三月、下總國印

清水寺

臨濟宗妙心寺派。沿平不詳なり。寺寶中、木造十一面觀音坐像一軀は現に國寶なり。下半身に一本彫の古稚味を有する藤原時代の作にして蓮華座には部分的後補の痕認めらる。

小松寺

大慈山と號す。正しくは小松護國寺といひ、治承年間、草創にして開基は小松内府平重盛と傳ふ。當時七堂伽藍を具備し、塔頭八十餘院、寺額五百石を有し寺運極めて隆盛なりき。建久年間、源賴朝の命あり。其後、兵燹に罹りて荒廢に歸し、頂祝坊の一字のみを存せしが、文安年間、道昭佛殿を再興す。次で上野國黒瀧の開山潮音之を修營し、隆元禪師を中興の開山に請じ、從來の天台宗を黃髮宗に改む。

願興寺(蟹栗師)

天台宗。大寺山眞乘院と號し、俗に蟹栗師或は可兒栗師と稱す。弘仁年間、最澄之を開創し、自刻の栗師如來を安置す。天仁元年庚上、正治元年、細藤源五郎盛康之を再建す。後ち衰微せしが、貞治年間、土岐大膳大夫頼康之を再興す。降りて元龜三年兵火に罹り、天正九年、玉置與次郎、市場左衛門太郎等再建す。

永保寺

臨濟宗南禪寺派。正和二年、夢窓國師の開創に係り、佛德禪師を開山となす。初め夢窓國師、法弟佛德禪師等と共に甲斐より遠州路を経て東濃に入り、長瀬山の邊に到るや、偶々奇瑞のこゝありて岩上一寸八分の黄金像を得。即ち國師水月場を建立して之を安置せりといふ。佛德禪師其後を承け、長瀬領主土岐頼氏の外護に依り、七堂伽藍を造營す。其後、北朝光明院の勅願所となり、文和元年、開山堂を建つ。室町時代、寺運隆盛を極め、塔頭三十餘坊を數へし。戰國の時、兵燹に罹る。こゝ再三、山上漸く荒廢して水月場並に開山堂のみを残せり。爾來、歴世復舊に努めしが、近く昭和六年、佛德禪師六百年遠忌最勝の際、大いに講堂を改築修理して面目を一新せり。



(寶圖) (堂音觀寺創永)



(寶圖) (堂山開寺創永)

係り、現に國寶遺物なり。外陣(禮堂)は方三間、單層、屋根入母屋造、檜皮葺、内陣(廟堂)は桁行三間、梁間三間、重層、屋根入母屋造、檜皮葺にして、兩堂を合ノ間に連結す。これ即ち後世の神社建築に於ける権現造の先驅をなすものにして建築史上殊に貴重な遺構なりとす。其屋蓋の反り、唐様の特色を示して頗る輕快趣致極めて豊かなり。正面に「勅諭佛德禪師」の勅額を掲ぐ堂内に佛德禪師坐像を安置し、佛德禪師の遺骨を納めし寶篋印塔あり。池畔對岸には梵音殿屹立して點々十六羅漢石像を安置す。頂上に寶座殿(六角堂)あり。堂の下より源泉かゝる。泉池に架する無階橋を渡りて正面に水月場あり。これ即ち本院にして、正知二年虎溪山の開創と同時に建立せられしもの、俗に觀音堂とも稱し、方五間、重層、屋根入母屋造、檜皮葺の建築にして、現に國寶遺物なり。上下層とも軒に檜を用ひず、板敷とせしは珍奇なり。様式手法總て唐様にして鎌倉末期に於ける唐様建築の代表作と稱せらる。堂内の洞窟に觀世音菩薩(俗に孕み觀音と云ふ)を安置す。其他に華嚴界(方丈)・天厨院(庫裡)・獅子窟(禪堂)・鐘樓・黒門・東面莊(經藏)・多寶塔・保安院・續芳院・徳林院等の諸堂宇散在す。寺寶中、絹本着色千手觀音像一軀は國寶に指定せらる。南宋の佛畫にして、頭上の十一面以外に頭側に更に二面を附し、光背の烟燵狀なる事及び其持物衣蓋、文様の畫法等、何れも本邦通行の千手觀音と相異す。寺傳に吳道子筆とあるも、南宋末期の作と推定せらる。他に足利尊氏寄進佛舍利塔・都督親王寄進佛・最澄作佛財天像・陳孟原筆山水圖二幅・頼朝筆涅槃像・後醍醐天皇繪旨・圓山應舉筆西園畫集・勅諭佛德禪師勅額・佛德禪師遺骨等あり。

永泉寺

曹洞宗。石室山と號す。聖武天皇の勅願に依り、僧行基の開創に係る。往古、地藏院と稱し、寺中に明圓寺、蓮華寺、佛光院、觀音寺を兼して寺運隆盛なりし。後年次第に荒廢す。寛永年間、曹洞宗の周香、蓮華寺の住持となるに及び、之を移轉再興して寺號を改め、永泉寺と號す。明圓寺、佛光院、觀音寺は之を廢して觀音堂となし、永泉寺の管する所となせり。本堂・觀音堂・國寶堂・鐘樓堂・山門・庫裡・書院等あり。安置する木造觀音坐像一軀は鎌倉末期の

東園寺(後向栗師)

曹洞宗。藤原山と號す。醍醐天皇の朝、僧最澄、栗師如來を刻みて一字に安置す。後年堂宇燬失せしが、一時附近の民屋に奉安せしに、屢次奇瑞のこゝあり。より



(寶圖) (像來如阿靈寺園東)

て再び一字を建つ。これ本寺の遺跡なり。旅人の乗馬して堂前を過ぐるや必ず落馬す。依りて里人等恐怖し爾來如來を後向きに安置す。これ俗稱の出づる所以なり。寛永年間、僧祖陽、像を現地に移して堂宇を建て東園寺と號す。本尊木造栗師如來坐像一軀は俗に後向栗師如來といふ。藤原期の作にして、現に國寶たり。境内に鎮守秋葉三尺坊桐現あり。栗師如來大祭典(四月八日、十月十二日)、開例祭(毎月八日)、秋葉祭典(二月十六日)。

高山別院(照蓮寺) 大野郡高山町。

●眞宗大谷派。
●光耀山照蓮寺と號す。寶治年間(一説建長五年)、現當の弟子嘉念房善徳の開創に係る。初め大野郡白川郷にありて、越谷道場と稱す。爾後善隆、善教、了暹、善享等法燈を繼承し、念佛を弘通す。文明年間住持明教、内島爲氏に襲はれて職死し、法燈絶えん。せしが其子龜壽丸、長じて大阪に赴き、蓮如に師事し、嘉念坊明心と稱す。長享二年、明心、内島氏之和を結び、寺基を白川郷中野に移し、光耀山照蓮寺と號す。天正十六年、宣明の代、領主金森長近の命に依り高山に移じ、慶長五年、院家に補せらる。同十五年、同可重寺領百石を寄進し、本堂再建に資す。元禄十二年三月本山掛所となり、明治三年、宗主最知の二男勝縁、命によりて入寺す。



(院別山高)

國分寺 大野郡大名田町七日町。

●古義眞言宗。
●醫王山と號す。聖武天皇天十三三年、勅命に依り建立せられ、弘仁十八年美上す。寛政年間、三重塔建立せられし、古の七重大塔、仁王門、觀音堂、彌陀堂等は今其廢址を存するのみ。現に同宗師室末なり。
●本堂(五間四面、單層、入母屋造、栴檀)は一に藥師堂と稱し、國寶建造物たり。斗拱に和樣三斗を用ひ、正面に向拜を附け、内外丹塗を施す。其鑿寫なる趣致及び細部の手法より桃山時代の建立と推定さる。本尊木造藥師如來坐像一軀は行基作と傳ふれども、鎌倉時代の作風を示せり。又同觀世音菩薩立像一軀は一本彫、氣品高雅にして弘仁時代の作に係る。太刀一口は無銘拵澤漆なり。以上三點は總て現に國寶たり。

常蓮寺(太子堂) 吉城郡阿曾布村大字吉田。

●眞宗本願寺派。
●龍洞山と號す。往古、竹林山華嚴寺と號し、天台宗に屬せり。建永年間、平經盛の庶子經輝、飛騨國に遷せらるに當り、聖德太子自刻像を齎し、其子朝時(一に朝方と云ふ)に傳ふ。朝時之を本寺に安置し、太子堂と稱すと云ふ。其後寛應せしが、正嘉二年、觀賢の弟子善徳當國に來り、照蓮寺を創し、次で本寺を再興し、其次子善勇をして本寺に住せしめたり。時に台宗を改めて眞宗の寺院となす。正和年間、本願寺覺如の弟子願智坊覺淳、來り住して問名寺と改めしが、寛永三年、九世了玄の時、准如之を現寺に復せり。
●聖德太子木像(自刻)・行基作阿彌陀如來木像一軀・聖信筆觀音土人行脚畫像一軀・覺如筆執持鈔一冊等を藏す。

安國寺 吉城郡國府村大字西門前。

●臨濟宗妙心寺派。
●太平山と號す。正平十二年の創建なりと云ふ。是より先き曆應二年、足利直義、僧藏石の説に従ひ、諸國に一國一寺の伽藍を造營す。本寺亦其一なり。開山は瑞巖にして後年南叟之を再興す。寶徳元年、十刹位に上り朱印五百石を領せり。
●經藏(方三間、重層、屋根入母屋造栴檀)は一に毘盧經藏と稱し、現に國寶建造物に指定せらる。斗拱は唐樣出組、總て素木造にして、内部入側は化粧風根裏、中央に八角經藏を置く。古記によれば南陽軒主本元一公郡守禪師、飛騨國益田郡奥田氏と相謀りて建立せるものなりといふ。建築様式は室町時代の特色を示す。藏經は本元自ら漢元して舶載する所、本尊佛龕は明德元年に完成せりと傳ふ。

長野縣

寛慶寺 長野市東之門町。

●淨土宗。
●壽福山無量院と號す。當國水内郡高天神堀内城主栗田入道範覺の開創に係り、當初、其城郭内にありて栗田寺と號し天台宗を奉ず。範覺、俗性を派義壽と稱し、多田滿仲の後裔にして、治承四年、鎌倉幕府の命を受け戸隠山別當となる。同仲國、同國時を経て寛慶の時、栗田法眼と稱し善光寺別當を兼ね。降りて同寛安の時、淨土宗に歸し、其父寛慶の遺志に従ひ、永正元年、大いに堂宇を改修し、當國葺科郡松代西念寺住僧洞樂春成を開山に請じて壽福山無量院寛慶寺と改稱す。後兵燹に罹りしかば、天正元年現地に再興せしも、弘化四年、大地震の爲に倒壊す。維新に際し、末寺虎石庵(若石町)にありて曾我祐成の妾、大禮虎女の住庵して聞えたり)を合併す。明治十六年、重建成る。
●本堂・庫裡・表門(も善光寺大勧進表門なり)等ありて規模宏大なり。

善光寺 長野市稻清水。

●天台宗、淨土宗。
●定額山と號す。尙ほ、の外に南命山無量寺、不捨山淨土寺、北空山雲上寺の三稱あり。所謂三國傳來、一光三尊の阿彌陀如來を奉安して、古來天下著名なる靈場なり。本如來傳來に關し、諏訪明神繪圖には繼體天皇御宇善紀四年(同天皇十四年)といひ、扶桑略記所



(門山寺光善)

引の縁起及び本寺傳には、欽明天皇十三年、百濟聖明王の獻する所となし、又佛像そのものに關しても或は阿彌陀如來といひ、或は釋迦如來となす等、古説定まらざるも、何れも我國最古の佛像にして關渡附近に存し、其信濃國下向の年時を推古天皇十年となすの諸點は同一なり。本寺の創立者につきては、善巨勢大夫と云ひ、若麻績東人といひ、又本田善光なりとす。而して後二者は同一人なりとす。以て本寺の開基となすの説專ら行はる。しばらく之に従ふべし。即ち推古天皇十年四月、信濃住人若麻績東人(後の本田善光、難波の地にて當如來を得、之を奉じて自らの生地信濃國伊奈郡宇治村麻績の里(現、座光寺村)に下り、此處に一字を創して安置す。即ち之を以て本寺の靈廟となす。皇極天皇元年、地を同水内郡手井郷に遷して伽藍を造營す。是れ今の長野の地なり。白雉五年、諸堂宇なり、時に

四門四號の勅額を賜ふと云ふ。爾來、平城天皇大同四年五月、開闢天皇天延三年、鳥羽天皇天仁元年二月、高倉天皇治承三年三月、龜山天皇文永五年三月、花園天皇正和二年三月、後龜山天皇建徳元年七月、稱光天皇應永三十四年三月、後土御門天皇文明九年六月、同長享二年、明正天皇寛永十九年五月、東山天皇元禄十三年七月等前後十二回美上せしが、其部度再建せらる。是より先き元仁二年四月、觀賢本寺に詣り、本尊の分身像を感得して、下野高田に專修寺を創すと云ふ。永祿元年、武田信玄、甲州府中に新善光寺を建て、本尊を之に遷す。天正十年、織田信長、美濃國岐阜へ、續いて尾張其目寺に遷り、翌年、徳川家康、遠州嶋居寺に、同十一年、再び甲府新善光寺に安置せらる。慶長二年、更に豊臣秀吉勅許を得て之を京都方廣寺に遷せしが、翌年、遂に再び信濃本寺に歸りて以て今日に至るを傳へらる。
●慶長六年、徳川家康水内郡の地に於て寺領一千石を寄す。現今の本堂は元禄火災後の再建にして、同十六年、永井伊賀守眞敬、眞田伊豆守信房、壽命を奉じて土木の工を督し、僧慶運諸國に募縁して、寶永二年四月月初式を行ひ、四箇年の歳月と一萬二千九百七十兩を費して漸く竣工すと云ふ。
●明治三十八年、財團法人善光寺保存會設立せられ、爾來、仁王門の再建、堂宇の修理、消火設備等に著々其工を修め、現に納骨堂、五重塔等の再建計畫中なり。尙ほ本寺往古の状態につきて、一遍上人繪圖傳(帝室博物館保管)は、永仁六年他阿上人善光寺參詣時の實況を描寫し、また愛知縣碧海郡櫻井村大字野寺本證寺藏國寶善光寺如來繪像には室町時代の本寺を示す。徳川時代のものとしては、慶長十五年越後少將忠輝支配の時、松代城主花井主水の製圖に係る善光寺境内圖面、

天和三年北之門町名主上原平右衛門自製の圓面及び元... 鐘五年小宮山忠左衛門製の圓面等あり。以てそれ... ぞれ参考に實すを得べし。因みに本寺天台、淨土兩宗... を併せ稱するは、附屬別當職の大勸進は天台宗を奉じ、... 主務職大本願は淨土宗に屬するが故なり。



(實圖) (堂本寺吳美)

●境内一萬七千八百五十一坪を有し、仁王門・山門・... 本堂・... 鐘樓・... 忠靈殿... 城山館... 大勸進... 大本願... 等の輪... 奘たる... 殿堂地... 然とし... て發立... し、天... 台宗塔... 頭二十... 五院・... 淨土宗... 塔頭十... 四院を連れて壯麗を極む。本堂(桁行十六間、梁間... 七間、甍層、屋根檜木葺、棟脊)は一に金堂と稱し、... 現に國寶建造物にして、寶永四年七月の再建に係る。... 大棟は甲真宗實、棟は木村萬兵衛なり。向拜出欄... 六間二尺餘、屋多重層にして丁字形をなし、其形状の... 奇なる我建築史上の異彩なり。四方に四門廻廊を廻ら... し、四門四院の勸進を掲ぐ。内部を外陣、中陣、内陣、

内々陣に分ち、内々陣の中央瑞雲壇上に本尊厨子を設... く。左右に開基善光及び其妻子の像を安置す。本尊は... 即ち三國傳來、一光三尊の阿彌陀如來にして、高さ一... 尺五寸、圓淨檀金の像なりといふ。傳へ云ふ、初め釋... 迦在世の時、天竺毘舍離國の月蓋長者、疾風の流行に... 際し、阿彌陀佛に祈請して一光三尊の像を感見せしに... 其流行忽ち止む。依りて圓淨檀金を以て其像を模造し... 殿中に奉安す。後一千年にして支那に傳はり、更に... 三百年にして百濟に來り、又百年を経て聖明王の時、我... 國に渡る。時に欽明天皇十三年十月なり。山門(間... 口十一間餘、奥行四間二尺餘)は寛延三年の再建に係... り、樓上に文殊菩薩、四天王木像を安置す。福願(善... 光寺)は輪王(歡喜心院宮)の御座なり。仁王門(間口... 七間、奥行四間)は大正七年の再建にして、高村善雲... 及び米原雲海伴仁王尊像に三面大黒天、三寶荒神を安... 置す。伏見宮貞愛親王御筆の福願「定額山」を掲ぐ。... 鐘樓は嘉永六年の建築にして、も、瓦葺なりしを、大... 正十五年、柳皮葺に改む。鐘樓は寛文七年の鑄造に係... る。山門の西側に寶印塔二基あり。當境内に於ける... 最古の塔と稱せられ、北側にあるは鎌倉中期、南側な... るは同末期若くは室町初期の建立なり。其他境内に大... 地蔵、六地藏、佛足跡、駒返橋、觀音菩薩(頭塔堂照... 坊内)、法然菩薩(同正信坊内)及び七社、七橋、七池、... 七清水、七塚、七寺、七小路と稱する四十九箇所の靈... 跡ありて世に喧傳せらる。



(景全進給大)

●夏安居(四月十五日―七月十五日)、祇園祭(七月十... 三日、十四日)。俗に善光寺祭といふ。開山忌法要(七... 月十三日)、築地磯鬼、夜法會(十月五日―同十四日... 淨土宗、十一月五日―同十四日天台宗、貴念佛(十二... 月七日―同十三日天台宗、注連紙(十二月一日)等あ... り。

世尊院(釋迦堂)

長野市新清水。

●善光寺山内寺院の一なり。圓融天皇の朝、天延三年四月、越後國頸城郡古多賀濱にて漁夫の漁夫の網に掛り、挽上げられ、挽割れば中より圓淨檀金等身の釋迦如來涅槃像出現す。依りて之を附近の寺院(現在古多賀濱、一に善光寺濱



(堂本堂迦釋既并畫)

往生寺(劉堂堂)

長野市西長野町。

●安樂山菩提心院と號す。劉貴道心親子往生の舊址なりと傳へ、俗に劉堂堂の名を以て喧傳せらる。寺傳に曰く、劉貴道心、俗名を加藤左衛門繁氏(一に佐重)と云ひ、筑前守守護加藤兵衛繁昌の子なり。二十一歳にして無常を觀じ、京都に上りて墨谷觀空上人の法弟となり、寂照坊等阿法師と號す。次で法然に師事せしが、長寛二年、高野山に登り、佛道に専心す。後其男石童丸、母千里御前(一に桂御前)と共に父を高野に導き、母命終の後、仁安元年、父劉貴道心に遇ひ、其下に弟子となりて信生坊道念と稱す。されど骨肉の纏絆は修道の障礙なりとて、石童丸と別れて此地に來り、草庵を結び、地藏菩薩を手刻して安置す。建保二年、遂に此地に入寂す。其後、道念亦此地に來住し、建保四年往生を遂げたりとす。

涅槃像・推古朝聖觀音木像・圓光大師眞筆名號・知恩院尊超親王御筆名號・土御門、伏見、後關成、藤元各天皇御筆等寶物百餘點を陳列す。●本寺は淨土、天台兩宗の管理に屬するを以て、法會等執行の時には兩宗各別に或は同時交互に行ふを例とす。例へば一月一日の朝拜式には、除夜の洪鐘を合圖に兩宗大衆本堂に總出仕先づ淨土宗一山淨衣を著し、若座、念佛を唱ふるや、續いて天台宗一山長素絹着用法席に著く。別當大勸進住職導師となり、朝拜式を勤修す。終りて大本願住職導師となり同種法會を講修す。また大念佛會の際には天台宗は六月三十日夜、淨土宗は七月三十一日夜之行ふが如きはなり。年中行事の重なるものを舉ぐれば右の他、御印文包替(二月六日)、寶頭慶廻り(一月六日夜)、御會式(三月十五日日本尊如來我が國渡來の日、十月十五日現地運座の日)、彼岸法



(景全圖本大)

日如来像(傳行基作)・觀聲堂十字名號・刈替精園傳二軸等を藏す。なほ境内に刈替廟、來迎松、刈替杉、吉真櫻、鏡井戸等あり。

正行寺

松本市下横田町。

眞宗大谷派。

大寶山と號す。觀聲の弟子了智の開基に係る。了智は佐々木高綱の法名にして、源賴朝兵を擧ぐるや、軍に従ひて大功ありしが、其恩賞に蒙らるるあり、加之、戰亂興亡の世態の無常を觀じ、遂に世俗の名利を擲ち、高野に上りて出家す。次で觀聲を慕ひ、越後國府に到りて弟子となり、名を了智と改む。後信濃國眞摩郡栗林郷に一字を創す。是れ本寺の起原なり。松本領主石川氏の菩提所となり、天和年中、現地に移る。寺寶として觀聲、蓮如筆名號・高綱筆系圖一巻・武田信玄朱印狀通等を藏す。

松本別院

松本市北深志。

眞宗本願寺派。

明治十年十月、説教所として設置せられしを、同年十月、本願寺二十一世明如、改めて別院となす。後ち回縁に攝り、現在の堂宇は其後の建立に係る。境内五百二十坪。

海禪寺

上田市新田。

新義眞言宗智山派。

大寶山と號す。もと小縣郡海野郷(現に縣村に屬す)の地にあり。承平五年、清和天皇第五皇子貞元親

王(明善寺殿法王白保大禪定門)の開創に係り、御法號に因みて開善寺と號す。永祿七年、武田信玄寺領三十貫五百文を附し、其新願所となす。天正年中、領主眞田安房守昌幸之を現地に移建して現稱に改め、上田城東門外に遷す。慶長六年、眞田伊豆守信之寺領二十四貫文を附す。後ち仙石越前守秀久、上田城に入るや、當寺を領を沒收せしが、松平伊賀守代りて城主となるに及び、寺領二貫文を復す。現堂宇は慶安元年福英後の建立なりと云ふ。

曹洞宗。

大寶山と號す。其創建年代不詳なれども、永祿三年、武田晴信より寺領六十貫五百文の寄進を受く。元龜年中兵燹に罹りしが、天正八年八月、義山元孝之を再興す。同十三年三月、當國蘆田城主依田右衛門佐信藩、岩尾城を攻めしめて弟信行と共に陣歿す。其子小諸城主松平康國、父信藩追福のため、堂宇を再建し、舊稱明法寺を現稱に改め、寺領若干を附し、其香華院とす。慶安二年、徳川家光寺領二十五石の朱印を下し、文久三年、龍岡藩主松本兼誠此地に移封せらるるや、當寺を以て其菩提所とす。現に最明院、全慶寺、千澤寺の三末寺あり。

曹洞宗。

大寶山と號す。其創建年代不詳なれども、永祿三年、武田晴信より寺領六十貫五百文の寄進を受く。元龜年中兵燹に罹りしが、天正八年八月、義山元孝之を再興す。同十三年三月、當國蘆田城主依田右衛門佐信藩、岩尾城を攻めしめて弟信行と共に陣歿す。其子小諸城主松平康國、父信藩追福のため、堂宇を再建し、舊稱明法寺を現稱に改め、寺領若干を附し、其香華院とす。慶安二年、徳川家光寺領二十五石の朱印を下し、文久三年、龍岡藩主松本兼誠此地に移封せらるるや、當寺を以て其菩提所とす。現に最明院、全慶寺、千澤寺の三末寺あり。

曹洞宗。

大寶山と號す。其創建年代不詳なれども、永祿三年、武田晴信より寺領六十貫五百文の寄進を受く。元龜年中兵燹に罹りしが、天正八年八月、義山元孝之を再興す。同十三年三月、當國蘆田城主依田右衛門佐信藩、岩尾城を攻めしめて弟信行と共に陣歿す。其子小諸城主松平康國、父信藩追福のため、堂宇を再建し、舊稱明法寺を現稱に改め、寺領若干を附し、其香華院とす。慶安二年、徳川家光寺領二十五石の朱印を下し、文久三年、龍岡藩主松本兼誠此地に移封せらるるや、當寺を以て其菩提所とす。現に最明院、全慶寺、千澤寺の三末寺あり。

曹洞宗。

大寶山と號す。其創建年代不詳なれども、永祿三年、武田晴信より寺領六十貫五百文の寄進を受く。元龜年中兵燹に罹りしが、天正八年八月、義山元孝之を再興す。同十三年三月、當國蘆田城主依田右衛門佐信藩、岩尾城を攻めしめて弟信行と共に陣歿す。其子小諸城主松平康國、父信藩追福のため、堂宇を再建し、舊稱明法寺を現稱に改め、寺領若干を附し、其香華院とす。慶安二年、徳川家光寺領二十五石の朱印を下し、文久三年、龍岡藩主松本兼誠此地に移封せらるるや、當寺を以て其菩提所とす。現に最明院、全慶寺、千澤寺の三末寺あり。

曹洞宗。

大寶山と號す。其創建年代不詳なれども、永祿三年、武田晴信より寺領六十貫五百文の寄進を受く。元龜年中兵燹に罹りしが、天正八年八月、義山元孝之を再興す。同十三年三月、當國蘆田城主依田右衛門佐信藩、岩尾城を攻めしめて弟信行と共に陣歿す。其子小諸城主松平康國、父信藩追福のため、堂宇を再建し、舊稱明法寺を現稱に改め、寺領若干を附し、其香華院とす。慶安二年、徳川家光寺領二十五石の朱印を下し、文久三年、龍岡藩主松本兼誠此地に移封せらるるや、當寺を以て其菩提所とす。現に最明院、全慶寺、千澤寺の三末寺あり。

曹洞宗。

大寶山と號す。其創建年代不詳なれども、永祿三年、武田晴信より寺領六十貫五百文の寄進を受く。元龜年中兵燹に罹りしが、天正八年八月、義山元孝之を再興す。同十三年三月、當國蘆田城主依田右衛門佐信藩、岩尾城を攻めしめて弟信行と共に陣歿す。其子小諸城主松平康國、父信藩追福のため、堂宇を再建し、舊稱明法寺を現稱に改め、寺領若干を附し、其香華院とす。慶安二年、徳川家光寺領二十五石の朱印を下し、文久三年、龍岡藩主松本兼誠此地に移封せらるるや、當寺を以て其菩提所とす。現に最明院、全慶寺、千澤寺の三末寺あり。

曹洞宗。

大寶山と號す。其創建年代不詳なれども、永祿三年、武田晴信より寺領六十貫五百文の寄進を受く。元龜年中兵燹に罹りしが、天正八年八月、義山元孝之を再興す。同十三年三月、當國蘆田城主依田右衛門佐信藩、岩尾城を攻めしめて弟信行と共に陣歿す。其子小諸城主松平康國、父信藩追福のため、堂宇を再建し、舊稱明法寺を現稱に改め、寺領若干を附し、其香華院とす。慶安二年、徳川家光寺領二十五石の朱印を下し、文久三年、龍岡藩主松本兼誠此地に移封せらるるや、當寺を以て其菩提所とす。現に最明院、全慶寺、千澤寺の三末寺あり。

生往院

南佐久郡榮村大字高野町。

淨土宗。

終南山と號す。應仁元年の開基にして、眞忠の法弟寂惠を開山とす。文明年間、岩瀬慶公之を現地に移して堂宇を再興し、終南山生往院善導寺と稱す。寛永六年、徳川家光寺地六畝二十一歩を寄す。正徳年中、回縁に攝り、堂宇舊記等悉く灰燼に歸せしが、越中大念寺喚譽の法弟大禪、當寺十五世として之を再興す。即ち大禪を以て中興開山となす。寶永七年以降増上寺末たりしが、明治八年知恩院末となる。

曹洞宗。

洞源山と號す。大永元年、前山城主伴野左衛門佐貞、眞祥、風安光利、交光信追福のため、本寺を創建し、佛光明禪師を開山とす。永祿七年八月、武田信玄寺領百貫文を附す。天正十五年二月、當國蘆田城主依田康賢、慶安二年二月、北佐久郡小諸城主仙石秀久等先規に任せ寺領百貫文を寄す。慶安二年二月、徳川家光寺領十五石の朱印を寄進せり。眞享年間堂宇を再建す。

曹洞宗。

洞源山と號す。大永元年、前山城主伴野左衛門佐貞、眞祥、風安光利、交光信追福のため、本寺を創建し、佛光明禪師を開山とす。永祿七年八月、武田信玄寺領百貫文を附す。天正十五年二月、當國蘆田城主依田康賢、慶安二年二月、北佐久郡小諸城主仙石秀久等先規に任せ寺領百貫文を寄す。慶安二年二月、徳川家光寺領十五石の朱印を寄進せり。眞享年間堂宇を再建す。

曹洞宗。

洞源山と號す。大永元年、前山城主伴野左衛門佐貞、眞祥、風安光利、交光信追福のため、本寺を創建し、佛光明禪師を開山とす。永祿七年八月、武田信玄寺領百貫文を附す。天正十五年二月、當國蘆田城主依田康賢、慶安二年二月、北佐久郡小諸城主仙石秀久等先規に任せ寺領百貫文を寄す。慶安二年二月、徳川家光寺領十五石の朱印を寄進せり。眞享年間堂宇を再建す。

曹洞宗。

洞源山と號す。大永元年、前山城主伴野左衛門佐貞、眞祥、風安光利、交光信追福のため、本寺を創建し、佛光明禪師を開山とす。永祿七年八月、武田信玄寺領百貫文を附す。天正十五年二月、當國蘆田城主依田康賢、慶安二年二月、北佐久郡小諸城主仙石秀久等先規に任せ寺領百貫文を寄す。慶安二年二月、徳川家光寺領十五石の朱印を寄進せり。眞享年間堂宇を再建す。

曹洞宗。

洞源山と號す。大永元年、前山城主伴野左衛門佐貞、眞祥、風安光利、交光信追福のため、本寺を創建し、佛光明禪師を開山とす。永祿七年八月、武田信玄寺領百貫文を附す。天正十五年二月、當國蘆田城主依田康賢、慶安二年二月、北佐久郡小諸城主仙石秀久等先規に任せ寺領百貫文を寄す。慶安二年二月、徳川家光寺領十五石の朱印を寄進せり。眞享年間堂宇を再建す。

曹洞宗。

洞源山と號す。大永元年、前山城主伴野左衛門佐貞、眞祥、風安光利、交光信追福のため、本寺を創建し、佛光明禪師を開山とす。永祿七年八月、武田信玄寺領百貫文を附す。天正十五年二月、當國蘆田城主依田康賢、慶安二年二月、北佐久郡小諸城主仙石秀久等先規に任せ寺領百貫文を寄す。慶安二年二月、徳川家光寺領十五石の朱印を寄進せり。眞享年間堂宇を再建す。

曹洞宗。

洞源山と號す。大永元年、前山城主伴野左衛門佐貞、眞祥、風安光利、交光信追福のため、本寺を創建し、佛光明禪師を開山とす。永祿七年八月、武田信玄寺領百貫文を附す。天正十五年二月、當國蘆田城主依田康賢、慶安二年二月、北佐久郡小諸城主仙石秀久等先規に任せ寺領百貫文を寄す。慶安二年二月、徳川家光寺領十五石の朱印を寄進せり。眞享年間堂宇を再建す。

曹洞宗。

洞源山と號す。大永元年、前山城主伴野左衛門佐貞、眞祥、風安光利、交光信追福のため、本寺を創建し、佛光明禪師を開山とす。永祿七年八月、武田信玄寺領百貫文を附す。天正十五年二月、當國蘆田城主依田康賢、慶安二年二月、北佐久郡小諸城主仙石秀久等先規に任せ寺領百貫文を寄す。慶安二年二月、徳川家光寺領十五石の朱印を寄進せり。眞享年間堂宇を再建す。

田信玄朱印狀・同制札・依田氏、仙石氏各寄進狀其他數點を藏す。境外所管佛堂に倉澤山樂師堂あり。舒明天皇四年三月、上州群馬郡日輪寺村某の開創にして、本尊樂師如來は當地山間より出現せるものなりと傳へ、近郷の尊信を慕む。慶長十七年、修驗三藏院之が別當たりしが、明治維新に際し本寺所管に歸す。

龍雲寺

北佐久郡岩村町。

曹洞宗。

正和元年、大井美作守入道玄慶の開創にして、淨學天仲を開山とす。文明十六年二月兵火に罹り、堂宇烏有に歸せしが、翌年領主大井氏之を再建し、上州隼水郡後園村長源寺續貞を住持とし、從來臨濟宗なりしを、此時現宗に改む。弘治二年、武田晴信堂宇を造修して越後國魚沼郡雲洞村城山雲洞庵北高禪師を請じ、寺領百七十一貫五百餘文を寄す。時に本山より僧録所の免狀を受く。天正十七年十二月、再び回縁に攝り堂宇悉く灰燼に歸せしが、後ち小諸城主松平下野守康國の叔父外禪師入山して諸堂を再建す。慶安元年徳川家光寺領四十石の朱印を下す。現に末院六箇寺を有す。

圓満寺

北佐久郡岩村町。

新義眞言宗智山派。

大慈山と號す。康治二年、興教大師の開創なりと云ふ。もと當地芝岡にあり、三重の浮圓、十二子院堂を並べ、眞言律宗に屬せる無本寺たりき。大永年間兵

燹に罹り、堂宇、舊記等悉く烏有に歸す。其後暫く廢絶せしが、紀州僧傳此地に來り、當寺再興の志あり、天文十四年、武田信玄月石城攻めしにありて傳を以て戰勝の祈禱をなせしめ、其報賽として本寺の再興を授賞し、寺領若干を附す。永祿年中、寺基を現地に移し、此地大満宮社ありて梅樹多かりしに因み、梅靈山と號す。又觀音堂を建立し、開光院、善珠院、正法院、稱名院、福壽院、成就院の六坊を創立して觀音堂の供僧寺とす。地名字六供に由来すといふ。天正年中兵燹に罹り、文祿年中、善珠、稱名、成就の三院を廢絶し、元和年中に至り更に本坊亦廢絶せられ、爲に寺觀著しく衰頹す。延享二年、福壽院、開光院、正法院、觀音堂等回縁に攝る。同四年、一字を再建して大慈山と改め、領主内藤氏の祈願所となる。安政六年御室御所深仁親王より御紋附燈等を賜ふといふ。明治七年、下總成田山新壽寺不動明王を模刻し、本堂に安置す。

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

淨土宗。

天機山傳通院と號す。慶長七年冬、松平因幡守時元、其母傳通院(徳川家康の母にして、徳川廣忠逝去後、久松佐渡守後時に再嫁し、時元等を生む)追福のため、總州葛飾郡福留弘經寺を改め、母の靈號に因みて光岳寺と號し、堂宇を再建して、弘經寺第九世義善慶を開山となす。元和元年、其の子甲斐守忠貞美濃國大垣城に轉封するや、本寺も亦隨ひて移る。其子因幡守憲貞、當地に轉封され、松壽山芳泉寺の舊地に就きて一字を興し、法蓮社眞誓を住せしめ、天機山傳通

世の間、其菩提寺たり。鎌倉管領家廢滅の際、大井越前守持光、足利持氏の末子永壽王丸を擁して富山に入る。其後、永壽王丸元服して足利成氏と稱し、再び鎌倉に入るや、寺領三千五百石餘を附す(願王寺參照)。當時塔頭百二十四箇院、末寺二百三十有餘箇あり、地方屈指の巨刹なりしが、後ら次第に寺運衰微す。天文十九年、甲斐國主武田晴信寺領五百二十六石を寄せ、諸堂を再建せしむ。永祿年中、武田、上杉兩氏の兵燹に災し、堂宇等悉く烏有に歸す。其後再興せられしも舊觀に及ばず。近世寺領二十石なり。

●寺域頗る廣闊にして、本堂・玄關・庫裡・觀音堂・開山堂・總門・鐘樓・寶庫等を具ふ。寺寶として、後深草天皇念持佛觀音像・足利持氏の禮・法燈國師木像・元版大般若經六百卷・文安元年の記録二卷・武田信玄朱印狀・同勝頼文書、其他古文書・圖幅等多數を所藏す。境内に風原石・鎌倉石・夫船石、開山手植樹、法燈國師墳墓あり。

眞樂寺

北佐久郡小沼村大字眞野。

●新義眞言宗智山派。●後開山と號す。用明天皇の御宇の創建にして、初め神樂寺と號せしが、後ら眞樂寺と改む。文治五年、源賴朝其四十二歳除厄祈願の爲め、觀音堂を建立す。爾來除厄觀音と稱せられ、俗間の信仰を集む。天正八年、頼興眞言の道場となす。天和年中、大洪水あり、堂宇、舊記等悉く流失す。寶永年中同様に罹り、安永年間再建せらる。同七年九月靈淨の時、仁和寺に屬し淺間山別當に補せられ、寺領八十三石、山林數十町を有せしが、明治維新に際し悉く上地す。もと常法談林にして末派三十六箇院を統べたりと云ふ。

●本堂・庫裡・方丈・聖天堂・觀音堂・玄關・中雀門・鐘樓・仁王門・三重塔・十王堂等を具備す。寺寶に頼朝寄進に係る馬具其他を藏す。境内に頼朝鞍打の梅と稱するものあり。

釋尊寺

北佐久郡川邊村大字大久保。



(景全寺釋尊)

●天台宗。●布引山と號す。●本堂は阿彌陀如來、別に觀音堂ありて聖德太子作と傳ふる聖觀音像を安置す。俗に布引觀音と稱し、牛に曳かれて善光寺詣りとの由來は本像に關する傳傳なりといふ。天文七年八月兵火に罹り、弘治二年再建享保八年十二月再び兵火、翌年當郡小諸城主牧野氏之を再建す。世代を重むるこ

と八十二代、以て今日に至る。

●地は小諸町の西南一里二十町、千曲川上流南岸の深谷美に沿ひて奇岩怪石に富み、山上、東信一帶の山野を一時に收めて麗望頗る佳なり。境内約一萬五千坪、本堂(桁行九間半、梁間六間半、素木造)、觀音堂(仁王門・護摩堂・大師堂・六角堂・聖德太子堂・愛染堂・庫裡等の諸堂宇、布引山の懸崖によりて所在す。就中觀音堂は俗に稱して屋遺と云ひ、桁行五間、梁間五間半、入母屋破風造、銅瓦葺、内陣は懸崖の崖に穴を鑿りて觀音を安置し、外陣は長柱にて支ふる舞臺造なれり。山の北側の絶壁に一條の白岩ありて、形狀恰も一筋の布を引きたるが如し。往古此地に老翁遺あり、一日曇、川にて布を晒すに、忽然一頭の大牛現はれ、其布を角に懸けて走れるより、愚之を追ひつ、遂に善光寺に到り、思はず善光寺如來の前に禮拜を遂げたり。夫より牛は再び元の道に還り、此山の邊にて煙の如く消失す。布は斷崖に吹きつけられ、遂に化石して今に其形を留め、大牛は當寺聖觀音の化する所なりと傳ふ。寺寶に後小松天皇靈筆天滿宮彩色畫・西行自畫自贊・熊谷蓮生坊筆大般若經の一部等を藏す。

福王寺

北佐久郡協和村。

●新義眞言宗智山派。●帝松山と號す。開基及び創立年代共に不明なるも中古は眞松山福王寺と稱したり。天正十五年、弘山之中興す。弘山は石田三成の舍弟なりと傳ふ。爾來現在に至るまで二十四世の法統相續繼承さる。●境内五百五十九坪、本堂・仁王門・鐘樓・護摩堂等あり。本尊は大日如來なり。尙ほ境外に阿彌陀堂一字あり。本尊木造阿彌陀如來坐像一軀は高さ四尺六寸

津金寺

北佐久郡横島村大字山部。

●天台宗。●惠日山修學院と號す。俗に山部觀音の名を以て著聞す。大寶二年、僧行基の開創なりと傳へ、行基自作の救世觀音を本尊とす。聖武天皇の御宇、勅して山林地並に稻千束を賜ふ。次で圓仁來り、堂宇を造營す。爾來、信濃天台の講學場となり、修學院と號し、僧坊二十四院、末寺四十八箇寺を統べ、寺門隆盛を極めたり。初め、圓、密、禪、武四宗の兼學道場たりしが、後ら天台一宗となる。應安年中、德海諸堂を重興し、中興の開山となる。永祿四年、武田信玄寺領千石の朱印狀を寄す。天正十年兵燹に罹り堂宇灰燼に歸せしが、同十四年、小諸城主松平修理大夫康國之を再建し、慶安元年、青山因幡守宗後諸堂の修築に努む。寛文十年徳川家廟之に寺領十九石四斗餘の朱印を附す。其後元祿五年、享保十五年、寛政六年、文久三年の數度堂宇の修造ありき。

●本堂・阿彌陀堂・庫裡・玄關・仁王門・鐘樓等を具ふ。寺寶に李龍眠筆涅槃畫像・光嚴司筆羅漢畫像八幅・武田信玄朱印狀・徳川氏朱印狀數通等を藏す。

國分寺

小縣郡神川村大字國分。

●天台宗。●淨瑠璃山眞言院と號し、俗に八日堂と云ふ。天平年間、聖武天皇の勅願に依り、諸國に創建せられたる

國分寺の一なり。後ら衰頹せしが、後白河天皇、國司某に命じて七堂伽藍を築かため給ふ。建久年間源賴朝之を再興す。降りて戰國の世、兵燹に罹り、僅に三重塔のみを殘す。關ヶ原合戰の御、上田城主眞田昌幸、徳川秀忠の使者と當寺に會見す。弘化年間、金堂再建さる。往古の寺域は現寺域と千曲川との間の平地にして、其地、現に國分寺舊址として史蹟に指定せらる。蓋し、諸國國分寺大略國府の附近にあり。しかも當國國分寺此の如く城廓府にあらずして小縣郡にあり。異例とすべし。



(寶國) (要塔寺分國)

●寺地、上田の南方二十五町、境内千四百坪にして金堂・三重塔・鐘樓・開山堂・地藏堂・觀音堂・客殿・庫裡等の堂宇あり。就中、三重塔(三間三層、屋根銅板葺)は現に國寶建造物にして、唐様の組物を用ひ、内部は桶彩色を施す。金堂安置の兼師如來は行基作と傳ふ。●毎月八日を緣日とし、一月七日、八日を大緣日となす。俗稱即ち、に由來せり。當日近里の民人群集して市をたつ。俗に八日堂市、或は給市と稱して轉國甚し。

實相院

小縣郡傍岡村大字曲尾。

●天台宗。●金鐘山と號す。神龜二年、僧行基の開創に係り、其法弟圓如大いに堂宇を造營して靈應山慈濟寺實相院と號すと云ふ。大同元年、坂上田村麿兎賊討伐を本寺に祈願し、山號を金鐘山と改め、寺領若干を附す。弘仁二年、觀音院、光門院、中山院、龍藏院、富貴院、深々院の六坊の建立ありき。降りて建久五年源賴朝殿宇を再建し、北條時政及び頼原景時等の加印にて寺領二十貫文を寄す。貞治六年、足利義隆此處に熊野、山王、稻荷、白山諸明神の社廟を營み、一山の興隆著しかりしが、應永元年、雷火のため諸堂宇悉く灰燼に歸す。されど翌年直に再建せらる。天文年中、當郡葛尾城主村上義清、武田信玄と兵戈を交へ一敗して越後に奔るや、本寺其兵火に罹りて灰燼に歸し、寺領亦沒收せられしが、後ら武田信玄改めて甲金二百枚並に寺領二十貫文を寄せ、堂宇を再建せしむ。降りて寛保二年、上田城主松平伊賀守、本堂を重建す。次で同信之時、寺領六貫文に減す。

●本堂・庫裡・觀音堂等あり。境内に鬼石、鬼松と稱するものあり。坂上田村麿の討伐せし兎將及び其部下を埋葬し、其上に石を置き、松を植ふしものなりと傳ふ。

法住寺

小縣郡東内村大字法住。

●天台宗。●金峰山と號す。嘉祥年中、聖覺大師の開創に係ると傳ふ。永享年中興上せしが、寶徳二年、道岳之を再建す。文安年中、兵火に罹りて再度興上、堂塔及び塔

頭二十一箇寺灰燼に歸す。後再建成りしも舊觀に復するを得ず。天正十年、龍川一益、當寺々田百石を没收す。寛文十年、小諸城主酒井日向守忠能寺領十二石を寄す。貞享年中、中興開山秀順大いに堂宇を修築して寺觀を改めたり。

●本堂・庫裡・仁王門・虚空藏堂・十王堂・十師師堂等あり。就中、虚空藏堂(桁行三間、梁間四間、單層、屋根入母屋造、銅板葺)は文明十八年の再建にして、國寶建造物なり。工匠は周防守繁秀、近江守胤吉にして、唐様の斗栱を用ひ、木割雄大にして莊重、且つ屋根の母屋の入り棟に深く、ために輪廓極めて奇異なり。もと棟脊なりしを、銅板葺に改造せしに依り稍々其外観を損傷す。本尊福一満虚空藏尊は福徳の守護神として著聞し、又貞實一代守本尊として信仰する。寺寶として源義經主従十四人筆寫の大般若經・文明十八年虚空藏堂再建機札等を藏す。

大法寺

小縣郡浦里村大字當郷。

●天台宗。●一乘山觀音院と號す。大寶元年、僧定惠、文武天皇の勅願により之を創建し、大寶寺と稱すといふ。大同元年、僧義真之を再興す。永正五年表上、同八年、當國戸隠山勸修院月如之を再建す。元禄十年、應源の代、現寺觀に改め、延暦寺直末となる。●本堂・庫裡・三重塔・觀音堂等あり。就中、三重塔(三間三層、屋根柿葺)は國寶建造物なり。大同元年、坂上田村麿建立と傳ずるも、様式手法上室町初期の建築と推定さる。一に見返塔と稱せられ、均衡整美にして形體輕妙なり。正徳、寛政各年間及び大正九年各修理さる。觀音堂は一に金堂と稱し、水造十一面觀音



(寶蹟) (法重三寺大法)

前山寺

小縣郡西鹽田村大字前山。

●新義眞言宗智山派。●獨結山と號す。弘仁年中の創建にして、初め法藏院と稱す。應永年中、長秀法印之を再興し、寺號を正法院と號す。後更に前山寺と改む。時に信州四箇談林(更級郡信田村惠照寺、埴科郡寺尾村福徳寺、上高井郡日輪村蓮生寺)の首位たりき。武田氏の歸依厚く、寺領十貫四十九文の寄進あり。當時寺運隆盛にして、末寺四十有餘箇寺を有せしが、後衰微し、明治の初年に至りては末寺十一箇寺、會下三十有餘箇寺となれり。

温泉寺

諏訪郡上諏訪町。

●臨濟宗妙心寺派。●臨江山と號す。寛永十七年、領主諏訪出雲守忠愼之を開創し、下諏訪靈雲寺第十三世佛慧放光を開山となす。又寺領三十石を附し、以て諏訪家累代の菩提所とす。寛文十三年、應米高百石にして改め、佛供料として十九俵を寄せしが、明治初年、寺領悉く土地となる。●寺地四千九百四十坪。本堂・庫裡・經藏・鐘樓・地藏堂等を具ふ。寺寶として黄髮版一切經・銅製大佛・諏訪明神舍利塔等を藏す。境内に諏訪氏累代の墓所あり。●地藏會(四月二十三日、二十四日)。

教念寺

諏訪郡上諏訪町。

●淨土宗。●沿革由緒不詳。●寺寶に係る絹本着色羅漢像二幅は國寶に指定せらる。竪四尺五寸、幅一尺七寸五分、一は端坐型想する羅漢に紅蓮華を捧ぐる童子を配し、他は水邊に坐せる羅漢に前方の水より鬼形半身を出して寶珠を捧ぐる圖なり。圓相明かに宋朝風なるも、其描線、彩色は大和繪の手法になり氣品極めて高し。恐らく鎌倉時代を下らざる作なるべし。

慈雲寺

諏訪郡下諏訪町。

●臨濟宗妙心寺派。●白華山と號す。乾元二年、諏訪下社の大觀金刺豐久の開創に係り、甲州邊見付淨見寺の一山一寧を開山



(寶蹟) (塔重四寺聖安)

清和天皇の朝、八角四重の浮圖を経營し、安和年中、平維茂、戸隠山兎臥退治を祈願して四院、六十坊の諸堂を修營し、寺領千貫文を附す。壽永年間、木曾義仲の兵火に大患殿、八角四重塔を除き堂宇悉く炎上す。北條貞時執權の頃、常樂寺聖者性昇北向大悲殿を、機谷惟仙禪師は安樂寺を各再興し、長樂寺遂に廢滅したり。天龜二年、織田信長寺領を没收し、僧徒を逐ふ。住持什圓一人留まる。慶長年間、高山順京之を中興し、天和二年、眞田伊豆守信之寺領數百町歩を寄す。●寺境、愛宕山麓に位置し、本堂は北面するが故に北向觀音の名あり。堂宇には護摩堂・愛樂堂・仁王堂・鐘樓・八角四重塔等を具ふ。就中、八角四重塔(屋根柿葺)は國寶建造物なり。安和二年平維茂建立當初の儘なりと傳ふるも、各部の様式唐様にして、細部の手法はむしろ室町時代の特色を示す。その形式八角四層にして各層風の勾配緩く、軒端に反轉を有し、第三層、第四層は柱間に方窓を作る等形體極めて珍奇にして他に類を見ず、稀有の奇構として我國建築史上特に注目さる。其他、國寶に指定せらるものに、水造機谷惟仙禪師及び同惠仁和尙坐像二軀あり。前者には嘉曆四年七月造云々、後者には嘉曆四年九月十二日造立の胎内銘を存し、共に鎌倉時代の佳作たるを失はばす。

●本堂・庫裡・衆寮・護摩堂・三重塔等あり。就中、三重塔(三間三層、屋根柿葺)は國寶建造物にして室町初期の建築と推定せらる。上中層の勾欄消失するも形體整齊し、特に象鼻様の頭貫端に妙趣を有す。寺寶として武田信玄朱印狀・空海筆般若心經・同所持獨結・紺紙金泥法華經等を有す。

中禪寺

小縣郡西鹽田村大字前山。

●新義眞言宗智山派。●龍王山と號す。天長年中、空海請雨の法を修せし靈蹟に就きて開創せりと傳ふ。永享年中表上し、後覺尊之を再建せしし、寛文五年、再び同縁に罹り、堂宇殆ど燒燼す。享保五年、祐清之を再興して今日に至る。寺寶一貫五百文を有せり。●堂宇には本堂・衆師堂等あり。本尊には延命地藏尊を安置す。衆師堂本尊は木造衆師如來坐像にして、之に附屬する木造神將立像一軀と共に國寶なり。衆師如來は典型的なる藤原式佛像にして地方稀有の優作たり。其製作期恐らく鎌倉中期を下らざるべし。座光亦大略像と同時代なるべく、蓮花座の受板に墨描されし人物畫は注目し、附屬の神將像は今僅かに一體を存するのみにして、當像亦破損著し。手法稍々本尊と異り古調を傳へたり。

安樂寺

(別所觀音) 小縣郡別所村。

●曹洞宗。●北向山と號す。俗に別所觀音、北向觀音の名あり。天平年中、僧行基、此地に瑠璃殿を建立して衆師如來を安置し、且つ長樂、安樂、常樂の三樂寺を造營す。

頼岳寺

諏訪郡水明村。

●曹洞宗。●少林山靈湖禪林と號す。永享年中、領主諏訪安藝守頼高の創建に係り、初め寶壽山水明寺と號し、一山十二坊、諏訪氏累代の香華院として、寺門大いに繁榮せしが、後次第に荒廢す。天文年中、同頼高之を再興せしし、永祿年間、兵火に罹り、加之、諏訪氏の退轉等ありて寺運再び衰退す。慶長六年、頼高の子頼水當郡領主となりて再興を圖る。即ち寛永七年、水明寺の舊址に就きて伽藍を建立し、上州白井庄雙林寺第十三世大通關叡を中興の開山に請じ、寺號を頼岳寺と改め、寺領百石、山林十八町歩を附す。爾來、歴代領主の歸依厚く、堂宇、支院等漸次再建せられ、嘉永年間

には二十餘棟の殿閣を連れ、近郷の一大禪窟として重きをなし、時に當國副僧徒たりき。然るに安政六年四月回祿に罹り、伽藍殆ど焼燼す。後、第二十五世祖所遺之を再建せしむ、明治三十四年、山門、寶庫、經藏、藏經を再興し再び興す。其後、愚溪一俊、孤峯智暉等諸堂を建立して今日に及ぶ。

歡喜院

諏訪郡北山村。

●浄土宗。●迎授山と號す。後小角草庵の舊蹟なりと傳ふ。後文明年間、歡喜道、之を現地(字柏原)に再興して迎授山歡喜院從來寺と號す。永祿年間、宍住之を重興す。武田信玄川中島出陣に際し、當山に宿し、戰勝を祈りて陣糧を納むと云ふ。其後、享和三年に至る迄數度の火災に遇ひしが、文化四年六月、堂宇漸く再建さる。後再び衰へしが、大正二年、三十世傳譽、庫裡其他を改築して寺觀を一新せり。現に知恩院未たり。●境内二百五十坪、本堂・庫裡・山門・觀音堂・諏訪百番中東三番、成田不動尊堂等を見ふ。寺寶として武田信玄寄進に係る陣鐘あり。●成田山縁日(毎月二十七日)、觀音堂縁日(毎月十七日)等を行ふ。

安國寺

諏訪郡宮川村。

●臨濟宗妙心寺派。●多平山と號す。曆應二年、足利直義所願の諸國安國寺の一なり。長祿年中、諏訪信濃守政滿入道雲庭、之を中興せしむ、文明十四年五月、水難に覆没す。天文十一年、諏訪頼茂亡び、同新次郎滿當寺正覺庵に入りて修禪し、然溪中派と稱す。其二子を甲府に實せし、武田家より永四十一貫文の寺領を安堵せらる。時に甲州勝岳和尚住持となりしが、後、甲州田野山に歸る。天正十年六月、然溪の二男小太郎頼忠兵を擧げ、故封を恢復するに及び、同十一年、境内禁札を下す。近世寺領十五町餘を有し、堂宇整備すといふ。

觀音院

諏訪郡漆村。

●新義眞言宗智山派。●龍光山と號す。創建年代詳ならずと雖も、往古、諏訪郡より十一面觀音出現し、之を湖岸丘上の淨地に假字を營みて安置す。是即ち當寺の濫觴なりと傳ふ。寛永二十一年、領主諏訪出雲守忠晴堂宇を改築し、正徳五年、諏訪安藝守忠茂本堂を再建す。爾來、諏訪家歴代の祈願所となり、其保厚く、寺領十石の墨印並びに周圍五町二十間餘の寺地を興へらる。明治維新後、稍々衰頹せしが、檀信協力して寺門の維持に當り、以て現在に至る。●寺境、諏訪湖岸龍光山上に位置し、樹木蒼然として幽靜自ら俗を隔つ。風に諏訪八景の第一に列する景勝の地にして、頗る風光に富む。所在の堂宇には觀音堂・鐘樓・表門・龍堂・津島牛頭天王社等あり。本尊は十一面觀音にして、曾て湖中より出現の際、漁夫の携へし竹籠の上に奉安せられし故傳に從ひ、今尙竹籠上に安置せらるると云ふ。寺寶として弘法大師御印一

建福寺

上伊那郡高遠町西高遠。

●臨濟宗妙心寺派。●建長五年、大覺禪師の創建に係る。初め乾福寺と號せしが、後建福興國禪寺と改稱し、東谷禪師之を中興す。本尊には華嚴會上の釋迦如來を安置す。郡内古名刹の一たり。●寺寶中、紙本墨書中觀音左右龍虎圖三幅は國寶なり。狩野與以の筆にして、各幅に其印記を存す。左右の龍虎は牧溪風、中幅(五尺五寸二分、幅三尺五寸)は白衣觀音の巖上に坐する圖なり。構圖よく整ひ、筆達端正なる筆力と温潤の墨氣と相俟つて、畫格頗る高し。興以の代表的傑作たるのみならず、我國繪畫史上、看過す可からざる作品なりとす。

光前寺

上伊那郡本栖村。

●天台宗。●寶積山と號す。貞觀二年、慈覺大師の弟子本聖の開創に係る。爾來、寺運隆昌を極め、天正八年三月、武田氏寺領百石餘を寄す。同十年、織田信忠の兵火に罹りしも、後再建成る。慶安二年八月、徳川家光、寺領六十石の朱印狀を寄す。●本堂・仁王門・山門・鐘樓・庫裡・客殿・念佛堂・奏樂殿・辨天堂・三重塔等の堂宇あり。本尊は不動明王及び脇士八大童子なり。寺寶に巨勢金剛阿闍陀如來畫像・同筆十六尊神・中將聖筆十三佛・光嚴司筆祖

堂像・狩野光信筆畫屏風・牧溪筆十六羅漢三幅、武田氏朱印狀等を藏す。

光專寺

下伊那郡市田村大字吉田。

●天台宗。●古城山攝取院と號す。永祿三年、西譽上人の開創に係る。天正年間、武田信玄の麾下吉村某堂宇を修營し、寺領八十石を附して其菩提所となし、淳賢を住持とす。同十年、織田氏の兵燹に罹り、堂宇烏有に歸す。後、漸次復舊成る。延寶年中、本村宮原より現地に移り、本堂を再建す。●境内約六百坪。●觀音會(毎月十七日)、御忌會(二月)。

瑞瑠寺

下伊那郡市田村大字大島山。

●天台宗。●大島山醫王院と號す。天永三年の創建にして開山は比叡山竹林院觀音僧都なりと云ふ。其後、叡山北谷賣乘入山し、大いに寺門の再興に努む。もと字堂斯と稱する地にありしが、文治二年現地に移す。建久年間、源頼朝の新願所となり、寺領七百五十石を有す。元龜年間、叡山正覺院盛家來住し、武田信玄の歸依厚く、寺領若干を附して其祈願所とす。慶長年中、徳川家康寺領二十五石の朱印を寄す。時の住持榮運、諸堂の再建に努め、寺觀整備するに至る。現に全性院、法性院の二子院あり。●本堂・客殿・庫裡・觀音堂・地藏堂・鐘樓・仁王門・五所權現社・山王社等を見ふ。寺寶として武田信玄書簡・光嚴司筆十六羅漢畫像(信玄寄進)・信玄寄進

古刀・百濟河成筆畫明王畫像・山越阿彌陀如來圖等あり。境内に頼朝白龍樓と稱するものあり。

願王寺

下伊那郡那村大字寶垣。

●天台宗。●寶垣山と號す。貞元年中、僧徒慈覺大師作見處述部傳を護持して此地に來り、一字を創して述部山安平寺と號せしに由來すと云ふ。永享年中、關東管領家滅亡し、家臣大井次郎義光、足利持氏の季子永壽王丸を擁し、安平寺に入りて難を避く。住持廣福は持氏の旗兄なりしを以て之を扶育す。永壽長じて松川の末流、山村(那村の舊稱)に居館を構ふ(現に寶垣奥ノ院と稱す)。時に白狐出現の奇蹟あり、依りて居館の乾に一堂を營み稱荷吒根尼尊天を祀る。寶徳元年、鎌倉に還り、足利成氏と稱し、關東管領となるに及び、先考及び三兄の追福のため菩提の舊地に就きて一字を創す。且つ安平寺本尊大日如來を移安し、稱荷を鎮守神とし寺領若干を寄せ、廣福を開山に請す。之れ即ち願王寺にして又法苑院とも號せりと云ふ。因みに北佐久郡三井村大字安原の安養寺(其項參照)も亦永壽王丸潛居の地なりと傳へたり。天正十年、織田氏の兵火に堂宇烏有に歸す。慶長二年、佛接僧都之を再興せしが、正徳五年松川思齋あり、爲に講堂流せしかば、時の住僧辨存之を現地に移して再建す。

開善寺

下伊那郡龍丘村大字上川路。

●臨濟宗妙心寺派。●譽秀山と號す。建武二年、小笠原貞宗、勳を奉じて七堂伽藍及び東西兩階僧房八字を建立し、清拙正澄

(大經禪師)を招請して開山となす。時に後醍醐天皇、勳額を下賜せらる。爾來、禪宗二十四流中、清拙派の根本道場として法燈輝き、中山清閑、古鏡明子、正善清權、龍峰龜巨、大翁清光、春澤清正、伯元清輝、天與清尊、古雲知云、月浦清光、自天清祐等の碩學高僧相次で住す。應永三十四年八月、足利義持當寺を以て本朝十刹の中に列せしむ。檀越小笠原氏當郡川路、中村兩郷の内寺領二千石を附し、寺門愈々隆盛を極む。されど明應八年四月、回祿の災に罹り、山門を燒して一山の堂宇、勳額等悉く喪失す。永正三年六月、佛殿を再建せしむ。同年十月、願樓の瓦に遭ひて再び燒亡す。戰國の世に入りて外護の檀越を失ひ、唱法の師亦乏しく、宗風頹に振へず。天文十八年、小笠原貞宗の子孫信賢、武田信玄の命により堂宇を再興し、述傳(本覺靈明禪師)を請じて中興開山とす。天正十年、織田信長、武田勝頼を攻めし時、其臣明智光秀の燒く所となる。文祿三年、京極修理大夫、再營の堂宇を徵發して飯田城中に移す。慶長六年、小笠原秀政の飯田城に封せらる、や、寺領三十石の外六十五石を加増せしむ。慶安元年、幕府、朝日詔水をして三十五石に減せしむ。承應四年、妙心寺派に讓じ、從來の僧官授與の特権を停止せらる。天明二年、薩摩御所大覺寺宮より譽秀山の御額を賜ふ。明治維新の際、寺領は悉く沒收せられ境内亦半減せられしも、現に述傳一流の法源地として三十有餘の分法寺院を有す。もと昇階庵、正嚴院、卜雲軒、安勝軒、不食庵、梅宅軒、趙東院、龜軒軒の八塔頭ありしが、今は其址を止むのみ。●層層林丘逶迤して西北を圍み、龍米の二川逶迤として東南を繞り、境内廣潤、老杉古松鬱然として堂塔を掩ふ。幽靜の淨地なり。所在の堂宇は寛永以後漸次再建せられしものにして、大方丈(靈明閣)・鐘樓(吼

雲梯・動門・山門(増廣閣)・庫司・書院(月香寮)・寶藏・觀自在樓等の殿を連ね。寺寶として開山木像・同製袈・吳道士筆涅槃像・後二條天皇宮筆歌切・雪舟筆羅漢圖・雪村寒山拾得・光嚴司筆二十八祖畫像・狩野元信筆鳥屏風一雙・大經師眞蹟二軸・千光・夢窓國師墨蹟を初め、古書畫・古器・古文書等百數十點を蔵す。なほ境内及び附近に信濃梅の古木、後醍醐天皇第七皇女藤子内親王の陵墓、小笠原貞宗墳墓、白鷺池、琴原丘、般若苑、飛來峯、含玉池其他八境十勝等の古蹟名勝多し。

藥師堂(月見堂) 下伊那郡智里村。

●天台宗。
●俗に月見堂の名を以て著聞す。大同年間、傳教大師東遊の御、神坂峠(伊那と惠那との境)の險に於て諸人通行の難儀を救はん爲め峠の兩麓に廣狹、廣濟兩院を建立す。當寺は廣狹院の遺跡なりと傳ふ。蓋し之れ僧徒に依りて諸國に設けられ、旅人の留宿休止に便せし布施屋(伏屋)なりしなるべく、當地一帯も布施屋と稱せしは即ちそれを物語りり。
●境内約六百坪あり。本堂には本尊藥師如來を安置す。地、觀月に適し、古來、文人墨客の訪れる者多く堂前に源仲正の「木賊刈る關原山の木の間よりみがかれ出る秋の夜の月」の歌碑を建つ。草木、木賊山等の名所皆此附近に在り。

福徳庵(福徳堂) 下伊那郡大鹿村大字大河原。

●曹洞宗。
●寶王山と號す。平治元年の創建に係り、後宗良

親王の新願所たりき。

●堂宇中、本堂(桁行三間、梁間三間、屋根入母屋造・檜瓦葺)は國寶建造物なり。數度の修補に痛く舊態を損するも、柱、肘木、礎等細部の手法によく藤原末期の華麗なる特色を示す。

興禪寺 西筑摩郡福島町。

●臨濟宗妙心寺派。
●萬松山と號す。草創年代詳ならずとも、傳ふるところによれば、當寺も熊澤村寺兒にありしを後ち現地に移せしものなりといふ。後花園天皇の朝、永享六年(一四六〇)嘉吉年間、木曾式部大輔信道、其遺祖義仲の遺廟を修せんが爲め福島の廢寺を興して大華和尚を開山に請じ、庄田數町を寄進す。文政元年十二月、同兵部少輔豐家また大梵鐘を鑄造して鐘樓を建立す。其後三十餘年、左京大夫義元に至り深く佛法に歸せしが、其弟叔雅入りて住持となるや、大いに伽藍を改修して勤使門を境内に移し、又八幡山下堅門より義仲御影觀音を遷請して、中興の業を全うす。叔雅以後名僧なく、寺宇漸く廢壞せしが、寛永十八年四月二十日、回祿の災に罹り、信道以來の殿堂、觀音堂を併せて烏有に歸す。茲に於て桂房、周谷兩和尚刻苦し、正保二年、代官山村眞實の助成により佛殿、觀音堂を再建、承應三年、山門を興し、明暦二年、梵鐘を鑄造す。爾來二百五十餘年、明治三十九年十二月二十四日再び炎上、本堂、山門、鐘樓、觀音堂等擧げて灰燼に歸す。大正元年本堂を再建せしも、昭和二年五月十二日、三度祝融の襲ふところとなり、本堂、庫裡、勤使門(國寶建造物)等悉く燒失、現に本堂の建築工事中なり。

●舊堂宇中、表門は一に勤使門と稱し、四脚、屋根切妻造、棟脊にして室町中期の建築なりき。其手法に唐樣を混じたるに依り、細部の構造様式等頗る珍奇なるあり。此種欄門初期の作例として貴重なる遺構なりしに、惜むべし昭和二年五月の火災に燒失せり。尙ほ舊佛殿の北裏に鑿有たる繪山十二可歩あり。明治十七年以來御料林たりしが、大正五年拂下げられ、現に風致保存林たり。



(寶國) (門表新寺禪興)

日大松明を奉り、俱利伽羅谷の戰勝を記念したるに基きしものにして、明治初年頃まで行はれたりといふ。風流は今の木曾藩の前身にして、後には男女士民打5混じり舞臺して舞臺し夜を歌するに至れりとい傳へらる。

臨川寺 西筑摩郡上松町。

●臨濟宗妙心寺派。
●覺山と號す。創建年代不詳なれど、元龜の頃、三歸翁なる者、一字を削して寓居せり。即ち以て本寺の流傳なりと傳ふ。寛永元年、尾張藩祖徳川義直、山村伊勢守貞時を命じ、堂宇を建立せしめ、嚴給宗長和尚を請じて開山となす。爾來、尾州公の輔佐厚く、其新願所として、寺領若干を附せらる。當時本堂、方丈、庫裡、支院、鐘樓、開山堂、辨財天社、拜殿、經藏、有功門等を具へし、文久三年五月、回祿に罹り、其大半烏有に歸す。後漸次復舊して假建築の儘現在に至る。
●寺境、野覺の床に臨みて約六千坪、奇巖絶壁に圍繞さる。名勝數區として近郷に鳴る。所在の堂宇には本堂・開山堂・庫裡・表門・經藏・辨財天堂・寶藏等あり。寺寶に明兆筆羅漢之圖・探幽筆群鶴之圖・文苑筆山水之圖・尾張公寄納品數種等を蔵す。なほ境内に芭蕉新碑、也有新碑、徳川義直手植松等あり。附近に浦島太郎有縁の古跡多し。
●境内三徳稲荷大祭(四月二十一日、十一月一日)には遠近より賽者接踵し、盛賑を極む。

徳音寺 西筑摩郡日義村大字宮ノ越。

●臨濟宗妙心寺派。
●日照山と號す。壽永元年、木曾義仲の創建にして開山は大夫坊覺明なりと云ふ。後木曾義仲の陣歿するや、其菩提所となる。其後水腫に遇ひて堂宇流失し、寺宇の廢頽著しかりしが、天正七年、大安和尚中興す。もと眞言宗なりしを其後現宗に轉す。昭和八年四月、義仲公七百五十年祭執行せらる。

廣澤寺 東筑摩郡里山邊村。

●曹洞宗。
●龍雲山と號す。嘉吉元年、筑摩郡井川城主小笠原政康の開創にして、開山は越前國南條郡宅見村慈眼寺雪原一純禪師なり。もと護法山乘蓮寺と號せしが、寶徳元年、小笠原持長之を龍雲寺と改む。天文十八年十月、小笠原長棟(廣澤寺殿天祥正安大居士と號す)を特り其法座に因みて現號に改め、長棟を中興の開基となす。慶長十九年、小笠原秀政寺領五十石を附し、慶安二年、徳川家光十石及び山竹木等を寄進す。
●寺境山腹に位し、老杉古松鬱蒼たる幽邃地なり。本堂に小笠原秀政を初め、其家臣三十名の位牌を安置す。堂宇として此他に庫裡・乘寮・開山堂・寶庫・小笠原氏重剛等存す。寺寶に蜀江錦九條袈裟・堆朱香合・小笠原氏寄進狀・同朱印狀等を所蔵す。

兜川寺 東筑摩郡里山邊村。

●新義眞言宗智山派。
●慧日高麗山と號し、正しくは兜川靈瑞寺と稱す。聖德太子の創建にして、自作の無量光佛を奉安し給ふと傳ふ。天平八年、菩提薩那此地に來り、留錫する事三年に及ぶと云ふ。後空海禪場光佛を刻し、最澄亦千手觀音像を奉納してより、台密の徒各十二坊を構へ法威大いに振ひしが、其後、寺内の台徒觀山に去り、

安養寺 東筑摩郡波多村。

●眞宗本願寺派。
●諏訪山と號す。往昔、道祐和尚當地に來り梓川の上述に梓の大樹を得、聖德太子像を刻み、一字を削して之を安置せしに創まる云ふ。其後、富國仁科領主小松盛政(實盛孫)入道して了政と號し、之を再興して安養寺と改稱す。第六世了珍の時、蓮如に歸して眞宗の佛寺となす。依りて了珍を中興開基と稱す。永祿年間、寺基を中上手へ轉す。元祿九年九月、第十二世了

●本堂、太子堂、鐘樓等を造營して伽藍を整備せしが、寶曆年間、水害を蒙りて流失す。依りて同十一年十一月、現地に轉す。もと境内に圓明寺、正覺寺、即現寺、了泉寺、懷念寺等の子院ありしが、明治六年本寺の管轄を脱し、本山直屬となれり。

保福寺

東筑摩郡中山村。

●應濟宗妙心寺派。●金峯山と號し、當國運禮三十三所中第四番の札所なり。正平二十二年の創建にして、近江國高野村永源寺第二世圓明證智を開山とす。天正年間、同縁に罹りしが、慶長の初年、當郡松本城主小笠原秀政之を重興し、山城國花園妙心寺住僧天桂和尚を請じて之に住せしむ。是より永源寺所屬を脱して妙心寺派に歸す。寛永元年、當國諏訪郡高島城主諏訪因幡守、此地を領有するや、寺領十六石及び觀音堂料五十石、秋粟料銀子十石等を寄す。

西善寺

東筑摩郡和田村大字境。

●天台宗。●開光山と號す。開創年代不詳なれど、古來地方名刹の一にして、現に信府運禮三十三所第三番の札所なり。

●佛眼山と號す。初め、岩龍山西谷寺と稱せしが、應仁元年三月、遠州周智郡地頭方村善住寺第二世賢甫宗俊之を再興し、現號に改む。弘治元年、武田信玄川中島に兵を運むるや、當寺に宿して戰勝を祈願し、寺領永三貫文を附せりといふ。慶安四年、徳川家光寺領八石の朱印狀を寄す。

法善寺

東筑摩郡麻績村。

●曹洞宗。●佛眼山と號す。初め、岩龍山西谷寺と稱せしが、應仁元年三月、遠州周智郡地頭方村善住寺第二世賢甫宗俊之を再興し、現號に改む。弘治元年、武田信玄川中島に兵を運むるや、當寺に宿して戰勝を祈願し、寺領永三貫文を附せりといふ。慶安四年、徳川家光寺領八石の朱印狀を寄す。

觀音寺

東筑摩郡本城村大字西條。

●曹洞宗。●富藏山と號す。天正三年の創建にして、胸海湛然之が中興開山たりと云ふ。もと當郡中川村勝地にありしが、明治七年、觀融の災に罹り、堂宇烏有に歸せしかば、同十八年、現地に寺基を移して堂宇を再建す。

●本尊彌陀如來は善光寺本尊を模刻せるものにて、善光寺如來四十八願所中第四十六番に列す。●寺寶として金泥彩色涅槃像(豐田常住尊・松本藩主水野忠周筆彌陀名號・彈阿上人筆彌陀名號(俗に兩乞名號と稱す)等あり。●一月七日に靈佛開扉あり。賽者境内に滿つ。舊二月八日より十五日まで念佛供養を修す。信者群參し、大念珠を車力によりて回轉し、念佛を誦す。

牛伏寺

東筑摩郡片丘村。

●新義眞言宗智山派。●金峯山と號す。俗に牛伏觀音の名を以て開闢。聖德太子四十二歳の時、等身の觀音菩薩を自刻し、鉢伏山上に蓮臺(現境内を距る二十四町に舊址あり)を創して之を安置し、普賢院と號すと云ふ。天平年間、唐玄宗自筆の紺紙金泥大般若經を善光寺に奉納せんとするや、荷ひたる牛の此地に墜れたるより、該經卷を當山に納め、數牛を山麓に埋む。今の牛堂の地是なりと。依りて寺號を牛伏寺と改むと傳ふ。建保三年、泉長者小二郎觀智堂字を字堂平に移す。應永十三年より同十九年に亘り、領主波多野大和守清時、其弟小池左馬亮信源大いに堂塔を修營す。天文三年、靈尊更に現地に移して中興す。天正九年、武田信綱永三貫文を寄せたり。慶長十七年七月、同縁に罹り堂宇烏有に歸す。同十九年、小笠原秀政より寺領十五石の寄進あり。元和三年以來諸堂の再興に着手し、正徳五年に至りて整備す。源忠晴、寛文十三年に二十石、元禄十年に更に三十石を寄進す。寛政八年十一月、再び同縁に罹り、本堂、鐘樓等を除き、悉く焼燼す。現堂宇は其後の再建なり。近世寺領五十石を有す。當寺、古來南



(牛伏寺本堂)

金龍寺

南安曇郡高家村。

●應濟宗妙心寺派。●乘渡山と號す。嘉禄年間、後鳥羽上皇の勅願により行基一字を創して觀世音を安置し、乘渡山金龍寺と號す。是れ本寺の濫觴なりと傳ふ。後ら眞々部尾張守平長雄堂宇を再建し、善明大濟國師を請じて住せしめ金乘山眞珠院と改めて自家の香華院となす。久しからずして寺門廢滅に歸せしが、慶安二年、法嚴之を再興し、鎌倉長寺派所屬を改めて妙心寺派となす。明治初年、廢佛棄釋の際、住持は睡興し、檀徒散散せしに依り、同五年、無住無權の故を以て遂に廢せらる。同十一年八月、信徒の懇望により蜀山和尚之を再興し寺號を舊に復す。

松寺

北安曇郡大町。

●曹洞宗。●大海山と號す。應永十一年、城主仁科盛忠の創建に依り、實盛眞秀を開山となす。天正十年仁科氏滅亡

後、寺領を失ひて大いに衰微せしが、慶長十九年、小笠原貞慶其復舊を授け、且つ寺領を附す。慶安二年、徳川家光寺領十石の朱印状を寄す。時に堂宇再興せられ、寺觀舊に復せしが、弘化四年、信州大置の際、火を失して諸堂炎上す。明治初年、癸卯遷葬の際、住持遠澤之が地蔵に努め、遂に廢寺の難を免れたり。

大澤寺

曹洞宗。北安曇郡平村。

●曹洞宗。延暦年間、坂上田村麿の開創に係る。神龍山の號す。醍醐天皇の皇子正信親王、一條修理大夫高直當地に左遷せらるゝに及び、親王當山を再興して之に住し給ふ。依りて大澤寺號法大僧正と號し奉り、中興の祖と崇む。元亨年間、後醍醐天皇、新雨の報賽として、下馬、下業の二碑を下賜し給ふ。文明二年、領主仁科輝正少弼平直盛、堂宇を再建し、祖意和尚を住持とし、本寺を重興す。安永八年、二條家の新願所となる。住持寺領七十石を有し、諸堂整備し、境域六千四十餘坪に亘り、寺運頗る壯なりしが、明治維新後、殆く衰へたり。

●境内廣瀨にして老樹鬱蒼たる淨境なり。堂宇には本堂・客殿・庫裡・方丈・山門・開山堂・鐘樓等整備す。寺實に後柏原天皇御宇和歌・後醍醐天皇下賜下馬下業の二碑・小笠原秀政朱印狀其他古文書多數藏す。附近に正信親王の陵墓あり。當郡大町西一里餘、常盤

泉福寺

北安曇郡陸郷村。

●古義眞言宗。大穴山と號し、本宗高野末なり。壽永元年、木曾義仲の開創に係り、其念持佛なる樂師如來を安置し、雲海を開山に請す。且つ寺領十五石を寄せ、其新願所となす。元龜元年、武田信玄寺領及び境内不入の朱印状を寄す。天正年間、松本城主小笠原貞慶更に寺領十五石を加増す。慶安二年、徳川家光亦先規に従ひ寺領十五石の朱印状を附す。天明四年四月、回縁に罹り、諸堂烏有に歸せしが、其後久しからずして再建せらる。末寺として現に東筑摩郡生坂村照明寺以下四箇寺を有す。

長雲寺

更級郡稻荷山町。

●新義眞言宗智山派。

●新義眞言宗智山派。延享三年本堂を夫々再建す。本堂・庫裡・子安堂・觀音堂・自助堂・開基殿等を具ふ。寺實に天照大神畫像・大日如來畫像其他古文書數通を藏す。

專照寺

更級郡信田村大字春田。

●新義眞言宗豐山派。金福山龜峯院と號す。此地も弘法大師留錫の靈跡と傳へ、大治元年六月、祐俊茲に堂宇を修營し、第一祖となる。貞治五年、讚州善通寺長秀當寺に來住し、青山の中央より現地に寺基を移す。爾來寺運振ひ、歴代領主の補佐厚く、寺領若干を附するを例とせり。慶安二年七月、徳川家光先規に準じて、寺領十二石及び山林地數町を寄進す。元祿七年三月、松代城主眞田伊豆守幸道十二石七斗の門役を免す。文化十三年八月、回縁に罹りしが、文政十二年、第三十三世榮高之を中興す。

大雲寺

更級郡八幡村。

●曹洞宗。八幡山と號す。創建年代詳ならずも、もろ八幡山泉福寺と稱す。中古、木曾義仲、平家追討の御、横田原の合戦に先ち、矢崎製の木清水の邊なる八幡宮に詣りて戰勝を祈る。後ち報賽のため若干の神田を寄進し、當寺を其別當寺となす。其後幾多の變遷を経て僅に本

●龍燈山平格院と號す。元暦年間、快麟比丘の開創に係り、もろ長運寺と稱す。天文二十三年十一月、武田信玄の兵燹に罹り、堂宇烏有に歸せしが、元龜二年、第四世尊喜之を再建す。正徳五年三月、十六世眞言の代、從來高野山龍光院末なりしを、師室仁和寺末に轉じ、長雲寺と改稱す。時に龍燈寺より本尊五大明王、愛染明王及び阿彌陀如來像を、又仁和寺より十六番神畫像並に不動明王を受けたり。其後更に新義眞言宗に屬して智積院末となる。寛政五年、本堂を再建せしも弘化四年焼失す。今の本堂は明治二十年の建立なり。

康樂寺

更級郡鹽崎村。

●眞宗本願寺派。白鳥山報恩院と號す。親鸞の弟子西佛(大夫坊覺明)の開創に係る。西佛はもろ蓮士藏人道廣と稱し、南都興福寺勸學院の文章博士たりしが、治承四年、高倉宮以仁王、清盛追討の企あり、謀叛を南都興福寺へ下し給ふ。時に道廣返狀を認め、清盛は平氏之精補武家の塵芥なりと云ふ。清盛即ち大いに怒り之を追捕せしむ。依りて出家し僧侶となりしも免るべからざるを知り、南都を出で木曾に下り、木曾義仲の謀士となり大夫坊覺明と稱す。義仲歿後、觀山に登りて圓通院靜寛(淨觀)と改め、親鸞の門に入る。建仁元年、親鸞と共に法然の門に遊び號を西佛と改む。後ち親鸞の配流と共に、北越及び關東に隨從す。建曆二年三月、親鸞

長谷寺

更級郡鹽崎村。

●古義眞言宗。金峯山龍福院と號し、本宗高野末なり。當郡三十所中第十八番札所なり。元龜天皇の皇子八約白彦皇子、眉輪王の變に坂合墨彦皇女と共に逃れて當國に滯居せらる。舒明天皇御宇、其五世の孫自助、皇子追福の爲め一庵を創し、十一面觀音を祈念す。後ち承和五年現地に一字を創建して之に移轉すと云ふ。降りて養和元年六月、木曾義仲の兵燹に罹りて堂宇炎上す。爾來久しく荒廢に歸せしが正應三年、久明親王寺田若干を附し、眞海をして再興せしめらる。慶長年間、徳川家康寺領十五石を附す。松平忠徳此地に領主となるや、其新願所となし、經十條を寄す。寛文十二年觀音堂、



(景全寺攝大)

長樂寺

更級郡八幡村。

●天台宗。なほ境内池畔に櫻花殊に多く、世に大雲寺樓と稱せられて花季賽者遊客甚だ多し。附近に梨木清水、泉福寺屋敷、本八幡、矢崎地蔵等の舊蹟あり。

●説捨山放光院と説す。往昔、八幡神宮寺の屬坊なりしが、神宮寺廢せられて、今は當寺のみ残り。當山風に觀月の名勝として著聞し、古來騷人墨客の詠詠に上るもの枚舉に遑あらず。なほ有名なる説捨山の故事は古今集の歌、大和物語、無名抄、袖中抄等に評なり。



(景念寺樂長)

●地、城捨山麓に位置し、善光寺平脚下に展げ、前面千曲の清冽を隔て、鏡臺山と相對し、相對し、仲秋觀月の名勝たるのみならず、四時の麗潔極めて佳なり。堂宇に本堂、滿月殿・月見堂等を具ふ。境内に桂大木(天然記念物)、芭蕉句碑、成徳の碑あり。なほ冠着岳、鏡臺山、有明山、一重山、鏡石、甥石、小袋石、更級川、田毎月、桂樹、賣ヶ池、雲手橋等を總稱して十三勝と云ふ。

●大般若轉讀會(三月二十三日)。

龍洞院 更級郡桑原村。

●曹洞宗。

●桑原山と説し、遠州可睡野に屬す。應永年間、桑原左近大夫の創建にして、惣仲和尚を開山とす。文龜年間兵火に罹り、堂宇尙有に歸す。永正元年、第七世大陽、大檀越桑原左近將監の授資により之を復興す。時に舊稱龍燈院を現號に改む。慶安年間、徳川幕府寺領十五石の朱印狀を附す。天和年間再び同様に罹り、明和六年、當國松代城主眞田氏家臣根津直治諸堂を復興す。文化元年黒門を、安政元年開山堂、鐘樓を、嘉永六年方丈を、明治十七年經藏等を各造修す。現に末寺眞龍寺、大雲寺、眞龍寺、眞藏寺、眞藏寺、眞藏寺、淨光庵等の七刹を有し、外に孫末七箇寺あり。

●寺城十二萬七千坪。開山堂・庫裡・總門・鐘樓・黒門・方丈・經藏等を具へ、規模頗る宏壯なり。寺寶に青蓮院宮尊澄法親王眞蹟・一乘宮眞敬法親王眞蹟其他數點を藏す。

蓮香寺(附、鬼神堂) 更級郡津村大字原。

●淨土宗。

●貞和五年、名譽月秀本寺を草創し、貞治六年、堂宇建立せらる。貞享年間に至り、寺基を現地に移す。●境内九百六十坪、本堂・庫裡・鐘樓・開山堂等を具ふ。寺寶として三尊來迎佛(絹地繪取)・山越三尊來迎佛等を藏す。當寺飛地佛堂(一里半程距りたる信里村にあり)に鬼神堂あり。水遣子安觀神像一軀を安置す。現に國寶に指定せらる。所にして、總身彩色の女裝にして裸形の幼兒を抱く像なり。胎内及び胎裏に「我初爲眞新三寶神喜歡天助神護眞靈喜運、依之奉造立

智識寺(大御堂) 更級郡上山田村大字上山田。

●新義眞言宗豐山派。

●俗に大御堂と云ふ。●天不十二年、行基の開創に係り、行基作十一面觀音菩薩を安置す。寺傳に慶長十四年三月住僧廣雅本堂を再建すと云ふ。●堂宇中、本堂を國寶建造物に指定せらる。桁行三



(寶蹟)(堂本寺廣智)

間、梁間四間、單層、屋根四注造、茅葺の建築にして慶長十四年の再建と傳へらる。組物唐様にして、内外素木造なり。後世の修補多く著しく外観を損するも、其細部の手法より見て寺傳大專觀の得べし。

本誓寺 埴科郡松代町。

●眞宗大谷派。

●平林山新田院と説し、觀音門内二十四家第十是信房の遺跡なり。是信房曾て陸中和賀郡に一字を創せしが、後高國に來り、建保元年、本寺を建立す。其後師命を承け、再び奥州に赴くにあたり、之を其門下親照房に附屬す。これ即ち同じく是信房の遺跡たる盛岡本誓寺分派と稱する所以なり。四世宗信(新田義貞の子、四郎義重なりと傳ふ)倉科村より生堂村南無阿彌に移す。永祿二年、武田信玄の命により再び倉科村方領に移す。寺領七十貫文を附せらる。慶長十九年、松平忠輝移封の時、現地に移りて諸堂並に境内に本覺寺、西方寺、淨信寺、光明寺、覺法寺、源蓮寺、正教寺、專稱寺、光西寺、眞宗寺、覺圓寺、淨蓮寺の十二箇寺を建立し、徳川秀忠よりは寺領十六石七斗餘を附せられ、寺運隆盛なりしも、天保十一年同族の異に罹り一山興上す。現に假本堂及び庫裡を存するのみ。

●寺寶として阿彌陀如來像一軀(彌陀の像)・觀音自作木像一軀・同作聖德太子木像一軀・同筆十字、九字名號二幅・武田信玄制札・徳川秀忠制札・松平忠輝制札等を藏す。

興正寺 埴科郡森村。

●淨土宗。

示現像一體、與原之町三寶神俱納之云々、天文十二年癸卯義清にその墨書銘を有す。墨裏にも亦義清の銘あり。義清は即ち村上義清なり。寺傳によれば天正年間蓮香寺より三寶神像(現存)と共に本堂に移安せりといふ。高さ一尺八寸八分、面相は宛然能面の如く服裝等よく當代婦人の風俗を表せり。

●大城山と説す。創建年代不詳なり。初め當國倉科村にありしが、正應年間生堂村に移し、天文二十一年十一月、川中島兩宮の戦火に罹り、堂宇、什寶、舊記等悉く灰燼に歸す。後清野村に移し、堂宇を再建せしが、其後三轉して土口村に移る。天正二年五月、感譽上人更に現地に移して堂宇を重建し、中興の開山となる。天明六年七月、回縁に罹り、一山焦土と化す。寛政年間に至り、再建成る。

清水寺(保科觀音堂) 上高井郡保科村。

●新義眞言宗智山派。

●阿彌陀山護國院清水寺と説し、俗に信濃清水又は保科觀音堂と稱す。天平十四年、僧行基諸國行脚の際當地に來り、千手觀世音像並に脇侍聖觀音、不動明王の三體を彫み、一草堂を營みて安置せしに創まること云ふ。延暦年間、東奥の地騷亂するや、征夷大將軍坂上田村麿、征途此地を過ぎ、當觀音に祈願して靈驗奇瑞あり。平定の歸途、自ら被る所の甲の類飾形、賊魁所佩の直刀一口を奉納し、京に歸るや家人を遣して伽藍を建立せしむ。空海又親ら觀する所の金胎兩部曼荼羅を寄す。降りて室町時代、足利義政に依り、三重卒塔婆及び堂舎三十三坊を建立せられ、寺觀隆盛を極めたり。文政四年十一月八日、奥ノ院及び觀音堂等焼失し、天保十年再建せらる。大正五年、本村大火の際類焼し、大日堂(方五間、單層、屋根四注造、茅葺、永仁二年建立)、三重塔婆(三間三層塔婆、屋根茅葺、室町時代)の國寶建造物を初め一山伽藍焼亡して一字の



(堂本寺水清)

餘す所なし。同時に國寶たりし大日如來坐像一軀、四天王立像四軀も亦惜しくも灰燼に歸す。爾來再建に努め奥ノ院及び假本堂次第に成り、大正十二年には内佛殿を完成したり。●寺境山の中腹にあり、老杉鬱蒼たる幽邃境なり。本堂・觀音堂・護師堂・念佛堂・庫裡等を具ふ。寺寶中、國寶に指定せらるもの次の如し。絹本着色兩界曼荼羅二幅は堅幅は堅三尺四分、幅二尺八寸四分、原初の趣を損ぜらるも、鍍金文様などより推して鎌倉時代の作と考へらる。鐵製形一箇は金銅を以て雲龍紋を象嵌す。田村麿所用と傳へられ、製作時代亦大略其頃と認めらる。木造聖觀音立像一軀は本堂安置の前立尊にして、特異なる面貌を有するも、姿態優美輕快にして、藤原末期の一佳作として推賞するに足る。同千手觀音及び脇侍地藏菩薩像二軀は觀音堂に安置され、千手觀音は一本彫、地

藏は寄木造なるも、共に弘仁期の作なり。其優秀なる技巧と優遇なる相観を以て注目さる。同阿彌陀如来立像一軀は念佛堂に安置され、像の厚味少く、藤原時代の精妙なる刀法になれり。同樂師如来坐像一軀は樂師堂本尊にして、千手觀音とほぼ同時代の作なるも、技法



(清水寺阿彌陀如来立像) (真寶)

更に優秀なり。以上の佛像は奈良縣郡城島村忍坂の廢寺に遺存し、村有なりしを本寺に譲渡されしものなりといふ。

●觀音會(四月十七日)。

蓮臺寺(九品院) 上高井郡堀内村。

●新義眞言宗寶山派。

一に九品院とも稱す。天平年間、夢澄の開創に係り、後智光之を中興す。降りて天正十八年、森可成當國に移封さるゝや、境内地を寄進す。

●本堂・仁王門等あり。九品佛中尊、木造阿彌陀如来坐像一軀は國寶に指定せらる。丈高三尺四寸七分にして鎌倉初期の作なり。其他寺寶として八祖大師畫像二幅・十六菩薩畫像二幅・釋迦涅槃畫像、狩野永徳筆漢土人物畫像・六字名號等を藏す。

淨運寺 上高井郡井上村大字井上。

●淨土宗。

●井上山と號す。建保二年九月、師成阿の遺囑を受

け、壽長不磨房之を創建す。も當地北町にありしが、慶長年間、之を現地に移す。時に藩主松平氏寺領三十石を寄せ、其香華院とす。明暦三年、享保二十年、天明七年の三度祝融に罹り、寛政二年再建せらる。古來當國念佛根本道場として、獨禮寺格たりし名刹なり。

勝樂寺 上高井郡井上村大字堀島。

●眞宗本願寺派。

●建保四年、親鸞の弟子唯佛房の開基に係る。唯佛は信濃國井上城主井上興村の子にして、初め天台宗に入り法恒と稱せしが、後親鸞の弟子となり、名を唯佛と改め、信濃國水内郡相原郷に一字を創して勝樂寺と號すといふ。弘安三年、三世唯隆、同郡不出村に移す。慶長十一年、十四世照念の代、現在の地に轉す。

●寺寶として親鸞筆六字名號・同筆聖德太子和讃一帖・同筆唯信抄一卷・蓮如筆六字名號・顯如筆蓮如上人繪傳三幅等を藏す。

圓長寺 上高井郡井上村大字中島。

●眞宗本願寺派。

●承元元年、親鸞の弟子宗信の開基に係る。宗信は中御門權大納言宗家の男にして侍從宗兼と稱せしが、親鸞の弟子となりて宗信と改む。その子唯信、越後頸城郡島倉に堂宇を建立す。元和三年、十一世持圓之を

信濃國上高井郡井上村に移し、承應二年、十三世宗允の代、現地に轉す。

淨光寺(雁田樂師) 上高井郡雁田村大字雁田。

●新義眞言宗寶山派。

●俗に雁田樂師の名を以て俗間に著聞す。大同二年坂上田村麿の開創に係る。爾後の沿革不詳なり。

●境内六百三十八坪。本堂・樂師堂・仁王門等あり。就中樂師堂(桁行三間、梁間四間、單層、屋根入母屋造、茅葺)は國寶建造物にして、正面幕殿の彫刻等其細部の手法に鎌倉末期より室町時代の過渡期的特色を現せり。堂内に樂師如来、二菩薩及び十二神將を安置す。なほ本堂に聖觀世音菩薩、仁王門には仁王尊を奉安す。境外に愛宕堂あり。

●樂師如来緣日(四月八日及び十月八日)。

常樂寺 下高井郡中野町。

●曹洞宗。

●仙洞山と號す。正平年間、夢窓國師の開創にして、初め白雲園我歸山・天雨寺と號す。永祿年間、川中島の戰火に堂宇を初め燬像、舊記等、悉く烏有に歸せしが、天正の初年、越後春日山城主上杉景勝之を再興し、上州邑聖都館林茂林寺第十世天正清を開山に請じ、常樂寺と改め、現宗に歸す。天正十一年、寺領二十石を附す。慶長七年、徳川幕府亦寺領七十石を寄す。現に末寺三刹を有し、小本寺格なり。

●境内廣潤にして、本堂・庫裡・羅漢堂・觀音堂・

衆寮・鐘樓・仁王門等を具ふ。寺寶に上杉謙信念持佛聖觀音・上杉景勝寄進の武器等を藏す。境内に比翼池、足置水、駒石、礎石、鏡松、胎内池、木魚石、座禪石、鳴岩、雌雄松等あり。

谷殿寺 下高井郡野村。

●曹洞宗。

●龍巖山と號す。天長二年の開創なりと云ひ、初め高社山神宮寺と號し、眞言宗に屬す。舊領主月庵源江大禪定門を開基とす。當時は本山格にして、堂宇四十八坊を具へ、寺運甚だ壯心なりしが、中古衰運にむかひて以後振はす。文明五年、携國宗從和尚之を再興して現宗に改む。時に武州岩槻城主たりし太田道灌此地の靈窟を探り、名刹を納進すと傳ふ。慶長十九年八月、暴風雨の爲め山崩れあり、堂宇を埋没す。寛永十年、第六世播磨現地に之を再興し、現寺號に改む。慶安二年、徳川家光寺領十石の朱印を寄す。後、飯山城主松平忠俱堂宇並に寺境を修營し、中興の開基となる。現に門末八箇寺を有し、小本寺格なり。

長命寺 上水内郡朝陽村大字南堀。

●眞宗本願寺派。

●布野長命寺と號す。親鸞の門第二十四輩の第七、野田西念の遺跡なり。西念は井上五郎盛長の男にして一次郎道祐(一に貞親と稱し、承元二年、越後國五智に於て親鸞の弟子となり、西念と改む。後武州足立郡野

田村に一字を創して住す。正應三年、覺如より長命寺の號を授けらる。建武の兵亂に際し、第三世西祐種を避けて水内郡駒澤に來り堂宇を再建す。第七世信貞の代、永正十六年九月、同郡白布野村に再興せしが、元祿十三年、十三世靈壽の時、現地に移す。

妙福寺 上水内郡三水村大字幸川。

●眞宗大谷派。

●森尾山鎌田院と號す。貞永元年、空善房の開創なり。空善房は、下總の莊司鎌田兵衛尉政清の嫡子にして、政成と稱せしが、後親鸞に歸して空善房と改む。而して親鸞より自作の木像を受けて、下總國鎌田村に一字を創し、明德寺と號す。其後兵燹に罹りしが、越後國中頸城郡和田村に寺基を轉す。永祿十年、領主幸川越前守之を更に現地に移して妙福寺と改稱し、自家の香華院とす。寛文年間、同縁に罹りしも、其後再興せらる。

明專寺 上水内郡相原村。

●眞宗本願寺派。

●終北山と號す。貞應三年、若狭守經俊の五男永圓房の建立に係る。初め三河國賀茂郡日原村にありて、明專院と號し、天台宗たりしが、嘉貞元年、永圓、親鸞の弟子となりて現宗に改む。天正年間、本願寺顯如攝津石山に龍城するや、國主、嶋田信長を懷り、領内

一宗の停止を命ず。而して此時に了西、石川金吾は死刑に、寺僧某並に松平五郎大夫は追放に處せらる。因りて天正五年、第十世光源、越後國智徳寺村に寺基を移す。乃ら領主上杉氏之に朱印狀を寄す。同十二年、第十一世光心、本州中宿村に移せしが、其後、慶長九年普光寺村に、寛永二年相原村東浦に轉々し、延寶元年、遂に現地に來りて再興せらる。

●本堂・庫裡・鐘樓等あり。親鸞筆九字名號・蓮如筆六字名號等を藏す。

忠恩寺 上水内郡七會村。

●淨土宗。

●不詳。

忠願寺 下水内郡飯山町。

●淨土宗。

●松壽山松覺院と號す。永祿二年、長沼城主島津漢路守の開創にして開山は眞譽林應なり。初め、上水内郡長沼村津野にありしが、慶長六年、寮恩の時、後の長沼城主關長門守、飯山城へ移封せらるゝや、寺基亦之に隨ひて現地に移る。爾來、飯山城主累代の崇信厚し。松平遠江守之に寺領十六石の墨印狀を附す。

●本堂・庫裡・鐘樓・地藏堂・經藏等を具ふ。境内に松平遠江守、本多豐後守等の墳墓あり。

北陸地方

新潟縣

眞淨寺 新潟市西郷通一番町。

眞宗大谷派。

●赤沼眞淨寺と號し、建曆二年、明慶の開創に係る。明慶は俗姓を土屋重行といひ、當國國府に於て觀覺の弟子となる。觀覺關東下向の關、隨從して信濃水内郡赤沼に到り、一字を創す。是れ即ち本寺の濫觴なり。慶長二年、故ありて現在の地に移る。

●寺内に弘法大師作と傳ふる觀世音を安置す。即ち當國三十三番札所の一に數へらる、所以なり。寺實には觀覺筆十字、六字名號各一幅・蓮如筆六字名號一幅・實如筆御文(丹波傳御文)・護如筆火難御文・顯如筆蓮如影像・教如筆御書一通等を藏す。

淨光寺(觀覺寺) 新潟市西郷通五番町。

眞宗本願寺派。

●鳥屋院北山と號し、俗に觀覺寺又は北山淨光寺と稱せらる。承元元年、觀覺の開基に係る。初め觀覺、越後國府に流離せらる、や、時に彌彦明神に詣り、鳥屋野の里に到りて倒竹の奇蹟あり、仍りて一字を創して自書の名號を本尊となす。建曆元年十一月、教免の御沙汰あり、此時初めて淨光寺と號す。之を以て眞宗

最初の寺院なりと稱す。承久三年六月、觀覺再び常陸より此地に來り、善覺を後住とし、念珠、千佛裝束、手書三通を附屬す。同年七月、順德上皇佐渡ヶ島遷幸の關、當寺に駐蹕あり、鳥屋院の勅號と共に宸翰勅額並に勅願所の繪圖を賜ひ、且つ御念持佛の阿彌陀如來黃金像、御製、三條宗近作御佩刀、御裝束等を下賜せらる。本寺三世觀念は上皇第四皇子善統親王にして、

眞水元年六月、當寺の法統を嗣ぎ給ふ。仁治三年九月十二日、上皇の崩じ給ふや、遺詔に依り尊牌及び楮紙金泥の阿彌陀佛像を本寺に納む。正安元年、第四世觀覺のとき、覺如、宗祖の遺跡を訪れて本寺に入る。永祿十一年、十五世覺法の世、院家を勸許せられしも之を辭す。元龜元年、石山本願寺の織田信長と戰ふや、覺法、門徒百餘を率ゐて玉造橋を守り、天正八年和議成るや、祖像を紀伊鷲森に供奉し次で國に歸る。慶長七年、東本願寺の創立せらる、や、德川家康の命に依り、覺法、其弟法武に元本願寺十字名號を附與し、末寺四十五箇寺と共に同寺に屬せしむ。是れ即ち蒲原淨光寺なり。同十年、末寺十二箇寺と共に維持困難の故を以て新潟に移る。明治十一年九月、明治天皇北越巡幸の關、順德上皇の御遺物を天覽に供し奉る。同十三年八月表上し、後ろ再建成りしも、同四十一年再び焼く。現今の堂宇は概れ其後の建立に係る。

●寺實には順德上皇宸翰鳥屋院勅額・同宸翰御製一幅・同御佩刀一口・同御衣一幅・同御念持黃金阿彌陀佛一尊・觀覺筆元本尊九字名號一幅・觀覺所持千佛裝束一幅・同筆經緯披書一卷・二十四聖靈名書一通・蓮如筆鳥屋野御文一通等を藏す。

善導寺 新潟市西郷通五番町。

淨土宗。

●眞光山光明院と號す。天文三年、廣學堂の開創に係り、初め大和奈真にありしが、後ろ當地に移る。正保二年、火を失し堂宇灰燼に歸す。更に天明治十九年、同二十三年、同四十一年の三度回縁に罹りしが、二十五世眞覺性空本堂を再建す。

●本尊阿彌陀如來脇立觀音勢至三尊像は惠心僧都の作と稱す。境内に芭蕉庵、攝取庵、壽伯榮俊明墳等あり。

勝樂寺 新潟市西郷通八番町。

眞宗大谷派。

●開陀山と號す。文永十年、圓善房の開創に係る。初め越前國今立郡和田村に在りしが、文明三年、加賀國能美郡安宅村に寺基を移し、慶長十年、更に現地に轉す。明治初年以來、回縁に罹る事數度、同二十二年本堂を重建す。現本堂是なり。現に圓應寺、即得寺の二寺中を有す。

●本尊阿彌陀如來像は慈覺大師の作と傳へ、寺實に觀覺筆三方正面阿彌陀如來畫像等を藏す。

淨光寺(蒲原淨光寺) 新潟市西郷通十一番町。

眞宗本願寺派。

●金波山鳥屋院と號し、俗に蒲原淨光寺といふ。蒲原野、愛宕山權現の尊像を彫み、蒲原郡鳥屋野村に一字を創して之を安置し、愛宕山放光院と號す。後ろ觀覺當地經縁の關、住持印信其弟子となり、名法實と

笠原別院(本誓寺) 高田市寺町。

眞宗大谷派。

●笠原山本誓寺と號し、一に笠原御坊と稱す。初め下總國相馬郡布川にあり、空海開創の眞言寺院なりしが、觀覺常陸遷化の關、時の住僧之に歸依し、教念房即眞と號す。觀覺歸洛の後、信州高井郡笠原村に移り、寺宇を築きて眞宗寺と稱す。五世性願の時、本願寺派如留錫し、寺號を本誓寺と改む。十世經賢の代、上高井郡豊丘村小山に移り、後ろ上杉氏の請に應じて直江津町福島に移す。堀忠俊此地に福島城を築くや、高田に移り、松平氏高田に築城するに及びて遂に現地に轉す。明治十八年、本山別院となる。

●境内二千八百九十三坪、本堂・庫裡・總門・經堂・鐘樓等を具ふ。本尊阿彌陀如來像は惠心僧都の作と傳へらる。寺實として觀覺筆六字、九字名號・同筆川越名號・同白畫像・同聖德太子畫像一幅等を初め本願寺歴代の筆蹟を藏す。

常敬寺 高田市寺町。

眞宗大谷派。

●中戸山西光院と號す。覺信尼の息唯善の開基に係る。初め唯善、大谷本願の南殿に住せしが、覺如と大谷本願留守職を争ひて成らず、遂に延慶二年二月、觀覺の眞影並に遺骨を奉じて鎌倉に下り、常樂の地に安置す。遠近禮拜するもの頗る多し。後年鎌倉の地に兵火の備れあるを以て影像のみを此地に留め、別に下總國宿に堂宇を建立し、阿彌陀本願寺と號す。阿彌陀堂、御影堂の二字、四十八院を有し寺運頗る隆盛なりき。

改め、眞宗の佛とす。建曆元年、觀覺關東に赴くに當り、聖德太子像、自像、十字名號等を附し、法府に後事を囑す。承久年間、順德上皇より彌陀如來立像、金波山鳥屋院の勅號、御製一首並びに御枕を賜ひ、勅願所に列せらる。寛文十一年、現地に轉す。爾來、數度回縁の災に罹り、舊記殆ど焼失す。尙ほ寺祖法嗣につゞきては、別項北山淨光寺と相違す。記して後考を俟つ。

●寺實には聖德太子木像一幅・弘法大師作受容權現木像一幅・同畫像一幅・順德上皇念持佛一幅・同宸翰一通・同御所用御枕一箇・法然筆善導大師畫像一幅・觀覺筆有髮草座畫像一幅等を藏す。

長香寺 新潟市夕榮町。

眞宗本願寺派。

●興徳山と號す。嘉祥年間、慶圓の開基にして、其師觀覺を開山とす。慶圓は俗姓を小山行重(一に其子新祐)と云ひ、三河國小島に居城を構へしが、後ろ御堂にて觀覺の化に浴し其門に入る。本寺初め木妙寺と稱し、加賀國森本村にありしが、後年寺基を現地に移して、寺號を今の如くに改めたり。嘉永六年、當國岩船郡舊村上藩主本堂を遺營す。是れ即ち現堂なり。

●境内幽雅、本尊阿彌陀如來は安阿彌の作と傳ふ。

正覺寺 長岡市神田町。

眞宗本願寺派。

●觀喜山と號す。安貞二年、觀覺の弟子善性の開基に係る。善性は後鳥羽天皇第二皇子なり。出家して慈圓僧正の弟子となり周觀と號せしが、後ろ觀覺の門に

入りて善性と改む。安貞二年二月二十三日、師の命を承け、信濃國水内郡川中島莊東條郷若槻に一字を創し念佛を弘通す。慶長三年、十三世慶了の代、長岡に移り、領主堀丹後守道奇、境内一萬坪を寄す。後、堀氏村上に移るに及びて本寺亦之に隨ふ。同氏長岡に復對さる、や、三度現在の地に轉す。

●寺實には後奈良天皇宸翰・觀覺自作像・善導大師木像等を藏す。

西願寺(附、釜澤觀音堂) 長岡市吳服町。

眞宗高田派。

●日照山と號す。觀覺の弟子教名房を開基とす。教名は初め延壽寺にあり、教眞と稱す。建保六年、觀覺の門に入り、教養と改む。延寶元年、又名を改めて教名とす。時に常州稻田に一字を建立して一乗坊と號し後に同國布川に移す。十二世教尊の時、當國に移りしが、更に又墨島、墨津の各地に轉々して遂に現地に到る。其間、一乗坊の寺號を西願寺と改めたり。

●本尊阿彌陀佛は惠心僧都の作と傳ふ。寺實として惠心筆一光三尊佛・關成天皇宸翰楮紙金泥六字名號・光明皇后御筆大般若經・空海作不動・地藏・辨財天像・同筆大般若經・梵字曼荼羅・中將善房所贊淨土經・觀覺自作像・同慶名號・熊谷蓮生房筆名號・光嚴司筆十六番神圖・宅磨筆阿彌陀如來等を所藏す。境外佛堂に釜澤觀音堂・鉢伏樂師堂あり。釜澤觀音堂は古志郡上組村釜澤にあり。大同二年の創建と傳ふ。上杉謙信の附依厚く、堂宇を建立す。別當もと觀願寺及び本寺の二箇寺たりしが、觀願寺は會津に移り、今は本寺の所管に屬す。

時に中院中納言正忠の奏上により、花園天皇中戸山西光院の勅額を賜ひ、鎌倉幕府亦寺領敷箇所を寄す。而して唯善の京都より供奉せる影像は、後ら本願寺に於て。現に大谷派本願寺に蔵する常葉の御影なり。四世善榮の時、本宗本山たる企て、京都大谷本願に安置せる影像を奪出せしが、追跡を受け、別體を大津に残し、御首のみを越前州に持歸り、別に別體を作つて觀覽眞影なりと稱せり。天文八年、六世善覺、御首を本願に返して歸參を請ひしに、爾後永く本山に隨順して、常に尊嚴の誠を致すべしとて、當院の寺號を受け、中戸山配下の寺院を初め坂東諸國寺院の禰頭となる。十世了照の代、北條、豊臣兩氏の兵變に罹り、堂宇燒燼す。依りて信州靜岡に移り、寛文六年、現地に轉す。

●寺實に觀覽筆蹟の名號(名體不離尊號)・蓮如作聖徳太子木像・覺如附點淨土三部經四卷等を蔵す。

淨興寺 高田市寺町。

●眞宗大谷派。●歡喜踊躍山と號す。建保五年正月、觀覽の開創に係る。建保元年十一月、觀覽配流救免の後、當院國稻田郡に留錫せしが、建保五年正月、同地吹雪谷に一字を創し、稻田禪房と稱す。是れ本寺の蓋源にして、元仁元年、觀覽、教行信誼を當院に於て撰し、淨土眞宗を開き、衆生利益の宿願を成就せしを以て歡喜踊躍山淨土眞宗興行寺と號すと云ふ。淨興寺は其略稱なり。觀覽本寺に止住すること十有六歳、貞永元年八月、寺を善性に附して歸落す。嘉祿元年六月三十日、將軍藤原賴經、信濃國水内郡長沼村外六箇村に於ける地三千貫の奉印狀を寄す。弘長二年、觀覽の遺命に依り、其項

骨及び傳法の遺物を本寺に納む。爾來本願寺歴代宗主遺骨を茲に分納するを例とす。同三年十月、小田左衛門尉泰知の兵變に罹り堂宇烏有に歸す。仍りて下總國葛飾郡龜邊村に移りしも、文永四年三月、信濃國長沼の寺領地に寺基を轉す。永祿四年、十三世周圓の代甲越兩軍の兵變に罹り、堂宇は勿論、周圍亦焚死す。依りて十四世了性、同郡小市村及び高井郡別府に移りて再興す。永祿十年九月、上杉謙信の招に應じ富國春日山城の麓に移る。時に上杉氏、境城一萬坪、花山五町歩を附し、且つ堂宇を造營し、其家紋を許す。慶長三年四月、十五世善覺の世、同郡龜邊城下に移り、領主相秀治より寺城一萬坪を受けて堂宇を再建す。同十五年二月、松平忠輝此地に封ぜられ、福島の市街を高田に移すに及び當寺亦隨ひて高田の内須賀町裏元寺町一之町に到りしが、正保三年順境に遭ひしに依り、現地に轉じ、堂宇を再興す。現本堂之れなり。本寺古來眞宗大谷派の中本寺たりしが、明治九年、宗制細令發布以來一派獨立を請ひて離されず。依りて暫く派名を公稱せず。明治十五年、石窟を造りて觀覽の遺骨を奉安し、同二十一年、之が廟宇を建立す。現に配下二十餘箇寺を統ぶ。

●眞宗本願寺派。●杉谷山と號す。承久三年、觀覽の弟子善性、下總國河邊莊龜邊村に一字を創して勝願寺と號す。これ本寺の蓋源なり。文明十六年、十二世慶順(二)に教順の代、信濃國水内郡南條村に寺基を移す。後年織田信長軸物一幅、寺領八町四方の地を寄せしが、飯山城主松平遠江守之を二十八石七斗餘に減す。慶長十五年、第十七世善慶の代、松平上野介忠輝の高田城を築くや、其招請に應じて現地に轉移し、寺領を受く。延寶五年十九世善珍の時、本願寺第五世輝如開創に係る越中國井波瑞泉寺准宣、同國伏木勝興寺と争ひて克たす。依りて從來本願寺派たりしを大谷派に歸せしが、本寺輝如の遺跡を相續する事となり、井波瑞泉寺を改稱す。明治七年、回縁の災に罹り、經藏のみを残して諸堂烏有に歸す。現在の堂宇は其後の建立に係る。

瑞泉寺 高田市南本町三丁目。

●眞宗大谷派。●佛光山金剛院と號す。觀覽の門侶二十四輩の第十一無爲信房の遺跡なり。文永年間、岩代國會津郡大房の地に創建せられしが、後承應三年、同國東白川郡棚倉の西原寺を改めて無爲信寺となし、之に移る。領主内藤豐前守の附依厚し。寶永二年、内藤氏の轉封に

從ひて駿河藤枝に轉す。後ら内藤氏大阪城代となり、更に越後國村上に轉封するに及び、當寺廟が異縁に依りて本山に實收を納め、一時退轉す。享保十六年、本山之を京都六條に再興せし、兵火に災上し又廢絶す。寶曆二年三月、本山第十八世從如、靈場の廢絶を歎き當地在藤伊左衛門と謀り、再興せんことをし、當時新寺の建立禁制なりしかば、寶曆十年に至り、同郡棚目木村蓮入寺を移して再興す。大正二年一月、回縁の災に罹り、本堂及び客殿を燒く。



(繪繪寺信爲無)

●境内二千四百餘坪、本堂・客殿・經藏・鐘樓・鼓樓・庫裡・寶藏等あり。觀覽自作半身像・同筆十字名號・聖徳太子自作十六歳の像・惠心僧都並に法慶作阿彌陀如來像・後水尾天皇宸翰等を蔵す。

託明寺 北蒲原郡新發田町。

●眞宗大谷派。●新江山と號し、觀覽の法弟祐玄の開創なり。祐玄は齊藤實盛の二男、出家して東大寺に入る。後ら越前

國新江に一字を創せしが、觀覽越後左蓮の途次、化導を蒙りて其弟子となり、寺を眞宗の道場となす。中古加賀大聖寺に移り、慶長年中、領主溝口伯耆守に從ひて現地に來り、其書提所となる。

孝順寺 北蒲原郡安田村大字保田。

●眞宗大谷派。●燒栗山と號す。觀覽越後巡化の節、一貧家の老婦之に燒栗を進む。觀覽其志を喜び、織機上の布に六字の名號を書して與ふ。依りて里人一草庵を構へ之に安置すと云ふ。後ら二百餘年、草庵を寺となして孝順寺と號するに至る。爾來、寺基を移す事數度、寺名亦願成寺、長福寺、本兼寺と次第せしが、徳川中期、遂に現地に到り、寺號を孝順寺と決定す。

●寺實として觀覽筆布の名號を蔵す。尙ほ當地の東北一里餘、上野ヶ原に三度栗の舊跡あり。是れ老嫗の供養せる燒栗より成長せる栗林なりと云ひ、年三度結實すとの傳傳に依り此名あり。

觀音寺 北蒲原郡安田村大字草水。

●曹洞宗。●臨澤山と號す。應仁二年の創建に係り、開山を月窓明禪とす。上杉謙信之を中興し、境内に園を設けて柏樹林と名づけ、園中に心字の泉池を掘る。元和年間回縁の災に罹り、十九世大機和尚の時再建せしが、明治戊辰の役に兵火に燒かれ、今の本堂は同十五年の再

建に係る。現に末寺縣下に十九箇寺あり。

福隆寺 北蒲原郡分田村大字寺社。

●新義眞言宗智山派。●寺社山と號す。天平八年、僧行基、越後國柳島に一字を創し、自刻の千手觀音像を安置す。大開二年、僧空海此地に來り、勝軍地蔵、勝觀見沙門天の二像を刻みて獨立となし、堂宇を修繕して千手院と號す。降つて鎌倉時代には、僧房十有二字を推して寺運願隆昌、時に千手院を改めて福隆院と號す。後年兵亂に災上し、本堂及び獨立のみ礎に其礎を免る。元和二年、高野山正智院仙雅、當寺に入りて之を再興し、鐵守に牛頭天王を勧請す。寛永十二年、村上城主堀丹後守、觀音堂を再建す。以て現在に至る。

●境内六千餘坪。本堂(十二間に九間)・觀音堂・庫裡等あり。觀音堂は本郡第一番の札所なり。

華報寺 北蒲原郡野岡村大字出湯。

●曹洞宗。●五頭山と號す。文明年間、轉讓寺大安梵守、當地藥師堂、修驗場等の故址に就きて之を開創す。本尊には傳行基作地蔵菩薩を安置す。寶曆九年、綱經尚を堂個に得て今に蔵す。往昔、空海五頭山に秘密道場を、五華に護摩壇、五社權現を、山下に瀧水窟を建立し、海濱寺福性院を本坊とし、四院三十二坊を有して、寺

觀音大なりしが、曆仁年中、回祿に遭ひて一山炎上してより寺運頓に衰はず。南無寺開祖大明國師一時當寺に住栖せし事あり。

梅護寺

北蒲原郡京ヶ瀬村大字小島。

●眞宗本願寺派。八房山と號す。創建年代不詳なり。承元年間、觀音當國配流の御、金津莊島屋野の里に逗留して近郷を遷化せらる。時に當地の土民佐五助の茅屋に泊して主人夫婦を教化し、のちの世のしるすのために焼し置く彌陀願む身のたよりとがなと誂じ、鹽漬の梅實を植ふしに、忽ち萌芽し繁茂するに至るといふ。所謂觀音越後七不思議の一にして、本寺は後世此靈跡を傳へんが爲に遺立せられしものなり。享保年間、梅護庵と號せしが、明治十五年七月、改めて梅護寺を公稱す。

●境内七百坪。寺實に觀音聖十字名號等を藏す。境内に坐輪あり。觀音が埋めし鹽漬の梅實の生長せしものと傳へ、一花八子を結ぶ。よりて一に八房梅とも稱す。當地附近、觀音に關する遺跡多し、殊數無幾は其一なり。

乙寶寺

北蒲原郡乙村大字乙。

●新義眞言宗智山派。如意山と號し、里人呼びて乙の大日樓と云ふ。天平年間、行基の開創する所と傳ふ。後、衰微せしが、僧有徳之を中興す。延享二年、本堂、仁王門を修築、元和六年、村上周防守忠勝三重塔を建立す。近世寺額

誓岸寺

中蒲原郡大江山村大字北山新田。

●眞宗本願寺派。天正十一年、願如の徒弟了玄、願彦の庄赤塗の住

國上寺

西蒲原郡國上村。

●新義眞言宗豐山派。雲上山、雲高山、國上山等と號し、俗にくがみ寺と稱す。和銅二年、願彦大神の神託に依り、金地大徳の草創に係り、當國第一の古刹と稱す。天平勝寶年間、孝謙天皇の勅により諸堂造營され、七堂伽藍整備す。貞觀年間、慈覺大師、唐五臺山常行三昧院の引聲念佛會を移し行ふ。爾來毎年九月十七日引聲會を修す。建久年間、曾我孫司坊來山し、又高田專修寺の願智は當山の願範に従學せりといふ。近世寺額百石を有す。

圓通寺

中蒲原郡楳村大字木津。

●曹洞宗。曹洞山と號す。創建年代詳ならずも、往古、眞言宗にして曹洞院と號せしが、天文二年、曹洞宗に歸し、圓通寺と改む。天正年間、現地に移し、天室延長を任持たらしむ。天保七年回祿に罹り、慶應三年、本堂、開山堂、僧堂等の再建成る。古來著名なる大叢林にして接化の雲水常時數百に上ると云ふ。

安養寺

西蒲原郡巻町。

●眞宗本願寺派。堂谷山と號す。もと比叡山堂谷に在りて、淨光院と號する天台の佛寺たり。花山天皇の皇子出家して本寺に入り給ふと云ふ。壽永年間、寺僧本尊に供奉して京師の干戈を當國に避けしが、降つて文明の初年、湊町に移る。時に寺僧、本願寺蓮如に歸依して眞宗寺院となす。後、赤塚村に移じ、寛永年間、巻の里正樋浦外記の招請に應じ現地に移る。享保元年、回祿に罹りしが、爾來修葺に努め、以て現在に至る。

青龍寺

西蒲原郡岩室村大字石瀨。

●新義眞言宗豐山派。多寶山と號す。天平八年十月、行基此地に留錫して捕現山頂に一字を創し、藥師佛及び密迹金剛の兩像を安置せしを其遺蹟とす。爾來國守の歸依厚く、源三位賴政亦寺額若干を寄すと云ふ。觀音當國流調の阿、國府にありし時、一日彌彦明神の夢託を蒙りて本寺に參籠すと。もと修驗道なりしが、徳治年間天台宗に屬す。其後但馬守實賴、上杉景勝等寺額安堵の墨印を附す。明暦二年回祿に罹りしが、同三年、尊嚴之中興

願正寺

西蒲原郡角田村大字角田濱。

●眞宗本願寺派。乙始山と號す。もと岩穴の前(現に字坊九房)に在りて、天台宗に屬せしが、承元三年五月、住持横通當國配流中の觀覺の化に歸して、名を教善と改め、寺を眞宗の道場とす。應安六年、八世教喚の代、當村乙始山の麓に移る。寶徳年間、蓮如當寺に來錫し、六字名號を附す。慶長十一年、十五世修水、東本願寺派に轉派す。承應元年、十七世實了の世、現地に移る。明暦二年六月、十八世安了本願寺派に歸參す。時に末寺三

百石を有し、現號乙寶寺は康暦年間の改稱なりと傳へらる。

●本堂・仁王門・六角堂・千體佛堂・觀音堂・庫裡・客殿・三重塔等を具ふ。就中、三重塔(方三間、三層、屋根棧瓦葺)一基は國寶建造物にして慶長十九年に起工し、天和六年に完成すと云ふ。純和様の建築にして形體莊重、細部の手法亦優れ、徳川初期建築の好典型として推重さる。もと棟葺なりしが、近世、棧瓦葺に改修さる。本尊は大日、阿彌陀、藥師の三如来にして共に國寶たり。胎藏界大日を中央に、阿彌陀、藥師を其左右に配せらる。三尊何れも木造坐像にして大日は丈六の鎗押、他の二尊は素地に牛丈六、彫法亦粗野なり。三尊共に藤原初期の作に係る。

壇慶院

北蒲原郡黒川村。

●曹洞宗。萬松山と號す。嘉吉元年、領主黒川氏の創建にして、開山は當國岩船郡新寺南英謙宗なり。初め高徳寺と號せしが、文祿元年、耕齋寺剛安宗金、大檀越黒川右衛門の援助により現地に移して之を中興す。時に黒川氏八町四方の田園を寄せ、増慶院と改む。次で又上杉氏の歸來を得、慶長元年、上杉景勝、勢城國會津に移封せらる。に及び、本寺亦從ひて移る。文政七年十月回祿に罹り、後年再建せしむ舊觀に及ばず。

誓岸寺

中蒲原郡大江山村大字北山新田。

●眞宗本願寺派。天正十一年、願如の徒弟了玄、願彦の庄赤塗の住

國上寺

西蒲原郡國上村。

●新義眞言宗豐山派。雲上山、雲高山、國上山等と號し、俗にくがみ寺と稱す。和銅二年、願彦大神の神託に依り、金地大徳の草創に係り、當國第一の古刹と稱す。天平勝寶年間、孝謙天皇の勅により諸堂造營され、七堂伽藍整備す。貞觀年間、慈覺大師、唐五臺山常行三昧院の引聲念佛會を移し行ふ。爾來毎年九月十七日引聲會を修す。建久年間、曾我孫司坊來山し、又高田專修寺の願智は當山の願範に従學せりといふ。近世寺額百石を有す。

圓通寺

中蒲原郡楳村大字木津。

●曹洞宗。曹洞山と號す。創建年代詳ならずも、往古、眞言宗にして曹洞院と號せしが、天文二年、曹洞宗に歸し、圓通寺と改む。天正年間、現地に移し、天室延長を任持たらしむ。天保七年回祿に罹り、慶應三年、本堂、開山堂、僧堂等の再建成る。古來著名なる大叢林にして接化の雲水常時數百に上ると云ふ。

安養寺

西蒲原郡巻町。

●眞宗本願寺派。堂谷山と號す。もと比叡山堂谷に在りて、淨光院と號する天台の佛寺たり。花山天皇の皇子出家して本寺に入り給ふと云ふ。壽永年間、寺僧本尊に供奉して京師の干戈を當國に避けしが、降つて文明の初年、湊町に移る。時に寺僧、本願寺蓮如に歸依して眞宗寺院となす。後、赤塚村に移じ、寛永年間、巻の里正樋浦外記の招請に應じ現地に移る。享保元年、回祿に罹りしが、爾來修葺に努め、以て現在に至る。

青龍寺

西蒲原郡岩室村大字石瀨。

●新義眞言宗豐山派。多寶山と號す。天平八年十月、行基此地に留錫して捕現山頂に一字を創し、藥師佛及び密迹金剛の兩像を安置せしを其遺蹟とす。爾來國守の歸依厚く、源三位賴政亦寺額若干を寄すと云ふ。觀音當國流調の阿、國府にありし時、一日彌彦明神の夢託を蒙りて本寺に參籠すと。もと修驗道なりしが、徳治年間天台宗に屬す。其後但馬守實賴、上杉景勝等寺額安堵の墨印を附す。明暦二年回祿に罹りしが、同三年、尊嚴之中興

願正寺

西蒲原郡角田村大字角田濱。

●眞宗本願寺派。乙始山と號す。もと岩穴の前(現に字坊九房)に在りて、天台宗に屬せしが、承元三年五月、住持横通當國配流中の觀覺の化に歸して、名を教善と改め、寺を眞宗の道場とす。應安六年、八世教喚の代、當村乙始山の麓に移る。寶徳年間、蓮如當寺に來錫し、六字名號を附す。慶長十一年、十五世修水、東本願寺派に轉派す。承應元年、十七世實了の世、現地に移る。明暦二年六月、十八世安了本願寺派に歸參す。時に末寺三

誓岸寺

中蒲原郡大江山村大字北山新田。

●眞宗本願寺派。天正十一年、願如の徒弟了玄、願彦の庄赤塗の住

國上寺

西蒲原郡國上村。

●新義眞言宗豐山派。雲上山、雲高山、國上山等と號し、俗にくがみ寺と稱す。和銅二年、願彦大神の神託に依り、金地大徳の草創に係り、當國第一の古刹と稱す。天平勝寶年間、孝謙天皇の勅により諸堂造營され、七堂伽藍整備す。貞觀年間、慈覺大師、唐五臺山常行三昧院の引聲念佛會を移し行ふ。爾來毎年九月十七日引聲會を修す。建久年間、曾我孫司坊來山し、又高田專修寺の願智は當山の願範に従學せりといふ。近世寺額百石を有す。

表門・土藏等を具す。

三條別院 南蒲原郡三條町。

●真宗大谷派。元祿三年、東本願寺十六世一如、宗義の粉糧を統

妙光寺 西蒲原郡角田村大字角田濱。

●日蓮宗。角田山と號す。正和二年、日印の開創に係る。日

蓮佐渡配流途次の舊跡なり。享保八年より領主牧野家

の位牌を納め、且つ番神免の田地を寄附せらる。

●壇城廟運にして俗屋を離る。山門の傍に五重塔あり、

西方に天ヶ嶽ありて毒蛇濟度の舊址なりと傳ふ。

●奥に七面天女の石祠あり。寺實に日蓮、日觀等第一返

首願の本尊・日蓮、日印、日蓮等筆十界曼荼羅等を藏す。

●山背に所謂三題目存す。文永八年十月七日、日蓮

寺泊より出船、佐渡流罪の途、難風のために此地に漂

着す。岩の題目、岸の題目、波の題目の三題目は上人

の筆蹟と稱し、今に此地に存す。

三條別院 南蒲原郡三條町。

●真宗本願寺派。天保三年八月、西本願寺二十世廣如の創建に係る。

●明治十三年五月、煩燥の厄に遭ひ、本堂・庫裡、舊書

等焼失す。同年八月、假本堂を造り、同十七年七月、

本堂の本建築成る。現に崇峻門末として新潟市並に西

蒲原、南蒲原、北蒲原、中蒲原の四郡に亘り寺院六十

四院、信徒七千を有す。

●境内二千六百七十七坪、本堂・對面所・書院・庫裡・

表門・土藏等を具す。

三條別院 南蒲原郡三條町。

●元祿三年、東本願寺十六世一如、宗義の粉糧を統

一せんが爲に本院を創建す。爾來逐年發展し寺觀盛大

となり、堂宇輪奐の美を極め、明治十一年、北陸巡幸

の際、行在所に充てられたり。同十三年五月、當地大

火の燬、煩燥の厄に遭ひて諸堂宇烏有に歸せしも、同

三十七年四月再建さる。

●境内三千六百七十坪。本堂・食堂・御殿・寮所・

事務所・輪番所・鐘樓・兼所等あり。尙は附屬説教所

を新潟市磯町に有す。

本成寺 南蒲原郡西本成寺。

●法華宗。長久山と號し、現に當宗本山なり。永仁五年、日

印の開創に係る。日印は當地の産にして日蓮六老僧の

隨一日の弟高弟なり。依りて日印を開山とし、自ら二世

となる。初め普賢華嚴寺と號せしが、後大檀越三條城

主山吉長久の諱に因みて、長久山本成寺と改む。嘉祿

二年、本寺を以て本門三大秘密の根本道場となす。光

明院より勅願所の輪番を賜はり、爾後、皇室との關係

淺からず。また國主長尾、上杉、溝口氏歴代の歸依所

の本堂を構へ、塔頭百六十餘坊を有せしが、文安年間、

兵燹に罹りて堂坊焼亡し大いに衰頹す。後六世日誓

及び七世日將の代に至りて十八間四方の本堂及び百餘

坊の塔頭亦再建せられ、寺觀稍々復舊す。九世日覺、

表門・土藏等を具す。

三條別院 南蒲原郡三條町。

●元祿三年、東本願寺十六世一如、宗義の粉糧を統

一せんが爲に本院を創建す。爾來逐年發展し寺觀盛大

となり、堂宇輪奐の美を極め、明治十一年、北陸巡幸

の際、行在所に充てられたり。同十三年五月、當地大

火の燬、煩燥の厄に遭ひて諸堂宇烏有に歸せしも、同

三十七年四月再建さる。

●境内三千六百七十坪。本堂・食堂・御殿・寮所・

事務所・輪番所・鐘樓・兼所等あり。尙は附屬説教所

を新潟市磯町に有す。

本成寺 南蒲原郡西本成寺。

●法華宗。長久山と號し、現に當宗本山なり。永仁五年、日

印の開創に係る。日印は當地の産にして日蓮六老僧の

隨一日の弟高弟なり。依りて日印を開山とし、自ら二世

となる。初め普賢華嚴寺と號せしが、後大檀越三條城

主山吉長久の諱に因みて、長久山本成寺と改む。嘉祿

二年、本寺を以て本門三大秘密の根本道場となす。光

明院より勅願所の輪番を賜はり、爾後、皇室との關係

淺からず。また國主長尾、上杉、溝口氏歴代の歸依所

の本堂を構へ、塔頭百六十餘坊を有せしが、文安年間、

兵燹に罹りて堂坊焼亡し大いに衰頹す。後六世日誓

及び七世日將の代に至りて十八間四方の本堂及び百餘

坊の塔頭亦再建せられ、寺觀稍々復舊す。九世日覺、

表門・土藏等を具す。

三條別院 南蒲原郡三條町。

●真宗大谷派。元祿三年、東本願寺十六世一如、宗義の粉糧を統

一せんが爲に本院を創建す。爾來逐年發展し寺觀盛大

となり、堂宇輪奐の美を極め、明治十一年、北陸巡幸

の際、行在所に充てられたり。同十三年五月、當地大

火の燬、煩燥の厄に遭ひて諸堂宇烏有に歸せしも、同

三十七年四月再建さる。

●境内三千六百七十坪。本堂・食堂・御殿・寮所・

事務所・輪番所・鐘樓・兼所等あり。尙は附屬説教所

を新潟市磯町に有す。

本成寺 南蒲原郡西本成寺。

●法華宗。長久山と號し、現に當宗本山なり。永仁五年、日

印の開創に係る。日印は當地の産にして日蓮六老僧の

隨一日の弟高弟なり。依りて日印を開山とし、自ら二世

となる。初め普賢華嚴寺と號せしが、後大檀越三條城

主山吉長久の諱に因みて、長久山本成寺と改む。嘉祿

二年、本寺を以て本門三大秘密の根本道場となす。光

明院より勅願所の輪番を賜はり、爾後、皇室との關係

淺からず。また國主長尾、上杉、溝口氏歴代の歸依所

の本堂を構へ、塔頭百六十餘坊を有せしが、文安年間、

兵燹に罹りて堂坊焼亡し大いに衰頹す。後六世日誓

及び七世日將の代に至りて十八間四方の本堂及び百餘

坊の塔頭亦再建せられ、寺觀稍々復舊す。九世日覺、

新善光寺 東蒲原郡津川町。

●淨土宗。佛光山稱院と號す。建久年間、天台の續定定章、

元津川に之を開創す。善光寺如來を模鑄して、本尊と

す。寺號是に基く。貞治二年、本宗源田派の嗣法慶賢、

現地に移して中興し、同派の檀林所となす。後ら白旗

派に轉ず。岩梅の代、寺領頗る多かりしを、寛正、永

正、文祿の戦國擾亂の世、大畧、没收の厄に遭ふ。明

治十三年、同派の災に罹り、後ら再建せらる。現に知

照院末なり。

●境内一千七百五十坪、本堂・庫裡其他を具備す。

●明治の火災に寺寶概れ焼失す。

●風師講會(毎月一回)。

日光寺 東蒲原郡上條村大字拂川。

●天台宗。醫王山藥明院と號す。延暦年間、最澄の開基に係

り、本尊は三國傳來の藥師瑠璃光如來なりといふ。往

古十二社、十二坊等を具し、寺觀莊嚴なりしを、文祿

年間、火災に罹りて衰頹す。慶長四年、覺度之を再興

し、滿生秀行の巨圖野信存堂宇を修造す。明治二十年

再び興上せしが、同二十四年、龜倉宣覺重建す。

●寺域擴張にして老杉蒼蒼たる中に、本堂・藥師堂・

平等寺 (將軍杉) 東蒲原郡三川村大字岩津。

●曹洞宗。俗に將軍杉藥師堂と稱す。永延元年(會津藩事

考)には長徳元年とあり、平維茂の創建に係る。初め余

五將軍平維茂、屢次此地を過ぎ、偶々龍口河中より藥

師像を感得し、本寺を創建して、尊像を安置す云ふ。

●永正年間、住持水源、藥師堂を再興す。もと天台宗に

屬し、平等院と號せしが、萬治元年、現宗に歸し、平

等寺と改む。寛文八年、國主松平正之、維茂の碑を建

立す。

●堂宇中、藥師堂(桁行四間、椽間五間、礎石直屋

根四柱造、茅葺)は國寶建造物に指定さる。會津藩事

考永正十四年六月日附平等寺藥師堂修造勅進帳に據

り永正年間の建立なる事を知る。小堂なるも手法雄勁

にして、よく室町時代の特色を表はせり。堂内所々に

墨書の記事あり、所傳の正しきを立證す。當寺本尊は

地藏尊にして、島内藏人の守護像と傳へたり。又藥師

堂の藥師如來は平維茂の念持佛たりしと云ふ。境内に

林意峯撰文に係る維茂の碑あり。附近に經塚、坊田、

坊主畑、坊林と名づくる地あり。住持盛觀を誇りし坊

字の舊址なりと云ふ。

●與板別院 三島郡與板町。

●真宗本願寺派。天保四年七月、領主伊井兵部少輔の發願により、

西本願寺二十世廣如之を創建して與板別院と稱す。伊

東山寺 南蒲原郡大面村大字小瀧。

●曹洞宗。曹洞宗と號す。寶治二年、道隆開創の開基に係り、

黃龍山東山寺と號す。室町末期上杉氏の歸依厚く、天

文三年、其家臣丸田伊豆守をして再興せしめ、上野國

利根寺下牧村玉泉寺五世宣州元助を中興開基とし、一

門祖會(六月二十日)、會式(十一月十二日、十三日)

●境内五千三百坪、本堂(明治三十二年起工)千佛堂

(一千一體の釋迦像を安置す)・山門・多寶塔・客殿・

鐘樓・南門・番神堂・庫裡・寶藏等を整備す。寺實に

は後醍醐、後小松、後柏原、後水尾諸帝御製・後奈良

天皇御旨四通・長尾、上杉兩氏文書・傳教大師、弘法

大師、解脱上人各筆蹟・光嚴司筆釋迦涅槃像等古書畫・

古文書等多數を藏す。

●門祖會(六月二十日)、會式(十一月十二日、十三日)

●境内五千三百坪、本堂(明治三十二年起工)千佛堂

(一千一體の釋迦像を安置す)・山門・多寶塔・客殿・

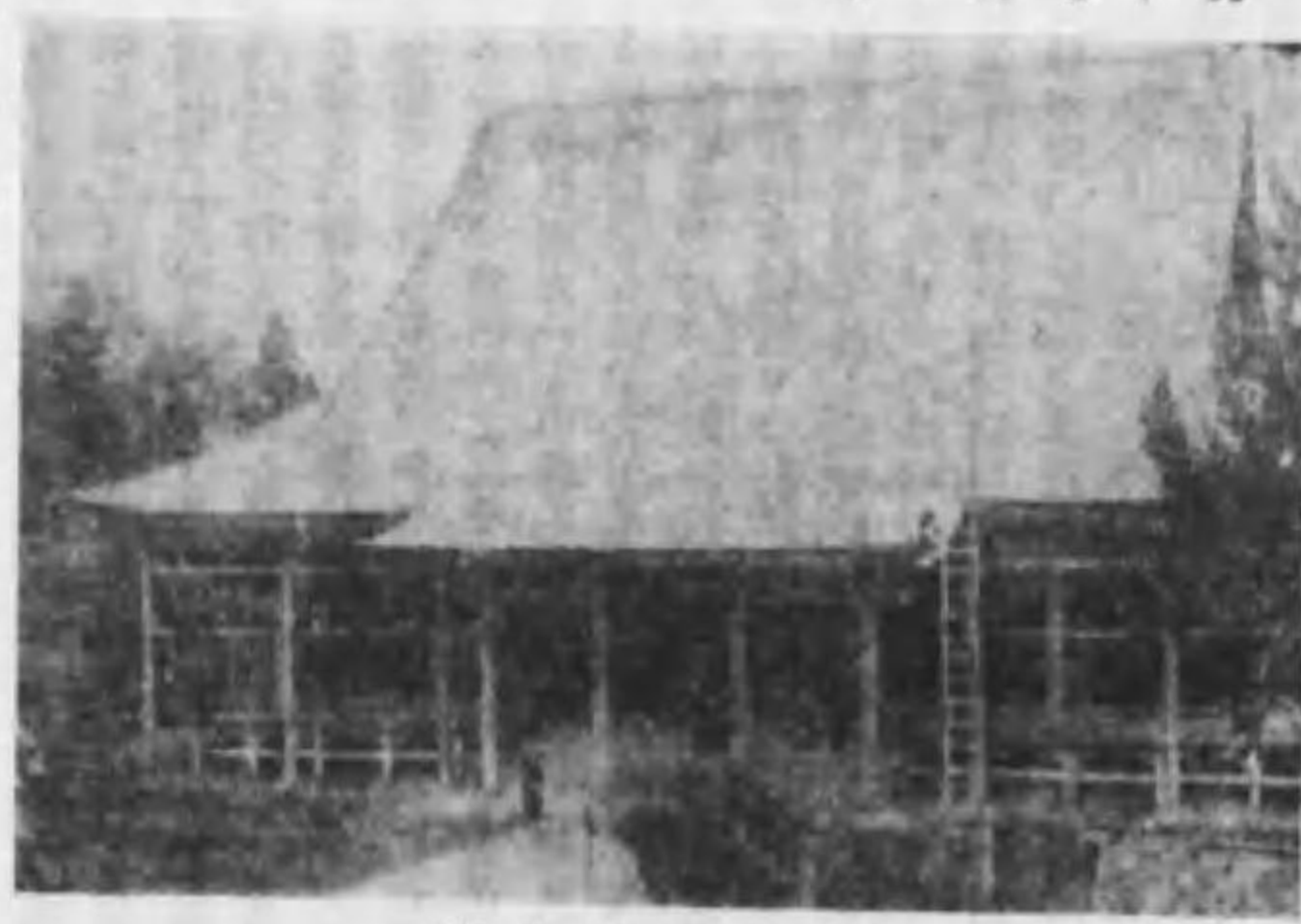
鐘樓・南門・番神堂・庫裡・寶藏等を整備す。寺實に

は後醍醐、後小松、後柏原、後水尾諸帝御製・後奈良

天皇御旨四通・長尾、上杉兩氏文書・傳教大師、弘法

大師、解脱上人各筆蹟・光嚴司筆釋迦涅槃像等古書畫・

古文書等多數を藏す。



(與板別院本堂)

元年、南部興福寺の壽聖、北條貞時(最勝院)の外護により、出羽奥州及び常陸に勧進して、伽藍の莊嚴修理に努め、寺觀を一新す。徳治二年、蒲原の豪族水阿彌三千貫文を喜捨して佛壇を寄進す。中古、其後坊弘智法印、紀州高野に登る途次、此地に到り、富山の風致を愛し、奥ノ院不動隨岩夜に一字を創し養賢院と試して留錫す



(堂本寺生西)

貞治二年十月、此地に入寂す。應仁文明年間、兵害を蒙り、後ち又明應二年の震災に堂宇破壊せしが、時の住僧弘秀、長尾爲景の授助によりて伽藍を再興す。もと寺額二百五十石、餘地四十餘町歩を有し、小本寺格たり。現に南泉院、地藏院の二寺中を有す。

り。本堂は五間半に六間、富山本尊上品土生の彌陀を安置す。本堂より波廊二十七間にして客殿あり、十間半に八間半の大廳にして上杉謙信の守本尊と傳ふる愛染明王を奉安さる。弘智堂は本堂の南面左方に在り、越後二十四奇の一なる弘智法印の御身佛を龕中におさむ。龕の右方に觀變の坐像安置さる。堂前に周二丈餘の大銀杏あり、山中の名木にして觀變の杖木より生長す。またお杖木銀杏の稱を有す。又婦人乳不足に驚駭ありて乳銀杏と稱せらる。近く金毘羅大権現廟、諏訪明神石祠等存す。境内より東南五町にして奥ノ院及び名勝不動隨岩あり。又東麓の西方小徑を通れば大見晴に至る。山内第一の展望地にして、中越連山の秀麗と共に、萬波重疊の大海原を眺て、遙に佐渡島の翠嶽を望み、夙に北越唯一の勝景地として喧傳せらる。大見晴に隣して末寺地藏、南泉の二院あり。共に境内幽邃にして、展望開豁秀美なり。なほ附近には妻月明神祠・口あけ石、坐禪石、猿ヶ馬場等の名勝古蹟あり。富山寺寶として弘智眞筆聖明集・雪舟筆兩界曼荼羅・壽全筆不動明王像・覺眼筆富山緣起・加藤清正書簡一通等を所藏す。

●弘智法印入定會(十月二日)。

寛益寺 三島郡大津村大字通谷。

●新義眞言宗豐山派。

●豐山山遍院説す。養老二年、僧行基當地に草庵を結ぶ。傳によれば、行基桶の靈木を感得して本尊藥師如來、日光、月光、四天王、十二神將等を彫み、更に其殘木を以て白像一軀を作れり。就中、仁王尊は後世最も崇敬され、世に通谷仁王と稱せらる。大同二年、堂宇建立さる。延喜元年、高大夫圓弘之を再興

し、後ち圓通之を重興す。寛永元年、風雪のため破損し、同十一年、長岡城主牧野忠成に請ひて修營す。

●寺寶として辨慶筆大般若經を藏す。境内に經塚、壇塚及び當寺の奥ノ院にして曾我禪田房買水の舊蹟と傳ふる曼荼羅寺等あり。

妙法寺 三島郡島田村大字村田。

●日蓮宗。

●法王山と號し、當宗四十四本山中の一なり。徳治二年風間信濃守信昭の開創する所にして、日蓮六老僧の上首日昭を以て其開祖となす。もと那羅の地にありしが、元亨三年三月、日昭寂するや、信昭其遺孺に従ひ、寺基を現地に移して伽藍を建て、舎弟日成を二祖、寶子日蓮を三祖となし、堂坊數十宇を造立して大いに法運を揚ぐ。後ち日蓮、伊豆國田方郡玉澤妙法華寺に轉するに及び、信昭亦之に従ふ。これより玉澤、村田の兩寺、宛然兩山一寺の觀をなし、雙美の教風を傳へたり。村雲瑞龍寺宮、大聖寺宮等の御歸依厚く、徳川氏亦朱印制札を寄せ、法運隆昌を極めし。天正十九年正月、同縁の災に罹り、更に明治戊辰役の兵火に炎上し、伽藍、寶物等悉く烏有に歸す。爾來復舊に努め漸次寺觀を整へたり。現に同宗本山の一にして、配下寺中に金藏坊、信成坊、安全坊、泉藏坊、大藥坊、治誓寺、妙本寺、大榮寺、本行寺、乘光寺、大慶寺等あり。

龍種院 古志郡山本村大字乙吉。

●曹洞宗。

●安樂山と號す。源義家典羽計の途次、當郷に於て一子を亡ひしが、其冥福を祈りて一字を建立し、安樂寺と號すと云ふ。其後久しく荒廢せしが、文明五年、公器憲草禪師之を中興し、龍種院と改稱す。天文年間上杉の老臣小島彌太郎國景、寺僧照山宗新禪師に歸依して堂宇を造營し、田畑山林を寄す。爾來法燈傳へて現在に及ぶ。現に直孫末寺共十四箇寺の本寺たり。

に傳る。後ち足利義滿の歸依厚く、堂宇を再建し、寺額を附す。天正十九年、暴民火を放ち、山内の堂坊、末院二十餘宇悉く燒燬す。元禄十四年、京都智積院末となり、元文五年、快眞堂宇を再建す。現に末寺六箇寺を有す。

吉藏寺 北魚沼郡城川村標町。

●曹洞宗。

●寶林山と號す。明應五年、國主長尾信濃守能景の開創に係り、開山に双林寺景英を請じ、寺額二百五十石を寄す。永正元年、曇英惠應之を中興す。享保十八年本堂再建せらる。現本堂是なり。

關興寺 南魚沼郡石打村大字上野。

●臨濟宗圓覺寺派。

●最上山と號す。應永十七年、上杉憲願の創建に係り、普覺圓光禪師を請じて開山となす。當時朱印二千四十石、末寺三百箇寺を有する巨刹なり。現に當派別格寺たり。

●本堂・庫裡・禪堂・經藏・鐘樓・山門・觀音堂等を具ふ。本尊は聖觀音なり。寺寶として行基筆心經・天目中峰國師、楠木正成、近衛基綱の墨蹟・光嚴司筆

雲洞庵 南魚沼郡上田村大字雲洞。

●曹洞宗。

●金城山と號し、當國曹洞禪家の一名称なり。會津新風土記によれば、本庵は養老年中、藤原房前光敏追福のため創建する所なりと云ふ。承久年中、順徳院宸筆新編の二字の匾額を賜ふ。應永二十七年、上杉安房守顯賢(雲洞庵高岩長棟)堂宇を再興し、永享元年、新雲寺僧顯惠慶字を開山に請す。一に長尾高景の建立とすと云ふ。蓋し之れ高景は西上州と越後に蕃行せる白井長尾の祖にして、憲賢、房顯に仕へし被官なれば、恐らく上杉、長尾主從協力して建立されしものなるべし。爾來上杉家の菩提所となれり。十三世通天は上杉輝成、同景壽二代の歸依僧にて、天正十四年、特に佛慧普明禪師の繪旨並に紫衣を賜はる。

●寺寶に順徳天皇宸筆額面・枇杷島城主宇佐美實行家系・軍配兩扇・免許船古簡・鼠足机等を藏す。鼠足机は古來珍品として名高し。境内に宇佐美陸河守定滿の墳墓あり。

法音寺 南魚沼郡城内村大字藤原。

●新義眞言宗智山派。

●繁城山と號す。僧行基、聖武天皇の勅を奉じて開創すと傳ふれど、一に又、天平七年、藤原不比等の第四子慶の創建に係り、初め飯盛山密嚴院と號す。聖武天皇より三千佛像の唐畫、寺料及び勅願所の繪旨等を賜ひ、慶の法號に因みて法音寺と改めさせらる。弘仁年中、僧空海當國巡錫の關、住持眞覺に法服を傳

弘誓寺 北魚沼郡堀之内町田川。

●新義眞言宗智山派。

●大慈山興樂院と號す。長元五年、海信僧都の開基

ふ。爾來寺運次第に隆盛にして、足利氏の中葉末寺七十餘箇寺を統べしと云ふ。文明元年、三十二世親祐の代山城三寶院末となる。領主上杉氏重代の時依厚く寺領百二十石を附し其菩提所となす。坂戸城主堀丹後守又寺領を寄せたり。次で徳川氏朱印を寄せ、寺領を安堵す。慶長三年、四十世龍海、國主上杉景勝會津移封に従ひて、出羽米澤に移り、米澤法音寺を建つ。是れ當山の分院なり。正徳三年、五十世龍威の代、京都智積院直末となり、安永三年、五十五世龍能、弘法の功により當法談林水世寺格允許せらる。明和四年本堂を再建す。文政六年、六十一世龍聖、權僧正勅許せらる。同年參内拜謁を賜はりしが、爾來屢々勅會御灌頂に參列す。かくて法運隆昌、開祖以來六十八世、以て今日に至る。

● 城域老杉蒼鬱、後に高岳を眞ひ、前方平原に展げ東に八海の秀峯を望む景勝の地たり。所藏の寺寶には聖武天皇の奉納と傳ふ三千佛畫像三幅を始め、佛畫十餘幅・佛像數幅・古文書多數あり。

普光寺 (浦佐尾) 南魚沼郡浦佐尾大字浦佐。

● 新義真言宗雙山派。
● 百祥山多聞天王院と號す。俗に浦佐尾沙門天の名を以て著聞し、大同二年、坂上田村麿の草創に係ると傳ふ。爾後、修營遺業再三に及び、其都度納められたる棟札今に存す。承久三年十月三日、平繁基、山林一里四方、寺領五十石を寄せ、末寺七箇寺を支配せしむ。永徳二年十月、堂宇造營せらる。天正三年六月、上杉謙信浦佐の内廿五貫文の時領を寄進し、武運長久を祈願すと云ふ。
● 堂宇には毘沙門堂(桁行五間、梁間五間、單層、



普光寺(實圖)(堂門沙界寺光普)

風入母屋造、茅葺)・觀音堂・白山堂・護摩堂・鐘樓・樓門等あり。毘沙門堂は即ち本堂にして現に國寶建造物に指定せらる。外觀形状重厚の感ありて樞密美ならず。且つ軒下露除けを附加したるを以て、俗々俗

の感なきにしも非ずと雖、大堂宇たる點に於て懸下樑に見る所のものなり。建立年月確證なきも大略室町時代の建築と推定せらる。寺寶として古文書あり、其

所藏の多き事縣下第一を以て稱せらる。主なるものをあげれば承久三年地頭平繁基天王堂制札・正安四年小笠原助房天王堂院主職令書・元亨二年龜塚六郎左衛門貞満天王堂院主職令書・文和二年藤原頼久院主職令書・永徳二年天王堂院主職令書・應永十一年長康介景賢書・文明五年肥前守房景書・文明十七年顯景制札・同十九年清景制札・延徳三年肥前守顯吉院主職令書・天文二年越前守房長院主職令書・天正三年輝虎毘沙門堂院主職令書・永和四年奉加勅運帖等以下數十通なり。其他古儀・書畫等珍寶多し。

● 押合祭(三月三日)最も有名なり。北越雜記によれば、此日、男女遠近より群集し、點燈の頃に至り、衣服を脱ぎ男は褌となり、女は單衣に細帯を締め、七間四面の堂内に押入り、さきだつものサンコウ(ト)と呼ぶる、下に、老若男女一同オオサイユウサイと呼はり、北より南へ、東より西へと押合ふ。かく押合ふ事二押、三押にして諸人熱氣に堪へず、外に走り、水を浴び又押入るあり、人の氣息寒氣に濡れ、霧の如く、堂内に充満し、神燈も爲に暗し。すべて七押七踏にして終る。山長と云ふもの人の手車に乗り、群集の間へ押入り「御前に黒雲が降り給ふ」と唱ふ。衆一齊に「何だこゝろさがつた」と問ふ。山長「米がふるこゝろさがつた」と答へ、手にもてるさ、らをする。次で神酒を獻し、之を衆人に頒與すと云ふ。

來迎寺 中魚沼郡十日町。
● 時宗。
● 正應元年八月、一邇上人の創建に係る。後長尾家代々の歸依厚く、其祈願所として彩色を供せらる。上杉景勝春日山在城の時、寺領五十四石を附し、寺基

を下條村より現地に移す。天和二年、徳川幕府、寺領四十石餘を安堵す。現に總本山清淨光寺末の遺蹟あり。

不動寺 中魚沼郡津村大字岩津。

● 新義真言宗智山派。
● 岩津山と號す。天平年中、行基、聖武天皇の勅を奉じて創建し、自作の不動明王を安置す。天皇勅して岩津一圓の地を佛供田として御寄進あり、成菩提院と稱し、勅願所と定め給ふと傳ふ。大同元年、飛騨院、國主の命を承け、堂宇を現地に建立す。弘仁年中、住僧辨隆、空海に秘密の法を相承し、眞言宗に歸すと云ふ。爾來、坂上田村麿、源義家、同頼朝、上杉謙信、徳川氏、領主松平氏等武門の崇敬甚だ厚かりき。文政十二年、勧道の時、本堂を再建す。
● 寺域廣闊にして且つ幽邃明娟を極む。

長安寺 中魚沼郡上野村。

● 曹洞宗。
● 横雲山と號す。元龜元年、信州北佐久郡太田山龍雲寺二世風庵存體の開創にして、初め太田山龍雲寺と稱し、仁田村太田原に在しが、後上野村移大輔長安この地を領有するや、存體に歸依し、一字を建立して現稱に改む。現に末寺五箇寺を有す。

● 寺地千三百六十六坪、本堂・庫裡・經藏・鐘樓・山門等を具備す。寺寶として開山傳來の製袈、黃髮版大藏經等を藏す。

香積寺 刈羽郡柏崎町。

● 曹洞宗。
● 飯浦山と號す。建長年間、柏崎權頭時長の建立にして、飯浦、創野尾にありしが、柏崎家没落の後、其館址たる現地に移る。永平寺九世の嗣法龍傳遺全之を再興し、曹洞の開創とす。當時寺運隆昌、奥羽、佐渡に亘り末寺九十餘箇寺を管すと云ふ。明應元年、長尾能景より創野尾に於て觀音免七千七十刈の餘地を寄す。尙ほ八世教文春作は碩學の譽高かりき。
● 境内に寛保三年建立の時長の墓石碑あり。

光圓寺 刈羽郡柏崎町。

● 眞宗大谷派。
● 眞宗大谷派と號す。天平十二年、聖武天皇の勅願に依りて建立す。もと天台宗に屬して金砂山圓光寺と稱し七堂伽藍を整備せし巨刹たりしが、次第に衰頹し遂に廢絶せんとせしを、佐々木盛綱入道西念、親鸞に歸依し、之を中興して改宗す。八世道性の時、蓮如當寺に留錫し、宅曆法眼筆、真書同上入筆の阿彌陀佛御影並に六字名號等を賜はる。時に寺號を現稱に改むと云ふ。天正年中、石山合戦の時、十二世性了功あり、教如上人より親鸞白鬚自費像に感狀を添へて贈らる。慶長五年、金澤尊光寺道慶入りて住持し、山號を護法山と改む。
● 寺寶として前記の外、行基作阿彌陀佛像、惠心作

佛像等を藏す。

西光寺 刈羽郡柏崎町。

● 淨土宗。
● 青横山曼荼羅院と號す。嘉吉年間、遊行上人則阿の開創にして、もと最光寺と稱し、横山村に在り、時宗なりしが、天文年中、徳蓮社中震之中興して現宗に改む。天和年中、歐代源三郎、畑中より金像阿彌陀佛を掘出し、之を本尊となし、爾來西光寺と改む。
● 寺寶として聖徳太子自作影像、法然筆名號竹布曼荼羅等を藏す。境内に沈地蔵あり。

妙行寺 刈羽郡柏崎町。

● 日蓮宗。
● 海岸山と號す。もと大乗寺と稱し天台宗に屬せしが、文永十一年三月、日蓮、遠流赦免ありて佐渡より當郡下宿浦に著し、當寺宿泊の御、住僧慈願(一)に慈宗之に歸依して弟子となり、名を日心と改め、日蓮宗に轉す。四世日教の代、もと大乗寺所轄の番神堂を普益と稱し本寺に併合す。明治四年六月、頗焼に罹り、同十年三月再建せらる。三十二世日蓮は著名なる高僧なり。
● 寺域海面數十尺の番神岸上に在りて風光明媚、堂宇又宏壯なり。番神堂は本寺の附近にあり、又普益堂ともいひ、内に普益尊前立三十番神を安置す。寺寶に日蓮筆曼荼羅・三面大馬・光嚴司筆觀音像・番神古畫・岡本檢校結繩文字・文治年中彫刻高麗狗等を藏す。
● 緣日(二月、七月、十月、各十四日、十五日)

別院の支院とし國府支院と稱す。
 ◎寺域千八百六坪。本堂・庫裡・鐘樓等を具ふ。寺實には順德院舊稱・弘法大師作阿彌陀如來木像一軀・小野基聖聖太子畫像・現覺流罪宣旨一通・同流罪道中乘物之標札一枚・現覺自畫高僧畫像一幅・同自作木像・同筆十字、六字名號・鏡面名號・蓮如筆六字、十字名號・同筆淨土文類聚鈔一冊・現覺所用文鏡名號石等を藏す。

分寺

◎天台派。
 ◎五智山 (或は安國山、曆應年中、足利氏創立に係る安國寺を當山に合併せしより此の山號あり)
 ◎國分寺 中頸城郡春日村大字五智國分。
 ◎天古派。
 ◎五智山 (或は安國山、曆應年中、足利氏創立に係る安國寺を當山に合併せしより此の山號あり)
 ◎國分寺 中頸城郡春日村大字五智國分。
 ◎天台派。
 ◎五智山 (或は安國山、曆應年中、足利氏創立に係る安國寺を當山に合併せしより此の山號あり)
 ◎國分寺 中頸城郡春日村大字五智國分。



(堂本寺身攝)

林泉寺

◎曹洞宗。
 ◎春日山と號し、北越風指の大禪刹なり。明應六年越後守源代信濃守長尾能景、其父重景 (林泉寺殿實漢正眞大居士) 菩提の爲め之を創建して開山に雲英惠應 (勤勝宗獻大光禪師) を請じ、重景の法號に因みて春日山林泉寺と號す。爾來長尾氏の菩提所として其保護厚く、堂坊、門壇庭園完備し、世々長尾家跡依の僧を以て住持となす。即ち雲英の後五世繼英禪慶 (勤勝心月圓明禪師)、六世天室光育、七世益壽宗謙、八世奉室宗惠、九世月松宗鶴 (勤勝佛智大通禪師) 等の高徳相繼ぎ、長尾、上杉兩氏の繁榮と共に寺門亦隆盛を極め、當時兩氏の寄する所、境内七萬五千有餘坪、領邑一千石に及び七堂伽藍整ひ僧房寮を連ね、寺觀頗る莊嚴なりといふ。然るに慶長三年、上杉景勝の會津移封の事ありて、寺門漸々衰へしが、同年、堀左衛門督秀治當國に主たるに及び、寺領二百餘石を寄せ、諸

尙筆禁制及修徳文・吳道子筆千手觀音・光殿司筆達磨大師・木造四天王及十六羅漢像・遊女高尾遺品等所藏頗る多く、殊に讓信の遺品數多あり。伽藍の後庭に屋ヶ池、附近に不識庵址等讓信關係の遺蹟あり。南方の丘陵は墓地にして、開山曇英を初め歷代住職、長尾、堀、松平、榊原等各領主の墳墓、川中島戰死者供養塔等あり。
 ◎大法會 (三月十五日、九月一日)。
 ◎眞宗本願寺派。

國府別院

◎眞宗本願寺派。
 元元年
 製蟹、
 當地國
 府に配
 流の關
 小丸山
 の地に
 草庵を
 結び、
 一向専
 修の法
 を弘む
 蓋し之
 れ當地
 方に於
 ける眞
 宗宣布
 の産地なり。現覺禪居五年にして勅免あり。即ち關東



(院別府國)

寶傳寺

◎古義眞言宗。
 ◎沿革不詳なり。明治元年、同様の災に罹り、堂宇を烏有に歸す。其後假堂を修營し今日に至る。現に高野末なり。
 ◎境外佛堂水保觀音堂は當郡西海村大字水保にあり大同元年、坂上田村麿の草創に係り、空海を開基とす。本尊水鏡十一面觀音菩薩一軀は行基作と傳へ、俗に火伏の觀音と稱して現に國寶たり。正慶元年六月、日野中納言實朝、配地佐渡に於て害せらるゝや、一子阿新丸、彼の島に渡り、父の恨を晴らし、本寺に逃れ、當觀音菩薩の助けに依り追手の危害を免れたりと傳ふ。境内に首塚、法界五輪塔 (日野中納言の墓) あり。
 ◎水保觀音法會 (二月十八日、三月十五日、四月十八日、五月一日、七月一日、八月九日、九月一日)。
 ◎天台宗寺門派。
 ◎國峯御前山と號し、當國三十三所中第一番札所なり。孝德天皇の朝、法道仙人、勅を受けて諸國に五十

雲臺寺

◎國峯御前山と號し、當國三十三所中第一番札所なり。孝德天皇の朝、法道仙人、勅を受けて諸國に五十



(堂本寺雲臺)

簡寺の伽藍を建つ。本寺は其一にして、仙人、此地來錫の窟、觀音の奇蹟に感じ、自ら同像を刻み、之を安置して雲臺寺と號し、翌弟觀雲を開山となすと傳ふ。後年僧徒當寺參籠の際、地蔵及び毘沙門天の二像を作りて脇立となす。弘長二年、北條相模守時頼の當山に參詣するや、當山を第一番として越後國に三十三番の札所を設くを説く元龜天正の頃兵燹に罹りて廢絶し爾來僅に三像安置の一堂のみを存せしが明治十三年、嘉長、舊雲臺寺を復興し、以て現在に至る。
 ◎境内頗る風致に富み、傳へらるゝ古詩古歌又少ながらず。時頼の歌に「はる／＼と登りて見れば御前山うらばさんかく胸が嶽かな」とあり。
 ◎縁日 (二月十八日、五月一日、七月一日、八月九日)。

大雲寺

西頸城郡外波村大字外波。

●真宗大谷派。

●現窟の弟子宗雲の開基に係る。初め宗雲、大文字屋右近兵衛と稱せしが、衆人越後流罪の時、大文字屋に止宿して教化を垂る。即ち右近其化に隨して弟子となり、宗雲と名を改む。時に觀覺之に十字名號を授くといふ。文明四年、六世の孫左傳、越前吉崎に蓮如を訪れ、其弟子となりて法名を宗誓と賜ひ、一字を創して今日に至る。

●現窟軍泥筆十字名號一幅・實如筆安心決定鈔一帖等を藏す。

耕雲寺

岩船郡山邊里村大字門前。

●曹洞宗。

●靈樹山と號す。應永元年、覺堂龍勝の開創にして其師梅山を以て開山となす。覺堂の徒ら南英、湖海等相次いで住持し、寺運大いに振ふ。即ち慶長三年、村上周防守表明より、元和四年、堀丹後守直寄より各寺領を寄せられ、曹洞宗の錫所として百八十餘の末寺を監せり。近世寺領百五十石を有し、佛殿・講堂・總門等壯大なりしも、近年美上せり。後年再修以て現在に至る。

●境内に村上氏の墳墓あり。

蓮華峰寺

(小比叡山) 佐渡郡小木町小比叡。

●新義真言宗智山派。

●八雲山と號し、俗に小比叡山と稱す。大同三年、空海の開創に係り、醍醐天皇の勅願所なりと傳ふ。遺

く皇城の鬼門に當り、比叡山に構して建立されしものにして、山脊、八雲の蓮華に似たるを以て山號ありと云ふ。徳川氏の治世に至り、徳川家康、同秀忠の二廟を設置し、朱印九十五斗を寄せらる。承應元年三月、辻藤左衛門信俊父子住持快慶と共に異志を抱きしに依り、本堂・庫裡・寶藏等を焼かれしが、慶安年中再興せらる。

●堂宇には本坊・燈籠堂・一切經藏・講堂・地蔵堂・唐門・山門・八角殿・八祖堂・鐘樓・密嚴堂・金堂・弘法堂等を具備す。就中弘法堂、金堂は現に國寶



(寶蹟) (堂法弘寺野華蓮)

建造物なり。金堂は桁行五間、椀間五間、單層、屋根入母屋造にして、其建立年代不詳なるも、様式手法より見て室町中期の建立と推定せらる。現に三間の向拜を附加し、後世の追加にして、もと檜皮葺なりしなるべし。内外素木造り、斗拱唐様になり、全體の構架必らずしも美ならずと雖、かゝる邊陲孤島に成りし古建築として看過すべからず。弘法堂は一に奥ノ院と稱され、金堂の右方、丘の中腹にあり。方三間、單層、屋根入母屋造、茅葺にして内外丹塗、同じく建立年次不明なるも室町末期の建築と推定せらる。寺寶に醍醐天

妙照寺

佐渡郡二宮村大字市野澤。

●日蓮宗。

●妙法華山と號し、當宗四十四本山の一なり。文永八年、日蓮上人佐渡流罪の遺蹟にして、其弟子日靜の開基に係る。此地も石田郷一ノ谷と稱す。文永九年四月、邑東近藤清久、新羅城主本間六郎左衛門重運の依託を受け、日蓮を塚原の講居より自邸に迎ふ。同年六月、今の御影堂の地に草庵を建立す。里人呼びて日蓮坊堂或は法華坊といひ、以て當宗本國發利の濫觴となす。翌年四月、日蓮親心本尊鈔を撰し、同年七月八日十界曼荼羅を圖して宗基を定む。同十一月、教免歸倉の御、草庵を日靜に附屬し、翌建治元年五月、皇延山より妙法華山妙照寺の寺號を授く。爾來法統四十八世現に日蓮宗本山なり。

●寺城高丘に位し、樹木鬱蒼、蹊路數十級の石階を上下し規模頗る宏壯なり、所在の堂宇は本堂・庫裡・書院・寶藏・經藏・妙法堂・祖師堂・妙見堂・七面堂・大門・仁王門・鐘樓等なり。寺寶に日蓮筆大妙茶屋及び書蹟其他古書畫多し。附近に日朗坂、教免石等の遺跡あり。

本光寺

佐渡郡金澤村大字泉。

●本門宗。

●法教山と號す。承久三年七月、順徳天皇當國に遷幸あるや、御念持佛、聖德太子作觀世音を安置する觀音堂の建立を地頭本間次郎入道安達に命じ給ふ。仁治

長谷寺

佐渡郡加野村大字長谷。

●新義真言宗觀山派。

●大同三年、(一)に弘仁二年)空海、行基草創の養禪寺址に就きて一字を興し其後圓仁の建立せし長樂寺を併合せしものなりと云ふ。

妙宣寺

佐渡郡眞野村大字阿佛房。

●日蓮宗。

●華王山阿佛房と號し、當宗四十四本山の一なり。承久三年、順徳上皇佐渡遷幸の御、供奉の侍臣遠藤左



(堂本寺宣妙)

大野村原に在るや、其化傳を蒙りて弟子となり、法名を日靜と號す。其子盛綱又日蓮に就きて出家し、名を日滿と改め、遂に其宅を捨て、寺となす。初め新保村に在りしが、嘉祥年間、竹田城主本間重昌、之を居

國分寺

佐渡郡眞野村大字國分寺。

●新義真言宗智山派。

●聖王山と號す。天平年間、聖武天皇勅願の諸國分寺の一なり。權紀神護景雲二年の條に「北陸道使、右中辨野眞人出雲言、佐渡國國分寺領額一萬束云々」と見え、延喜式に「當國國分寺領一萬束、新造佛佛燈分料五百束、文殊會料一千束」と見ゆるは本寺の事なり。正安年間、雷火に炎上し、享祿二年、再び回縁に罹る。永久三年、順徳上皇、當國遷幸の御、行在所に充てらる。延寶七年、住持賢教、大に堂宇を修築す。

●本尊は木造藥師如來坐像にして國寶なり。行基作と傳ふれど、藤原前期の作と推定さる。高さ四尺五寸七分。寺寶には空海筆胎藏界曼荼羅・五大明王畫像・雪舟筆十六羅漢圖其他古文書等多數を藏す。尙ほ附近に七重塔礎石の跡を存す。

世尊寺

佐渡郡眞野村大字竹田。

●本門宗。

●法久山と號す。仁治三年、順德上皇の佐渡に崩じ給ふや、供奉の臣遠藤氏、遺詔を奉じて翌寛元元年三月、佐渡國加方村に一字を創建し、上皇の御看經佛たりし釋迦像、普公筆法華經等を安置す。是れ本寺の濫觴なり。文永九年、盛國日蓮に隨身渡海せる日興の教化を蒙りて弟子となり、下江房日増と號す。翌十年、日増、新堂を建立して、日興を第一世とせしむ。自ら之に次ぐ。時に日蓮、命法久住山大覺世尊寺の寺號を與ふといふ。法久山は其略號なり。三世國府房日久寺門の興隆に努むる。こゝ五十四年、以て富山の基礎を固む。現に北山本門寺未にして中本寺格、末寺に本光寺所轄佛堂に法華堂、宗祖石堂あり。

●境内千四百三十坪、本堂・山門・大門・玄關・書院・東廂・鐘樓・寶藏等を具ふ。寺實に日蓮、日興の像及び寫筆十數點、其他古文書多數藏し、八月一日虫干を行ふ。境内に國府八道の墓あり。附近には日蓮乘船地、日蓮懸石(白鳥石)・思案ヶ崎(懸ヶ崎)等の遺跡あり。

●日蓮歸會記念會(四月十三日)。

長安寺 佐渡郡河崎村大字久知川内。

●新義眞言宗豐山派。

●陽雲山と號す。天長八年の創建に係り、當時天長寺と號し、八宗兼學の巨刹たりき。順德上皇、佐渡遷幸の御、陽雲山の宮額を賜ふ。觀應年中、關中將なる一公稱、兵亂を避けて富村に下り、本寺の御樂を興せりと傳ふ。天正の兵亂に堂宇燒失し、寺運衰微す。現に大野清水寺未なり。

●寺實中、木造阿彌陀如來坐像一軀及び銅鐘一口は共に國寶に指定さる。前者は高さ二尺八寸八分、鐘は鉄損を存するも歴光古く、藤原時代の特色を備ふ。後者は高さ二尺七寸三分、朝鮮鐵の模式に成り、其形體及び唐草文樣等何れも秀美なり。其他に地頭本間左兵衛尉貞泰、同祖宗等の古説文數多藏す。

神宮寺 佐渡郡新穂村大字井内。

●新義眞言宗寶山派。

●沿革由緒不詳。

●寺實中、銅鐘一口國寶に指定せらる。永仁三年九月日奉施入の銘を存す。

根本寺 佐渡郡新穂村大字大野。

●日蓮宗。

●厚原山と號す。日蓮配流の遺跡、現に當宗四十四本山の一なり。もと院院林、古墳累累たる塚原にして眞言宗弘明寺の所管なりしが文永九年二月、日蓮、此地の三味堂に開目鈔を撰述す。次いで一ノ谷に移るの地も時々塚原に往還して三年を送る。同十年四月八日十界勸請の大覺茶屋を作りて日蓮に授く。是れ佐渡始願の本尊にして當山第一の靈寶たり。これより屬々他門の壓迫を蒙り、衰退甚だしかりしが、約三百年を経て天文年中、偶々京都妙覺寺第十三世大泉坊日成、當地に來り、其遺跡を慨して興隆を發願し、天文二十一年東西百三間、南北百九十二間の地を構へて一間四面の祖師堂を創建し、根本寺と號し宗風を開山、日蓮を二世とせしむ。十一世日興の代、越後上杉氏の部將直江山城守景綱、境内地を除地となし、且つ田地三町六反を寄す。日興即ち勝を掲げて正教寺と號す。爾來妙覺寺門流より相次で來住せしが、日興に至りて妙覺寺と寺格に關し紛争の事あり、慶長十八

年六月、狀を具して關東に訴へ、其獨立を唱發す。元和元年十月、徳川家康、裁斷して遂に獨立の下知を與ふ。こゝに於て寺號を改め、厚原山根本寺と號す。寛文九年九月、日行の入山するや、大いに諸堂を修營し寺觀を一新せしむ。偶々不受不施の法難に際し、幕府は禁を嚴にし、諸寺の緣由を徵し、本寺なき寺院は悉く身延に歸すべきを命ぜり。日行、時の寺社奉行に上書し、五箇の祖文を掲げて、富山の正統聖蹟なる所以を評にし、且つ慶長年間、對妙覺寺事件の裁決を開陳し、諸他の末寺と同列に律すべからざるを具情したり。後ち幕府、身延、池上、中山の三輪番制を定められど富山及び妙宣寺は除外され、特に一本寺として、歴世永住たりしが、明治七年新制を廢止せらる。

●境内千九百六十三坪、祖師堂・千佛堂・本堂・三味堂・仁王門・二天門・長屋門・寶藏・鐘堂・庫裡・大鼓堂・經藏・土藏・妙見社等布置整然たり。寺實に日蓮作觀燈祖師像・同筆細字法華經八軸・同遺品等多數あり。境内に布金壇、龍燈樓、寶藏井、甘露水、陸堂跡、形犬塚、影向松、法華橋、何奈野、楮畑の十勝あり。

●厚原問答會(二月十六日)、開山會(七月一日)、御會式(十一月十三日)等を嚴修す。

龍吟寺(觀音院) 佐渡郡二見村。

●新義眞言宗豐山派。

●沿革由緒不詳。

●本尊は銅造觀音立像にして國寶なり。古樸を模せし鎌倉期の作、蓮座の形狀、微笑を含める面相等頗る古致に富む。二重華身光及び璣珞天衣等は銅板打出にして注目すべき手法なり。高さ一尺一寸七分。

富山縣

富山別院 富山市總曲輪。

●眞宗本願寺派。

●初め富山市豐川町にありて本山會所と稱する一庵堂たりしが、明治十三年十月、之を現地に移して堂宇を營み、以て本山說教所となす。同十七年九月、改めて別院となせしが、翌年五月、富山大火に遭ひて堂宇悉く燒滅す。因りて六月、假堂を建營す。同三十二年八月、又復焼燬を蒙りて假堂以下を失ふ。現今の建物は總て其後の遺築に係る。現に崇徳門末は富山市並に縣下四郡に亘り、寺院三百餘箇寺、信徒二萬五千人を有せり。

●境内三千四百四十七坪、本堂・書院・輪番所・鐘樓・鼓樓等の堂宇あり。

富山別院 富山市總曲輪。

●眞宗大谷派。

●明治三年、富山藩主前田利國領内の寺院を毀ち、之を悉く富山梅澤町の數箇寺に合併せしむ。爾後、本山及び地方の僧侶當寺の恢復を企て、同八年に至り、遂に官許を得て堂宇を復興せり。同十二年、宗主現如當地遷化の際、堂宇の狹隘を感じ、翌年二月、現寺地に富山說教所を創設す。同十七年、改めて別院となし大に教學の振起を圖る。同二十三年八月、同寺の異に擬り堂宇局有に歸せしむ。翌年三月本堂を再建し、次で漸次諸堂を整へたり。

光嚴寺 富山市五番町。

●曹洞宗。

●春日山と號す。長祿年間、越前國慈眼寺天叟、當國に來りて射水郡森山城外に一字を建立し、光嚴寺と號す。即ち本寺の濫觴なり。當時寺領千石、末寺十八箇寺を有し、寺運隆盛を極めし。八世郷雲州札の時、上杉謙信の兵火に罹りて堂宇燒亡す。爾後僅に草庵を結びて法統を保ちしが、天正年間、領主前田氏、寺領百石を寄せて再興を授け、其菩提所と定む。爾來同氏歴代の厚澤厚く、寛文三年、春日野の地に三千九百坪を、更に同十一年四千五百餘坪を寄進す。貞享二年、松平秀久、寺基を現地に移して新に伽藍を造營す。明治二十九年、徳福の時、本宗認可僧堂を開創し、以て現在に及べり。

●境内四千五百坪、總門・山門・本堂・僧堂・庫裡・書院・方丈・位牌堂・會堂・圖書館等の堂宇を具ふ。寺實として承陽大師筆正法眼藏諸法寶相卷・同行狀繪傳・製袈九條等を藏す。境内に當寺經營に係る幼稚園會堂に同附屬日曜學校等あり。

永福寺(松寺) 富山市梅澤町。

●眞宗大谷派。

●高祖降誕會(一月二十六日)、開山忌(三月二十五日)、四萬六千日會、砂踏供養(七月十日)、兩祖忌(九月二十九日)、大布薩會(十月二十八日)、太祖降誕會(十一月二十一日)。

大法寺 富山市梅澤町。

●日蓮宗。

●海秀山と號す。慶長十一年、日行の開創に係る。貞享元年、八世日蓮の時、藩主前田正甫、深く當寺に歸依し、以て永世菩提所と定む。次で元祿三年、當地杉苗町(現寺地)に二千八百九十九坪の地を寄進して、大

いに堂宇を興し、更に翌四年、黒印領百石を附す。爾來寺勢頓に振ふ。即ち日蓮を以て當寺中興の祖とす。同五年、日蓮宗各派總所並に領内各宗寺院の首座と定めらる。文久三年、頓燒の災に罹り、本尊釋迦如來像、日蓮木像、前田家位牌、鐘樓等を除くの外、堂宇什寶盡て烏有に歸す。後ち二十八世日祥、前田利同の援助を得て復舊に努め、三箇年にして諸堂の再建を遂げ、以て現在に及べり。

來迎寺

富山市梅澤町。

●淨土宗。●光明山。號し、大寶二年、僧慈興の開創と傳ふ。初め立山々麓にありて五智山圓福寺と號す。慈興はもと北陸道將軍藤原佐伯の嫡男有頼なり。後年故ありて佛法に歸し、當國立山を開きて其山麓に當寺を創建し、以て同山別當とす。久壽二年、光明坊林海の時、偶々立山嶺現の靈告を蒙りて、歸其郡葛島(今、熊野村)の地に移し、堂宇を修營す。其後林海上格して源空の門に入り、師命を受けて北國を遊化す。同時に當寺亦淨土宗に轉せり。蓋し北國最初の念佛道場とす。

專琳寺

富山市辰巳町。

●真宗大谷派。●安城山。號す。水正元年、僧收順、領主神保氏の所願により、舊安城城内に一字を草創して安城山專琳寺と號す。即ち當寺の濫觴なり。初め天台眞言兼修の道場たりしが、後ち收順、本願寺九世實如に歸して眞

宗に改む。六世淨見識に遭ひて追放せらる。や、東叡山に赴きて中親親王に謁し、更に富山城主前田利次參府の時、之に請ひて寺地一千坪を寄せらる。其後東照宮、台徳院、大猷院三代の靈牌を下附せられ、靈殿を建立して之を安置せり。文久三年、靈殿再建に方りて前田氏より其費を寄せ、三箇年間領分一統用費助運の允許あり。爾來次第に寺觀を改め、以て今に及ぶ。

極成寺

富山市泉町。

●真宗大谷派。●館定山。號す。越中三坊主の一にして、極性寺と同様の寺院なり。寛永年間、小竹村極性寺(現に當市藤井町にあり)の住持慶玄隱棲し、其二男正賢をして一字を別立せしむ。即ち當寺の濫觴なり。初め同じく極性寺と號す。慶安元年、富山小島町の地に移り、同三年、更に現寺地に轉す。寛文十二年に至り本山の命により極性寺の舊號を採りて極成寺と改め、以て今に平れり。

極性寺

富山市藤井町。

●真宗大谷派。●館定山。號す。越中三坊主の一たり。徳長院の開創に係ると傳ふ。徳長院はもと藤原基經の男徳慶にして、幼にして出家し、高野山に登りて三密の行業を修す。延喜十九年、北陸に下りて當國新川郡下條郷館色に住せしが、延長元年、遂に一字を創す。即ち當寺の濫觴なり。時に醍醐天皇より館定山定員院極成寺の勅

額を賜ふ。爾來眞言の道場たりしが、承元々年、親鸞越後配流の途次、當寺に留錫するや、七世慧明院、其化に歸して法名を教順房と改め、寺を又眞宗の道場となして寺號を極性寺となす。安貞二年、下新川郡室田に移り、後ち滑川、市野江を経て、應永元年、八世信空の時、婦員郡友杉村(現新川郡新保村)に轉す。同十七年(一説正長二年)、同様に歸りて本尊並に聖徳太子像を除くの外、什寶悉く燒亡す。其後更に、同郡布田村(水正元年)を経て、天文三年、十三世西善の時、打出(現婦員郡倉垣村)に移る。同二十三年九月、城主神保氏、當寺供養僧往來所無滞通申可の書札を附し且つ當寺に濫觴祖不及の禁制を立つ。慶長十八年、小竹村に移し、寛永年間、今の極成寺を別立す。次で同年中、十六世眞慧、寺基を現在の地に移し、以て今日に及ぶ。

長慶寺

富山市櫻谷。

●曹洞宗。●僧眞辨の開基と傳ふ。初め新川郡野の地にありて眞言宗に屬せしが、後年現宗に轉す。天明六年、土家河上六右衛門寄進に係る現寺地に移る。次で眞辨更に河上氏並に佐藤牛右衛門、小杉治右衛門等と請りて丈六延命地藏銅像を鑄造し、且つ寺境に櫻樹を植えて寺觀を一新す。寛政十年二月、城主前田白仙院當寺に遊びて櫻谷八景を詠じ、寺内人丸堂に掲ぐ。翌十一年、

富山住人聖教善次郎の發願に依り五百羅漢石像を富山參路に安す。明治三年、當藩藩令出づるや、銅像其他を沒收せらる。因りて一時舊地に假堂を設けしが、同三十五年、現在の堂宇を完成す。

瑞龍寺

高岡市關町。

●曹洞宗。●高岡山。號す。慶長年間、藩主前田利常の創建にして、磨山忍陽を以て開山となす。初め利常の兄利長高岡城側に一字を創して法圓寺と號し、織田信長夫妻並に同信忠廟を建立せしが、其後、利常封を繼ぐや利長菩提道場を爲に新に假堂を營み、法圓寺を併せて瑞龍寺と號す。當時寺域四萬坪、一山支那臨安府徑山萬壽寺に倣ひて、七堂伽藍を具し、別に東漸院、法性院、林洞庵、龜占庵の四院具はりて、寺領三百石を有せり。正保明曆の間、大いに土木を起して諸堂宇を修營す。次で萬治二年佛殿成る。其後も前田家より屢次増補の事あり。以て今に及ぶ。

●境内地五千五百二十餘坪。寺域頗る閑靜なり。堂宇に佛殿・法堂・總門・總廊・庫裡・鐘樓・明王殿・仁王門等を具ふ。就中、佛殿(方五間、重層、上層三間三面、屋根入母屋造、亞鉛板葺)、法堂(桁行十一間、



(寶國) (殿 瑞 寺 龍 瑞)

一面和様建築の手法を折衷して成るものにして、從來の禪宗建築に見ざる贅多の注目すべき特徴を具せり。蓋し之れたゞに江戸初期有数の建造物たるのみならず我國建築史上看過すべからざる遺構なりとす。内部須

領壇には明より將來の釋迦三尊を安置す。又法堂には明曆二年、前田利常の建立に係り、總門亦同じく明曆年間建築たり。寺寶中、紙本墨書後陽成天皇宸翰御消息一幅は現に國寶に指定せられ、他に織田信長、豐臣秀吉書翰・同秀頼和歌・徳川家綱筆繪圖・此殿司豐羅漢儀・豐舟筆遠懸儀・昭業筆布袋像・櫻樹筆觀音像・王伯子畫屏風等を藏す。當寺總門前の寶路は俗に八町道と稱し、其兩側には櫻樹頗る多く、春季殊に遊覽を兼ねたる參詣者接踵す。附近に前田利長廟あり。

極樂寺

高岡市博勢町。

●淨土宗。●安養山。號す。後醍醐天皇皇子越中宮明心法親王の開創と傳ふ。初め元弘元年秋、親王國內大亂を避けて富岡小境浦に若御あり、遊行上人に就きて別業し、射水郡牧野の地に駐住し給ひしが、元中四年、茲に入寂せらる。供奉の士四人遺跡を守りて當寺を興し、六世眞然に至るまで時宗に屬せしが、七世に至りて現宗に轉じ、越中一國の禪頭たりき。天正年間、前田利家守山移城の際、當寺亦其地に堂宇を構へしが、慶長年間利次富山に移るや、當寺之に隨從す。後年親鸞の災に遭ひて現寺地に轉じて再建し、以て現在に及ぶ。

超願寺

高岡市片原町。

●眞宗大谷派。●飛龍山。號す。嘉祿元年、親鸞門徒二十四輩中の第一飯沼性信の開創に係る。初め當國西礪波郡岩坪の地にあり。永祿年間、守山城主神保氏の旗當寺に入りて住持たりしが、上杉輝虎、同城を攻略するに及び、

神保氏逃れて當寺に籠居せし爲め兵火に罹りて堂宇夷上す。元龜年間再建成り、更に慶長五年、寺基を現地に移せり。

繁久寺

高岡市下園。

曹洞宗。仙臺山と號す。永祿五年、佛前聖徳の開山に係る初め飯久保村にありて飯久寺と號せり。四世滑洲學徳あり、前田利長深く之に歸依す。慶長十九年五月、利長歿するや、利常其廟を中郡關(現寺地)に營み、滑洲をして之を守護せしが、正保二年、改めて寺となす。次で飯久保村飯久寺をも茲に移し、繁久寺と號すに至れり。當時寺領五十石、他に五萬三千七百餘坪の寺地を有し寺運隆盛を極めしが、安政六年、回廊に罹りて諸堂夷上す。其後前田齊泰之を再建し、以て今日に及ぶ。

最勝寺

上新川郡越川村大字最勝寺。

曹洞宗。瑞龍山と號す。建久八年、領主越川親綱、其父親直菩提の爲に創建すと傳へ、もと臨濟宗に屬す。文明三年、一休來錫す。明應年間、越川親貞入道して獨歩慶淳と號し、當寺を再興して現宗に轉す。天正年間、上杉輝成の兵燹に罹りて堂宇燒亡す。後年越川城陷落に及び、富山藩主の歸依を得て其城址に移り、以て現在に至る。

境内に越川氏歴代の墓碑あり。寺寶として傳聖徳太子作彌陀三尊像・黃髮版一切經・佛空海作不動明王像・同結紙金泥法華經・光明皇后聖經卷・光嚴司筆涅槃圖・越川親綱壽像・牧深筆觀音像・楊補之筆梅圖・宗伯筆蓮華像・狩野梅榮筆越川親綱像・越川親言詩歌書・正山筆出山禪迦像・同越川親綱再興寺序・同最勝寺記・吳崎筆蓮華像・一休詩偈等を藏せり。

養照寺

中新川郡滑川町領家。

眞宗大谷派。越谷山と號す。僧道の開創に係る。初め徳風院と號して天台宗に屬せしが、後年眞宗に轉じて現寺號に改む。九世祐玄の時、東本願寺十二世教如より宗祖の眞影を寄す。教如寂後、其分骨を受けて寺内に安す。加賀前田氏江戸参觀の途、歴次當寺を其宿所と定めたり。

立山寺

中新川郡南加越村大字眼目。

曹洞宗。眼目山と號す。乾徳年間、僧大徹の開創に係る。大徹は總持寺二世峨山の高足にして、乾徳元年、當國に來り、立山権現の示現を蒙りて一字を創すと云ふ。應永年間、當郡堀江城主土肥備太郎當寺に歸依する事頗る厚く、三千貫の地を寄進す。當時寺運隆盛、當宗一本山として末派出世の道場たりしが、天文年間、上杉輝成の兵燹に罹り、加之、大僧越土肥氏滅亡して、

日石寺

中新川郡大岩村。

古義眞言宗。大岩山と號し、高野山金剛峯寺末たり。神龜二年行基の草創と傳ふ。往古は寺内外六十餘の坊舎を施して寺勢甚だ隆盛なりしが、天正年間、祝融の災に罹りて、堂宇古記等悉く燒亡す。正保年間、僧弘聖之が再興に努めしが、慶安四年、前田利常、其孫孫誕生の報賽として諸堂を建立し、寺縁を附して永世の新願所と定む。

勤堂の傍に數段の飛瀧あり。堂後の山を經ヶ峯と稱し峯下に又吹雪、阿吽の二瀧あり。一山崩崖あり、巨巖あり、飛瀧あり、溪水あり、眞に之れ絶勝の靈城たり。寺寶として佛空海筆文選唐右録・紺紙金泥法華經・眞如法親王筆空海像・宅磨筆不動明王立像・狩野探幽筆不動明王像・上杉輝成所持兵法口傳抄等を藏せり。尙ほ富山中の飛瀧は眼疾に靈驗ありて古來各地より來浴する者多し。

照顯寺

下新川郡魚津町馬出。

眞宗本願寺派。興隆山と號す。初め承元二年現覺越後配流の御、關白近衛基通の懇願に依りて彌陀本尊を之に譲りしが後ら基通孫澄學之を護持して當國に來り、越前郡城生の地に留錫して一字を創し、以て教化に努む。是れ當寺の靈廟なり。其後次第に克爾せしを、文明五年、僧順知、其遺址に就きて新一字を興し、照顯寺と號す。時に城主青山佐渡守之に歸依すること甚だ深く、堂宇を修營して其菩提所と定む。天正十年、越田氏、魚津城主吉江總部、河田豐前等を攻めて之を敗るや、青山佐渡守城代となりて魚津に赴く。當寺亦隨ひて之に移り、以て現在に及べり。

常泉寺

下新川郡魚津町。

曹洞宗。富谷山と號す。享祿二年、僧悅傳の開創に係り、

初め當郡片貝各村大字東城にあり。松倉城主権名右衛門尉當寺に歸依すること深くして、永祿七年八月、毎歳三十歳寄進の事を定む。次で城主浦男康次出家して當寺三世を繼ぎ、昌至文書と號す。爾來権名氏の階級愈々厚く其菩提所たり。慶長の末年、魚津城代青山與三寺地を寄進し、元和元年、現寺地に移れり。尙ほ金澤城主前田氏の歸信亦淺からず、三代利常、其臣横山山城守、本多安房守等寺地を寄せしことありと云ふ。

徳法寺

下新川郡三日市町。

眞宗大谷派。眞宗社名號の舊蹟たり。初め現覺越後配流の途次此地を過りて社源左衛門尉の居宅に留錫す。源左衛門夫婦之に講して其教化を受け、湯御の念深かりしが、現覺去るに臨み十字名號を興ふ世に社名號と稱するは是れなり。後年源左衛門の子孫一字を創して徳法寺と號す。即ち本寺の起原なり。

心蓮寺

下新川郡西布施村大字小川寺。

古義眞言宗。小川山と號し、高野山金剛峯寺に屬す。もと當村小川寺塔頭の一たり。小川寺は聖武天皇天平十八年、行基の開創に係ると云ふ。降りて弘安年間、繪旨を賜はりて異體降伏の法を修す。次で鎮護國豐寺の勅號を賜ひ、且つ執權北條時宗に勅して新川郡内東西八里、南北一里半の地を附與せらる。後ら後光嚴院御願所と定められ、寺運益々隆盛に赴きしが、正平十七年、桃

井直常の兵火に罹りて堂宇、繪旨、勸額等を失ひ、更に越中守源新波義將の爲に寺領を沒收せらる。明應二年足利義村、高山義豐等の變に遭ひて當國に奔り本寺に留錫す。後ら後柏原、後奈良兩帝の勸願所と定められ寺勢漸く舊に復せんせしが、天文二十年、長尾景虎の兵燹に遭ひて夷上し、爾來次第に衰頽す。現今同村に舊小川寺塔頭光學坊、蓮藏坊等ありて、當寺と共に僅かに其舊址を保てり。

淨永寺

下新川郡大布施村大字金屋。

眞宗大谷派。眞覺化導の舊蹟たり。初め現覺越後配流の途次、當地に三日の逗留ありしが、偶々茲に眞覺實盛の孫永井源藏なる者あり。眞覺の教化に浴して念佛の徒となり、名號を受く。後年源藏の子孫一字を創して淨永寺と號す。

聞名寺

越前郡八尾町今町。

眞宗本願寺派。桐野山と號す。本願寺三世覺如の弟子願智坊覺淳の開基に係る。覺淳はもと天台宗の僧なりしが、正應年間覺如美濃國各務郡留錫の御、其化に歸して、同郡

大御所村に眞宗の道場を開く。次で元亨三年、飛騨國益田郡武原に移りて新一字を創せしが、更に同國吉成郡高尾郷吉田村(現、阿曾布村吉田)に移りて、覺如より開名寺の廟額並に執持抄一巻等を附せらる。應仁二年、四世覺如、出で、越中國婦負郡土村に居住し、且つ同郡西野嶺倉ヶ谷村に通寺を設けて教化に従ひしが、明應元年、再び飛騨に歸る。大永年間、五世覺如、再び越中に入りて婦負郡野城村兼園に草庵を結びしが、次で堀内村福島の地に一字を建立す。天文年間、六世覺如に至り、現寺地を相して之に移れり。永祿五年、堀内信長より飛騨開名寺に創札を寄す。同六年、國守齊藤一鶴寺領として高野山(現、八尾町の内)の地を寄進す。天正十一年、佐々成政、神保氏と共に城主政略の際、當寺、齊藤氏に租して之に抗し、爲めに兵火に燒かる。齊藤氏滅亡後、成政當寺に歸依して寺地に創札を遺つ。同十三年、豐臣秀吉朱印狀を寄す。次で七世覺如の時、飛騨吉田村開名寺末院とす。現在の常蓮寺即ち之なり、明和二年、本堂を再建す。明治維新後、當藩廢佛の災に遭ひて衰頹せしが、同十二年、本山より觀覺等身畫像を附せられ、同十三年、太子堂等の再建成り、寺觀次第に復して以て現在に及ぶ。

●境内地二千八百坪。堂宇に本堂(礎間十五間、桁行十四間)、太子堂、庫裡、山門・鐘樓・茶所・客殿・土藏等を具す。境内に京都興勝寺攝揚筆石文を存す。寺寶として覺如筆間名寺廟額・同筆執持抄・同筆御傳抄・明如筆觀覺等身畫像・善覺作觀覺木像・源信作阿彌陀如來木像・寂知筆色紙・堀田信長、佐々成政、豐臣秀吉寄進創札・齊藤一鶴寄進狀・金義長近血誓名號等を藏せり。

◎太子奉迎會(八月五日・九日)。

自得寺 婦負郡寒江村大字本郷。

●曹洞宗。

◎建徳年間、僧祖惠の開創にして初め眞言宗を奉ぜしが、後ち越前水乎寺山禪師の法嗣無際の請でられ、當寺に入るに及び、現宗に轉す。寛永十四年、前田氏寺地千二百坪を寄進す。

◎寺寶として傳空海作延命地藏像・秘佛聖觀世音像・光嚴司筆羅漢像二幅・宋皮山筆二羽鶴大幡・製裝二十五條衣等を藏せり。

西園寺 婦負郡朝日村大字小泉。

●眞宗大谷派。

◎白鳥山と號す。承和年間、東寺の長者實慧之を開創して行基作樂師如來像を安置すと云ふ。即ち當初は眞宗の寺院なり。降りて文明七年、蓮如當國巡錫の御住持開闢其化に歸して眞宗に轉す。天正年間、後陽成天皇より六字名號一幅を賜ふ時に當寺末坊了齋、佐々成政に屬して前田利家に抗し、爲に當寺また其兵燹に罹る。後ち下條村に移り、承應年間、更に現在の地に轉じて今日に及べり。

◎寺寶として後陽成天皇宸翰・東山天皇宸翰・後冷泉天皇下賜佛舍利・傳行基作樂師如來像・傳空海作聖觀音像・最澄筆紺紙念泥六字名號・蓮如筆六字名號・光嚴山筆鹿圖等を藏せり。

西勝寺 婦負郡杉原村大字城生。

●眞宗本願寺派。

●鳥越山と號す。初め井田村の地にありて眞言宗に屬し、金剛院と號せしが、文明七年、加賀國鳥越弘願寺明宗房之を再興して現宗に轉じ、西勝寺と改む。後ち城生城主齊藤一鶴の歸依を得て、其城下に移れり。然るに天正年間、上杉輝虎の侵略に遭ひて城生城陷落し、齊藤次郎三郎制盤して當寺に入り明正と號す。即ち二世たり。次で城番青山佐渡守入城するや、又深く當寺に歸して寺地を寄す。其後、國守前田利次國內巡視の際、境内一千坪を寄進し、更に前田正甫、其教所の使用を許す。

◎寺寶に齊藤一鶴念佛佛・傳行基作如意輪觀音像・傳觀覺筆六字名號等を藏せり。

各願寺 婦負郡古里村大字長澤。

●古義眞言宗。

◎樂師堂山と號し、高野山金剛峯寺の末寺たり。大寶元年、僧佛性、文武天皇の勅願に依りて建立すと傳ふ。元明天皇和銅三年、勅によりて關東僧侶官度、之を許さる。爾來寺運頗る隆盛、寺坊三千を擁して北國に冠たりしより延曆寺に比して比叡山と號せり。後醍醐天皇御宇、事に依りて石動山天平寺の衆徒當寺に徙來し、遂に堂宇を築く。後ち之を再建せしが、建武二年、國司中院定清を援けて越中守護普門院清に抗せしにより、其兵燹に罹りて再び灰燼に歸す。爾來寺運衰頹せしが、近世漸く復興、以て今日に至る。

◎寺後の山上に勅使塚と稱するもの五あり。天平寺との争鬪の際、遺されし勅使を當寺僧徒の害せしにより茲に啟ると云ふ。

常樂寺 婦負郡千里村大字大坪森田。

●古義眞言宗。

◎法界山と號す。創建年代並に沿革詳ならず。現に高野末なり。

●境内地六百坪、老樹蒼鬱として清淨の靈域をなす。本堂・觀音堂・庫裡等の堂宇あり。

◎寺寶中、木造十一面觀音立像一幅及び同聖觀音立像一軀は共に國寶に指定せらる。

●兩體何れも一木造、前者は丈高五尺五寸四分、體軀豐腴にして、面相穩嚴、遍身を流る、衣紋の浮現後く、よく弘仁期の特徵を現せり。後者は丈高五尺五寸八分、大略前者と同期の作にして其魁偉なる相貌軀幹に於て顯なる趣を認むべし所、弘仁朝密教藝術の典型を、に見るべし。共にこれ地方古代彫刻稀有の傑作なり。



(堂 音 觀 寺 樂 常)

本法寺 婦負郡黒瀬谷村大字宮腰。

●法華宗。

◎長松山と號す。正和五年、日順の開基に係る。應永元年、日乘、之を城中に移せしが、永祿元年、日順の時、擾亂を避けて現寺地に轉じ、堂宇を修築す。當寺境内宏濶、堂宇莊嚴なりしが、明治四十三年二月、同様に罹りて本堂炎上す。近年日晉、堂宇を再建して大いに寺觀を改めたり。現に中本山本宗たり。

◎寺寶中、絹本着色法華經變茶圖(二十一幅は現に國寶に列せらる。二幅一鋪、堅六尺三寸、幅四尺一寸三分にして、法華經二十八品の意を一幅に一品又は二品を縮く。各幅に「勸進淨信」、「畫工場明」及び嘉應元年より三年に至る年月日の墨書銘あり。其中序品一幅は城主松平利光、狩野某をして後補せしめしもの蓋し法華經二十八品の意を斯の如く精細に描寫せるは稀有にして、佛教美術史上看過すべからざる遺品なりとす。他に日蓮筆蹟・令旨・寄進狀・刀劍等多數を藏せり。

勝興寺 射水郡伏木町古國府。

●眞宗本願寺派。

◎雲龍山と號す。寺傳に觀覺の弟子善空房信念の開基に係ると云ふ。信念は順徳天皇第三皇子彦成親王なり。初め承久三年、順徳上皇佐渡遷幸の御、他力念佛の法門に歸し給ひ、佐渡竹田村の地に一字を建立せしめて、殊勝觀願興行寺の勅號を賜ふ。是れ本寺の濫觴にして勝興寺は其略稱なりと傳ふ。時に彦成親王朝髪

して成尊と號し給ひしか、北越に來りて觀覺の弟子となり、法名を信念と改め、上皇崩御の後入りて勝興寺の開基となり給ふといふ。信興・了信・信淨を経て第四世信源の時、戰亂に遭ひて寺運殊に衰頹す。文明三年、本願寺運如北國下の途、越中國國津波郡鹽谷の庄土山に一字を建立して土山御坊と稱す。後ち佐渡勝興寺の門徒等、同寺安置の觀覺眞筆名號を奉じて此地に來り、蓮如に請ひて勝興寺の寺跡を當御坊に移せんとす。依つて土山御坊を勝興寺と改め、蓮如の二男蓮乘を遣して二俣本願寺並に井波蓮泉寺をも兼管せしめたり。明應三年、同郡高木場(今の高津)に移る。永正年中實如より本寺同格寺法格外の印書を寄す。當時寺領十萬餘石、寺運頗る隆盛なりき。後ち兵燹に遭ひて堂宇炎上し、同十六年安養寺村(現、飯沼村)に轉す。永祿二年、照如より本山六院家の一に加へらる。天正九年四月、石山合戦の際、木場城主石黒左近の兵火に罹りて堂宇灰燼に歸す。同十二年、守山城主神保氏張、現在の地を寄進す。依りて之に移りて堂宇を再興す。翌十三年、豐臣秀吉、佐々成政を討つや、當寺顯華之が歸導をなせし功に依り、朱印狀、銅鑄等を受く。次で同十六年、國守前田氏寺料百俵を寄進す。寛永年間、二百石を加ふ。寶曆年中、國守宗辰弟法輪入りて當寺に住せしが、明和六年歸俗して家を繼ぎ、治修と稱す。爾來舊蹟によりて毎歲五百俵を寄す。後ち本堂等を再建して寺觀を改め、以て今日に至れり。

●境内地八千四百餘坪。寺城高丘に位して老樹鬱蒼幽邃の靈地たり。堂宇に本堂(方二十四間)・庫裡・轉法輪藏・大願間・廻廊・山門・鐘樓・鼓樓・集會所等を具ふ。境内に前田家廟あり。本尊阿彌陀如來は春日作と傳へ、寺寶として觀覺、蓮如、實如、准如、寂如各筆名號・宗主消息十三幅・觀覺木像・蓮如木像・觀

警軍執行信蓮文類六卷・蓮如筆一枚起請文二幅・同筆記録書並に正信傳相讀四冊等を藏せり。

●夏期法會並に太子儀法會(八月十八日―二十五日)特別初堂法會(十一月十九日―二十五日)。

東弘寺 射水郡牧野村大字下牧野。

●真宗本願寺派。

●高柳山信願院と號し、下越國越前郡東弘寺七世善圓の代、彼寺より分派す。偶々本願寺蓮如當國にあり當寺に自作の書像を寄す。南北朝の頃、後醍醐天皇皇子八宮其純親王流落して當地に在ます。三年、今尙ほ其碑を存す。

●本尊聖香阿彌陀如來は行基の作と傳へ、他に寺寶として親聖筆六字・十字名號・同作聖德太子像・真純親王御筆詩歌・覺知作親聖像・蓮如筆阿彌陀如來像・同白書像・蓮如筆釋迦八相等を藏す。

西念寺 水見郡水見町南上。

●淨土宗。

●孝徳山と號し、俗に子見堂と稱す。後醍醐天皇皇子宗真親王の開創し給ふ所と云ふ。初め延元の兵亂に際し、親王之を當國に避け、興國元年、遂に御居を當郡水見庄に宛め給ひしが、後ち佛門に入りて當寺を建立し給ふ。

●寺寶として傳行基作阿彌陀如來木像・同地藏菩薩木像・宗真親王馬上戎衣草影・同御筆持佛傳聖德太子作引接阿彌陀如來像・同御筆六字名號・足利義政筆渡唐天神畫像・傳基心作引接阿彌陀三尊等を藏せり。境内に馬塚と稱するあり。宗真親王此地に御隱棲の時、其

愛馬を埋め給ひし遺跡なりと傳ふ。今塚上に老樟繁茂す。

光禪寺 水見郡水見町中町。

●曹洞宗。

●海嘉山と號す。嘉祥元年、明峰兼哲の開基に係る。兼哲は俗姓富樫氏。夙に顯理門下の四哲として著名なり。兵部卿親王諸國の僧に令して國家安康兵災撲除の祈願ありし節、茲に七堂伽藍を建立し、永く其御願所に定め給ふと云ふ。後ち足利尊氏境内方一里の地を寄せ且つ寺領三百石餘を附す。然るに天正年間、佐々成政の兵變に罹りて堂宇を失ひしが、承應三年、十五世呑龍の時、國守前田利常寺領六百石餘を附す。更に元祿年間に至り、十九世月洞、諸堂を再建して大いに舊觀を革新し、以て今日に及ぶ。

●寺寶として傳行基作辨財天女木像・傳聖德太子自作像・月洞血書法華經・明峰兼哲將來龜毛拂子等を藏す。當寺北方有櫻浦に唐島と稱するあり。陸を距ること半里、周圍六百餘間、海拔十丈餘、岩石崎嶇、老樹繁茂して天然の奇景を作す。もと雪島と稱せしが、元徳二年、當寺二世天智、入唐歸朝後此島に參籠せしより専ら唐島の名あり。現に當寺鎮守堂所在す。其中觀音の靈關は飛騨匠建立と傳ふ。又大岩石中に刻せし地藏石像は皆て空海參籠の刻、其爪を以て彫鑿せしものと云ふ。

千手寺 水見郡水見町朝日。

●古義真言宗。

●金嶺山と號し、高野山金剛峯寺末たり。白風元年

新羅僧智法の開創に係り、大同三年、空海自刻の千手觀音像を安置して金嶺山千手寺と號すと傳ふ。弘治年間に至り、神保、菊地兩氏の歸信厚く、大いに堂宇を修營す。天正年中、佐々成政の兵火に罹りしも、同九年、再建成る。爾來前田利長、同利常の歸依殊に深く其祈願所たりき。元祿二年、觀音堂を建立、寺運愈々隆盛なりしも、文政二年、祝融の災に遭ひて堂宇、什寶等概れ燒亡し、次第に衰微せり。其後之を改修して現在に及ぶ。

蓮乘寺 水見郡水見町朝日。

●日蓮宗。

●直主山と號す。嘉祥二年、妙興院日蓮の開創に係る。當國日蓮宗寺院の嚆矢にして、初め當郡稻積村にあり。日蓮はもと眞言宗能登國石動山の學匠たりしが其後、越後に到り摩訶一印の門に入りて改宗し、石動山を出で、當寺を建立す。後ち現寺地に移れり。元龜天正の間、兵火に罹り、更に寛永年間、大火に遭ひて堂宇、寺寶等概れ烏有に歸す。後ち本堂等を再興し以て今日に至れり。

●境内八百五十坪、堂宇に本堂(間口八間半、奥行九間)・庫裡・鐘樓・山門等を具ふ。

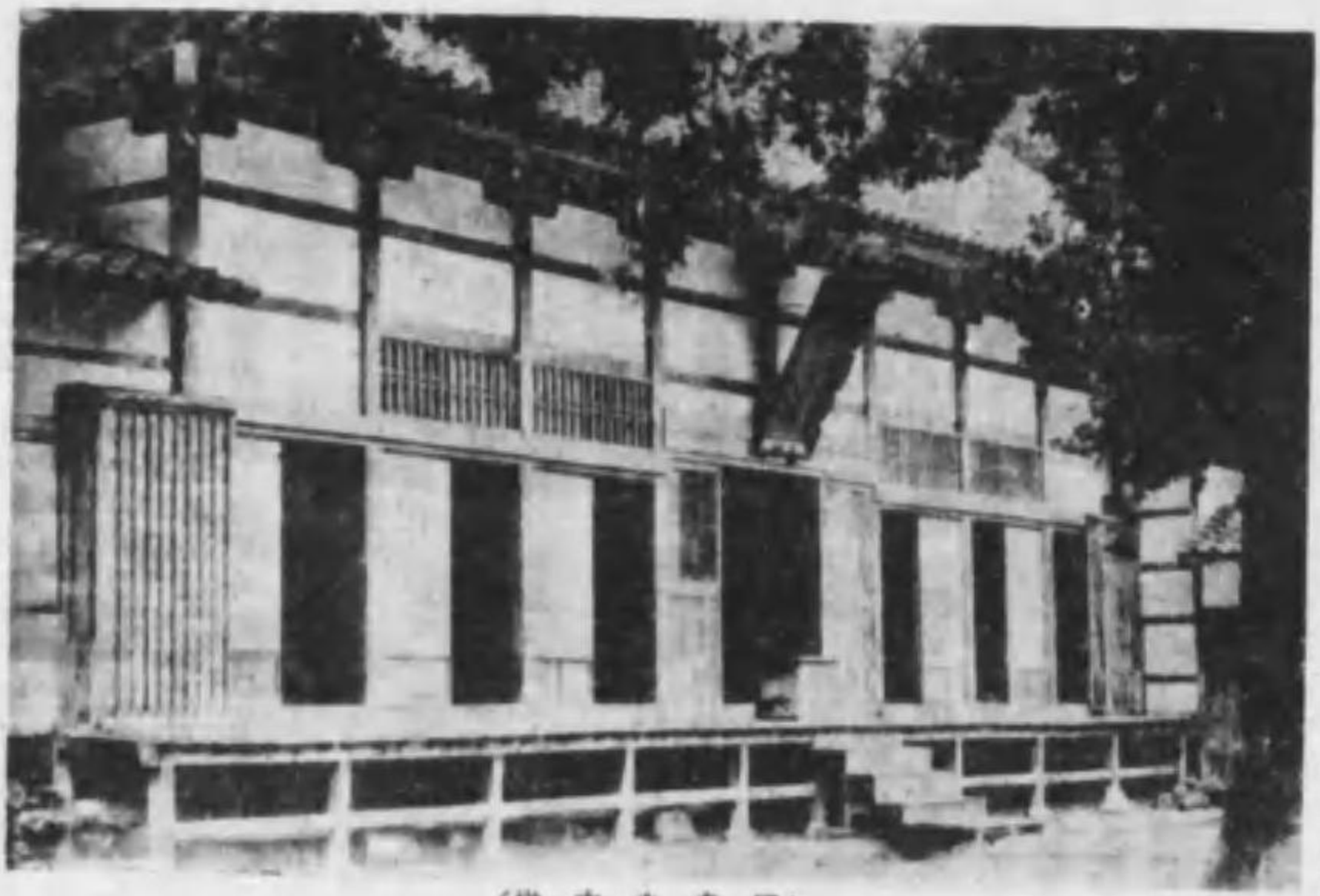
●儀法會(六月二十四日、二十五日)、會式(十一月十一日、十二日)。

國樂寺 水見郡太田村大字太田。

●臨濟宗國壽寺派。

●摩頂山と號し、本宗國壽寺派大本山たり。慈雲妙

意の開創に係る。初め慈雲、本邦神宗二十五法中の法燈派祖、心地覺心(法燈圓明國師)の印記を承けしが、當國二上山中に稱する。二十四年、嘉祥二年、遂に一字を創製す。是れ本寺の祖廟たり。時に其道譽上



(堂本寺畫圖)

關に達し、後醍醐天皇之を宮中に召して清原神師の號並に紫衣袈裟を賜ひ、次で翌年、諸國摩頂巨山國孝仁王萬年禪寺の勅額及び勅願所の繪旨を下賜せらる。嘉應二年、足利直義諸國に安國寺を建立するに方り、當

光久寺 水見郡布勢村大字飯久保。

●眞宗大谷派。

寺を以て當國安國寺に充て、大いに伽藍を修營し、且つ莊園を寄す。康永三年、當寺歴代住持紫衣の宣旨を蒙る。次で貞和元年六月三日、慈雲寂すや、光明院より嘉日聖光國師の諷誦を賜ふ。應仁以降、屢次兵燹に罹りて寺門大いに衰頹せしが、天文十五年、雪庭佛眼、後奈真天皇の勅を奉じて之を再興し、法燈再び輝くを得たり。天正年間、二上山上の舊地より現寺地に轉す。爾來國守前田氏の歸信頗る厚く、度々堂宇修營のこころあり。貞享三年、本堂成る。本寺は従來京都相國寺に屬せしが、明治十二年十一月、内務省より派名の復歸を許され、同三十八年十二月十五日、遂に一派獨立し、宗制寺法を制定して宗務の基礎を確立す。次で同四十年十月、之に更改を加へて當流宗興並に法制の完成を見たり。現に末寺二十八箇寺を數ふ。

●境内約三千坪。堂宇に本堂・法堂・開山堂・禪堂・書院・經堂・庫裡・天皇殿・鐘樓・總門・山門・鎮守堂・其他五棟を具す。本堂は間口十一間、奥行七間半、貞享三年の再建に係り、本尊釋迦如來・脇侍阿彌陀・迦葉の兩尊者を安置す。寺寶として後醍醐天皇御影像・後醍醐、後奈真兩天皇御輪・後醍醐天皇下賜七條袈裟肉附拂子・其他古書畫等を藏す。また寺内に懷德學林を設けて僧侶教育に従事せり。

●涅槃會(二月十五日)、觀音講(五月十八日)、開山忌(五月二日、三日)、同慶會並に山門施餓鬼(八月三日―十五日)、羅漢會(十月十八日)、達磨忌(十一月五日)、法燈忌(十一月十二日、十三日)、成道忌(十二月八日)。

光西寺 水見郡女真村大字長坂。

●曹洞宗。

●東旭山と號す。寺傳に後醍醐天皇遠裔左衛門尉源伊勢之助の開基と傳へ、初め眞言宗に屬せしが、元祿元年、四世順庵の時、其師宗開を請じて中興開山に推し、現宗に轉せり。文政八年、十五世道隆に至り諸堂を再建して寺觀を改め、以て現在に及ぶ。

●地藏堂安置の延命地藏尊は俗に酒香地藏と稱し、空海作と傳へて能州石動山に安ぜられしを、明治二年當寺に移せしものなり。婦女乳に乏しき者、新儀頭上より酒を灌ぎて祈願すれば驗ありと云へり。

井波別院(瑞泉寺) 東礪波郡井波町。

●眞宗大谷派。

●井波國杉谷山瑞泉寺と號す。初め八乙女山西麓にあり、明徳元年、本願寺五世祐如の開創に係り、後小松天皇の勅願所なり。爾來如來、蓮華等入りて住せしが、七世顯秀の時、武部秀信此地に築城し、次で天正九年、佐々成政之を攻むるや、當寺其兵燹に罹りて表上す。顯秀繼を避けて京師に走りしに依り、成政、其寺址に城を築く。同十三年、豐臣秀吉、成政を攻めて之を抜くや、顯秀歸國して中絶せる坊舎を再興す。次で同十七年、寺地歸還の故を以て今の地に移りて堂宇を營む。慶長十八年、復舊の工を發し、寶曆五年續燒す。明治十二年、再び同様の災に罹り、僅に山門庫裡等數字を殘して他悉く烏有に歸す。翌年五月、本堂・書院・大講堂等の再建を遂げしが其後次第に諸堂成り、漸次舊觀に復せり。現今附屬支院として金澤、大谷の二院を有す。

●境内九千六百三十三坪、堂宇に本堂・書院・鐘樓・大門・茶所・鼓樓・庫裡・講所・土藏等を具ふ。寺寶中紙本墨書神如上人勅進狀一卷は明徳三年八月の奥書を有し、現に國寶に指定せらる。其他、親覺自作傳・神如椅子影・蓮如消息・豐臣秀吉、前田利家書翰等を藏す。尙ほ金澤支院は天明五年の創立に係り、大谷支院は天保六年の建營なり。後者は當寺の東南四町八乙女山麓にあり、神如別院に本山歴代法主分骨塔を存し、本堂・客殿・茶所・香堂等の堂宇を具す。又當寺東隣舊井波城址中に神如遺跡跡曰瀧水あり。當寺草創の頃、靈泉涌出の奇蹟なりと傳へ、今草庵を結びて阿彌陀如來を安置す。後園一帶風光頗る明媚なり。

城端別院

●東礪波郡城端町。
●眞宗大谷派。

●善徳寺と號す。文明四年、本願寺蓮如北國巡錫の御、加賀國河北郡井家庄内砂子坂に於て神如第四子玄此の遺跡を訪ひ、其地に一字を創して、善徳寺と號す。これ當寺の濫觴たり。次で玄孫孫玄水其二世を繼ぐ、延徳四年、本願寺九世實如、加賀、能登、越中三國の門徒を當寺に屬せしめ、明應元年三箇國の末寺總持所と定む。文龜年中越中國西礪波郡山本に移り、天文二年更に福清に轉す。永祿二年、五世祐助の代、城端郷土克木大膳の寄進に依りて、其城址に轉じ、堂宇を重興す。即ち現在の城端なり。元龜元年、織田信長石山本願寺を攻むるや、六世空持隨處赴きて、教如を援け勳功あり、天正十年、教如、信長の怒を避けて飛騨より當郡五ヶ山(現今、利賀、平、上平村)に入り、次で同年三月、密かに當寺に到りて滞留す。文祿四年、前田氏越中を領するや、舊寺城を安堵す。寶曆九年、本堂を再建、天明六年、鐘樓成る。寛政三年、十五世眞央寂後、六十餘年間住職を缺き、本山より役僧を派して寺務を行はしめしが、嘉永三年、達英十六世を嗣ぐに及びて舊に復せり。現今附屬支院として、金澤支院、福光支院を有す。

西源寺

●東礪波郡野野町。
●眞宗大谷派。

●善徳寺と號す。文明四年、本願寺蓮如北國巡錫の御、加賀國河北郡井家庄内砂子坂に於て神如第四子玄此の遺跡を訪ひ、其地に一字を創して、善徳寺と號す。これ當寺の濫觴たり。次で玄孫孫玄水其二世を繼ぐ、延徳四年、本願寺九世實如、加賀、能登、越中三國の門徒を當寺に屬せしめ、明應元年三箇國の末寺總持所と定む。文龜年中越中國西礪波郡山本に移り、天文二年更に福清に轉す。永祿二年、五世祐助の代、城端郷土克木大膳の寄進に依りて、其城址に轉じ、堂宇を重興す。即ち現在の城端なり。元龜元年、織田信長石山本願寺を攻むるや、六世空持隨處赴きて、教如を援け勳功あり、天正十年、教如、信長の怒を避けて飛騨より當郡五ヶ山(現今、利賀、平、上平村)に入り、次で同年三月、密かに當寺に到りて滞留す。文祿四年、前田氏越中を領するや、舊寺城を安堵す。寶曆九年、本堂を再建、天明六年、鐘樓成る。寛政三年、十五世眞央寂後、六十餘年間住職を缺き、本山より役僧を派して寺務を行はしめしが、嘉永三年、達英十六世を嗣ぐに及びて舊に復せり。現今附屬支院として、金澤支院、福光支院を有す。

千光寺

●東礪波郡栢野村大字岸谷。
●古義眞言宗。

●境内地四千八百三十七坪、堂宇に本堂・大門・鐘樓・經藏・庫裡・鼓樓・寶藏・茶所等を具ふ。本尊阿彌陀如來(行基作と傳へ、大門樓上に釋迦・彌勒・阿闍梨三尊を安置す。尙ほ金澤支院(金澤市土取城端町八番地)は慶長十九年、當寺六世空持當地材木町に掛所を設けしに由來す。萬治二年、藩主前田利常より現在の地三百三十坪を設けて之に移る。享保十六年、回縁に罹りしも翌年再建、嘉永三年、前田齊泰客殿を増營す。明治十二年、掛所を改めて支助とし、同十七年四月、金澤支院を公稱す。福光支院(西礪波郡福光町)は永祿二年、當寺五世祐助が、當地善徳寺址に開きし掛所を、後支院とせしものなり。境内三百二十四坪本堂・庫裡等を具す。

常福寺

●東礪波郡南般若村。
●眞宗大谷派。

●創建年代及び沿革共に不明なり。
●境内五百坪、本尊は木造阿彌陀如來立像にして國寶なり。丈高二尺六寸五分、寄木造、内列玉眼入、瓊金文様を以て裝飾せし來迎佛なり。其壯麗なる面觀と健勁なる鬚鬚の刀法に依りて鎌倉初期の作と推せらる他に寺寶として惠心筆藥師如來畫像・蓮如筆六字名號等を藏す。
●八月一日より十日間、本尊開扉及び寶物虫干會を行ふ。

乘光寺

●西礪波郡石動町今石動町。
●眞宗本願寺派。

●寺傳に佐々木高綱創建と云ふ。初め高麗源平爭亂の後、親鸞の門に入りて了智と號し、承久二年、加賀國河北郡中條村相窪に道場を開く。是當寺の起原なり。二世眞敬の時、壽命を享けて境内五千坪の地を受領す。元弘三年秋田の時、同郡栢根村に移る。正平年中、神如加賀國下向の御、當寺に留錫す。文明年中、蓮如亦此地に來りて當寺に留錫す。國主前田氏累代の崇信殊に厚く、明治維新に至るまで其慶事等には當寺より參勤するを恒例とせり。
●寺寶として親鸞筆六字名號・神如筆和漢兩風影・蓮如筆六字名號・巨勢金剛筆畫幅等を藏せり。

觀音寺

●西礪波郡石動町今石動町。
●古義眞言宗。

●本覺山と號し、同宗金剛峯寺末たり。法道仙人の開基に係ると傳へ、初め當國利波郡糸岡郷五社村にありて寶鏡院と號せり。後ち空海北國巡錫の御、當寺に留りて自刻聖觀音像を安置すと云ふ。其後、木舟城主石黒氏の歸依厚く其新願所となる。天正年間、前田利秀、石動移城の際、當寺亦寺基を現地に移して堂宇を再興し、觀音寺と改む。時に利秀、菅原道眞影像を寄進して永代祈願所と定め、歳米二十八俵を之に附す。
●境内一千五百坪、本堂・觀音堂・庫裡・金比羅廟等の堂宇を具す。寺寶として威徳天神像(俗に綱巻の神像或は綱巻の天神と稱す)・將軍地蔵尊像等を藏す。
●大般若會(六月十一日)、土砂加持會(十一月二日)四日。

報恩寺

●西礪波郡戸出町。
●眞宗本願寺派。

●高麗山と號す。東京報恩寺と同系の寺院にして、同寺開祖性信房八代の孫蓮崇の開創に係る。初め文明七年、本願寺蓮如北國巡錫の御、蓮崇亦來りて此地にありしが、同十二年、歸東し、次で再び當國に入り、信徒の要請を受けて、礪波郡般若庄西保郷落合の地に一寺を建立す。是當寺の濫觴なり。其後、蓮崇新川郡純田村に草庵を結びて化導に従ひしが、遂に其地に寂す。爾來子孫相繼ぎて當寺に住し、後ち寺基を現在の地に移す。當時末寺十七箇寺を有せりと云ふ。現に當派二十四輩所の第一なり。
●寺寶として性信木像・親鸞筆十字名號・同六字名號等を藏せり。

同時に生玉明神を寺内に勧請して北城武門の鎮護と定む。次で五十一世祐運の時、前田利長、本堂を新築し山林を寄す。六十四世行運の時、仁王門を建立、明治初年、六十六世常寂の代、觀音堂を再建す。大正の初め境内に開山圓徳法道の銅像を修建、更に諸堂を改修して寺觀を改め、以て現在に至る。
●境内二萬坪、本堂・庫裡・仁王門・觀音堂等を具ふ。本堂に長尾能景父子の位牌を安置す。當村賴成新の地に其墓所を存す。寺寶に日露戰役戦利品等あり。
●正御影供(三月二十一日)、大般若會(四月十八日)佛名會(十月二十五日より三日間)。

藥勝寺

●東礪波郡般若村大字安川。
●臨濟宗國壽寺派。

●般若山と號す。正平十四年、増山城主神保氏の創建に係り、京都蓮仁寺より桂岩佛照を請じて開山とす。文明元年、京師騷亂の際、後花園院皇子淳良親王之を避けて北越河行あり。當村に留輿、次で同三年五月十三日、薨御ありしを以て、當寺三世文政、城主神保氏の命を承けて之を奉獻し、徳大院天景英宗尊號と號し奉れり。往昔七堂伽藍完備して普門寺、止關寺、透關寺、寶念寺等の末院を擁し、寺運頗る隆盛なりし、天正年間、兵火に遭ひて諸堂、什寶概ね焼亡せり。後ち十五世開堂の時、再興を遂げ、以て現在に及ぶ。
●境内般若塔南丘上に淳良親王御陵あり。尙ほ大路の側に公卿塚と稱するあり、文明三年、親王、龜山城主某の爲に試せられ給ひし時、之に奉殉せし供奉者の墓なりと云ふ。

安居寺

西濃波郡西野尻村大字安居。

●古義眞言宗。
●彌勒山と號し、同宗高野山金剛華寺末たり。寺傳に養老二年、天然僧善無長三藏の開創に係り、其將來の釋迦如來を安置す云ふ。次で聖武天皇之を勸願所と定め給ひ、花山法皇亦富山に御參籠の事ありと傳ふ。降りて壽永二年、祇波山の觀に一山の衆徒悉く離散せしが、後ち足利義政之を再興して、寺領一百貫文を寄す。元龜、天正の頃、歷次兵禍を蒙りて、古記、什寶等概れ焼滅し、寺運次第に衰頽せしも、其後、藩主前田利家の祈願所となるに及び、漸く面目を改む。次で利長、觀音堂、仁王門等を再建し、利常の時、寺領二十石山林十二町五畝を寄進す。爾來法威大いに振へり。
●堂宇に本堂・觀音堂・仁王門・庫裡等を具ふ。寺寶中、木造聖觀音立像一軀は國寶に列せらる。丈高二尺九寸一分、節瘤を有する素材を用ひたる一木造にして、刀法纖銳なるも尙ほ生硬の氣あり。其稍々前方に傾斜せる姿態は奈良法華寺本尊の體を捨するに相似して著しく生動の感を興へ、異常一木造に見る鈍重の趣を認めず。藤原初期の作と推定せらる。

願稱寺

西濃波郡若林村大字西中。

●眞宗本願寺派。
●津屋山と號す。藤原大納言實世の息洞院少將定世の開創とす。初め延元二年定世越前國寶集金胎山に在りて弘願阿闍梨と稱す。同四年、實世權大納言に陞るや、其家臣を派して定世に従せしむ。長慶天皇正平二十四年、金ヶ崎落城三十三年に方り、散骨を以て尊眞親王以下職役者追律法會執行せられしが、時に弘願之

が導師たりき。本願寺神如當國に來錫するや、弘願即ち之に歸して號を練女と改め、隨ひて濃波郡杉谷村の地に移りしが、次で天授二年、此地に到りて一字を創稱し、願稱寺と號して、其開祖となれり。即ち當寺の祖稱とす。

石川縣

妙慶寺

金澤市蛤坂町。

●淨土宗。
●寺傳に依れば文和二年、後醍醐天皇第八皇子明心法親王北國下向の御、越中國射水郡牧野村に一字を創して安養山極樂寺と號し給ふ。是れ本寺の源流なりと云ふ。天正年間、前田氏、佐々成政と戦ふや利家の臣松平久兵衛、當寺を以て其本陣に充てしに依り遂に兵燹に罹りて燒亡す。即ち時の住僧阿、久兵衛に從ひて金澤に移り、元和二年、現地に伽藍を再建す。大檀越は久兵衛にして其母妙慶尼追福の爲なりと云ふ。爾來、其法名に因みて妙慶寺と號す。
●境内一千六百坪、本堂・庫裡・書院・表門等の堂宇を具ふ。本尊阿闍梨如來は源慶作と傳ふ。寺寶には明心法親王御木像・前田利常松竹梅對馬掛軸等を藏す。



(門表寺慶妙)

寶集寺

金澤市野田寺町一丁目。

●古義眞言宗。

立像寺

金澤市野田寺町四丁目。

●日蓮宗。
●妙布山と號す。永仁二年、日像佐渡より上洛の途次越前國府中に草庵を構へ立像庵と稱せしに創まる。傳ふ。天正三年、前田利家府中龍門寺在城の時、厚く當寺に歸依し、同十一年、尾山城に移るや之を金澤河原町に移す。元和元年、更に現地に轉す。天保年間、日輝の代、藩主前田齊泰母堂眞龍院深く本寺に歸依して米三十俵を寄す。
●境内に横綱阿武松保之助の墓あり。

天徳院

金澤市上越町。

●曹洞宗。
●金龍山と號す。元和九年、加賀藩主前田利常、其室天徳院(徳川秀忠女)追福の爲め本寺を建立し、安房

寶圓寺

金澤市百々女木町。

●曹洞宗。
●護國山と號す。天正十一年、國主前田利家の開創に係り、開山を大邊圭嶽とす。初め利家越前府中城に在るや、丹生郡高瀬村寶圓寺を菩提所とせしが、天正九年十月、能州へ移りし時、彼寺第七世大邊を能州に招き、同十一年、加越能三州を領し、金澤城に移るに及び本寺を創建す。寛永年間、鎌持職として天徳院と共に三州の寺院を管す。寛文九年、前田綱紀堂宇を再修せしが、寶慶九年、回縁に罹りて烏有に歸す。其後三年にして現在の堂宇成る。
●境内に前田利家の廟あり。

善福寺

金澤市材木町。

●眞宗大谷派。
●大慈山と號す。文安二年、本願寺神如曾孫、願慶

の開創に係り、初め富岡石川郡大桑村に在りて妙善坊と稱せしが、後現稱に改む。慶長六年、現地に寺基を移す。九世寶壽の時、別格の寺跡に列し、國方直觸を命ぜらる。

淨住寺

金澤市大豆田町。

曹洞宗。正安三年、瀧門の太田聖山紹理、後伏見天皇の勅を奉じ、富岡河北郡山崎庄に堂塔を建立す。之れ本寺の遷廟にして當時七堂伽藍悉く具備せし巨刹なりといふ。二世無涯智洪の時、後伏見天皇より鎮護國家の綸旨を賜り、爾來花園、後醍醐、光明三朝の勅願所となる。天文三年、兵燹に罹り、堂宇燬盡す。天正年間前田利家、勅許を得て、寺領若干を附す。後年現地に移轉す。

金澤別院

金澤市横安江町。

眞宗大谷派。文明三年、蓮如北陸遊化の初、當地に一字を興す。時人呼びて尾山御坊と稱す。其後數次兵火に罹り堂宇全く廢壞に歸せしが、長享二年、守護富樫政親、一向宗徒を滅ぼさんとして却つて自ら滅ぶや、加賀一圓宗徒の領域となり、京都本山より七里三河守を迎へて加州國司代となし、尾山の地に城郭を築く、而して其二ノ丸に堂宇を創し、江州武佐新桑坊及び大和小山慶心坊を以て眷坊に充つ。天正八年、織田信長の謀に陥り城代下間藤賀法橋、本多作内城を信長に致すや、佐久間盛政を受く。こゝに於て新桑坊桑葉坊等堂宇を山崎に移せしむ。世上擾亂、間もなく廢絶す。文祿三年、教如、豐臣秀吉の命により光緒准知に法燈を譲るや加能越の道俗、傳法の捕流を守りて、特に教如に宗風の輪傳の下附を請ひ以て應絶の御坊を興す。されど秀吉其光緒に従はざるの故を以て堂宇を燒却す。次で徳川家康、教如をして東本願寺を興さしむるや、教如命じて御坊を金澤後町に再興せしめ大いに教風を振興す。寛永八年、藩主前田利常の寺地寄進に依りて現地に移りしむ。天保六年三月十一日、同縁の災に罹る。後再建されしが、安政二年十一月十六日、再び災上し、翌年、本堂、庫裡、書院等再建さる。明治九年三月十二日、三度本堂災上し、同十年、再建して現在に及ぶ。

金澤別院

金澤市五寶町。

眞宗本願寺派。延元四年、本願寺覺如親鸞の遺蹟を尋ひ、舊金澤城址本丸に一字を創し、本願寺と號す。寛正六年、蓮如其第三子蓮乘を富岡に派し、三州の道俗の化導につさめしめ、第七子蓮雲をして之を助けしむ。爾來門徒の歸願者多く、世人富山を尊崇して御山と稱す。文明三年、蓮如北陸を巡化し、越前細呂木郡の吉崎御坊を其根本道場とし、富山を以て本願寺別坊と定む。同六年、富樫政親、本願寺對高田門徒の離教のため、御山の坊舎を毀す。爾來爭鬪相續し御山坊舎の廢絶著しかりしが、天文十五年、證如佛殿を再興す。天正八年、附屬教所四箇所あり。

照園寺

金澤市五寶町。

眞宗本願寺派。本願寺蓮如の弟子顯誓の開基に係る。顯誓、俗名を源權之頭と稱し、加賀國富樫氏の一門、島田郡の領主たりしが、蓮如に就いて出家法名を顯誓と號す。後ち更に法敏の名を興へらる。當時、顯誓を建立せしが如く村名に顯影堂の稱を留む。今の山島村字顯影堂是なり。慶長年間、教如東本願寺を創立するに及び富岡末寺藩主前田氏の命により、多くは之に歸屬せしが、本寺第四世顯誓、ひそり之に従はず。准知、加賀御坊へ下向に際し、舊地島田を離れ、金澤御坊に移り大いに之が守護に務む。爾來、慶誓、御坊留守居役に年柴田勝家に再度破られ、次で佐久間盛政之に居城す。時に御山を改めて尾山と稱す。同十一年六月、藩主前田利家坊舎の舊址に築城の際、其室高島氏城内に顯陀佛尊像を得たる奇瑞に感じ、發町に移して本堂を再建す。元和元年、前田利長、石川郡安江に一萬坪の地を寄せてこゝに移す。是れ即ち現寺地なり。然るに利長幕府の意向を向へて、領内の末寺を強ひて東本願寺に屬せしめしかば、爾來當寺次第に衰運にむかふ。然も尙は利長以下の代々禁錮を立て以て是を保護せり。延寶三年佛殿を再建せしが、元祿三年燒失す。同十三年九月再建成る。天保八年再び顯燒の厄に罹りしむ。嘉永元年再營落成す。即ち現今の堂宇なり。現に崇敬門末四百三箇所を有す。

持明院

金澤市木ノ新保六番丁。

古義眞言宗。仁元年間、僧空海、北國巡錫の初、偶々、當地に於て鎮守白龍明神の夢告あり。即ち此處に一字を創して持明院と號し、自刻一刀三禮不動明王を安置す。是れ本寺の遷廟なりといふ。安元二年安江次郎盛高なる者、之を再興して金堂及び阿彌陀堂を建て、寺運頗る隆盛を極めしが、永正三年、兵燹に罹る。後ち明神社を再建せしむる觀念に復舊せず。爾來百五十餘年經に其寺號を維持するのみなり。萬治元年に至り、高野山の燈籠御當寺に來住するや、大に堂宇を修營して寺觀を一新せり。現に同宗高野末なりに由來す。

來教寺

金澤市下小川町。

天台宗眞盛派。近江國蒲原郡神宮寺住持正林、鎮守尾沙門天の靈夢に感じ、天正十三年、之を奉持して富岡に來り、永祿七年、卯辰山一本松の邊に一草庵を創立す。之れ本寺の遷廟なり。寛永二年、現地に移り、堂舎を建立して來教寺と稱す。明治元年、眞曉堂宇を再建す。

大乘寺

金澤市長坂町。

野田山或は東香山と號す。弘長三年、富樫家尙、石川郡野々市村邊に本寺を創し、眞言宗の僧澄海を以て開山となす。弘安六年、永平寺三世徹通に讓り、釋家第一祖となる。中興は二十六世月舟なり。歷應三年足利尊氏の新願所となり、公方歴代の歸依厚し、後柏原天皇より東香山大乘護國禪寺の勅號を賜ひ、勸願寺となる。明徳四年兵燹に罹りて災上、一時金澤市木ノ新保及び關原等に轉ぜしむ。元祿十四年、本多政敏、現地に移して伽藍を再興す。

西養寺

金澤市上小川町。

天台宗。盛學の開創に係り、越前國府中五箇寺の隨一なりと云ふ。後ち七世眞運、藩主前田利長に從ひ、金澤に來り、八坂町に堂宇を建立せしが、慶長十七年、現地に移轉す。寛永年間、八世快慈(慈眼大師弟子)之の中

心蓮社

金澤市高道新町。

金池山と號す。休養の開基に係る。休養は加賀國能登の人、出家して京都淨土宗大本山清淨華院に入りしが、隱遁の後ち金澤に來りて一字を創し、金池山心蓮社と號す。時に慶長十七年なりといふ。大正八年、本堂を改築して今日に至る。

專稱寺

江沼郡大聖寺鐵砲町。

眞宗本願寺派。龍華閣と號す。もと越中國瀨波郡河崎村にあり、龍華院と稱して天台宗に屬せしが、承元元年、住僧親光、初覺北國遊化の初之に歸依して眞宗の佛寺とす。文安五年、八世眞光、富岡山代庄に寺基を移す。文明三年、蓮如吉崎に留錫するや、眞光其直弟子なり常に隨伴す。同五年八月、高山門徒、蓮如に抗して一揆を起すや、當寺先づ其火に燒かる。同年、富樫政親、高山門徒に命じ、本堂を再建せしめんせしめ成らす。

爾來、諸所に轉移せしが、寛永年間、薄田利治、現在の寺地を寄せて移せしめたり。

醫王寺

江沼郡山中町。

古義眞言宗。國分山と號す。僧行基、此地に湯の出づるを發見し、衆生の病苦を救はん一字を創し、自刻の藥師如来像を安置すと云ふ。後年荒廢して跡を絶ちしが、建久年間、長谷部信連の此地を領するに及び、一日、靈符に來りて湯の邊の地中より藥師像を得、即ち堂宇を興して國分山醫王寺と號す。仍りて信連を中興の開基とす。爾來、山中温泉湯の名利たりしが、昭和六年五月七日、同地の大火に堂宇燬れり。現に高野末なり。

勝光寺

江沼郡分枝村大字打越。

眞宗本願寺派。眞宗本願寺派。本願寺轉如當國遊化の禰、忌浪村孤嶺山と號す。本願寺轉如當國遊化の禰、忌浪村孤嶺山と號す。本願寺轉如當國遊化の禰、忌浪村孤嶺山と號す。

圓光寺

能美郡大杉谷村大字大杉。

眞宗大谷派。本願寺七世存如の第五子應玄の開基なり。應玄は青蓮院尊應の門人にして圓光院と號し、入木道の達人なり。遺世して學本坊蓮照と號し、寺を加州大橋谷に創して之に住す。もと圓光院と稱せしを、五世賢祐の代に現院に改む。

本誓寺

石川郡松任町一番町。

眞宗大谷派。坂本山と號し、養老年間、善法法師の開創せし古刹なりと傳ふ。初め歡喜院無量寺と稱し、天台宗に屬せしが、親覺越後流の途次、住持圓政其教化に浴し、寺號を重願院本誓寺と改め、眞宗の道場となす。中比兵亂の爲め越前國大野郡に移りしが、後年更に現地に復歸す。

那谷寺

江沼郡那谷村大字那谷。

古義眞言宗。自生山と號す。養老元年、善法法師の草創に係る。法師、當國白山に赴く途次、一字を創し、自生山那谷寺と稱し、法師自作の千手觀音像を本尊となすとす。降つて花山法皇、西國三十三靈場御巡詣の禰、紀伊の那智、美濃の谷汲の各一字をとりて那谷寺と號すを改め給ひ、開元禮金如輪觀音を納め、轉願所の繪畫を賜ふ。爾來久しく北陸の由緒寺として隆昌を極めしが、天正年間、兵燹に罹りて諸堂宇烏有に歸す。正保元年、藩主前田利常、花山法皇の遺蹟を訪れ、諸堂を再興す。現に同宗高野末なり。

龜來別院

石川郡龜來町。

眞宗大谷派。明治十三年、此地の信徒相圖りて堂宇を創す。これ本院の遷移なり。同十九年、金澤別院龜來支院となる。同二十一年、本堂改築の工を起し、同三十年落成す。同三十六年十一月、獨立して龜來別院と稱す。

淨願寺

石川郡美川町。

眞宗大谷派。承元元年、親覺越後流の禰、偶々此地手取川出水し、刺へ風雨甚だかりしが、親覺即名號を書して投流せしに、忽ち風雨おさまれり。渡守藤原嘉藤太之を見て大いに驚き、遂に其弟子となり。本寺を建立せりと傳ふ。其後覺如及び蓮如當寺に來錫すといふ。

行善寺

石川郡出城村大字北安田。

眞宗大谷派。日像曾て此地に來りし時、一比丘尼請ひて其弟子となり、名を妙林と改む。仍りて日像之に日明より讓

興宗寺

江沼郡月津村大字月津。

眞宗大谷派。福井市興宗寺の分流なり。其項參照但馬行如(俗姓北條彌次郎宗之)の開創なり。中古に至り分派して兩寺となる。

本蓮寺

能美郡小松町細工町。

眞宗大谷派。轉如の二子願圓覺の開基なり。即ち嘉吉年間、轉如の命を奉じ、越前國島に轉勝寺を創立し、後ち當郡月津村に留錫す。文安元年、當郡渡倉村に本寺を創建す。村上周防守義明、小松在城の時、之を小松に移す。萬治年間、藩主前田利常、現在の寺地を寄せ、郡内一宗の禰頭役を命じたり。明治十一年、天皇御巡幸の禰、當寺を在所に定めらる。

建聖寺

能美郡小松町。

眞宗大谷派。られたる日蓮自作祖師像を興ふ。妙林即ち一草庵を結びて之に安置す。之れ本寺の起原なり。應永二十五年日海中興して行善寺と號す。天文年間、兵火に罹り、堂宇灰燼に歸す。寛永三年、再建す。

光專寺

河北郡高松町高松。

眞宗大谷派。もと天台宗に屬せし佛刹なりしが、文安二年、住持西照坊樂本に歸依して改宗し、能登國羽咋郡押水庄來出村に堂宇を建立す。文明三年、三世賢樂、押水小川村に寺基を移す。天正四年、木越村に再轉し、光德寺、光琳寺と共に木越三光と稱せらる。同八年、佐久間盛政の兵難を來出村に避けしが、後ち寶曆十三年、現地に轉す。

傳燈寺

河北郡小坂村大字傳燈寺。

臨濟宗妙心寺派。運良偶々同郡長屋谷の地藏堂に宿りしに、一賊來り、暗中に之を切る。翌朝來りて之を見るに、運良慈悲として端座し、傍なる地藏尊に刀痕を存す。賊即ち悔悟して遂に其弟子となる。事、後醍醐天皇の御聞に達し御感の餘り寺地を喜捨して堂宇建立に資せらるると傳ふ。後光嚴、後小松兩天皇より勅號の繪畫を賜はる。

延徳三年(永正)上し、永正十二年、後柏原天皇の勅命を奉じ再建されし、後ち荒廢して無住となる。元龜元年(1185)富樫泰俊一向宗徒の攻圍を受けしが、其弟晴貞本寺に入らるや宗徒之を圍み火攻となす、晴貞奮勇して本寺に於て自殺す。承應二年、藩主前田利常、之を再興し、千楹を請じて中興開山とす。

●傳行基作本尊地藏尊は丈一尺八寸一に身代地藏と稱せられ、俗間の信仰厚く、現に刀痕を存す。境内に富樫一族の墳墓あり。なほ附近に祖師の墳と稱するものありて其側に蠟貝窟あり、窟は左右に分れ、左に入れば窟状をなすもの數區あり、右に入れば小池あり。附近に尙ほ土窟十三所ありて、考古學上注目せらる。

淨願寺

河北郡小坂村大字千木、

眞宗大谷派

●本願寺覺如北國巡化の朝、石墨覺左衛門と稱する者覺如に歸依して其法弟となり、覺淨と號して一字を建立す。之れ當寺の創始なり。七世覺常、蓮如北陸巡錫の節、其篤信を賞せられ、九字名號を受く。八世覺畫、又實如に參謁して方便法身尊影を賜はる。

●境内に蓮如の木像を安す、も石川郡宮永村安樂寺に在りしが、故ありて本郡高尾村長次郎の家に遷さる。後ち長次郎一夜の夢告に依り、之を當寺に納むと云ふ。他に蓮如軍九字名號・實如下賜方便法身尊影等を寄す。

福千寺

河北郡川北村大字木越。

眞宗大谷派

●大正十一年本堂を再建し、引續き庫裡再建中なり。●境内一千餘坪、本堂(開口九間、奥行十間)、護摩堂(前田利長建立)、梵鐘堂(寛文七年前田綱紀建立)總門等の堂宇あり。本尊は木造阿彌陀如来坐像にして高五尺、定額の作と傳へられ、舊氣多神宮の本地佛なり繪箔の剥落せるを新に拮拮せし爲め前々其尊容を損するも、尙ほ藤原朝の優作たるを失はず。現に國寶に指定さる。寺寶には愛染明王像(傳鎌倉時代作)・地藏菩薩像(傳鎌倉時代作)・文徳帝寄附八咫御神鏡二面(徑五尺、丈六尺)・八咫大師畫像八幅(御紋草入)・長谷川信春筆樂師十二天像十二幅・後宇多天皇御法體尊像一幅・光明曼荼羅一幅・織出三十三身觀世音菩薩像一幅・俱利伽羅不動一幅等を藏す。

●節分會(二月三日)、正御影供會(四月二十一日)、常樂會(三月十五日)、青葉祭(六月十五日)。

妙成寺

羽咋郡上甘田村大字神谷。

日蓮宗

●金榮山と號し、本宗四十四本山の一なり。永仁年間、日蓮の高足日像、佐渡より當國に渡る途次、船中にて石動山天平寺の上首大宮房と宗義を論じ、遂に之を服す。大宮房即ち日像の法弟となり、名を日乘と改め、本寺を創製、日像を開山とす。大檀越は芝垣村豪七館中將監(一に柴原將監と云ふ)にして宅地五町歩を寄附して以て其寺地となすといふ。永和三年足利義滿莊田を寄す。天正年間、前田氏當國に入るや、厚く崇敬して其所願所となし、事有る毎に祈禱を行はしむ。慶長八年利家、其室壽福院の菩提所と定むるに及び、寺領百二十石を寄進し、登城の格式十萬石の大名に准せしむと云ふ。慶長十七年、前田利家本堂、開山堂を再建し、同十九年、其大版出陣に際し、番神堂、方丈

石川縣 (羽咋郡)

●文明三年、蓮如當國巡化に際し、郷士佐々木政安(江州佐々木氏支流)之に歸依して法弟となり、道休房の號を受く。當時、光徳寺と稱し、光琳寺、光尊寺と併立して、世に木越三光と稱せらる。長享二年、宮縣政親寺縁三萬石を附す。天正八年、尾山城主佐久間盛政來攻するや、住僧、其三男松丸を本寺に殘して能登國七尾に逃がる。即ち其長男梅丸同地に光徳寺を起し、光琳寺は開國創地に、光尊寺は開國創地に一字を再建し、梅の水邊場と稱す。明治二年現稱に改む。

本泉寺

河北郡後川村大字二俣。

眞宗大谷派

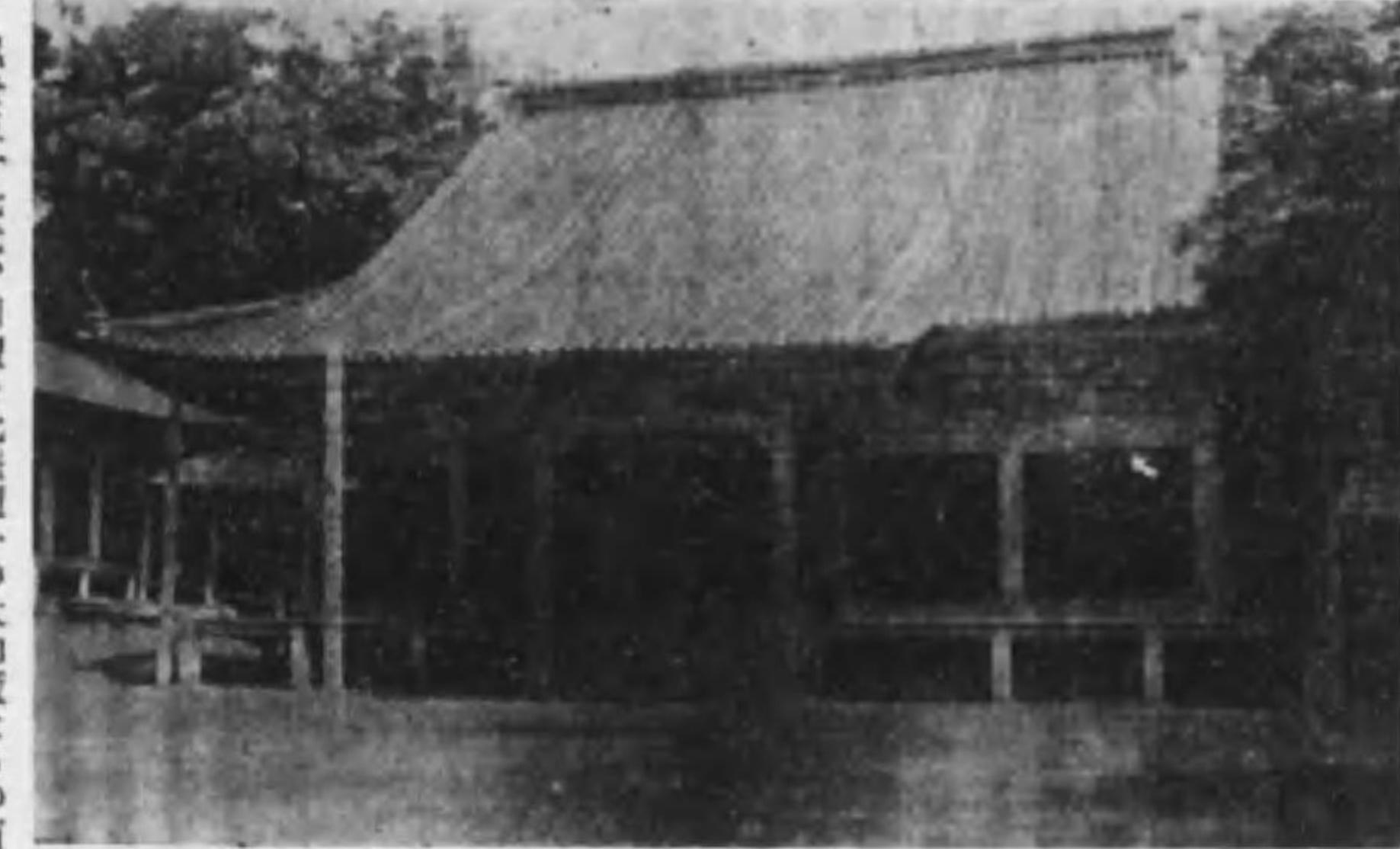
●松屏山と號し俗に二俣御坊と稱す。嘉吉二年、本願寺六世巧如の三子にして越中井波宗泉寺二世たる如來の開創に係る。寺地は足利將軍家の寄進なり。文明年間、蓮如北國巡錫の節、本寺に留まりしが、其子、蓮乘、蓮情相續いて住す。蓮情は後に當國若松に一寺を創し、本寺を其兼住所とす。其後蓮空寺より上均坊玄秀歸參して本寺に入る。天正年間、佐々成政の兵亂に罹りて堂宇焼し、爾來寺運衰へしが、元和二年、藩主前田利常、之を再興し、寺跡若干を附す。

豐財院

白狐林寺(船若寺) 羽咋郡北色知村大字白瀨。

曹洞宗

●等を造營せしが、元和四年には更に壽福院遺善の爲め五重塔を建立す。斯て高治年間に到り七堂伽藍悉く成る。明治初年廢藩後諸堂大破せしが、大正、昭和兩度の修理を経て寺觀、一に一新、創建以來祝融の災禍な



(寶圖) (堂本寺辰影)

●境内一萬五千坪、後方風致に富む層丈山の餘照を維持しつゝあり。

●一に般若寺、又白狐林寺と稱す。洞門の大祖靈山紹運の創建に係るといふ。中古、兵亂のため廢滅せしも、延寶七年、僧祖河之を再興す。

正覺院

羽咋郡一宮村字一宮寺家。

古義眞言宗

●蓮樂山大神宮寺正覺院と號し、同宗高野末に屬す。創建年代詳ならざれども、仁明天皇より嘉祥三年、龜尾蓮樂山奉藏寺の勅號を賜はり、文徳天皇仁壽三年、再び大神宮寺の勅號並びに神寶神符を下賜せられ、時の住僧、僧正位に任ぜらる。爾來、社僧三名を置きて式内銀多大神宮(現、國幣大社氣多神社)の別當院となり明治維新に及ぶ。往古、塔頭末院多數を擁し、寺運隆昌を極めしが、現に本寺一寺を遺して他悉く廢亡す。



(寶圖) (像來如陀無阿陀正)

●負ひ、前方は遙かに漫々たる日本海に開くる絶勝清瀟の地なり。本堂を中心として東に開山堂(祖師堂)・西に願守堂(三光堂)等一線上に聳を連れ、前方西に新願堂(番神堂)・五重塔・經堂・總門・鐘樓・客殿・書院及び庫裡等並列して日蓮宗伽藍の布置に従ふ。就中本堂・開山堂・五重塔・總門・書院・鐘樓・新願堂・願守堂・經堂は現に國寶建造物たり。本堂(方五間、單層、屋根入母屋造、檜瓦葺)は寺中第一の大堂宇にして慶長十七年竣工、昭和六年五月の大修理を経たり。其構造式は唐樓の手法になり、斗拱、木鼻、手扶、幕股等に施せざる繪彫彫刻によく桃山時代の特色を見る。開山堂(方五間單層、屋根入母屋造、檜瓦葺)は祖師堂と稱し、同じく慶長十七年の建立なり。手法又唐樓にして鎌倉圓覺寺の舍利殿と構式を等しくするも其繪彫彫刻彫る精巧華麗なり。五重塔(三間五層、屋根檜葺)一基は元和四年建立、大正五年修理、内外素木造にして、斗拱は和樣三手先、稍々狹高に失する感あれど全體の手法殊に潤達なり。青銅製相輪に正保六年改鑄の銘を存す。新願堂(三間社流造、屋根檜葺)は一に番神堂とも稱し、慶長十九年、前田利家の京都より移建せし桃山時代の建築物にして、細部の手法は唐樓なり。他の諸堂に比し彫朽甚だしく、もとの之が前面に方十八尺の華麗なる拜殿存せしも、明治六年廢毀せらる。現存せるは其本殿なり。總門(三間一戸、屋根入母屋造、檜瓦葺)は寛永二年の建立に係り、仁王尊を安置し、階上に二聖二天を祀る。初め檜葺なりしが後年今の如く改めらる。塔婆と同様狹高にして安定の姿致を缺ぐもよく江戸初期建築の特色を具備す。鐘樓(桁行三間、礎間二間、重層、袴腰、屋根入母屋造、檜瓦葺)も亦寛永二年建立、上層の形體稍々大に失するも、なほ莊重なる趣あり、江戸初期建築として見るに

足る。昭和四年、修理をなす。鐘はもと城中に在りしを移せるものと云ふ。鎮守堂(桁五間、梁間五間、單層、屋根入母屋造、檜瓦葺)は一に三光堂と稱し、元和九年の建立なり。初め榊葺なりしが、後年今の如くに改めらる。其形體様式悉く本堂、開山堂に等しきも、木割、手法等稍々鎌倉の度を加へ江戸初期の色調現はるゝを認め得べし。經堂(桁行三間、梁間五間、單層、屋根寶形造、檜瓦葺)は五重塔の後方に在りて寛文九年の建立なり。繪架彫刻精巧に流れ、様式手法又見るべきものあり。中に傳教大師筆一切經、天海版一切經並に應永二十二年三月得田章光の奉納せる法華經原本全部を納む。因みに天海版一切經は全國に六部あり、當山所蔵のもの其唯一と稱せらる。書院(桁行七間、梁間五間、單層、屋根切妻造、檜瓦葺)は天和二年の造營にして、内部の彫刻等によく桃山末期の風調を存す。其他、境内に釋迦堂・開覺堂・總門・徳記堂・寶藏・對面所・客殿・境外に奥ノ院・七面堂・觀音堂・藥師堂・妙見堂等あり。尚ほ什寶中、山水蒔繪机一脚及び山水蒔繪料紙箱一合は共に現在國寶に指定せらる。前者は前田利常の生母壽福院の所持品なりと稱せらる。圖様等よく江戸初期の特色を示す。後者は前者の附屬品にして、共に之れ同一作者の手に係りしものなるべし。



(寶圖) (塔重五寺景妙)

照明寺 羽咋郡西土田村大字徳田。

●眞宗大谷派。●もと天台宗に屬し、天行寺と稱せり。享應元年、住僧壽水、本願寺覺如に歸依して改宗す。覺如、即ち現寺號及び尊號を賜ふ。石山合戦の勲、住僧了齋、志賀三坊主の主誓として戦功あり、教如より累代背袈裟及び金剛輪袈裟の着用を許され、教如自畫白髪の御影、水晶念珠其他を賜はる。●寺寶として右の外、了齋の用ひし馬具・鞍・鎧・刀腰等を所蔵す。

長龍寺 羽咋郡西土田村大字谷屋。

●眞宗大谷派。●鹿谷山と號す。聖武天皇御宇、備比多神社の社僧某、一字を愚田野鹿谷山に創して永光寺と稱す。降りて南北朝の頃地頭得田氏、其菩提所となし、靈山紹理を開山に請じて光孝寺と改む。其後文明年間、兵燹に罹りて寺門中絶せしが、得田氏末孫の内省、本願寺蓮如に歸して之を再興し、蓮如の法弟法教房來り住す。時に現地に轉じて更に長龍寺と改むと云ふ。●寺寶に(後醍醐天皇宮輪舍利講式、後關成天皇宮輪鹿谷山三十六歌仙・弘法大師作觀世音像・運慶作阿彌陀如來像・小野宮作地藏及び觀世音・筆者未詳金銀泥法華經一部等あり。

光照寺 羽咋郡中森村大字上田。

●眞宗大谷派。●清和天皇の御宇、高野山弘融の創する所にして、

初め、光明院と稱し、七堂伽藍並に七坊を具備し、北陸諸州の眞言宗を總統せしが、仲恭天皇皇子義德親王四世の孫義勝本寺に入るや、淨土眞宗に歸依して弘誓と號し、寺號を光照寺と改稱して、眞宗の道場とす。●寺寶に仲恭天皇及び義德親王の御衣等あり。

光徳寺 鹿島郡七尾町所口。

●眞宗本願寺派。●木越山と號し、木越三光の一なり。乾元元年、僧宗性の開基に係る宗性は加賀高尾の城主富樫政親の孫にして、利信と稱せしが、文祿十一年、比叡山に登りて出家し、宗性と改む。後本願寺覺如に歸依して加賀國河北郡木越村に本寺を創す。其後、同國風至郡黒島村、鹿島郡中村等に移り、永正年間、今の地に轉り十三世賢業の時藩主前田利家より寺地二千三百六十九坪を寄せらる。往時堂宇宏壯にして、能越兩國末寺七十餘箇寺を統べしが寺運漸次衰頽す。明治二十八年五月表上。現今の堂宇は其後の造營に係る。●境内千三百八十八坪、本堂・庫裡等の堂宇あり。本尊阿彌陀如來は慈心僧都作なりと傳ふ。

長齡寺(山の寺) 鹿島郡西濱村大字小島。

●曹洞宗。●休庵山と號す。天正六年、前田利家、兩親菩提の爲に建立し、大邊表陰を開山に請す。初め寶圓寺と號せしが、文祿三年、現號に改む。●境内六百三十坪。本堂・庫裡・總門等あり。寺寶中、胡本普色、前田利春像一幅は國寶に指定せらる。法體にて上疊に坐し、下段左右に侍者二人を配置する圖にして壁二尺六寸、幅一尺三寸、各人物の服裝、結

永光寺 鹿島郡餘喜村大字酒井。

●曹洞宗。●洞谷山と號す。正和元年、洞門の太祖靈山紹理、當地の豪族野信直夫妻の請に應じて本寺を創建す。靈山、後ち風至郡御比村に諸嶽山總持寺(後、神奈川縣鶴見に移る)を開き其第一祖となりしが、次で窟を峨山紹理に譲り、再び本寺に歸りて正中二年に示寂せり。後村上、後土御門、後光明の各天皇、歴代の崇信厚く各勅願所の繪旨を賜ひ、且つ寺領を寄せらる。殊に後土御門天皇は勅して盛んに堂宇を修營せしめ、後光明天皇は、佛舍利を賜ふて三重塔を建立せしめ給ふ。當時、七堂伽藍具備し、支院二十有餘を擁して北國有数の巨刹たりしが、天正年間、五老峯の廟堂のみを残して一山兵火に炎上す。其後、漸次復興せられ、現在堂宇略々舊觀に復す。

本土寺 鹿島郡能登部村大字西馬場。

●日蓮宗。●常在山と號す。正安二年四月、僧業純之を開創す。初め日蓮の法弟日像、佐渡より七尾に渡る便船中、眞言宗石動山太平寺の學頭萬藏(一に滿月、大宮房)と會し、法論して之を破る。即ち萬藏と共に太平寺に至り

て一冬を越す。時に同山大衆、日像を目して法敵となし、之を襲撃す。日像追はれて鉢貫(西馬場)に至り、同地の浪士山田加賀太郎、同北太郎兄弟に寄り、兄弟、日像を五音坊なる山麓に隠し、大衆を後井村に逆襲して遂に討死す。後ち萬藏の買弟業純(越中國重生村護國八幡宮の社僧、日像に就きて、其弟子となり、殉教者兄弟の冥福の爲め正安二年四月一字を創し、日像を以て其開山とす。●境内六百五十坪、本堂・庫裡・書院・仁王門・鐘



(門王仁寺土本)

天平寺 鹿島郡越路村大字石動山。

●古義眞言宗。●石動山と號し。式内、伊須流岐比古神社供僧房たり。養老元年、僧智徳勅を奉じて當山に虚空藏菩薩を勧請せしが、天平勝寶年間、孝謙天皇堂宇を建立し給ふ。即ち年號に因みて天平勝寶密寺と號すと云ふ。以上を新編起云ひ、これに對して古縁起なるあり、即ち養老元年僧奉澄之を開創し、法道仙人堂宇を建立すとなすもの之にたり。爾來、平安、鎌倉時代を通じて寺運隆昌を極め一山堂塔僧房數百宇を連ね修學の大衆數千に上りしと云ふ建武二年、越中守護普門藏人利清二國の勢を集めて叛逆するや、國司中院定清當山に據りし爲め其兵火に罹りて一山瓦土となれり。降りて天正の初年、織田信長從來の寺領五千貫を千貫に減ぜしより、一山の大家大いに憤り、天正十年一揆を起して寺領安堵を企てしかば、前田利家の攻むるところとなり、一山の伽藍悉く焼亡す。これより寺運漸次衰運にむかふ。現に同宗高野末にして、堂宇等總て假建築のまゝなり。●境内約一千坪。本尊虚空藏菩薩、十一面觀世音菩薩等を安置す。

總持寺別院 風至郡門前町。

●曹洞宗。

●諸山と號し、本宗大本山鶴見持守の故地を守
る。草創沿革等同寺に同じ。即ち明治四十一年四月、
祝融の災に罹りて諸堂宇焼失せしに依り、獨住第四世
素重、寺地を鶴見町に移して堂宇を再建す。當地には
其遺宇を修葺して別院となし以て其舊蹟を保存す。

●三十一年の火災に遭りし堂宇は傳光堂(鳳廟)、白
山殿・慈雲閣・輪藏・寶藏・觀音等にして、法堂(本
堂)・客殿・講堂・待風館・大東廬・鐘樓・納骨堂・
衆寮・寮等はその後の建立なり。以上の中、輪藏は寛
保三年の古蹟にして様式手法等に見るべきものを存
す。慈雲閣は觀音堂にして、本尊觀世音は開山以前眞
宗諸尊と稱せし時代より安置せらるる傳へ、衆寮の
信仰厚し。尙ほ境内の荒神尊又慈雲閣と同じく開山以
前の鎮座なりと傳へ、夙に靈驗の顯著を稱せらる。附
近に禪定石、高嶺山金毘羅堂、長谷崎等の勝地あり。

光琳寺 鳳至郡創地村大字創地。

●眞宗大谷派。
●元龜元年、林祐明法師の開基なり。初め、源平戰
役に當り、加賀國河北郡木越に一字を創して天台宗に
屬せしが、後眞宗の佛寺となり、光琳寺、光徳寺と
共に木越三光と稱せらる。天正八年、尾山城主佐久間
盛政來攻するに及び、難を現地に避けて再興す。

妙嚴寺 珠洲郡寶立村大字輪藏。

●眞宗大谷派。
●丈六山と號す。延暦年間、僧義國諸國を巡錫して

當郡に到り、丈六山麓西方村に一字を建立し西方寺と
稱す。これ本寺の源流なり。後武内宿禰の遺孫左衛
門六郎利遠の舍弟行秀、後醍醐天皇の勅命により鎌倉
に合戦して討死せしが、利遠の曾孫菊若丸、行秀の善
提を引ばんが爲め、叡山に上りて出家し、學頭となり
て圓景阿闍梨と號す。其後下りて西方寺に住す。永享
元年、圓景常樂齋空覺の養弟となりて眞宗の法に歸し
號を正徹と改め、本願寺巧如に侍す。同三年巧如の命
を受けて北國に下り、眞宗を弘む。同五年、巧如より
妙嚴寺の寺號を下附せられ、時に現地に轉す。天正年
間、前田利家黒崎攻めに際し、本寺に滯留せしが、後
關原役を命じ、每歲正月登城年賀の禮を許可す。安政
年間藩主の御廟を建立するや、本願寺宗主藩親善儀の
厨子を寄せ、御別堂と稱せしむ。明治十年回縁に罹り
堂宇灰燼に歸す。其後漸次復興、以て現在に至る。

松岡寺 珠洲郡木那村大字松波。

●眞宗本願寺派。
●寶徳三年、蓮如の開創に係る。初め加賀國鹿美郡
波佐谷松岡村にあり。蓮如之を第五子蓮綱(兼範)に附
與す。蓮綱は別に山内に結願坊を開創して之を兼帶す。
蓮教(兼玄)、實慶(兼相)、相次いで住したり。享祿四
年十一月、加賀の門徒亂するに及び、本寺其兵火に罹
りて喪上し、一族の諸寺悉く遷轉し、蓮教、實慶共に
自裁す。其後實慶の弟玄政(祐宗)の子孫兼利の代、寺
基を今の地に移して再興す。これに關して或は實慶の

子慶祐の再興なりと云ひ、或は實慶の子兼宗本寺遷轉
の後、實慶の兼住寺たりし、松波高福寺に住せしが、
其子真慶(兼慶)之を改めて松岡寺となし、其子真淳以
下相承すとも稱し、諸説一せず。明治十三年回縁の
災に罹り、堂宇及び蓮如筆十字名號、同消息文、同作
觀音木像等焼失す。其後漸次復興、以て現在に至る。
●境内二千九百餘坪。寺實には聖徳太子木像一軀。
准知消息文等を藏す。

福井縣

專照寺 (中野本山) 福井市豐町。

●眞宗三門徒派。
●中野山と號し、當派本山たり。派祖如道(一)に如
導)の開創に係る。寺傳に依れば文應元年、如道八歳
にして觀覺に謁し、念佛の法を直傳す云ふ。弘安五
年、如道三河靈照寺に到りて和山の圓善に就き、具さに
眞宗法門を傳承す。圓善は高田專修寺眞佛の法弟專海
の門に出づ、其後如道越前に入り足羽郡大町(現六條村)
大字大町に一字を創し、圓善より受けし宗祖遺骨を祖
像に納めて之を安置す。正和元年、本願寺覺如之に專
修寺の號を寄す。世に之を東屋道場と云ふ(坂井郡勝
授寺の項參照)。時に領主波多野通直深之に附依して
外護權越たりき。然るに如道其法門に新義を樹て自ら
秘事法門と稱す。覺如之を邪義として排せしも、爾來
其法流を流すもの愈々多く、上凡の門弟に權越の道性、
越前江の如覺、越前の道順、河北の祖海等あり。漸次勢
力を得て所謂越前三門徒の根基を形成せるものなり。
興國元年、如道寂するや、二子如淨、三子了泉相次で
住す。然るに永享八年、四世淨一(如道の孫、中野の
坊主と稱せらる)の時、異解を以て衆を惑はすとの故
に依り、本願寺六世巧如之を擯斥す。茲に於て淨一、
寺を弟淨光に譲り、別に露野保中野に一字を營みて古
來の什器、寶物を之に移し、專照寺と號す。將軍足利
義教、厚く淨一に附依し、翌九年十一月、寺領並に諸
役免除の朱印狀を寄す。當時越前江門徒、山元門徒、中
野門徒の三者、鼎立して世に榮えたるより、之を「三

淨得寺 福井市川上町。

●眞宗大谷派。
●正安年間、本願寺覺如の開創に係る。初め眞寶郡
原村にありしが、文明年間、坂井郡吉崎村に移る。其
後一時廢頓せしが、天正年間、足羽郡津ヶ崎村に再興
せられ、次で吳服町に移り、萬治二年、更に今の地に
轉す。
●境内樹多し。頗る風光に富み、本堂・書院・
庫裡等の堂宇を具ふ。書院は松平吉品福井移居の際、
其吉江(現在丹生郡立待村)舊館を當寺に寄せしものな
り云ふ。寺實中、紙本着色世界及び日本圖一雙(六
曲屏風)は現に國寶にして、狩野永徳筆と云ふ。他に牧
溪筆墨龍屏風、土佐光業筆觀音繪二幅等を藏せり。

持寶院 福井市川上町。

●新義眞言宗智山派。
●松尾山寶光寺と號す。天平寶字元年、惠美押勝の
創建に係り、奉燈を以て開山とす。初め法相宗たりし

孝顯寺 福井市常盤木町。

●曹洞宗。
●天女山と號す。慶長六年、松平秀康當國に入るや
下總結城にありし當寺亦之に附隨して此地に移る。爾
來其菩提所と定められ、當寺越前一派總持所たり。同
十二年、秀康薨するや、之を當寺に移る。寛永十一年
寺領二百五十石を附せられ、享保八年、更に五十石を
加へらる。後文政年間、堂塔の重修を遂げ、以て現
在に及べり。
●境内に秀康廟あり。寺實として秀康影像其他を
藏す。

西光寺 福井市相生町。

●天台宗眞盛派。
●長享三年、朝倉貞景の創建に係り、坂本西教寺圓
戒國師(眞盛)を開基となす。もと吉田郡四保村にあり
しを、天正十年三月、現地に移す。翌十一年柴田勝家
此地に自盡するや、末子作次郎四歳なりしが、成長の
後大坂に到り、慶長元年、父君衣冠束帯の像を彫刻し
之を當寺に安置せり。嘉永六年に至り、其末孫徳善、
寺内に像堂を建立して之を安置すといふ。

●境内に柴田勝家の像堂あり。堂の傍にその墓碑を存す。現在磨滅して其銘を詳にせず。寺寶として梵鐘一口あり。越前國河口庄園郷、于時永正十三丙子三月廿九日、大願主藤原朝臣景滿の銘を有す。

安養寺 福井市藤町。

●浄土宗西山派。

●文明五年、朝倉敏景の創建に係り、僧忍を以て開山とす。もと一乗谷にありしが、天正三年現地に轉す。明治三十三年、回縁に頼りて堂宇烏有に歸せしが其後漸次再建、以て今日に至れり。

●寺寶中、絹本着色阿彌陀二十五菩薩來迎圖一幅は現に國寶に列せらる。中尊は上品中生の印相をなして坐し、脇侍は立姿にして平安より鎌倉への過渡期的圖樣を示す。其體麗なる相貌及び諸裝束には藤原期の特色を存せらる。其攝法に鎌倉初期佛畫の新様式を示せり。

運正寺 福井市藤町。

●浄土宗。

●森山と號す。慶長十二年四月、松平秀康當地に卒するや、徳川家康、其菩提を弔はんと爲め本寺を創建し、知恩院滿譽を請じて開山とす。寛永十一年、松平忠昌寺領三百石を寄す。爾來松平家累代の祈願所として歸依厚く、又北陸の鎮所たりき。

●境内六千六百六十二坪、本堂(慶十一開中、横十一間)、書院・庫裡・鐘樓・山門等の堂宇を具ふ。寺寶として後水尾天皇宸翰等を藏す。境内に松平氏累代の廟所あり。

●松平家累代法會(六月十六日)。

仙福寺 福井市館町。

●眞宗高田派。

●願智の弟子願慧の開創に係る。願慧はもと佐々木經高次男にして俗名次郎左衛門尉高範と云ふ。承久の亂に一家誅散し、自らは逃れて當國に流浪せしが、偶々眞宗高田派願智の當國に遷化するに遭ひ、其化に歸して名を願慧と改め茲に一字を創す。即ち當寺の蓋賜なり。元龜、天正年中、一向一揆の起るや、住持惠玄高田派の諸寺と提携して大いに本願寺門徒に當れりと云ふ。

光照寺 福井市花月上町。

●天台宗。

●一乗院と號す。大同年間、最澄の開創と傳へ、其十三戒壇院の一なりと云ふ。文明三年、朝倉敏景一乗谷築城の際、其祖鳥羽豐後守將景(光照寺殿)菩提のため之を再興して、寺領一里四方を附し、其法名に因みて號を西山光照寺と改む。天正元年、朝倉氏滅亡後は當寺また次第に頹廢せしが、慶長十一年、松平秀康更に寺領を寄せ、同十六年、現地に再建して大いに舊觀を改む。

●本尊阿彌陀如來は信心作と傳へ、もと多田家持佛堂に安置せられしものなり。曾て多田滿仲、其妻子美丈慶に出家を勧めしに、其言に抗せし故を以て、臣仲光に命じて之を討たしむ。仲光、其子以て之に替へ美丈慶を救ひしが、其母之を知らず、晝夜哀哭して遂に盲目となる。即ち終日の尊像に念佛供養せしに、遂に兩眼開くと傳へ、今尙は當地道俗の崇信を齎む。寺寶として花山法皇御所持鈿・石刻十一面觀音坐像等あり。

慶福寺 福井市佐佳枝下町。

●眞宗大谷派。

●殿下山と號す。もと天台宗に屬して、吉田郡殿下村にあり。後ち住持白龍、願智に歸依して現宗に改め以て當寺を中興す。七世教順、本願寺蓮如に當願し、自筆名號を寄せらる。其後當地子安町に移り、更に花月上町に三轉す。嘉永七年、回縁に遭ひて堂宇表上し爾來假堂の僅なりしが、明治十四年、現寺地に再建して堂宇を再建せり。

福井別院 福井市乾中町。

●眞宗大谷派。

●本願寺と號す。慶長十年、本願寺教如の開創に係る。初め文明年間、蓮如當國吉崎に滞在の頃、北庄現福井に一寺ありて、當地九箇寺の住職これを管理し總坊と稱せり。文祿二年八月、教如此地に下るや、一字を創し、蓮枝をして之に住せしめんとの意向あり。即ち慶長十年、九箇寺に論じて總坊を本山に獻せしめ翌年、其女樂院教應(龜龜)をして之が住持たらしむ當時本堂は方十間、他に三間に六間の庫裡あり。元和七年、梵鐘を鑄造す。次で寛永十三年、近江慈覺寺教映の男樂院宣入りて當寺を繼ぐ。後年本願寺蓮如六子恩光院蓮性來住せしが、延寶年間、其本山十六世を襲ひて一知と號するや、其兄演慈院蓮玄を當寺に迎ふ。元祿五年、本堂再建の工を竣へし、明和二年、回縁に罹りて堂宇表上す。次で本堂の規模を擴張して再建成りしが、寛政九年、類焼の厄に遭ひて再び焼失す。其後復舊せしむ、安政元年六月、三度表上す。明

眞宗寺 福井市尾上中町。

●眞宗本願寺派。

●牛鼻山但馬眞宗寺と號す。僧行知の開基に係る。行知、俗名北條彌次郎宗之、但馬の人なり。入洛して觀覽の教化に遭ひ、其後、越前に下りて一字を創す。即ち當寺蓋賜たり。初め行圓と稱せしが、後年覺如より如號を寄せられて、行知と改む。又一説に云ふ、當寺開基は將軍實朝の臣北條二郎時村なりとす。實朝の統せらるゝの後、時村佛法に歸して觀覽に順ひ、行念と稱す。時に行念の弟、越前國主北條但馬守時弘、之に當國坂井郡長畝郷に地を寄せて一字を建立す。時人之を但馬御坊と稱せり。行念後に覺如に歸して行知と改む。然して行圓は即ち其二世なりといふ。當寺は中古分れて兩寺となる、當寺と加賀月津の眞宗寺は即ち之なり。

眞宗寺 福井市尾上中町。

●眞宗本願寺派。

●寺寶として觀覽筆十字名號・蓮如筆觀覽、蓮如筆座畫像・實如筆書・阿彌陀如來畫像・蓮如道骨・同所持笈等を藏す。境内に岩佐又兵衛の墓あり。

眞宗寺 福井市尾上中町。

●眞宗本願寺派。

●昌向山立橋眞宗寺と號し、法然房光實の開創に係る。光實俗名は佐々木三郎盛綱、後年觀覽の化導を蒙りて其弟子となり、今立橋橋立に一寺を創す。即ち本寺の起源なり。或は云ふ、光實は盛綱の玄孫にして、觀覽の門弟願智の弟子なりとす。其後故ありて現地に轉じ、以て現在に及ぶ。

眞宗寺 福井市尾上中町。

●眞宗本願寺派。

●眞宗本願寺派。法然房光實の開創に係る。光實俗名は佐々木三郎盛綱、後年觀覽の化導を蒙りて其弟子となり、今立橋橋立に一寺を創す。即ち本寺の起源なり。或は云ふ、光實は盛綱の玄孫にして、觀覽の門弟願智の弟子なりとす。其後故ありて現地に轉じ、以て現在に及ぶ。

福井別院 福井市尾上中町。

●眞宗本願寺派。

●天正年中、本願寺願智の開創に係る。初め文明三年、蓮如、北陸進化的開、國守朝倉敏景の外護を得て同年七月、坂井郡細呂吉崎山上に一字を創す。同六年、回縁の災に罹る。翌年八月、蓮如去るや、九月更に平泉寺僧徒の破却に遭ふ。敏景、居城一乗谷新町に新坊を建立して、之に移らしめしが、天正元年、朝倉氏滅亡後、東郷に再轉す。次で本山、織田信長と事を構ふるや、當坊亦其災被を蒙りて、衆僧難を附近山林に避く。同十三年、堀秀政の越前北庄に移封せらるるに及び、衆僧益に集まる。御町(現大和中町附近)に寺地百間四面を附與し、次で秀政の子季治の時、堂宇を造營す。願智乃ち性支寺善珍(もと家臣松井治良右衛門を遣して之を監守せしむ)。慶長五年、松平秀康の越前を領するや、禁札を立て、寺門を外護す。同七年、准如北陸進化的開、吉崎の例に倣ひ、眞宗、照源、本覺の三寺をして當寺の後見たらしむ。寛永十七年三月、准如九子理光院照圓來住す。同十九年三月、回縁に罹りて堂宇表上し、萬治二年四月、近火のため再築用材亦焼亡す。同年七月、國主松平光通の旨を承けて今の地に移る。寛文四年三月、輪番制を設け開藏寺覺玄をして輪番たらしむ。同十一年、眞如十一子寂停來住す。延寶五年、國主朝昌、法制七條の禁榜と門

福井別院 福井市尾上中町。

●眞宗本願寺派。

●境内に千百餘坪、本堂・對面所・二尊堂・庫裡・書院・香房・鐘樓・鼓樓・經藏・表門・土藏等の堂宇あり。寺寶には、准如點眼觀覽畫像(入眼の御影)・聖德太子畫像・七高僧畫像・法如筆九字・十字名號本如眞書二尊畫像・明知畫像・本淨院(堀秀政)畫像・綱昌寄進制札等を藏す。尙ほ寺内に本院經營に係る尾上坊雜園舎を存せり。

福井別院 福井市實水上町。

●眞宗高田派。

●明治三十八年五月、本山専修寺法主鶴齋の創建に係る。爾來銳意寺門の興隆に努め堂宇又次第に成る。北陸地方に於ける當派教線擴張の本據たり。

眞宗寺 足羽郡麻生津村大字徳尾。

●眞宗出雲路派。

●永仁年間、淨盛の開基に係る。淨盛は平康頼の男、後年佛法に歸して觀覽の弟子となり、永仁四年、遂に越前國三十八社村の地に一字を建立す。是れ本寺の蓋賜なり。爾來寺運大いに榮え、七十有餘の末寺、三千七百の門徒を有し、其十三世住持に至る迄は代々大僧

郡に補せられたりと云ふ。天正十年、兵火の禍に罹りて衰微せしが、同十八年、今の地に移りて再興を遂げ以て今日に及び。

惠光寺 足羽郡社村大字東下野。

●真宗大谷派。●歸命山と號す。天喜三年、源信の弟子惠光の開基に係る。初め天台宗に屬せしが、仁治年間、親賢の上足善性越後浄興寺より來りて當寺に入るに及び、之を東下野村に移して再興し、以て眞宗に改む。爾來一山悉く本山學寮に懸席し、寺運隆盛を極めたりき。然るに弘化三年、本山に於て末寺野願寺と出仕前後の紛争あり。文久元年、更に本山對當山の紛争起る。其間三十二年遂に本山は法定の成規を以て本堂其他の諸建築物一切を差押へ、之を高田派別院に賣却す。現今の福井市高田派別院の堂宇是なり。其後更に本山は福井市公園地に惠光寺を建立して同派の連枝となす。茲に於て明治二十二年、當山遂に固有の末徒數百を誘導して大谷派本山に歸參し、客末に列せられたり。同二十八年現地に本堂を建立し、爾來漸次寺觀を改めて、今日に至れり。

超勝寺 吉田郡東藤島村大字藤島。

●眞宗本願寺派。●明徳年間、額圓(靈龜)の開基に係る。初め三河本願寺の末學和田信性房の長子長松丸、此地に到りて遽かに授するや、門徒等本願寺五世轉如に請ひて、其男

額圓を招じ、以て本寺を創す。四世蓮超の時、寺地甚だ隆盛にして、其門徒廣く加越兩州に亘る。永正年間北陸一向一揆の際、當寺亦之に應じて領主朝倉氏に抗す。八世准照、勅によりて權大僧都に任ぜらる。慶長年間、宗祖三百五十回忌に方り、院家に列す。降りて寛政三年、本願寺十八世文如、蓮如文章に奥書を附して當寺に寄す。十二世寂超の時に至り、御體夜巡遊を許され、數代相續す。明治年間、更に別格寺に列し、以て今日に至れり。

超勝寺 吉田郡東藤島村大字藤島。

●眞宗大谷派。●前項本願寺派超勝寺と同系の寺院なり。慶長七年大谷派本願寺の創始せらるるや、超勝寺八世准照の兄頼憲、當國松岡城主の援を得て別に一字を創し、同じく超勝寺と號して大谷派に屬す。之より超勝寺二寺に分る。寛永十八年、梵鐘を鑄造す。貞享元年に至りて堂房を完成し、以て今日に至る。

永平寺 吉田郡志比谷村大字志比。

●曹洞宗。●吉祥山と號し、當宗大本山なり。寛元元年、越前國司波多野出雲守義重の創建に係り、道元を請じて開山とす。初め、道元、宋に渡りて天龍山如淨に就き、佛陀正傳の大法を受け、在宋五年にして安貞元年、歸朝するや、山城國深草に興聖寺を創して之に居る。時



(堂法寺平永)

に講を留め、次で禪師峯に移り、余松の邊に一字を創す。翌二年九月、法堂成り、余松峯大佛寺と號せしが、同四年六月永平寺と改稱す。蓋し之れ佛法初めて支部に入れる後漢明帝の年號に因むと云ふ。寛治二年初め吉祥山の號を定む。時に朝野の尊崇漸く厚く、殊

に後醍醐上皇よりは紫衣勅許の給旨を受くる事三度、二度之を拜辭して受けざりしが、勅命愈々重く遂に三度目に之を拜すと云ふ。建長二年更に佛法禪師の號を賜はる。かくて道元、山に在る、三十年、同五年七月孤雲懷辨に本寺を譲り、八月京に入りしが、同二十八日遂に寂す。元亨元年、三世叡運の弟子靈山(紹運)分立して能登に總持寺を開き、次で之に出世道場の勅宣を賜はりてより當寺を祖山とし、彼寺を本山とするの形勢となり、從つて爾來兩寺の軋轢絶えず。五世義雲實慶寺より當寺に入るや、宗風大いに振ひ、寺地僻遠の故を以て現寺地に轉じ、以て堂宇を再興す。即ち當寺の中興なり。慶安四年、九世宗吾の時、後醍醐院宣して出世道場と定められ、日本曹洞第一道場の稱額を賜ふ。文明五年、兵燹に罹りて堂宇悉く烏有に歸す。長享元年より復舊の工を起し、數年にして成る。天文八年十月、後奈良天皇、出世道場追認の勅宣を賜ひ、天正十九年十月、後陽成天皇亦之に準じ給ふ。元和元年、徳川氏、諸宗法度を發布するに方り、永平總持の兩寺を以て宗事を協同管理せしむ。其後壽命を受けて下總總持寺福慶院當寺に入りて其二十九世を繼ぐや爾來關東三箇寺(總持寺、龍興寺、大寺)より入寺するを例とす。且つ、徳川氏、右三箇寺を僧徒とし、諸國の諸所を統べしむ。寛文元年、福井藩主松平光通寺領五十石を寄せ、延寶四年、同昌親更に二十石を加ふ。天明六年四月六日、光明藏より火を失して法堂、書院、方丈等を燒失す。當時能登總持寺幕府を許りて峨山下の備永寺に於て、出世すべからずとの公帖を受けしが、當寺之に抗して、五十世玄遷に至りて舊に復す。同時に小清規を著して法式の積弊を改む。享和元年、勅願祈禱の御機物の下賜を奏願し、以て毎年の例となすに至る。天保二年より同十五年に亘りて五十



(堂圓總寺平永)

七世萬壽、法堂、大庫院、大光明藏、勅使門、妙高台等の堂宇を建立す。嘉永七年二月二十四日、孝明天皇より道元に佛性傳東國師の號を賜ふ。明治元年六月官命により關東三箇寺の僧徒を廢し、當寺新に宗教を司り、一宗領徳の公議によりて之を決し、且つ僧徒の教育に力む。次で山城國興聖寺項溪來りて當寺六十一世を繼ぐや、關東三箇寺昇住の例亦止む。同五年三月、總持寺と共に當宗の兩本山となり、當寺その上位たり。而して曹洞宗務局を東京に設置し、兩山の貫主一年交

代して管長職に就き、以て一宗を統轄す。後年兩山各々派を唱へて相讓らず、紛擾絶ゆることなかりしかば、同十二年三月、新に兩山十條の盟約を締結す。同年五月、承慶殿を築上す。十一月二十二日、道元に承慶大師の勅宣を賜ふ。同十四年、承慶殿の再建成る。次で六十三世塚宗一意堂宇の改修増築に努め、寺觀大いに革まる。翌十五年五月、本末の憲章を發布し、貫首末山公選の制を定む。其後更に宗門の服制、洞上行持軌範、曹洞教會修護義等を完成し、同二十四年佛殿以下の諸堂宇を改修し、同年四月、高祖六百五十回忌を修行せり。同三十九年、宗儀、宗規の改正を行ふ。同四十二年、東宮行啓あり。昭和五年、孤雲六百五十回忌に方り、佛殿、大光明藏、余松閣以下諸堂の大改修並びに増築を行ひて、一山の堂宇の景観、に成り、安壯更に其倍を加へたり。開創以來法燈實に七百年、現に地蔵院、福梅院、長壽院、隆昌院、承慶院等の塔頭と一萬五千餘の末寺を擁し、一千餘萬檀信徒歸仰の的たり。●境内九萬九千八百八十四坪、一山の堂房丘陵に倚りて南面し、蒼鬱たる青嶺其四邊を繞り、其間、溪澗亦穿穿として東より西に注ぐ。眞に幽邃閑雅の靈域たり。堂宇凡そ七十有餘悉く禪刹の古規に則り、山勢の層級に任せて、古色蒼然たる堂房に明治以後の再建に係る近代建築を配す。即ち總門・玲瓏門・小庫院・宿坊・余松閣・總持堂・舍利殿・鐘樓・山門・中書門・僧堂・衆寮・佛殿・承慶殿・孤雲閣・眞廟・法堂・大光明藏・妙高台・不老閣・寶庫・瑞雲閣・大庫院・松平氏廟所・鼓樓・浴司・經藏・勅使門・寶物館・鎮守堂・廻廊等はなり。先づ總門を入れば、左に總受附所あり。以下主要堂宇を述べれば次の如し。●玲瓏閣(余松閣) 前者は大正五年建立、三層にして、後者は昭和五年の建築に係る。其格天井は現代日

本知名畫家の作品を蒐め、壯麗無比、昭和美術の粋を誇れり。

〔舍利殿〕 文久三年、六十世風雲の改築に係り、全副僧徒の遺骨及び日、月尊等を安置す。

〔山門〕 重層樓門にして、寛延二年、大智光の創建に係り、掲ぐる所の「日本曹洞第一道場」の扁額は後圓融院の寢室と傳へ、中央の扁額は道元實治二年の眞筆と云ふ。樓上に十六羅漢、五百羅漢等を安置す。

〔中堂門〕 山門と佛殿との間にあり、左右に廻廊を設け、構造頗る莊嚴を極む。

〔僧堂〕 一に雲堂又は遷佛場といひ、明治三十四年の改築に係る。接實、西堂、後堂、首座、雄那等の各寮及び延壽堂等之に附屬す。

〔佛殿〕 重層、屋根入母屋造にして、覺皇寶殿と稱し、一山の中心にあり。明治三十五年、宗祖六百五十年遠忌記念の營建に係り、造構頗る精巧なり。中央須彌壇に釋迦、彌陀、藥師三尊を安置す。尙ほ正面には今上陛下の御神を奉安し、左右別壇には達磨大師、大權菩薩、天童如淨禪師等の像を置く。

〔承慶殿〕 明治十二年喪上、同十四年の再建に係り、宗祖像舍利並に累代宗主像を安置す。「承慶」の額は宗祖六百五十年遠忌に方り、明治天皇より賜はりしものにして、別に崇倉具親筆承慶殿の扁額あり。堂前の唐門を承慶門と稱す。

〔孤雲閣〕 承慶殿と同時の再建に係る。曾て道元寂後、二世孤雲承慶殿の傍に庵を結びて常侍す。故に其名あり。平時は祖廟職員之に詰め、臨時大法會修行之際、最高宗務職員又は格地寺院住職の詰所たり。

〔法堂〕 天保二年、再興の再建に係る。「法王殿」の扁額は有栖川宮徳仁親王の御筆にして、現今宗門諸儀式法要を茲に修けり。

〔大光明藏〕 天保十年、再興の改築後、更に昭和五年大改修を加ふ。貫首面接所にしてまた轉對の式を茲に行ふ。附屬室は、菩提座と稱し、貫首接對所、監院、副寮等本山高職の居間あり。又其大壁畫は小室翠雲筆に係る。

〔妙高齋〕 天保十五年の改築に係り、貫首接對所なり。明治四十二年、東宮行啓の御、御座所に委てらる。

〔不老閣〕 貫首居室にして、嘉永四年、明覺の建立に係り、第一方丈、第二方丈に分る。

〔瑞雲閣〕 明治三十四年の改築にして僧侶の宿舎なり。

〔大東院〕 天保九年の改築に係る。

〔經藏〕 一に輪藏と稱し、嘉永四年の六十世風雲の建立に係る。一切藏經を藏す。

〔勸使門〕 天保十年三月、五十七世再興の建立なり。寺寶中、紙本墨書後醍醐天皇宮輪一幅・同傳宋人如祥筆・高祖御書一幅・銅鐘(銘嘉祥二年八月二十四日造)一口は共に國寶に列せらる。尙ほ附近に小舟渡遊園地、六呂師スキー場、霞ヶ城址等ありて、遊覽を樂むる賓客四季を絶えず。

●開基正月忌(一月二十日)、開山降誕會(一月二十六日)、開祖報恩授戒會(四月二十三日より一週間)、首楞嚴會(五月十三日より八月十三日迄)、羅漢講式(六月十六日)、開祖正忌(九月二十三日より一週間)、其他二年回安居等あり。

興行寺(志比本坊) 吉田郡上志比村大字藤巻。

●眞宗本願寺派。

●大谷山と號し、俗に志比本坊或は總坊と稱す。應永年間、蓮如の男周覺の開創に係る。初め周覺の兄超勝寺願圓來住せしが世法に迷ひて法門を離せしより、門徒之を排して更めて周覺を請す。時に當郡大谷に寺地せしが、次で、今の地に移り、巧により華藏閣の號を受く。後二世蓮實、其子蓮助に之を譲りて興行寺と號せしめ、自らは大野郡伊知地東野(現、北郷村)に隱棲して、以て華藏閣と號す。其後、蓮實、蓮實、斷慧等相嗣きて寺運隆盛なりしも、大正二年九月、同縁に罹りて堂宇概ね焼亡す。其後再建を謀へ、以て現在に及ぶ。

●本尊阿彌陀如來木像は法然作と傳へ丈高二尺四寸餘あり。

永臨寺 坂井郡金津町。

●眞宗大谷派。

●香月山と號す。文明年間、僧榮林の開創に係る。榮林も朝倉家の一族なりしが、蓮如北國運化の際之に歸依して補門に入る。文政五年、同縁に罹りしが、變許ならずして再建の工を發ふ。即ち今の堂宇はなり。尙ほ同派の碩學として著名なる香月院深淵は當寺の住職たりき。師は寛延二年當郡兼浦大行寺に生れしが、寶曆年間、當寺住僧壽天其天寶聰敏なるを愛し、養ひて以て法嗣となす。後年京郡に遊びて宋餘案の蘊奥を極めしが、寛政六年、同派講師となりて香月院と號し一派の教學を綜攬す。其學識深遠にして博厚風に同派宗學の大成者な以て目せらる。文化十四年當寺に於て示寂す。

●堂後に香月院深淵の墳墓あり。

勝授寺 坂井郡三國町。

●眞宗本願寺派。

●此地に來り、豪族大家某の家に泊して旅裝の姿を自畫して、之を主人に授く。即ち、俗に御鬘御影と稱して、當寺に傳ふるものは是なり。其後蓮如、國主朝倉敏景の歸依を得て一字を創建せしが、同七年、下間蓮崇の不軌に因りて、當寺政現の難を蒙る。同年蓮如去るや、平泉寺の徒來攻して坊舎を破却す。後年門徒三人各々道場を設け、以て遺跡を守護す。重兵衛道場、彦作道場、大家道場はなり。慶長七年、東本願寺分立するや、重兵衛、彦作の二家は之に屬し、大家のみ獨り止まる。延寶年間、大谷派の門末、山上の坊舎遺跡を改めて東本願寺の有となさんせしが、同五年、遂に公府の裁許に依り山上の地は幕府に收め、開山の佛事法要等は山下に於て修すべしとせり。同七年、大家道場を山下道場とす。是れ本願寺派吉崎別院の遺跡なり(其項參照)西念寺は遺跡守護の功により御坊監守を命ぜられ、一時御坊に合併せられしが、元禄年間御坊獨立の後、現地に移るといふ。

●寺寶として蓮如上人自畫自像(俗に御鬘御影と云ふ)一幅・隆成しの假面一箇等を藏す。

吉崎別院 坂井郡吉崎村。

●眞宗本願寺派。

●本願寺蓮如の開創に係る。初め文明三年、蓮如當國運化の際、國主朝倉敏景深く之に歸依し、細呂木郷吉崎山に千餘坪の地を寄進す。依りて同年七月、茲に一字を創す。爾來本寺を根據として北越一帯に教輪を張りしが、蓮如遺文に依れば僅かに兩三年を出でずして教化出羽奥州の邊陲に迄及びしと云ふ。同六年三月同縁に罹りて、本堂、多層、山門等焼亡せしも、直に再建に着手し、年内に成る。然るに翌七年、下間蓮崇不

西念寺 坂井郡吉崎村。

●眞宗本願寺派。

●蓮如の舊跡と稱す。初め文明三年、蓮如大津を出

性海寺 坂井郡三國町。

●新義眞言宗智山派。

●延文元年、僧宗信の開創に係る。もさ仁和寺の院家たり。初め當郡北山の麓谷谷にありて後谷性海寺と號せしが、其後當郡多門院(華澄建立)の遺址に移る。即ち現寺地たり。五世續濟の時、越前國主朝倉敏景、蒲田一町五段歩を寄せ、次で其子氏景の時、藤澤、蒲原、今泉に一百貫文の地を寄進し以て新願所となす。

●寺寶中、紺本着色地藏菩薩像一幅は現に國寶たり寶珠錫杖を持ちて、寶雲上に立てる圓相にして、寺傳に小野草作とすれど、鎌倉期の作と推知せらる。

瀧谷寺 坂井郡三國町瀧谷。

●新義眞言宗智山派。

●摩尼寶院と號す。天授三年、根來山學僧觀憲の開創に係る。觀憲は俗姓菅原氏、入道して醍醐山隆原の法流を傳承す。永和年間、當國運化の際、三保明神の靈告を蒙り當寺を創すと云ふ。其後、塔頭十坊、觀音

軌を謀りて宮殿政現の難を離し、次で同年九月、蓮如若疾に逝去するや、即日平泉寺僧の賜ふ所となる。永正三年、一向一揆起るや、當坊亦國主貞景の兵隊に罹り、加之其後天正三年、又織田信長の來攻に遭ひて堂宇全く荒廢に歸す。即ち門徒三人各々道場を設けて遺跡の守護に當れり。彦作道場、重兵衛道場、大家道場是なり。然るに慶長七年、本山東西に分るや、彦作道場、重兵衛道場は大谷派に歸し、大家道場のみ本派



(堂本院別崎吉)

に止まる。元和年間に至り、大谷派の門末、當山上に觀堂を設けしが、延寶年間、山上舊址領有の事に關し兩派紛議を生じ、遂に兩山の公訴となり、同五年、幕府之を裁斷して山上を官有となし、佛事法會等山下の道場に於て修すべきを定む。同七年、大家道場を改めて山下道場と稱し、本堂を再建す。享保二年六月、現在の地を得て之に移る。延享三年六月、中宗堂成る。

翌四年七月、本堂を改築す。寛政七年三月、同様に罹りて本堂喪せしが、同年六月、境内を擴張し、同九年、本堂を再建す。即ち現在の堂宇なり。文化十一年改めて堂宇所となり、明治十二年、別院を公稱、以て現在に及ぶ。

●境内千五百八十餘坪、他に境外山地六百餘坪あり舊跡山地三千二百二十坪の中同三百坪は本派大谷派兩別院の共有なり。堂宇に本堂・中宗堂・同拜堂・庫裡・客殿・御殿・新御殿・經藏・大講堂・土藏・輪番所・鐘樓・支園・總會所・山門等々具ふ。本堂には阿彌陀如來・中宗堂には蓮如像を安置す。當院背後の吉崎山は、曾て朝倉敏景の蓮如に施與せしものにして、現今俗に御山と稱す。山上に舊本堂礎石・蓮如腰掛石・見玉尼墳墓・蓮如御花松・本光坊了願墓等の遺跡を存せり。尙ほ附近に御筆草山、潮越松、濱坂浦、北高鹿島、辨天島等の名勝亦少からず。

●蓮如忌(四月二十三日―五月二日)、永代經會(七月十八日―二十日)、報恩講(九月一日―四日迄)。

吉崎別院

坂井郡吉崎村。

眞宗大谷派

●延享四年、從如の再興に係る(從前沿革前項參照)慶長分派の後、當派吉崎山上の舊址復興を企てし西深門徒の抗する所となり、遂に兩山公訴の結果、幕府山上を禁じて共に山麓に堂宇を興さしむ。茲に於て延享四年、現在の寺域を定めて堂宇を再興し、以て本山掛所をなす。俗に之を吉崎御坊と稱せり。明治九年、別院を公稱す。大正六年、寶藏を建立し、昭和二年、更に庫裡の改築を行ひて大いに寺觀を改め、以て現在に及ぶ。

●境内千五百餘坪、本堂・庫裡・書院・客殿・大講堂・經藏・寶藏・土藏・鐘樓等の堂宇を具す。寺寶として涅槃圖・觀變等身像・教如真書蓮如自畫像・蓮如筆六字名號・蓮如繪傳・如意輪觀世音木像等を藏す。觀世音像は、曾て吉崎山上の御花松漸く減するを恐れ明治四十一年、其松樹を以て蓮如母公本地石山寺觀世音の像を彫刻せしものなり。

●蓮如忌(四月二十三日―五月二日)、永代經會(七月二十三日―二十六日)、報恩講(九月一日―四日)、開山正當會(十一月二十一日―二十八日)。

照嚴寺

坂井郡細呂木村大字清王。

眞宗大谷派

●攝取山と號す。越中道林寺開基其の舍弟圓祐(一に祐圓)の開創に係る。初め圓祐、其兄と共に越中にありしが、後ち當國久末(現に關山西村久)に到りて一字を創す。即ち當寺の起源なり。文明三年、本願寺蓮如、當國吉崎に來化するや、本寺また歸島超勝寺、荒川興行寺、宇坂本向寺等と共に之に參す。當寺門大いに榮へたり。永正年間、一向一揆起るや、當寺之に應じて領主朝倉貞景に抗し、遂に其破却の厄に遭ふと云ふ。天正三年、織田信長の兵火に罹りて堂宇燒亡し、爲めに加賀江沼郡梨村に移りしが、慶長年間、又復兵燹に遭ひて、現寺地に轉す。

龍澤寺

坂井郡坪江村大字御慶尾。

曹洞宗

●平田山と號す。弘和二年の創建にして、開山を梅山とす。當時七堂伽藍を具へて寺觀頗る莊嚴なりしが

文明十四年、永正元年、天正三年の數度に亘りて兵燹に罹り、加之、寺領亦沒收せられて、遂に衰頹す。現今の堂宇は其後の再建に係る。

●寺内に安置する觀世音像は俗に小便佛と稱す。曾て梅山、六郷六角堂參詣の朝、兒童の相集りて小便を以て泥土を捏れ、觀世音像を戲作せるに遭ひ、其威相實ならざるを見て之を兒童に請ひ、以て念持佛となせしものなりといふ。また他に于安觀音像を安す。後小松院皇子生誕の御祈念を捧げ給ひし觀佛なりと傳ふ。共に觀顯顯著なりとて地方道俗の崇信厚し。寺寶として梅山畫影・同遺書四通・朝倉、松平、織田諸氏寄進の制札・朱印等多數を藏す。

松樹院

坂井郡加月村大字葛。

眞宗高田派

●新郷山尊光寺と號す。初め新郷といへる地にありて眞源(慈覺僧正)の開創に係ると傳ふ。建曆二年、住僧顯明(平維盛庶子と云ふ)、觀覺の門に入りて現宗に歸し、觀覺自筆の十字名號を授けらる。八世定如(朝倉教景の子)の時に至り、國主朝倉氏より寺地を寄せて現在の地に移り、現寺號に改む。次で專修寺の末寺となり以て今日に至る。

稱念寺

坂井郡高坂村大字長崎。

時宗

●往生院と號す。遊行二世他阿眞教の開創に係る。

延元三年七月二日新田義貞の藤島に戦死するや、數將足利高經、其屍を當寺二世阿眞に附して、特塚を築かしむ。爾來足利氏の祈願所となれり。天正年間、丹波氏寺領を寄す。松平七平の領となるに及び義貞追崇の念殊に厚く、享保十七年、其臣本多氏を以て寺内に石碑並に廟を建てしめ源光庵と名付す。元文二年、義貞の四百回忌に方り、幕府より特に手使を發し、且つ白銀百枚を附して祭告する所あり、國主松平宗矩法會を修す。天明七年の四百五十回忌、亦之に準ず。明治維新後、寺門眞額し、廟墓亦荒廢に歸せしが、近年復興を遂ぐ。

大安寺

坂井郡大安寺村大字田ノ谷。

臨濟宗妙心寺派

●萬松山と號す。龍王山田谷寺と稱せり。大寶年間奉澄の開創と傳へ、當初七堂伽藍を具ふる大刹たりしが、天正二年、一向一揆の爲に一山燒亡す。爾後、久しく荒廢に歸せしが、國主松平光通、之を再興して萬松山大安寺と號せしめ、僧大愚を請じて中興開山とす。爾來臨濟宗に屬し、同家業代の廟所となれり。

●寺寶中、絹本着色羅漢圖二幅は現に國寶にして、堅三尺四寸三分、幅一尺五寸一分、寺傳光嚴司作と云ひ、狩野守信外祖及び口上書を添ふ。作者もとより明かならざるも、室町時代漢滿家派の手に成りし十六羅漢圖の殘缺と推知さる。尙、境内に橋禪堂の遺蹟あり。

教願寺

大野郡大野町西二番。

眞宗本願寺派

●龍原山と號す。本願寺神如第三子玄眞を開基とす。もと越中國瀨波郡山田梅原庄にありて、世に梅原道場と稱せり。明應年間、賢勝、其母了如尼と共に大阪に赴きて蓮如に謁するや蓮如乃ち之に自作の壽像、眞筆、念珠、袈裟等を授けて、弘通念佛の大事を託す。其男賢從亦父の遺志を繼ぎ、現寺地に移して新たに一字を建立し、蓮如壽像を安置して専ら教化に従ふ。天正年間、全國檢地の際、檢地奉行の宿所となりし故を以て爾來寺領餘地となれり。

國樂寺

大野郡山町上元祿。

眞宗

●圓福山と號す。初め天台宗平泉寺の末寺にして南教坊と稱せり。天正年間、全國檢地の際、餘地となる。後ち同様に罹りて堂舎烏有に歸せしが、寛文年間、黄檗宗喜雲、其遺址に就きて草庵を結び、以て眞照庵と號す。延寶六年、本山二世本庵の法孫繼澤入りて住せり。元祿三年、現號を公稱す。時に領主小笠原貞信の歸依厚く、諸堂を建立す。明治二十九年四月、當町大六に際して焼損し、一山灰燼に歸す。翌三十年、十二世源道入山するや、本堂以下の諸堂を再建して舊觀に復せり。

正善寺

大野郡乾側村大字矢。

眞宗興正寺派

●眞宗興正寺派。

●虎石山と號す。文明四年、多田四郎左衛門尉國の開創に係る。明國は、多田高仲十四世の孫傳へ、初め當郡比曾谷にありて顯を事とせしが、文明三年、本願寺蓮如當國遷化の節、歸依して入道し淨念と號す。次で大野に草庵を結びて虎石道場と稱せり。即ち當寺の道場とす。慶長年間、七世正善之を現地に移して、虎石山正善寺と改む。正徳二年、本願寺宗主より本尊並に開祖聖人御影を附せらる。享保年間、本堂を再建す。明治八年、當國獨立に方り、當寺亦在來の本寺、門徒を率ゐて之に屬す。爾來當國に於ける本派の名刹たり。

聖徳寺

大野郡上味見村大字河内。

●眞宗高田派。高田派專修寺願智の弟子西妙の開基に係る。西妙は俗稱土屋右兵衛尉義則、建保元年、其父小次郎義清の自刃後、來りて當國坂北木部島に住す。其後坂井郡加戸本法院に願智を訪ひて之に歸し、入道して西妙と號し、次で當地に一字を創す。即ち當寺の起源なり。

寶慶寺

大野郡上莊村大字寶慶寺。

●曹洞宗。鶴福山と號す。道元の弟子宋僧寂圓の開創に係る。寂圓、初め弘長元年、寂圓當山に入りて草庵を結びしが、時に藤原下野守(法名智圓)之に歸依すること深く、弘安元年、寺地を寄せて堂宇を建立せしむ。正安元年九月、寂圓入寂の後、法弟義雲其二世を襲ひしが次で請せられて永平寺に入り、其五世となる正平二十

年原氏境内を擴張して七堂伽藍を建立し、且つも領五百石を寄す。當時寺勢地方に冠たりしが、天正年間、兵災に罹りて一山悉く焼亡す。後藤藤田、明智、湖川、豐臣諸氏の崇敬を藉めしも、兵火亦屢次到りて、寺運舊の如からず。慶長年間、二十五世快育一字を再建して法燈を保ちしが、同六年、松平秀康入封するに及びて寺領五十石を附す。次で二十八世雲波假本堂を再建して寺觀復舊に努め四十四世湛然亦東院を建立す。爾後再び荒廢せしが、大正十一年十月、五十年天の山の入寺するに及びて漸次堂宇を改修し、昭和四年十月、遂に本堂再建の工を竣ふ。更に開山堂以下の諸堂を再興して寺觀大いに革まりて現在に及ぶ。現在永平寺直末にして、宗内風俗の名刹なり。



(寶慶寺工庫の遺蹟)

●境内頗る宏闊にして、本堂・開山堂・庫裡・侍者寮・位牌堂・土藏・支關・總門・山門等の堂宇を具す。

總門には「日本曹洞第二道場」の匾額を掲ぐ。寺寶として道元月見像、同傳來如淨像・床工玄之の彫刻等を藏す。境内に牛塚、犬塚と稱するものあり。寂圓當山開創の節、之に常侍せし牛犬の馴服と傳へ、土俗其靈驗を稱して賽者多し。

西念寺

大野郡平泉寺村大字平泉寺。

●眞宗本願寺派。松尾山正覺院と號す。僧奉澄の開創に係る。傳ふ。初め天台宗に屬せしが、後南都興福寺に隸し、其後また延暦寺に歸す。爾來惠秀(楠木正成異母弟の子正利)なりと傳ふ。正秀、正光、惠光等相傳へて法燈を嗣ぎしが、惠光の子智光に至り、本願寺蓮如に歸して現宗に改め、西念と號して蓮如より自作木像及び壽像、同筆十字名號等を附せらる。時に又現寺號を定めたり。天正年間、織田氏の兵變に罹りて堂宇燒却せられしも其後再建成りて現在に及ぶ。

平泉寺

大野郡平泉寺村大字平泉寺。

●天台宗。靈應山と號す。もと白山権現の別當寺たり。養老

年間、奉澄白山を拓き、妙理権現を感見して、山上に三所(白山、越前知山、別山)の寶殿を建立せしが、時に元正天皇の崇信厚く、山麓平泉寺の地に、中宮七社末社四十八字並に伽藍坊等を建立するを得たり。即ち白山権現及び當寺の道場なり。其後一時、關城守末となりしも、久安三年四月八日、鳥羽法皇より院宣を蒙りて、永く延暦寺末と定められ、天台別院の號を賜ふ。源平時代、平重盛、源義仲、藤原秀衡、源賴朝等の歸信を受けて寺運隆盛を極め、寺領永九萬石、高九萬石に達し、一山四十八社、三十六坊、六千坊を擁せりと云ふ。文治二年、源義經北國流落の途、當寺觀音寺に宿せしことありと傳ふ。延元三年、足利高經、當國歸島に新田義貞を襲ふや、當寺之に寓して義貞調伏の法を修し、且つ寺僧之に抗す。朝倉氏の當國に入るや、其歸依を得て法威更に加はる。戰國時代に至り、僧兵を蓄へて自ら北陸に一大勢力を張り、世に編衣侯と稱せられたり。文明年間、本願寺蓮如當國吉時にありて化導に従ふや、當寺々僧、加、越前國の古宗諸寺と共に之に妨害を加へ、同七年九月、蓮如の若狹に去るや、直ちに襲ひて吉時御坊を破却す。然るに天正元年、朝倉景鏡、國主同義景を弑して當山に籠るや、翌二年四月、一向一揆の徒、之を襲ひて火を放ち、社殿佛閣悉く灰燼に歸す。同十一年、當寺賢聖院の學頭顯海、美濃觀學院より歸山するや、親意復興に努め、先づ三聖宮を再興し、次で慶長年間、諸坊復舊す。併して白山社領として百三十石を安堵せらる。時に豐臣秀吉制札を附して寺門を守護す。後寛永元年、幕府より二百石の朱印地を寄せられ、同三年、松平氏百石を元禄十五年、勝山藩主三十石を各寄進して、遂に寺領四百七十三石餘、一山六坊、塔頭二院、末寺四箇寺を算するに至る。即ち顯海を以て當寺中興の祖とす。爾

來、徳川三百年間、白山別當職として寺勢近隣を壓せり。然るに明治維新神佛分離の際、寺廢せられて、權現は白山神社と改稱し、住持義章、還俗して神助するに至る。同五年、義敬、開山堂を再興して、佛像、寺寶等を茲に集め、同三十八年四月、漸く平泉寺再興の許可を得。大正元年、部落有財産統一整理に際し、山林六百六十餘町歩の寄進を受け、同十五年之に開山堂を移建し、以て再興の基礎を固めたり。

天安寺

南條郡武生町。

●天台宗。養老年間、奉澄の開創に係ると傳ふ。往古、白山権現別當平泉寺六千坊の一にして、今立郡野尻村に在り、伽藍宏壯、輪奐の美を極めしが、天正年間、屢次兵燹に罹りて衰微す。後朝倉氏之を現地に移して再興し、其菩提所と定む。

陽願寺

南條郡武生町。

●眞宗本願寺派。文明年間、正開坊善福の開創に係る。善福はもと攝津小濱善福寺の住僧なりしが、後本願寺蓮如に歸

依し、當國廣瀬に到りて一寺を創す。蓮如乃ち陽願寺の號を寄す。三世善海の代、府中城主青木紀伊守の尊崇後からず、新たに寺地を寄せて堂宇を建立す。現寺地之なり。然るに龜攝寺傳によれば、同寺七世善慶(善鏡男)の弟善祐、越前府中に移りし陽願寺を創すといふ。記して後考を俟つ。

引接寺

南條郡武生町。

●天台宗眞盛派。攝取山と號す。本山西教寺三末頭のたり。創建年代詳ならず。長享二年八月、西教寺眞盛善光寺の歸途、此地に到りて當寺に錫を留め、往生要集を講す。明應二年、眞盛再び遷化して後土御門天皇御持佛の阿彌陀如来像並に菊御紋草附経巻を當寺に安置す。時に後土御門天皇引接寺の勅額を賜ふ。故に古來眞盛を以て當寺開祖となせり。次で國主朝倉貞景の弟眞慶入りて二世を嗣ぐ。同義景の時、寺地四千六百六十坪並に附屬朱印地を寄す。寛政四年五月、開祖三百回遠忌に方り、梶井宮より御紋草附経巻並に同御提燈を賜ふ。明治十一年、聖上北陸巡幸の節、行在所に充て給ふ。現今境内支院十一坊を有す。

●境内地三千六百二十三坪、本堂・觀音堂・客殿・書院・庫裡・鐘樓等の堂宇を具す。書院の一室に玉座を設け、明治天皇巡幸の節、下賜せられし菊御紋草銀紙、法衣用紅縮緬を奉安す。他に寺寶として空想筆六字名號・源信筆往生要集並に二十五菩薩圖・真源筆金色彌陀如来像・性空筆金泥普門品・親覺加持御文章・眞盛筆二十五菩薩名號・自誓名號・十念名號等を藏す。

芳春寺

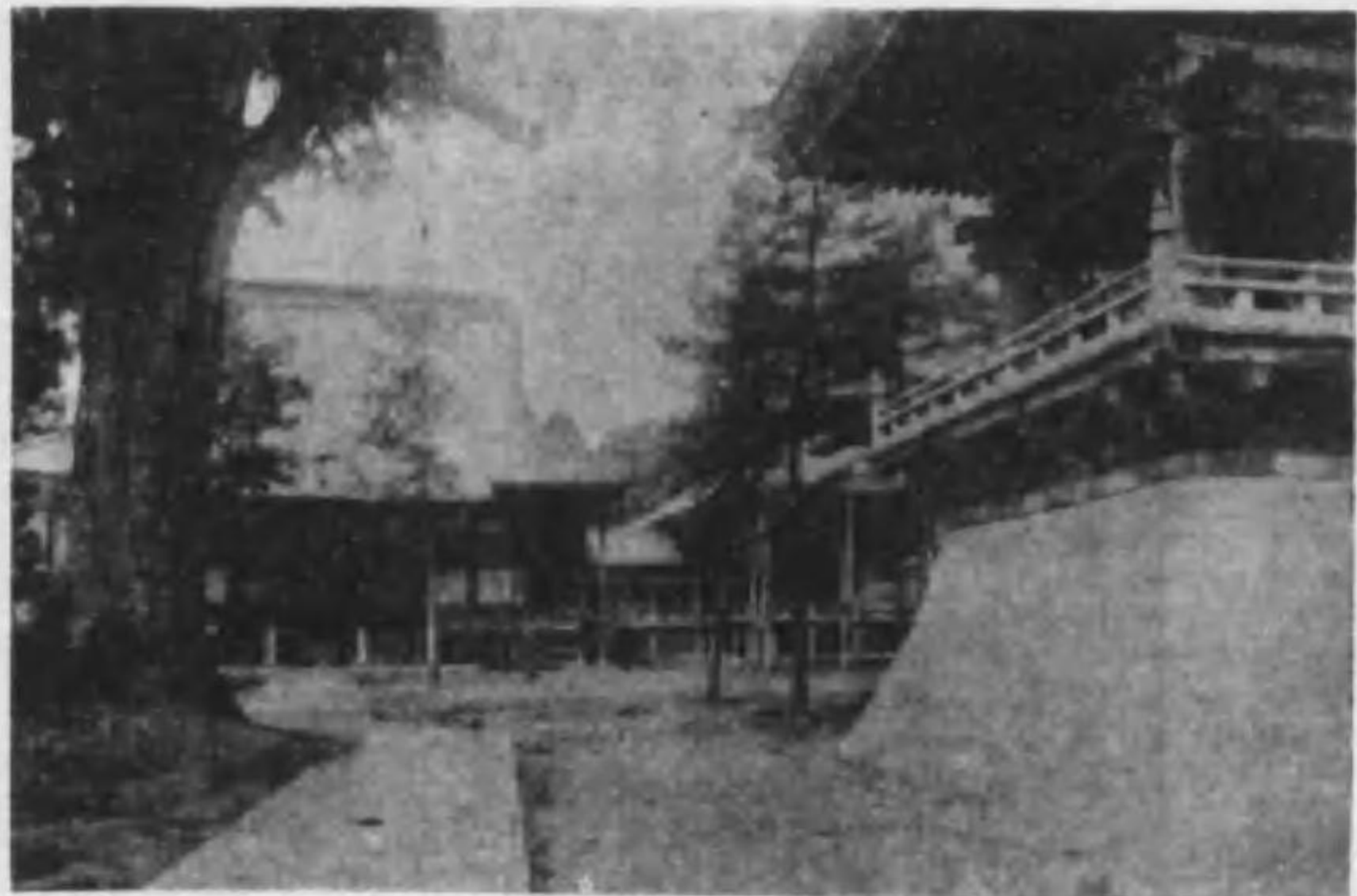
南條郡神山村大字高瀬。
臨濟宗大徳寺派。
河瀬山と號す。初め神功皇后、此地に河瀬の神を祀り給ひしが、後人改めて此地に一字を削し、大日如来を本尊として安置すと云ふ。慶安年間、兵燹に遭ひて堂宇灰燼に歸せしが、後ち府中城主本多昌長病氣平癒の報賽として之を再建す。元禄以降、越前、加賀兩藩主の崇信淺からず。弘化三年、有栖川宮御願所と定めらる。近年本堂の改築成り、景観を整へたり。
境内に芭蕉塚、昌長手植の榊、杉等あり。

妙勤寺

南條郡王子保村大字今宿。
日蓮宗。
光明山と號す。永仁二年の創建に係り、日蓮、宗門弘通發軔の遺跡なりと云ふ。後朝倉氏の領となるに及びて、其跡依疎に深く、寺領若干を寄す。爾來寺門隆昌を極め、大本山妙顯寺の別院と稱せらる。
境内二千五百坪、老杉鬱蒼たる曠地にして、本堂(方十間、文祿元年建立)・祖師堂(慶長三年建立)・庫裡・客殿・總門・鐘樓堂・番神堂・七面天女堂・妙見堂・山王堂・妙正堂等輪奐の美を觀ふ。寺寶として寶鏡寺宮御筆光明山扇額・明兆筆鬼子母神像・菅相丞筆法華經・加藤清正讀經茶籠・朝倉貞貞判物等を藏す。

誠照寺

今立郡新江村大字下深江。
眞宗誠照寺派。
上野山と號し、俗に新江本山と云ふ。當派本山にして、古來和讃門徒四萬院の隨一として著聞す。其起



(堂本寺照誠)

源は越前三門徒新江の如覺なり。如覺は大町の如道の門に出づ。(專照寺項參照)。尙ほ寺傳に依れば、當地は承元元年、聖德太子の靈地にして、後年其第五子道性の男如覺、十三歳の時、上落して現覺に就き、

町屋敷並に畑地を寄進し、同七年、足利義教寺領を安堵す。同九年、七世秀應の時、後花園天皇より勅願所の宣下を蒙り、寺號を誠照寺と改む。次で十世秀意の時、四足門成る。是より寺運愈々隆盛にして、伽藍亦漸く完備す。天正三年織田信長本願寺を兵を構ふるや本寺、信長に與して寺威益々振ふ。同十一年、柴田勝家豐臣秀吉と闘ふや、當寺勝家を援せし爲め一山悉く破却さる。爾來寺運漸々衰退に向ひしが、十四世秀山に至りて漸く舊觀に復す。延寶八年、十五世秀誠の時、圓淨檀金手引阿彌陀如来を本尊に安置し、次で天和三年、寺法を制定して末寺の階次を定む。貞享三年、影堂並に四足門成る。元禄十四年、清華家猶子地となり僧正任官の寺院に列す。或は云ふ、同六年、秀如の時天台宗輪王寺院家となりて紫衣を允許され、權僧正に列す。寛永二年、十二月、幕府より二十四石餘の朱印狀を寄せ、正徳元年、十七世秀如、寺格色目に改正を加ふ。享保三年七月、幕府下附朱印狀舊の如し。次で二十二世秀榮、二十三世秀勝(左大臣二條治孝十男)入りて清華猶子の前例を襲ふ。安政五年、二條家寄進に依り筋斷成る。萬延元年、秀源入りて當寺二十六世を嗣ぐや、二條家猶子地となりて、准門跡堂下を蒙るべき寺格に列す。眞宗七派の例に倣ひ京都に里坊を設く。文久二年、同様に繼りて僅に四足門、鐘樓、經藏のみを残せしが、爾來復舊に努めて、明治十九年九月、影堂成る。翌十一年二月、遂に別派獨立の許可を得て誠照寺派を公稱し、同二十年、本堂の再建成る。同二十二年八月、宗制寺法を確立す。現在末寺四十五箇寺又境内に願正、本正、眞覺、南光、法林、靈泉等の末坊を擁す。
境内約一萬坪、寺域清淨、殿堂宏麗、儼乎として一郭をなす。堂宇に本堂(方十間、入母屋造、本瓦葺

明治二十年再建)・大師堂(方十三間、入母屋造瓦葺、明治十年再建)・大師堂門(四足門)・宮殿・光華殿・長生殿・本殿・經藏(安永二年建立)・寶藏・書院・對面殿・應接所・庫裡・總會所・鐘樓・鐘樓(嘉永五年改修)・南方門・北方門等を具す。就中、大師堂門は貞享二年の建立に成り、紅塗南北木欄の雕出龍の彫刻は左甚五郎作と傳へ、臺殿の唐獅子等殊に巧緻を極め、一に鳥不棲門或は日暮門と稱す。尙ほ、寺内に教規を設けて末寺僧侶の教育に從へり。寺寶として法然筆蓮華二帖・觀音木像一軀・覺如木像一軀・十二光覺茶羅一軀等を藏す。附近丸山々麓に車道場遺址と稱するもの存す。
安居會(六月)、正忌(十二月二十二日)・二十八日)。其他三十三年目録に本尊阿彌陀如来開眼會を修し、又孟蘭盆會には近郷男女相寄りて盛大なる盆踊を行ふ。

臺攝寺

今立郡味真野村大字清水頭。
眞宗出雲路派。
出雲路山と號し、當派本山なり。元弘元年十一月、丹波六人部の人乘専、本願寺覺如に歸して、其禪刹を京都出雲路の地に移し臺攝寺と號す。之れ本寺の靈廟なり。尙ほ、この事寺傳に依れば天福元年、觀覺六十一歳にして本寺を創し、之を長子善覺に附屬すと云へり。降りて室町期中葉に至り、本願寺蓮如と越前國主朝倉氏との間諍からず、依りて朝倉氏を援けし横越(山元)の諷諭寺は大谷派本願寺を本尊となす能はず、遂に當出雲路臺攝寺に寄れり。時宛も臺攝寺は連年の京都市中兵亂に瀕され漸く衰頹に赴きしに依つて五世善幸即ち其長子善秀のみを京都に止め、二男善繼、三男善智を

伴ひて越前に下る。其後天正の頃善秀は攝津小湊に臺攝寺を興し、二男善繼は父善幸の隱棲地山元庄に住して同じく臺攝寺と稱す。即ち越前に於ける本寺の起源なり。此の如く當派も越前他三派と其系統を異にするも、證誠寺と本末關係あり、加之、其地横越に接せしに依り、次第に三門徒の影響を受くるに至りしものなり。而して其後兩寺本末の紛擾屢次起りしが、遂に證誠寺十一世(寺傳、以下同じ)善教に至りて門末兩分せられたり。寺傳に依れば本寺十世善光、後柏原天皇より勅願所の繪旨を賜はると云ふ。慶長八年、柳原家より入りし十二世善照、門末を率ひて當國味真野太子堂に移る。即ちこれ現寺地なり。爾來寺運漸く盛んにして、歴代花山院家の猶子たるを例せしが、二十二世善慶に至りて一條家の猶子と定められ、以後皆之に準ず。寛永五年、雷火に罹りて諸堂宇烏有に歸す。次で再建成りしも、安永三年再び災上、天明六年再興の工竣ふ。明治十年五月一日、同様の災に罹り、僅に山門、經藏、寶庫、鐘樓等數字のみを残せり。尙ほ明治維新の後、一時本願寺派に合併せしが、同十一年二月六日別派獨立の許可を得て出雲路派を公稱し、管長制を定む。同十六年、本堂再建の議起るや、同年六月二十二日、特に宮内省より御下賜金あり、次で本堂、影堂成る。同十八年八月、宗制寺法を定めて、一派の基礎を確立す。現在末寺四十七箇寺を擁せり。
境内一萬餘坪、堂宇に本堂・大師堂・本堂門・大師堂門・勅使門・書院・客殿・奧殿・經藏・寶藏・庫裡・鐘樓・鼓樓・納骨堂等あり。又寺内に教規を設く、本尊阿彌陀如来は善澄作と傳へ、寺寶として聖徳太子作阿彌陀如来木像・聖徳太子作自像・觀覺自作像・同鏡御影・同聖名體不離尊像・同光明本尊・源信筆阿彌陀如来像・觀覺、法然、善覺各筆六字名號・觀覺所持

圓明寺

今立郡國高村大字塚町。
本妙法華宗。
佛光山と號す。俗に塚町祖師堂と云ふ。康永二年日像の法弟妙源の開創に係る。初め永仁二年、日像當國運化の初、自ら日蓮木像を刻みて、之を法弟妙文に託し、以て妙華寺を建立せしむ。後ち盜難に罹りて本尊を失ひしに、妙源之を北村高座橋時に發見し、仍りて塚町の地に一座を營みて之を安置す。其後同様に遺ひて再び本尊を逸失せしが、幾許ならずして之を河水池に得、乃ち堂宇を再建し、佛光山圓明寺と號す。爾來、本尊の靈驗顯著なりとて實者跡からず。

證誠寺

横越本山) 今立郡新江村大字横越。
眞宗山元派。
山元山護念院と號す。當派本山にして、俗に横越本山と稱し、横越の道性の開創に係る。道性は町知道の門に出づ。寺傳に於ては、道性を本寺第八世となし、開基は善覺の男淨如にして、文明七年三月、道性の時、初めて現寺地を定むとせり。蓋し道性の町知門徒たることは、正平七年、覺如より江州に下附せし本尊記録に「越前國大門門徒、近江國內音羽庄釋道性大徳繪像」とあり、又文和四年、越前に下附せし本尊の記録に「大門門徒釋道性大徳」とあるより見れば、既に疑なきもの、如し。當寺證誠寺の號は、八日市道琳

筆選擇集延書の零本(上巻、高田派専修寺蔵)に「上略...」とあり、室町初期若くは其以前に定められたもの、如く、寺傳には、嘉元二年八月、三世淨如の時、後二條天皇



(堂本寺誠證)

より宗山元山西院院説書に動願並に動願所の宣下を蒙り、更に明應八年九月、九世善光、先規に依りて參内、一向眞宗之派云々の論旨並に香衣を賜はると云ふ。尙は當寺に願誓記にも見ゆる如く、道性以降出

雲路庵攝寺との關係淺からず、庵攝寺善智及び善願は共に當寺に寄寓し、慶長元年、當寺十世(寺傳)善智の男善照庵攝寺に入りて住持となれり。降つて元禄六年天台宗聖護院門跡に屬して其院家たり。明治初年、小派獨立の禁例に依り、一時本願寺派に合せられしが、同十一年二月、一派獨立の許可を得て山元派を公稱し次で同十九年四月、宗制寺法を定めて其基礎を確立す。現在末寺十一箇寺を有す。

●境内二千三百八十四坪、本堂・大師堂・阿彌陀堂・對面所・庫裡・書院・鐘樓・山門等の堂宇を具ふ。尙ほ寺内に教院を設く。本尊阿彌陀如來は信心作と傳へ寺寶として後二條天皇御筆願額・後土御門天皇御筆一通・現觀自作木像・紺紙金泥十字名號等を藏す。附近に男大達皇子御跡並に現觀三度栗の遺跡等を存す。

高善寺

今立郡服間村大字北坂下。

●眞宗本願寺派。●圓融天台御宇、僧覺勝の開創に係り、初め阿彌陀院と號して眞言宗に屬す。承元年間、現觀の弟子是護房之を再興し、以て現宗に改む。是護は俗名吉田中納言信朝と稱し、罪を得て越前に在りしが、偶々現觀の化に浴して其弟子となる。二十四歳の第十信坊は即ち是護の俗弟なりと傳ふ。元龜、天正年間、織田信長の石山本願寺を攻むるや、住持是空、願如の命を受け宗俗を率ひて之を扶けたりといふ。●寺寶には願如自畫像・同筆十字名號・同書讀・下間性乘蓮狀等を藏す。

西光寺

丹生郡立待村大字杉本。

●眞宗本願寺派。●石田山と號す。寶徳三年、本願寺七世存如北陸巡化の御、當郡石田(現在立待村石田)に一字を創して西光寺と稱し、轉如孫(玄眞嫡男)永存を以て其二世を嗣がしめ、息女如結を配す。又覺鐘を鑄造し、自畫自贊の像を留めしが、長祿元年再び來りて、同年六月十八日、此地に遷化すと云ふ。天正元年、六世眞助の時、兵變に罹りて堂宇、寺寶等概れ焼亡せしむ。文祿四年四月、朝倉氏の一旗東郡城主長谷川藤五郎、眞助に歸依すること深く、寺地を寄せて茲に移らしむ。即ち現在の地たり。慶長元年三月、堂宇の再建成る。天明八年十月、十三世法希の時、再び炎上せしが、寛政五年五月、舊構に復す。明治三十四年十二月、三度回縁に罹り、堂宇烏有に歸す。次で再建の工を起し、同三十八年十一月に至りて其工を竣ふ。即ち現在の堂宇之なり。

本承寺

丹生郡吉野村大字家久。

●本妙法華宗。●妙法山と號す。永祿三年の創建に係り、初め眞言

宗に屬せしが、其後、日部中興するに及びて現宗に轉す。六世日結の時、藩主松平氏の歸信淺からず、其援助を得て新に福井本承寺及び境内に眞淨寺を創立せしが、十三世日結の時、故ありて武生本興寺に屬せしむ。十八世日結に至り寺運殊に隆盛に赴き、本堂及び庫裡を再建して寺觀亦頗に華より、以て今日に及べり。

寶樹寺

丹生郡城崎村大字米。

●天台宗眞盛派。●放光山と號す。神護景雲元年、善澄の草創に係り、自作の不動明王像を安置すと傳ふ。初め金池院と號せり。明應二年、西教寺眞盛當國巡化の御、當寺に留錫し、時の住僧番山無量其弟子となるといふ。爾來現派に屬して現寺號を稱す。寛永十五年、慶應の時、今の本堂を建立し、近年、住持眞願、客殿を造築す。●本尊阿彌陀如來は春日作と傳ふ。寺寶として善澄作不動明王像・安阿彌陀作地藏菩薩像・眞盛像・佛舍利・信州善光寺分身如來(金銅像)等を藏す。

勝鬘寺

丹生郡城崎村大字厨。

●眞宗大谷派。●菅原山眞龍院と號す。行尊の弟子行眞の開創に係る。行眞は菅原道眞の裔にして俗名左衛門佐善元と云ふ。初め天龍寺と號せしが、後年勝鬘寺と改め、大治年間、白河法皇の勅願所と定めらる。降りて寶徳年間十八世行寛、本願寺蓮如に歸依して現宗に改む。●寺域幽邃にして古來騷人墨客の杖を曳く者少からず。寺寶として後陽成天皇御筆天滿宮藏・有栖川宮賴仁親王御筆願額・行尊策中の愛染明王木像・同作人丸

法雲寺

丹生郡越前村大字大味。

●眞宗大谷派。●高田山と號す。高田専修寺十世眞慧、住持職を其副眞に譲りしが、時に後柏原天皇第二皇子常盤井宮(眞智)眞慧の奏請に依りて高田の法嗣として下り給ひしに依り、眞慧の受後門徒二派に分れて高田派の正統を争ふに至れり。永正十六年、應眞先づ一身田に入りしに依り眞智はこれを避けて先づ三河に赴き、次で越前に移りて遂に坂井郡熊取に専修寺を興し、高田派正統を稱す。爾來、兩寺互に其正統を争ひしが、寛文三年に至り徳川幕府伊勢に之を許し、越前専修寺眞教父子を配流に處し、其堂宇を破却せしめたり。かくて越前専修寺は没落せしが、次で眞觀に依りて高田派に再興せられ法雲寺と號せしむ。其所屬は遂に大谷派にたるを得ざりき。之れ即ち本寺の起源なりとす。

勝鬘寺

丹生郡殿下村大字風尾。

●眞宗高田派。●風尾山と號す。高田派眞智の弟子唯明の開基に係る。唯明は眞智眞慧の曾孫(一に甥)にして左馬允景房と稱せしが、後眞智に歸依し、建長元年本寺を草創し風尾山勝鬘寺と號す。正和五年、鎌倉幕府より七堂伽藍建立の免許あり、且つ高屋敷山林等を寄進せらる。文化八年九月、回縁に罹りて一山概れ烏有に歸す。現今の堂宇は其後の遺蹟に係れり。

淨勝寺

丹生郡糸生村大字下糸生。

●眞宗大谷派。●上野山と號す。延暦二十四年、最澄北陸巡化の御當郡糸生野田の地に一字を創建し、自刻の阿彌陀如來銅像を安置す。即ち當寺の源流なりと云ふ。正治二年、眞如寺と號せしが、天文年間、法順の代、眞宗に歸す。天正三年、織田信長來攻の際、住持法等之に抗せし爲め、燒却せられて寺門遂に絶えしが、慶長十五年、本願寺教如之が再興を命じて淨勝寺と名づく。明和二年回縁に遭ひ、更に文化四年水害に罹りて寺宇傾廢せしが、十二世眞慧の時、現寺地に移りて之を再興す。即ち今の堂宇是れなり。十三世眞願十一箇年を閱して大藏經を校讐し、嘉永六年、新に經堂を建立して之を納むと云ふ。

大谷寺

丹生郡糸生村大字大谷寺。

●天台宗。●越前山大長院と號す。善澄の草創にして、北陸最初の靈場と傳へ、其入寂の廟所たり。文武天皇以來歴聖の御歸依淺からず、兩度の詔勅あり。寺運頗る隆盛にして、堂坊亦完備せしむ。天正二年、土岐の笑談に遭ひて遂に衰頽に歸す。今は住持七坊の遺名を留むる

のみ。
●境内に奉澄廟あり、九層石塔婆にして古色蒼然たり。寺寶として奉澄作聖觀音像・阿彌陀如來像等を藏す。

本勝寺 敦賀郡敦賀町神樂。

●本門法華宗。
●日照山と號す。大同元年、空海の弟子故園の開創に係ると云ふ。初め大正寺と號して、眞言宗に屬せしが、應永三十三年日照此地に來錫するや、住持圓海其化に歸し、改築して正法院と改め、其後更に本勝寺と改號す。爾來東北三十三國の末頭として、本能寺十六世日蓮より北國本山の許狀を下附せらるると云ふ。
●堂宇中、祖師堂は長享二年の建立に係り、郡内最古の建築なりと稱せらる。

西福寺 敦賀郡松原村大字原。

●淨土宗。
●大原山と號す。黒谷金戒光明寺末にして中本山たり。正平二十三年、真如の開創に係る。時に後光嚴院より大原山西福寺の號を賜ひ、足利義滿敷地免除の御教書を寄す。時の守護沙彌道輝、地頭藤原経等の歸依亦後からず、各山林寺田等を寄進す。真如の橋立示西院に去るや、弟子真信二世を嗣ぎ、三重塔を建立し更に大谷法福寺、木崎實治院等を創建す。明徳元年七月、後圓融上皇より御願所の宣旨を賜ふ。應永三十年足利義持、永享二年同義教各祈願所並に寺領安堵の御教書を寄す。四世觀意の時、寺内に妙華院を闢き、五世淨藏亦塔頭極樂院及び經藏を建立す。次で文安二年後花園天皇繪旨を賜ひ、且つ聖武、孝謙兩帝以下歷聖

の宸翰古寫經二十餘卷を下し給ふと云ふ。永正年間、寺領百七十三石餘を有す。文明三年五月、八世等運の時、塔頭圓通院成り、同十五年九月、九世眞眞、實船庵を建立す。其後、慶應院、清觀院等成りて、天文年間には、塔頭二十三院、寺領七百二十石餘に達したりと云ふ。元龜、天正の頃、朝倉、織田兩氏制狀を寄せて寺門を守護す。天正年間、十五世道隆の時、正觀町天皇より學問指南並に紫衣の繪旨を拜す。其後道隆勅を奉じて大本山清淨華嚴院住職となり、次で黒谷金戒光明寺に入りて之を再興す。而して尙ほ當寺を兼帯し、文祿二年、新たに諸堂を興して寺觀大いに革まれり。即ち道隆を當寺中興の祖とす。時に清淨華嚴院末を改めて金戒光明寺末となれり。慶長年間、十八世天榮の時、松平秀康書院、庫裡等を建立す。次で十九世聖譽諸牛赤菴善導院及び今泉福泉寺を闢く。二十世妙譽雲把の時、松平忠直の歸依を得て敦賀善導寺、尊安寺を建立し、後ち善譽百石を附せらる。元和元年、香榮(松平秀康庶子と云ふ)二十一世を嗣ぐや、其俗見たるの故を以て忠直より寺領三十石の加増あり。時に京極、酒井兩氏の歸信厚く、寛永年間、總門成る。二十三世豐永閣に至り、塔頭松野院及び河野圓福寺を建立す。元祿二年、二十七世仰譽了長新に山門を興し、同年六月眞向法親王御筆大原山西福寺の額額を賜ふ。延享年間、三十一世眞譽圓福院を改修す。文化八年、三十三世光譽尊超の時、御影堂再建の工を竣へしが、天保元年、塔頭妙華院興し、次で嘉永六年、所謂清譽騷動起りて、什貨多く散佚す。明治十一年十月、四十一世定玄の代、聖覺北陸巡幸の儀、敦賀行在所に於て當寺什貨天覽の榮に浴す。同三十二年九月、定玄金戒光明寺に轉進す。爾來諸堂の改修、一山の革新に努め、寺運愈々隆盛にして以て今日に及ぶ。現在江若越三國に

頁末寺四十八箇寺、信徒一千餘戸を擁す。

●境内三千二百餘坪、大原山麓に位置して、寺境頗る幽邃、風に林泉の美を以て著聞す。堂宇に本堂(御影堂、梁間十四間、桁行十三間半)、阿彌陀堂(動輒殿)、開山堂・辨財天堂・寶藏・庫裡・支關・鐘樓・寶篋印塔・總門・山門・東寮(舊塔頭芳樹院)・西寮(舊佛五院)・四修廊・瑞芳軒(新座敷)等を具ふ。他に秋葉廟、白狐廟あり。寺寶中、絹本着色主夜神像一幅・同觀經變相變茶羅圖一幅・同傳張思恭畫中阿彌陀如來像一幅・紙本墨書大涅槃經(卷第二十九)一卷(奧書天平五年三月八日史安滿偈)・同七佛所說神咒經(卷第三)一卷(光明皇后御願經、奧書天平十二年五月一日)・同七佛十一菩薩說大陀羅尼神咒經(卷第一)一卷(光明皇后御願經、奧書天平十二年五月一日)・同大涅槃經(卷第二十九、奧書天平七年九月已知石高呂)一卷・同華嚴經(卷第三十、卷第三十六、卷第三十八)三卷八卷三十八卷奧書神護景雲二年五月十三日)・同彌勒下生經一卷・佛說正法華經一卷・同文殊師利菩薩所說咒經(卷第二)一卷・同六門陀羅尼經一卷・同佛說諸童子陀羅尼咒經一卷・同佛說阿彌陀菩薩王陀羅尼經一卷・同佛說大寶賢陀羅尼經一卷・同佛說安宅經一卷・同支那佛說所說神咒經一卷・同佛說經一卷・同大吉義神咒經(卷第一、卷第二、卷第四)三卷・同二修持基華般若心經一卷は總て國寶に列せらる。其中、主夜神像圖は堅五尺六寸、幅三尺一寸、中央に觀音、其傍に柳枝を挿したる水瓶を描き、下方に善財童子を配す。又上部には圓相中に小觀音、下部には水波の間に樓台小舟狀等を配して功德主成安郡夫人平氏と銘す。又宋人朱仁通輸入の裏書あり。觀經變相茶羅圖は圓相通行鎌倉末期の作に係る。雲中阿彌陀如來像は繪畫上に立ちて雲中を歩む彌陀の姿を描く。其面相、衣紋の裝飾

文様或は漢墨を以て再後光彩に隠蔽せる光背並に脚下の雲等に見る機巧にして鋭敏なる描線は一見支那畫なるを推知せしめ、蓋し元末の作となすべし。其他に眞如、最澄、夢澄、空海等作佛像・牧溪、李龍眠、東坡、吳道子、俞景等の筆蹟畫幅・諸將書蹟・武器等藏する所頗る多し。因みに例年九月十八日寺寶由子を行ひ一般の觀覽に供す。當村功勞者碑、源空善願石碑、眞如手植椿、忠直手植黃金櫛、四月台、暖露臺、紫紅欄、白雲洞、小町橋、古坑(大正三年十月十五日發見朝鮮式古墳)、三心池、一心池、臨泉亭、泉養水、總本庵室址、三尊石、仙人巖等の名所舊蹟少からず。現に大原山十景十二勝等と稱して其名著る。又附近に安堵橋、辻堂地蔵、倉松、開山井、向山、舊塔址、香樂道、穴地蔵、覺王寺址等を存す。

●開山(二月三日)、開山會(四月二十三日)、御息法要(四月二十四日、二十五日)、大密法要(八月九日、十日)、道隆忌(九月二十三日)。

本陸寺 敦賀郡松原村大字色ヶ濱。

●本門法華宗。
●往古、禪宗にして金泉寺と稱す。應永三十三年其寺址に就きて日隆之を開創す。寛正五年、二世義業、攝州尼ヶ崎に其師日隆の病を見舞ひしに、日隆大に喜び、隆勝坊の坊號を與ふと云ふ。明應五年義業、本堂、開山堂、庫裡、倉庫等を修築して寺觀を整へたり。開基日隆曾て誅あり、見渡せば眺め妙へなる色の濱、村の水居も賑ひて、寺井に絶えぬ法の聲、葦の風の誘ひ來る、水の小島に寄る舟の、見飽かぬ浦の景色かなかなしと。爾來、當寺住職曹山式には檀越總代轉を著して此歌を誦ふと云ふ。

●開山堂には新耐石を安置する故、御石堂とも云ふ。地蔵堂は海上を距る八町餘、水島に在り、地蔵尊木像は金泉寺時代のものにて、小野墓の作と傳ふ。當地疫癘流行の際日隆之に座して平癒祈願すと傳ふ。九尺に六尺餘の大岩あり。尙ほ當山中西行法師、芭蕉翁、賀茂秀實等雅人墨客曳杖の遺跡多し。
●曹洞宗。
●此地も長源寺なる一寺ありしが、守護武田元光後頼山に築城するや、長源寺を津田に移して館舎を其址に構ふ。其後京極忠高國主の時、其故地に一寺を創し、父善雲院高次の牌所となす。これ本寺の濫觴なり。酒井忠勝當國に入るに及び、建康寺と改め、國中洞家の僧徒司とす。寛文年間、佛殿を改造し、建康山空印寺と號す。蓋し之れ忠勝の法號に因むと云ふ。
●寺域は後瀬山、下八幡社の西南にあり。境内峻岩の下に八百比丘尼洞あり、比丘尼の起臥せる跡なりと傳ふ。傳傳に曰く八百比丘尼は神仙の類にして、人魚を食ひて四百餘歳の長壽を保てりと。

常光寺 遠敷郡小濱町。

●臨濟宗妙心寺派。
●淺香山と號す。寛文八年、京極高次の室榮昌尼の開基に係り、開山は大機玄繼なり。寺地は是れ天台宗常在寺の遺址にして、當初常光寺と稱せしが、京極高次の名に因み高を以て光に代ふと云ふ。將軍徳川家光近江の長田村三百石を寄す。

●曹洞宗。
●無靈山と號す。小野墓の開基と傳ふ。沿革の詳細不詳なれども、現に地方隨一の靈場にして土民の崇敬厚く、殊に小野墓は禪剎雷除の神として俗間に信仰さる。
●本堂、觀音堂・奥ノ院・鐘樓等あり。本尊には大日如來を安置す。觀音堂(五間四方)の本尊木像聖觀音立像一幅は國寶にして一木彫成、弘仁時代の佳作なりとす。鐘樓の鐘は地方稀有の古鐘として著名なり。奥ノ院には基の靈塔あり。寺寶には佛光殿司單不動明王像一幅を藏す。
●七月十七日大祭、毎月十七日例祭、九月五日小野祭會を行ふ。

法順寺 遠敷郡瓜生村大字脇袋。

●眞宗大谷派。
●草創沿革不詳。
●境内に觀音堂あり。本尊木造十一面觀音立像一幅は國寶にして、鎌倉初期の作と推定せらる。

●日蓮宗。
●越前本覺寺日蓮、尼正護の歸依を受け、康暦二年本寺を後瀬山下に創す。大永二年、現地に移る。爾來寺運隆昌現に若州日蓮宗の名譽たり。
●寺寶中、絹本着色、大日如來像一幅は國寶にして光背にのみ鍍金を用ひ、他は金泥彩色なり。大和繪の系統に屬し、室町初期の作と推定さる。

●長源寺 遠敷郡小濱町。
●日蓮宗。
●越前本覺寺日蓮、尼正護の歸依を受け、康暦二年本寺を後瀬山下に創す。大永二年、現地に移る。爾來寺運隆昌現に若州日蓮宗の名譽たり。
●寺寶中、絹本着色、大日如來像一幅は國寶にして光背にのみ鍍金を用ひ、他は金泥彩色なり。大和繪の系統に屬し、室町初期の作と推定さる。

明通寺 遠敷郡松永村大字門前。

古義眞言宗。



(寶圖) (堂本寺通明)

大同元年、鎌守府將軍坂上田村麿の創建する所と傳ふ。寛正二年、武田信賢の新願所となり、爾來、累代の歸依厚く、寺運頗る隆昌なり。現に同宗御室來

なり。

●本堂・三重塔・仁王門・鐘樓・庫裡等あり。就中本堂、三重塔は現に國寶に指定せらる。本堂(桁行五間、梁間六間、單層、屋根入母屋造、柿葺)は一に藥師堂と稱し、斗拱和様、内外丹塗にして、正嘉二年の再建なり。今富村妙樂寺本堂より其様式手法を傳へ、雜にして、當時行はれたる各系統の手法を自由に驅使せる珍重すべき遺構なり。三重塔(方三間、屋根檜瓦葺)は本堂の南、小丘上に在りて東面し、文永七年の建立と傳へらる。現に檜瓦葺なるも當初は檜皮葺なりしなるべく形勢優美にして、様式手法等よく鎌倉時代の特色を示せり。

正林庵 遠敷郡國富村大字太良庄。

曹洞宗。

草創沿革不詳。

●寺中、銅造如意輪觀音半跏像一軀は國寶に指定せらる。奈真中宮寺、京都太秦廣隆寺の諸像と同形にして、御物四十八體佛と同じく高さ一尺二分の小銅像なり。蓋し天平期を下らざる作と推せらる。

羽賀寺 遠敷郡國富村大字羽賀。

古義眞言宗。

神龜二年、元正天皇の勅命を奉じて行基之を開創し風梨山と號し、天皇御等身の十一面觀音菩薩立像を刻みて本尊となすと云ふ。元暦元年、大雨の爲め堂宇土砂に埋没せしが、同二年、雲居寺淨感貴所覺夢に感じて觀音像を土中より求得す。天皇御感の餘り、三箇年の國稅を以て造營料に充てられ、且つ寺務料として

田地一萬六千五百歩を賜ふ。こゝに於て堂宇亦舊に復す。建久元年、源賴朝、三重塔及び田五町を寄進す。延文四年、當國下司沙彌朝佛なる者願主となりて、大に堂宇を修葺し、同年勅使下向して入佛式を行ふ。時に天台宗門派に屬す。應永五年、池魚の殃に罹るや、後小松天皇、將軍義教に勅を下して之を造營せしめらる。これより栗田口青蓮院米となる。永享七年、再び回祿の災に罹る。後花園天皇、安徳康季朝臣に造營を命じ給ひ、文安四年に至りて落成す。現今の本堂即ち之なり。寶徳二年、定業勅によつて當山に住せしが、爾來眞言宗となる。永正十一年、幾多の兵燹の爲め堂宇著しく毀損せしに依つて尊勝法親王自ら願主となりて修理を加へ給ふ。大永四年、後柏原天皇、人見丹後守に命じ、後土御門院二十五回忌追善の爲め七百二十日間本尊を開扉して大法會を嚴修せらる。爾來此例に準じて三十三年毎に開帳供養を行ふ。天正六年、關成院太上天皇(誠仁親王、後關成天皇)々々宮輪富山緣起一巻を下し給ひ、後、後關成天皇、是が奥書を加へ給ふ。文祿四年、後關成天皇、秋田城之介實季に勅して修理せしめらる。寛永十四年、徳川家光、山門を建立し次で鐘樓堂を再建す。現に同宗高野末なり。●境内一千三百二十八坪、三面山を繞らし、風致幽雅にして、平原前に開け、天ヶ城址背後に聳ゆ。所在の堂宇は山門・寶藏・庫裡・客殿・講堂・鐘樓堂・本堂等なり。本堂には古文書・古書・古像・經典等多數蔵するも、就中、木造十一面觀音立像一軀・並に紙本墨書羽賀緣起一巻は共に現に國寶に列せらる。觀音像は威上極彩色、丈高四尺八寸六分の像にして、鎌倉末期の佳作なり。羽賀緣起は長さ一丈四尺五寸五分、堅一尺七寸、本文は關成院太上天皇、數文は後關成天皇の監筆に係る。

蓮華寺 遠敷郡遠敷村大字蓮前。

曹洞宗。

草創沿革不詳。

●寺中、銅造藥師如來立像一軀を國寶に指定せらる。其背面に若狭國一宮本地實治二年戊申六月日の鑄銘を有す。

萬徳寺 遠敷郡遠敷村大字金屋。

古義眞言宗。

沿革不詳。現に同宗大覺寺末なり。

●寺中、木造阿彌陀如來坐像一軀及び絹本着色彌勒菩薩像は國寶なり。前者は高さ三尺五寸、藤原初期の作に係り、後者は圓相中の合掌形彌勒坐像圖なり。光背、蓮瓣等には細彩色を施し、堅三尺六分、横一尺七寸五分、寺傳に空海作とあるも、鎌倉末期の作なるべし。

國分寺 遠敷郡遠敷村。

曹洞宗。

天平年間、聖武天皇の勅願に依る若狭國分寺なり。往昔、堂南に樓門、東北に三重塔、西北に鐘樓、西に講堂、其傍に尼寺あり、寺料稻二萬束を附せられ寺運隆昌を極めしも、天正年間、回祿の災あり、堂宇悉く烏有に歸せり。現今の堂宇は慶長年間の再建に係る。

●本尊は木造藥師如來坐像にして現に國寶に指定せらる。高さ九尺七寸、鎌倉時代の佳作なり。但し座光は後世の補作に係る。寺寶には丈六佛像・聖武天皇、光明皇后宸筆古寫經等を蔵す。

神宮寺 遠敷郡遠敷村。

天台宗。

和銅七年、僧譽元の草創に係り、靈龜年間、元正天皇の勅願所となる。

●西に多大ヶ嶽壁、東に鶴瀬川流れ、寺地幽邃にして、國內屈指の淨刹たり。境内千九百四十坪、本堂・仁王門・開山堂・鐘樓等の堂宇を具ふ。就中、本堂、仁王門は國寶建造物に指定せらる。本堂(桁行五間、梁間六間、單層、屋根四注造、柿葺)は天文二十二年、朝倉義景の再興に係り各種の繪彫形極めて優秀にしてよく室町時代の特質を發揮し、實に當代を代表する有数の大堂宇なり。仁王門(八脚門、屋根切妻造、柿葺)は、鎌倉時代の建築なり。寺中、蓮華唐草繪經寫一合又國寶にして現に京都博物館に寄託中なり。其他、降臨神鈴・宅磨筆釋迦・文殊、普賢三幅・惠心筆三尊來迎圖等を蔵す。

圓照寺 遠敷郡今富村大字尾崎。

臨濟宗南禪寺派。

地久山と號す。開山は仙室永徳にして、了悟慶智尼を開基とし、寛永元年の開創に係る。了悟慶智尼は越前瓜生城主瓜生民部女なり。往昔、眞言宗なりしが、爾來臨濟宗となる。中興開山觀音耕月を経て今日に至る。

●本尊は木造大日如來坐像にして國寶に指定せらる。高さ八尺一寸五分、鎌倉初期の作なり。

妙樂寺(岩谷) 遠敷郡今富村大字野代。

古義眞言宗。



(寶圖) (堂本寺樂妙)

●留空海の開創に係る。其後の沿革不詳なれども現に同宗高野末なり。●諸堂宇中、本堂(方五間、單層、屋根四注造、本瓦葺)は國寶建造物なり。斗拱和様三斗を用ひ、内部は外陣化粧屋根裏、内陣組入格天井總丹塗なり。空海の建立と傳ふるも、様式手法等より鎌倉時代の遺立と推定さる。前方一間の向拜は近世の加作なり。明通寺

本堂と共に、北陸地方に於ける鎌倉時代建築の代表的遺構として目される。

高成寺 遠敷郡今宮村大字青井。

●臨濟宗南禪寺派。青井山と號し、具には安國高成寺と稱す。...

大成寺 大飯郡青柳村大字目啓。

●臨濟宗建仁寺派。●瑞應山と號す。觀應二年足利尊氏の開基に係り、...

意足寺 大飯郡佐分利村大字萬願寺。

●曹洞宗。●萬願山と號す。延應二十四年、桓武天皇勅願に依りて創建されり。...



(意足寺觀音堂)

●觀音堂・庫裡・總門等あり。觀音堂の本尊木造千手觀音立像一軀は國寶にして純淨原式一木彫成の像なり。...

常禪寺 大飯郡大島村。

●臨濟宗相國寺派。

●仁壽二年、智證大師の創建に係る。初め天台宗に屬せしが、永保年間、岳陽元卓、現宗に改む。

●境内二百三十三坪、境外佛堂に櫻倉山不動堂(巖行二間、桁行三間)あり。仁壽二年、智證大師登山の關之を建立すと傳へ、後ら廢朽せしが、永保元年、酒井...

長樂寺 大飯郡大島村。

●古義眞言宗。●天元元年、安戸氏の創建にして、正長元年、今の寺號を稱す。現に同宗高野末なり。...

近畿地方

京都府

瑞光寺 京都市上京區堀川頭今宮御所下ル。

●臨濟宗大徳寺派。●慶長十八年、因幡國若穂城主山崎左馬九家盛の建立に係り、寺號は其法號に因む所なり。...

興聖寺 京都市上京區堀川通寺ノ内上ル。

●臨濟宗相國寺派。

●聖覺會(四月四日、五日)。

西園寺 京都市上京區寺町通鞍馬口下ル。

●淨土宗。●寶樹山竹林院と號し、又北山堂とも云ふ。元仁元年十二月、太政大臣西園寺公經(一品入道覺空)之を山城國葛野郡衣笠村大北山の西北隅に創立し、北白河院(後醍醐天皇御生母、安嘉門院(後醍醐天皇々妹)等の臨御を得て供養會を行ひしこ百練抄に見え、増鏡(内野の雲)の記事に依るに、當時堂宇輪奐壯麗を極めたる如し。公經之を實氏に傳へ、爾後子孫數世領有せしが、西園寺氏衰へ、應永年間及び此地を足利義滿に讓與す。文和三年、室町頭に移りしが、天正十八年更に現今の地に移轉し、以て今日に至る。因みに舊衣笠の寺址には足利義滿鹿苑寺を營みたり。...

妙覺寺 京都市上京區新町頭御藏前上ル。

●日蓮宗。●具足山と號し。所謂三具足山の隨一、又本宗四十四本山の一なり。延元四年、龍華院日實の開創に係り、もと衣籠押小路に在りき。天文五年七月、台社の毀壞を受くるや、第十二世圓頓院日興、奮闘よく之に抗せしも遂に利あらず、教に殉じて斃る。天正十年、織田信忠本寺に陣せしに、明智光秀に襲はれ、自ら火を放ちて自盡す。爲に堂宇悉く灰燼に歸せり。依つて同十九年、豐臣秀吉下知して、現在の地に移轉再築せしむ。文祿元年、日興入りて法燈を襲ぐ。同四年、秀吉、洛...

東大佛殿落慶の式典として妙法院に千僧供養を執行す
るや、日興のみ不受不施説を固持し、不信法法の供養
に列すべからずと主張して、遂に丹波國小泉に去る。
爾來、日興自説を執りて枉げざるに依り、罪せられて對
馬に配流せらるゝ事兩度に及ぶ。然れども日興並に其
元信並に同家歴代の墳墓あり。



(堂 觀 聖 寺 覺 妙)

門下の挿志頗る鞏固にして、遂に不受不施説の根基を
形成するに至れり。天明年間、同縁に罹りしが直ちに
再建されて今日に至る。現在末寺百餘箇寺を統轄す。
●境内九千餘坪。本堂・客殿・庫裡・經堂・鐘樓・

權門・羅刹堂等の堂宇あり。就中本堂は均整整美にし
て、諸堂建立の規矩を推察せらる。堂内、日蓮、日
朗、日像の各坐像を安置す。羅刹堂は本堂の西方に在
り、中央に羅刹女、東に三光天、西に傳教大師作と傳
ふる大黒天を安置したり。尙ほ境内西北學城内に狩野
元信並に同家歴代の墳墓あり。

上善寺

●浄土宗。京都市上京區鞍馬口通寺町東

淨土宗

●千松山通照院と號し、洛陽六地藏第二番深泥池地
藏を以て著聞す。貞觀五年、僧圓仁の草創と傳へ、も
と千本今出川にありて台密道場たりしが、中比天台宗
眞盛派に轉じ。次で文明年間盛信之を中興す。時に後
柏原天皇本寺を勅願所と定め給ひ、不斷念佛道場の宣
旨及び千松山の勅額を下賜せらる。文祿三年、第十二
世普照寺城を現地に遷し、第十三世所夢の時現宗に改
む。正徳二年、松平越前守の菩提所となり、百石の黒
印を寄せらる。歴代皇室との由緒淺からざるを以て天
皇御所に際し御中陰殿勅修するを恒例とせり。

關臥庵

●京都市上京區鞍馬口通寺町西入。

黃髮宗

●後水尾天皇、風に編室觀音神に御願信あり、洛北貴

船の奥ノ院なる同像を勸請して一字を創せんとの御患
召ありしが、靈元天皇即ち御父命の聖旨を繼がせられ
同像像を貴船より遷座し、大宮御所の北方に梵刹を建
立し給ふ。而して隱元の門弟千景を開基とし、寺に瑞
芝山開臥庵の号を賜ひ、後水尾天皇現しく寫筆の勅額
を下し給ふと云ふ。爾來、屢次御參籠あり、専ら皇室
の御開運祈禱所となれり。後ち次第に洛中人士の信仰
を翳め、遂には伏見の里に尊像分祀せらる。これ即ち
今の城南宮の方除靈神なり。共に現に衆庶の歸崇厚く
賽者頗る多し。

●境内八百餘坪。總門・本堂（以前の法王堂）・庫裡
等の堂宇あり。境内に後水尾天皇觀音神遷座記念の御
手植あけだの櫻の枯幹あり。其櫻を誅じ給ひし御製に
因みてこの名あり、又これに依つて當寺を世に禪寺と
も云へり。寺實には同天皇の御色紙、其御愛用品と傳
ふる左甚五郎作衛立等を藏す。

●星祭方除厄祈禱大法會（節分の日）、御千度祭典
（五月十五日）御開帳（毎月一日）。

寶慈院

●京都市上京區新町通寺ノ内上ル。

臨濟宗相國寺派

●由緒寺院の一にして、洛陽四十八願所第十三番札
所なり。初め金澤願時の室賢子出家し、鎌倉圓覺寺祖
元の門に入り、無外如大尼と號す。後ち現在の地に一
字を創し、樹下山寶院と云ふ。これ即ち本院の蓋源
なり。其後、寺號を寶慈院と改む。如大、別に景受寺
を開基せしが、兵燹に罹りて遂に廢絶す。こゝに於て
景受寺の本尊阿彌陀佛及び佛光禪師（祖元）、如大等の
像を本院に移安す。後光嚴院皇女華林惠顯禪尼、本院
に住し給ふに及び、如大の功名に因みて千代御所と

號し、紫衣を賜ふ。爾後本院住持は皇女又は公卿の女
子と定まり、實曆年間、比丘尼御所の一と名する。近世
寺領六十一石を有し、現に宮内省より年金を支給せら
る。

光照院

●京都市上京區新町通寺ノ内下ル。

淨土宗

●後伏見天皇々女進子内親王、泉涌寺の無人に就き
て得度し、本覺尼と稱せられしが、延文元年、室町一
條の北に一字を創して光照院と號し、淨、台、禪、律四
宗の兼學道場とし給ふ。これ本院の蓋源なり。後ち同
縁に罹りし時持明院藤原通基の邸地に再建し、安樂光
院（一に安樂行院とも云ふ）と稱す。後光嚴院の御時、
洛南深草に寺基を移轉せしが、後ち舊地に一字を再興
して光照院を復號す。舊寺領四百五十八石にして、明
治六年現宗に改む。

本法寺

●京都市上京區小川通寺ノ内上ル。

日蓮宗

●觀昌山と號す。京都十六本山の一なり。初め、永
享八年、日興、東洞院小路に一字を創し妙法の弘通所
となせしが、永享十二年、立正治國論一篇を草して將
軍足利義教に直言するや怒らに獄に投じられ、同時に
弘通所又破却せらる。獄中日興の拷問苦酷を極め、灼
熱せる大鏡を頭に冠す。依つて鐵冠上人の名あり。
康正元年、治國論を後花園天皇の觀覽に供へて御感あ

り、四條高倉に官地を賜ひて、一字を創建、觀昌山本
法寺と公稱す。かくて教風漸く振ひしが、東福寺門末
歸信の事件より、長祿四年九月東福寺の訴に依りて、
幕吏の襲ふ所となり、堂房悉く破却せられて遂に一字
も留めず。依りて三條高里小路に移りて再建す。天文
の法亂後、日親辻設法の舊跡たる一椽尺橋に移りしが
天正十五年、秀吉、第十世日通に命じて、現地に移建
せしめ

淨土宗

●境内約四百坪。堂宇は本堂以下整備す。



(堂 本 寺 法 本)

●境内
内四千三百餘坪。堂宇に本堂・開山堂・客殿・唐門・
山門・番神堂・大黒堂等を具す。林泉は光悅の築く所
にして、風致幽すべきものを存す。寺實中、絹本彩色蓮
花圖二幅・同群介圖一幅・同文殊左右寒山拾得像三幅・
は何れも國寶に指定せらる。蓮花圖は錢舜舉筆と傳へ
沈厚なる荷葉間、咲き交れる紅蓮を描きて、其生態殊

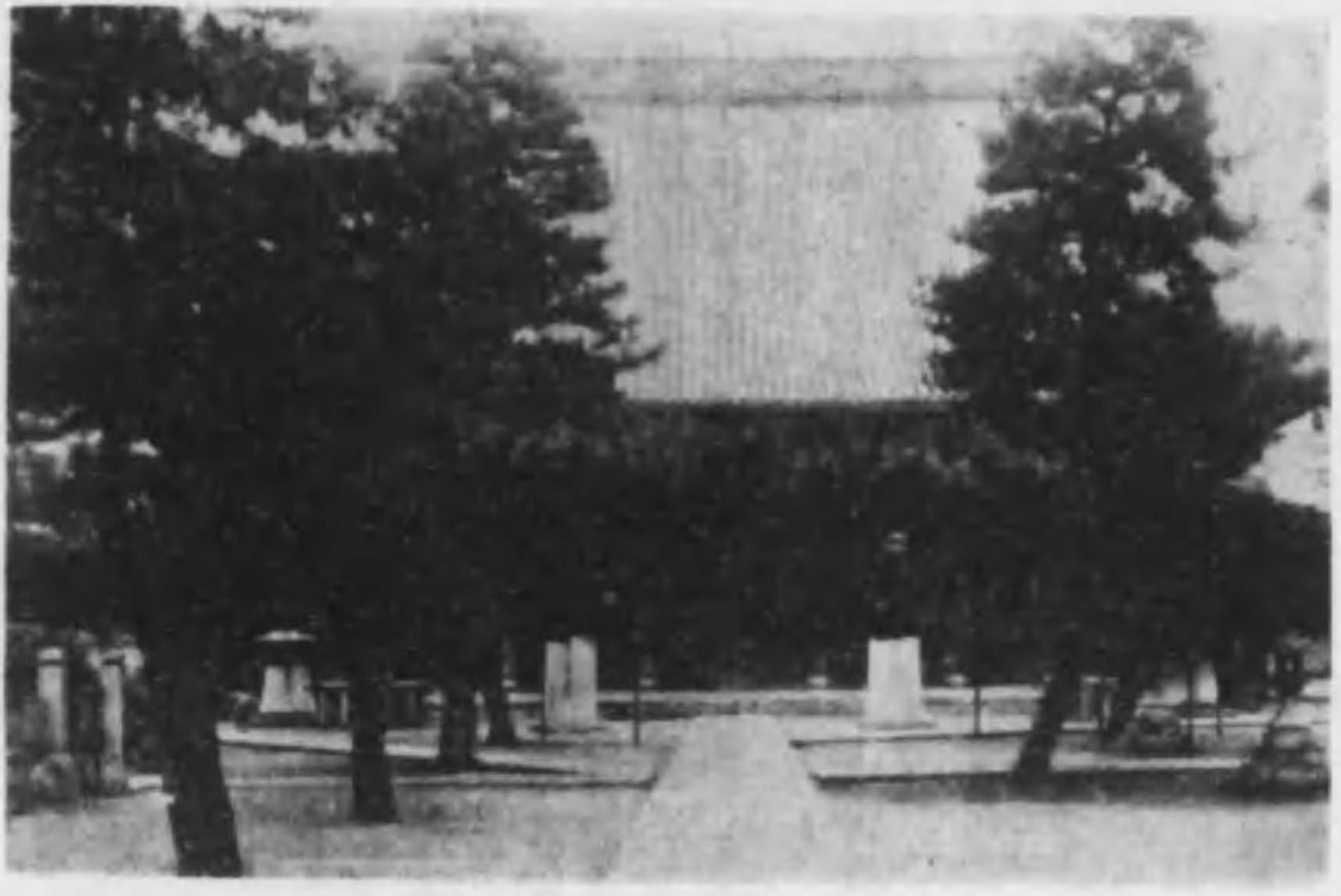
妙顯寺

●京都市上京區寺ノ内通新町西入。

日蓮宗

●具足山龍華院と號し、所謂三具足山の一なり。當
宗四大本山の一にして、京都十六本山を統轄す。永仁
二年四月、胡門の日像、宗祖日蓮西弘通の遺囑を守
りて上洛、同月二十八日宮裏の東門に立ら、東山に登
旭日に對し高らかに題目を唱稱す。以て帝都開教の第
一聲となす。爾來、日像或は街巷に立ちて法華の功德
を説き、或は路傍の石に題目を記して結縁の實となす
等布教大いに努めしに依りて其教線忽に京洛の地を覆
ふに至れり。爲に他宗諸派の誹謗漸く起り、徳治二年
以後都を遷ぼるゝ事前後三度、從ひて放たれ從ひて教
さる。世に之を龍華の三難三教と云ふ。元亨元年十一
月、三度目の難を放されて入京し、堂内して拜講に興
るの榮に浴せしが、其安居の地を御講の傍（現、大宮
通上長者町）に賜ひしに依り、即ち同所に一字を創建
して妙顯寺と號す。これ本院の草創にして、蓋し京師
に於ける本宗寺院の蓋源なり。嘉祥元年、四條壬生の
地に移り、建武元年、法華宗號並に勸願寺の輪旨を賜
ふ。正平七年、第二世妙實（大覺）、祈雨の勸諭著しか
りしにより、後村上天皇御感あり、勅して日蓮に大誓
願、日朗及び日像に普濟院を賜はり、次で妙實を大僧
正に擢で、特に皇家大覺の二大字を下賜せらる。延文

三年七月、四海の唱導となり、一乘弘通の詔を賜ふ。これより宗風大いに振興す。妙賢は關白近衛経忠の男たりしを以て同家より筋筋を寄せられ、本寺歴代住持は爾來同家の嫡子となる慣例を生ず。蓋し妙賢はもと



(妙賢寺本堂)

大覺寺の眞言僧、後日像に歸して其門に入り其高弟となりしものにして、本寺建立に就て其力與りて大なるものを存す。明徳四年、第四世日蓮の時、足利義滿より堀川御小路の地に於て寺地を寄せられ、寺基を開

光院 京都府上京區相國寺門前町。

●臨濟宗相國寺派。相國寺の塔頭なり。同寺二十八世元春の開基にして、應永年間創建に係る。もと相國寺の東方にありて廣徳軒と號せしが、永祿八年、足利義輝(法名、光源院道圓融山大居士)の牌所となり、其法號に因みて光源院と改む。慶長九年、備前國主池田輝政、先世善應院殿遺善の爲に現在の光源院の位置に善應院を建つ。明治十八年、故ありて光源院を善應院に合併し、善應院を廢して光源院と改めたり。

●什寶中、絹本着色、春屋妙福像一幅は國寶にして永樂二年道輝の贊を有す。其他、夢窓國師筆蹟・元春筆蹟・足利義輝眞影・同和歌懷紙・毛利輝元寄進狀等を藏す。

慈照院 京都府上京區相國寺門前町。

●臨濟宗相國寺派。相國寺塔頭なり。第十三世在中の塔所にして師を開基とす。在中は夢窓國師の上足龍淵に法を嗣ぎ、應永十二年八月十七日入寺し方丈及び藏殿を再建落成せりといふ。初め大徳院と稱せしが、延徳二年足利義政(慈照院道成)の影堂となり及び改號す。當時堂宇極めて狭小なりしが、桂宮の命に依り江州の山上に在りし梅峯軒の額内に移るあり、漸次擴大して二院全くとるに至れり。天明度火災の類焼を免れ、以て今日に至る。

●堂宇には客殿・庫裡・讀書堂・藏殿・茶室等をも具へ、本尊は觀世音菩薩なり。客殿は寛文十一年尾州徳川義直、桂宮御始願桂光院實仁親王の紀常照院殿の

相國寺 京都府上京區相國寺門前町。

●臨濟宗相國寺派。萬年山と號し、評さには、相國承天禪寺と稱す。當派の本山にして、京都五山の第二位なり。永徳二年、足利義滿、後小松天皇に本寺願建を奏請し、勅許を仰ぎて創立する所なり。即ち同年十月若工、天下の諸侯に課して工役を服せしめ、義滿自ら其工事を督す。而して大佛殿の基礎工事は、龜山法皇南禪寺佛殿勅建の芳躰を鑒ち、又尊氏天龍寺佛殿建立の先例により、備義堂と相肩して土を撥ふと云ふ。かくて法堂、佛



(相國寺本堂)

殿等大略成り、同三年十二月、僧徒春屋妙福(晉明國師)新任持として入寺し、同時に義滿河内國玉櫛庄を寺領として寄進す。至徳元年、大佛殿落成し、ここに寺號を萬年山相國承天禪寺と定む。同二年、佛殿の本尊釋迦、文殊、普賢の安座開眼の法會を營みしが、翌年當寺座位、五山第二位たるべき御教書を受く。若手以來、正に十箇年明徳三年に至つて諸堂漸く完備し、

大寶塔營建さる。寶塔は總高三十六丈、宏麗天下無比と稱せられしが、同十年雷火に罹りて後再興せず、今塔の段の地名を遺すのみ。同十二年方丈、藏殿等落成し同十四年全く舊觀に復せり。然るに同三十二年再び祝融の災に遭ひ、機に輪藏のみを遺して他悉く全焼す。足利義政之が復興に努め、義政亦其完成を急ぎ文正元年に至り再建成る。當時寺地、室町幕府の東方を占め南は一條、北は御靈森、東は寺町、西は大宮に亘り、周圍二十餘町に及び、今の毘沙門町は當時の毘沙門堂、御風呂町は往時浴室所在地に當るといふ。聖應元年將軍義政の繼嗣問題に端を發し、所謂應仁の亂勃發するや當寺は東軍の根據地となりし爲め遂に兵燹に罹り諸堂各院悉く燒失せり。文明十年、亂終熄、其後、永正五年に至つて大略復興事業完成せしが、天文十八年所謂天文の亂に遭ひて再び灰燼に歸してより、亦再興の氣運到來せざりしも、天正十二年西美承兌入寺するに及んで、豐臣秀吉、徳川家康の知遇を得、復興事業漸く進捗す。即ち文祿年間秀吉寺領千三百二十餘石を附するあり、慶長十年秀頼法堂を建て、同十四年家康山門を興立し、元和年間、徳川幕府亦寺領千八百石を寄するに至つて堂宇舊觀に復し、法威漸く揚る。元和六年、二堂十二院類焼の厄に罹り、天明八年更に大火を蒙りて、鹿苑院、總門、山門、方丈、庫裡、開山塔、寶塔、毘沙門堂、鐘樓並に塔頭子院等二十一所焼亡せり。爾來漸次再興せしが、明治に至り塔頭子院の廢合を行ひて、現在、玉龍院、普濟院(參照)、慈照院(參照)長母院の四塔頭及び光源院(參照)、大光明寺、豐光寺、林光院、慈雲庵、瑞春院、養源院、大通院の八箇寺を存す。現に當派本山にして全國末寺百九箇寺、教會說教所五箇所を統ぶ。

●寺域四千七百餘坪、總門を入れば廣潤なる境内に本堂南面し、其後に方丈、書院、庫裡等あり。奥書院、玄關の襖は狩野永徳の筆と傳へ、庭内の奇石と共に豊臣秀吉の寄進に係ると云ふ。本尊釋迦多寶兩佛は定朝作と傳へ、又傳日蓮自筆の法華曼荼羅を藏す。



(堂本寺蓮妙)

護念寺

京都市上京區六軒町通今出川下ル。

●浄土宗。
●貞和元年、僧護念の開基にして能登守藤原利顯堂

字を建立す。當初釋宗を奉じ、尼寺五山の一として寺運隆盛なりしが、次第に荒廢に歸し一時中絶せしが、慶長年間、僧重譽之を再興、浄土宗に改む。

石像寺

京都市上京區千本通寺ノ内上ル。

●浄土宗。

●家隆山と號す。創建年代不詳なり。もと眞言宗の寺院たりしが、重源之を中興し現宗に改む。

●本尊は彌陀如來にして、又空海作と傳ふる石地藏安置さる。一に釘拔地藏と稱し、携傷治癒の靈驗ありとて、衆庶の信仰厚し。

大報恩寺

京都市上京區五辻通六軒町西

●新義眞言宗智山派。

●千本釋迦堂と通稱し、大念佛會(千本狂言)を以て著はる。創基年時に就きて或は用明天皇の朝となし、又藤原秀衡の女之を創すとも云ひ、或は醍醐中納言光隆の臣岸高、其千本の邸を佛寺となし、如琳を開山とすとも云ふ。今之を考ふるに本寺の草創大略鎌倉の初頭にして、其開山は義空、而して文永年間如輪之を中興せしものなるべし。もと俱會、天台、眞言密學の道場なりしが、中興以降天台宗と定めたり。貞應三年、攝津尼崎の材木商成金なる者巨材を寄せて大堂を建立す。貞治二年、足利尊氏命じて涅槃講を修せしむ。爾來この事恒例となれり。天正年間に至り豊臣秀吉築紫築城に際し山門を毀ち、經藏を北野社に移し寺領千石を百石に減す。元和五年、眞言宗智山の元壽本寺に入りてより、爾後新義眞言道場となり、智山能化の隱居寺となる。往古は寺運隆昌にして諸伽藍を連れし



(寶蹟)(堂本寺恩報大)

も、現に僅かに釋迦堂一字を存するに過ぎず。
●寺域三千六百餘坪。本堂は國寶建造物にして、桁行五間、檼間六間、向拜一間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、貞應年間の建立に係り、現に洛中最古の建造物なり。屋蓋の勾配と深き軒の出と周圍に繞らるる、高欄附廻縁とよく、権衡を保ちて安定の姿態を成す、内部入側各一間化粧、屋根裏を現はし他は格天井にして四本の内陣柱には彩色を施こしたり。以上天井の手井の手法様式は後世の修補により、原形を損するものありと雖も、尙よく各部に鎌倉時代特質の存するを看過すべからず。寺寶中、本堂安置の木造釋迦如來立像一軀・同十大弟子立像十軀は國寶にして共に快慶の作に係る。先年十大弟子中目捷連の頭部より工匠法眼快慶の自筆銘を發見す

釋迦如來は唐草透彫の身影光背を負ひ大鞍の纏髪を有し、顔廣く、眼鋭く、衲衣の手法は寫實的にして、宋風の影響を見る。十大弟子は玉眼深人、桶彩色鍍金を應用せる像にして快慶作として上乗の作にあらず、木造、千手觀音立像一軀、銅造釋迦誕生佛立像一軀又現に國寶にして前者は應原初期後者は鎌倉期の作に係り、共に恩賜京都博物館に寄託せらる。

●古來著名なる當寺大念佛會は近年中絶して行はれざるも、惟ふにこれ近隣の開覽堂(引接寺)項參照)に移して行はるゝに至り、當寺のもの中止されしものなるべし、壬生及び藤原釋迦家のそれと同系なるも文永十年、中興如輪に初まる事北山行幸日記及び徒然草等に見へたり。

本光院

京都市上京區今小路通七本松西入

●天台宗眞盛派。

●富源別格尼寺。壽比丘尼御所の一にして現に由緒寺院たり。創建年代詳かならず。乾元元年正月、後二條天皇より菊花紋章及び御所號を賜はり、爾來藏人御所と稱す。天正年間、織田信長堂宇を再建其念持佛地藏菩薩を安置して本尊となし、寺領二十石を寄すと云ふ。もと、草桶通二階町に在りしが、寶永年間、祝融に遇ひて堂宇焼失せしに依り現在の地に移建す。時の住持は日心尼にして、爾來清華家の女子出家して其法統を繼ぐ事なれり。寶曆年間、比丘尼御所の一に加へられ、明治十九年、門跡號公許さる。
●寺域二百餘坪。
●孝明天皇御忌(一月三十日)、明治天皇御忌(七月三十日)。

觀音寺

京都市上京區今小路通御前通西入

●眞言宗法滿寺派。

●天曆年間、僧最珍の開創する所にして、天滿宮と其の遺立を共にす。爾來、天滿宮の神宮寺として、北野神宮寺或は興ノ院と稱せられたり。尙ほ本寺の草創に就き寺傳は延暦二十五年、桓武天皇、藤原小黒麿沙門賢澄等に勅して皇城鎮座の爲め建立せしめ給ふ所に於て當初は朝日寺と號せしが、天曆元年、菅原此地に移され、以て其神宮寺となると云へり。應和元年、村上天皇の勅により、筑紫安樂寺の菅原道真作と傳ふる十一面觀音像(梅松の二本にて作られたれば俗に二本觀音の名あり)を本寺に移安す。時に最珍の嗣滿増、堂宇を修治せしが、天延元年回祿に罹りしに依りて、最珍これを再建す。後ち住持職に就き争ひあり、貞元元年、遂に官、菅原氏に命じて之を領司せしめたり。降りて中古稍々廢頽せしが、應長元年、無人知導再興してより花園、後醍醐、光嚴、光明等御歴代の御崇敬厚く、寺運次第に振ふ。時に筑紫觀世音寺に擬し、寺號を觀世音寺と改むと云ふ。慶長四年、豊臣秀頼堂宇を改築す。之れ即ち現在の堂宇なり。もと、東西兩向の二堂ありしも、西向の堂は早く廢絶し、本尊を安置せる東向の堂のみなるを以て、俗に東向觀音と稱す。近世、覺隆院竹内門跡の所管たり。

●境内一千坪。堂内に白衣觀音並に三十三體觀世音を安置す。前者は明國僧隆元管、後者は一條大政所の各納寄する所なりと傳へ、就中、白衣觀音は授子安産子育に靈驗ありとて衆庶の崇信を蒙る。尙ほ覺隆には道眞母大伴氏の廟墓と傳ふるもの存す。
●每陰曆六月九日信者九度參りを行ふ。即ち本寺より

西方寺

京都市上京區今出川通七本松西入。

●天台宗眞盛派。

●富源開祖眞盛の開基にして、西福寺と號し、白派尼衆集會の道場となすに盛焉。永正年間、盛久、盛春の兩尼中興して現地に移し、現號に改め、爾來尼僧住持たり。現に洛陽四十八願所第五番札所にして當派別格寺なり。
●境内六百坪。堂宇に本堂・庫裡等あり。寺寶中、絹本着色、觀經變茶羅圖一軀は國寶なり。現に恩賜京都博物館に寄託中にして、室町期の作に係り、前代以來盛行したる當處曼荼羅の寫なり。

清和院

京都市上京區一條通七本松東入。

●新義眞言宗智山派。

●俗に河崎堂と稱し、古來洛陽七觀音の一として著はる。もと佛心院と號し、仁壽年間、文德天皇の勅願に因り京極河崎の地に創建せらる。俗稱河崎堂の名、こに由來す。一説又染殿の邸址なりと云ふ。貞觀十八年、清和上皇當院に入りて落飾し、法名を素眞と稱し給ふ。爾來、清和院と改稱し、眞言宗となる。本尊は上皇御母染殿の跡依佛延命地蔵尊なりと云ふ。元慶年間、伊勢尾張の租を寺封に賜はる。其後皇子、親王の住院となり、内道場と定めらる。降りて應仁の兵火に遇ひて寺地を轉ぜしが更に寛文元年、皇居東上の後水尾天皇の勅に依りて現地に移る。依て天皇を仰ぎて中興の祖となす。以上古來寺地三度轉す、即ち

三轉動願所の名ある所以なり。本院、古來皇室との因縁後からず、風に史上に著聞し、枕草紙には「せかぬ院」、續世繼には「勢賢院」として述べる。現に本山智積院の所轄なり。

●寺域八百三十餘坪。本堂安置の木造地藏菩薩立像一軀・同聖觀音立像一軀は國寶に指定せらる。前者は玉眼嵌入、極彩色、鎌倉時代の作なり。後者は所謂洛陽七觀音中の一にして寺傳に弘法大師作と稱し、御歷代天皇七九の厄年には月々勅使の参向ありし靈像なりと云ふ。藤原初期を下らざる作品なり。其他寺寶として歴朝の院宣・將軍家の新願文・喜捨文等數十點並に藤原實際の縁起一巻を藏す。

船院（三昧院）

●天台宗。●詳さには般舟三昧院と云ふ。文明年間、慧滿善堂の開基に係る、もと、圓密律淨四宗兼學の道場として康和年間、藤原基頼之を深草に創觀し、安樂行院と稱せしが、文明三年、伏見指月に移り現院に改稱す。後土御門天皇勅願所となし、禁裡の内道場に擬せられ、歴朝の尊牌を奉安し給ふ。文和二年美上して荒廢せしな、延文年間水養寺誠圓、廣義門院の命に依りて再興し天台宗に改む。文祿三年、伏見築城の時更に現地に轉す。慶應二年、御靈殿を改築せらる。明治九年、官命に依り一時尊牌を洛東泉涌寺に奉遷せしが後また本寺に復す。本寺、古來泉涌寺と並び皇室に由緒深き名刹なりしも、維新後次第に退轉したり。

●此れもと舊五辻宮址にして又定家頼の別荘地たり門前の辻子を定家の辻子と云ふは之に起因す。寺内に後伏見天皇の御塔及び式子内親王の塚墓等あり。什寶中、木造不動明王坐像一軀・同阿彌陀如來坐像一軀は國寶に指定せらる。

●淨土宗。●惡願山と號し、村雲寺の別稱なり。延暦年間、桓武天皇の勅願に依り、興福寺僧一賢（一説に賢澄）之を開創すと云ふ。延喜年間同様に福り、更に寺宇を建立せしも、天徳四年再び美上し、僧良源近江國西坂本に再建せしが、三度祝融に見舞はれて寺門漸く荒廢す。建治二年、後宇多天皇勅して之を一棟村雲に再建せしめ、定額寺に列し給ふ。往時天台宗に屬して二十五大寺の一たりしが大永五年、後柏原天皇念佛三昧堂の勅號を寄せ給ひて淨土宗を兼しめらる。元龜三年、遂に淨土宗に轉じ、知恩院末となる。足利、織田、豐臣、徳川各家の歸依篤く、屢次堂宇の修營、寺領の寄進あり。天正五年相國寺門前今出川の北に寺基を移せしが元和三年、現地に轉す。享保四年焼亡、同十八年再建の工成る。

●淨土宗。●本圖寺所管由緒寺院にして、一に村雲御所と稱し當宗唯一の門跡寺たる名刹なり。豐臣秀次の母瑞龍院

●寺域五千有餘坪。堂宇には本堂・客殿・經堂・鐘樓及び地藏堂等及び子院數あり。什寶中、絹本着色、彌陀三尊・二十五菩薩來迎圖二幅は國寶にして、山祖を白雲に乗じて來迎する二十五菩薩を兩幅に描く。惟ふに彌陀三尊を縮く中幅を失ひしものなるべし。來迎圖としては早來迎等と共に稍後期の作に係り、諸菩薩の狀頗る活動的にして變化に富み、色彩亦極めて華麗なり。概して技法甚だ精妙、此種遺品中の傑作にして其製作期は鎌倉中期以後なるべし。現に恩賜京都博物館に寄託さる。

●日蓮宗。●廣布山と號し、當宗本山なり。應永十七年、日秀日秀尼の開創に係る。文祿四年、秀次、高野に自盡するや、瑞龍院尼、洛西藤原野に葬り、草庵を結びて菩提を弔す。文祿五年、村雲に本寺を創建するに及び、後陽成天皇より寺號の下賜あり。勸願所に列せしめらる。徳川幕府また寺領五百石を附せしが、三代家光、



(寺 龍 瑞)

二條城内の二條を寄せて客殿となせしも天明八年焼失す。中比、二條家の息女入りて住職となる。爾來、皇室攝家より入山して法燈を嗣ぎ、比丘尼御所に列し、現に宮内省より金祿を寄せらる。現在の堂宇は天明八年火災後の再建に係る。

阿彌陀寺

●淨土宗。●蓮古山と號し、知恩寺に屬す。僧清玉の開基にして、もと近江國坂本に在りしが、清玉、織田信長の歸依を得、其趣入により寺域を移して殿堂を修營す。元龜元年八月、正親町天皇繪旨を賜ひ、堂宇を建修し、地蓮台野に近きを以て蓮古山と號し、御祈願所に定めらる。天正十年光秀叛逆の時、清玉、信長以下の風を収めて此地に葬る。天正十三年、現地に移り、後陽成天皇より四脚門を賜はる。延寶年中火災に罹り、其後再建せしも、天明年中再び焼亡し、現存の堂宇は其後の建築なり。

●淨土宗西山派。●華富山と號す。永享三年、僧眞阿之を開創す、初め野願寺境内に在りしが、天正年間、現寺地に移る。眞阿は後龜山天皇の皇子なり。三十六歳にして出家す、足利義教歸極他に異なり、野願寺の奥に一字を遺立し十念寺と號し、佛供田を寄せ眞阿に附す。これ本寺創

十念寺

●淨土宗西山派。●境内地六百三十六坪。堂宇に本堂・書院・庫裡・玄關・鐘樓・山門等を具ふ。本堂木造阿彌陀如來坐像一軀は上品中生の彌陀にして、現に國寶に列し、藤原期手法を遺存せる鎌倉初期の作と推知せらる。

●淨土宗西山派。●大藏院と號す。天曆六年、朱雀法皇落飾、次で洛西朱雀の地に崩御あるや、村上天皇其仙院を以て佛寺とし、先帝の御法諱に因みて佛陀寺と號せしめ、又別號大藏院の勅額を賜ふ。即ち朱雀法皇を以て當寺の開祖とす。後ち應仁の兵火に遭ひしが、後土御門天皇御宇、勸願所と定めらる。次で永正年間再び祝融の災に罹りしも、後柏原天皇之を再建修造し給ふ。爾來、足利義晴、豐臣秀吉等の歸依を得て寺領の寄せらる、もの多く、寺門大いに榮えたり。もと朱雀大路にありしが元和年間、此地に移す。後ち延寶、天明年間、回祿の災に遭ひしが、都度地を移して再建す。徳川氏の歸信亦淺からず、黒代朱印狀を附す。明治十八年、内務省より保存費金下附あり、以て今日に至れり。

佛陀寺

●淨土宗西山派。●境内地六百三十六坪。堂宇に本堂・書院・庫裡・玄關・鐘樓・山門等を具ふ。本堂木造阿彌陀如來坐像一軀は上品中生の彌陀にして、現に國寶に列し、藤原期手法を遺存せる鎌倉初期の作と推知せらる。

●淨土宗西山派。●廣布山と號し、當宗本山なり。應永十七年、日秀日秀尼の開創に係る。文祿四年、秀次、高野に自盡するや、瑞龍院尼、洛西藤原野に葬り、草庵を結びて菩提を弔す。文祿五年、村雲に本寺を創建するに及び、後陽成天皇より寺號の下賜あり。勸願所に列せしめらる。徳川幕府また寺領五百石を附せしが、三代家光、

本満寺

●廣布山と號し、當宗本山なり。應永十七年、日秀日秀尼の開創に係る。文祿四年、秀次、高野に自盡するや、瑞龍院尼、洛西藤原野に葬り、草庵を結びて菩提を弔す。文祿五年、村雲に本寺を創建するに及び、後陽成天皇より寺號の下賜あり。勸願所に列せしめらる。徳川幕府また寺領五百石を附せしが、三代家光、



(堂 本 寺 満 本)

て再興せしむ。時に後奈良天皇の勅願所となる。慶長七年十三世日乾、後陽成天皇に仁王法華の二經を進講し御感あり、紫衣の勅許を蒙る。寶曆元年、日風徳川吉宗の病癒を祈願して驗あり、爾來徳川氏累代の祈願所となる。明治四十四年、火災に遇ひて本堂を焼失せしが、昭和四年再建さる。現に塔頭七院末寺五十餘寺を有す。

●寺域三千五百餘坪。本堂奉安の日蓮上人像は天文八年、近衛尚通丹波守の山中に得て納寄する所なりといふ。什寶には後水尾天皇宸翰と歌・日蓮龍ノ口消息・日蓮書儀(狩野元信筆)・日蓮墨蹟・近衛信尹筆蹟等其多數を蔵す。

清淨華院(淨華院)

●淨土宗。當宗大本山の一にして、圓光大師二十五靈場第二十三番札所なり。貞觀二年、清和天皇の勅願に依り土御門通鳥丸西に創建せられ、特旨に依りて禁裡内道場となる。開基は慈覺大師圓仁にして初め圓密禪或四宗兼學の道場たりき。天曆五年表上、翌六年村上天皇御再建あり。貞元元年六月の大雷災に諸堂破損せしむ、圓融天皇直ちに御修復し給ひき、承安五年、高倉天皇法然に就きて圓戒を受け給ふや、本院を其宿所に賜ふ。時に白河法皇、法然を當院住持となし、且つ彌陀の十二光を表して十二光院を増進し給ふと云ふ。爾來淨土宗となる。應永年間、再光天皇の勅願に依り、阿彌陀堂創立さる。十一世僧尊の代應仁の戦禍を蒙りて伽藍僧房悉く灰燼に歸せしが、十四世玄周、文明十五年十二月再建に着手し、同十九年之を竣



(堂影御院華淨清)

工す。永祿元年十月、二十八世三休、紫衣戒誓の繪旨を賜はる。天正年間、豐臣秀吉、洛中の寺院を悉く洛外(今の寺町)に轉地せしむるや、本院亦從ひて現地に移る。同十三年十一月、秀吉、山城國田中村内五十石を寺領に充つ。慶長十三年、三十六世其光、勸請の繪旨に依りて香山重職す。爾後、この事恒例となる。これより先き黒谷金戒光明寺と本末關係に就きて繪提ありしが慶長十五年、達に兩山の關係斷絶し、各別に法燈を掲ぐるに至れり。元和元年、徳川家康、寺領五十石を寄す。創建以來、數旨に準じ歷朝天皇の實祚延長、國家安泰の祈願所として單に淨業を以て常行とせしが、慶長十六年より文久二年まで約二百五十年間に亘り、門院御二方、皇子皇女二十九方の御葬式中陰法會並に勸會御法事等を勤修す。寶永五年三月、諸堂焼燬せしむ。正徳三年四月

四十八世僧圓、東山天皇より拜領の御殿を主宇として客殿玄關庫裡土藏等を建營す。享保二十年三月、敬法門院の舊殿を賜りて本堂となす。天明八年再び圓融に歸る。寛政四年六月、慈徳門院の舊殿を賜りて假堂となし、弘化五年五月、六十世其光、阿彌陀堂不動堂等を建つ。是れ即ち現堂宇なり。明治九年、諸寺院奉安の皇室尊像尊牌は之を泉涌寺へ合併奉祀する事となりしが、同年十月、上願により清和村上天皇の尊像尊牌は當院に遷座奉祀せらる。明治二十二年、阿彌陀堂、不動堂、地藏堂、表門、裏門、井戸、屋形、門番所を除くの外堂宇悉く灰燼に歸す。同二十六年、大書院、小書院、假庫裡等を再建す。次で六十八世辨平、寺門の興隆と影堂の再建に力を盡す。こゝ十有餘年、遂に同四十四年二月御影堂竣工、遷座慶讚會を執行す。本院以上の如く古來皇室との御緣故深きに依り、寺紋として紫雲紋章の拜用を允許され、毎年、清和村上天皇並に歷代天皇々族尊牌奉護料の御下附を受く。現に其樹院、龍泉院、無量壽院、松林院の四塔頭及び諸國末寺百四十餘箇寺を有す。

●境内三千八百八十七坪。堂宇には御影堂(大殿十五間四面)大方丈・小方丈・庫裡・玄關・阿彌陀堂七間四面・不動堂・地藏堂・彌守堂・宗廟前・鐘樓堂・土藏・高麗門・裏門等を具ふ。寺寶には慈心軍彌陀三尊・唐四明普賢華嚴陀三尊三幅・宅跡華嚴陀三尊・同筆釋迦摩訶對幅・光嚴司華嚴陀三尊附十六菩薩、後陽成天皇宸翰・熊谷蓮生房狀・法然筆名號・紙本着色、泣不動緣起一卷等を蔵す。就中、泣不動緣起は一に證空繪圖と稱し室町前期の作に係り、現に國寶たり。據く所は、證空、師に代りて其病を我身に受け、而も不動の利益にて助かるその物語にして、同様の繪巻は民間にも現に傳へらる。

●御影會(四月二十三日・二十五日)、佛名會(十月十二日・十四日)、盆施餓鬼會(八月十六日)、夜會(十一月十四日)。

遺迎院

●天台宗。正治元年、藤原道家、伏見街道三ノ橋の南東に創建し、善慧房證空を請じて開山とす。證空は寶治元年十一月此寺にて示寂す。淨土、天台、律、眞言(一に法相)の四宗兼學にして廬山寺、二尊院、般舟院を合せて四宗兼學四箇本院の名ありき。後醍醐天皇の時寺域を給せられ勸願所となる。天正三年、正親町天皇の勅に依りて現地に移り、豐臣、徳川時代には寺領五十三石を受く。爾來明治四年に至るまで毎年御祈願の實蹟を獻じ、初禮參内拜賀を許され、且つ世代交替の際には參内して隨好色衣着用の口宣を蒙むるを例としたり。天明八年圓融に歸り、元三大師堂を除く外諸堂悉く灰燼に歸せしむ。次で本堂、書院、聖天堂、庫裡、寶篋印塔、地藏堂等の再建なる。明治八年本堂を毀ち釋迦彌陀二尊を元三大師堂に安置せり。蓋し遺迎院の寺號は此の釋迦、彌陀二尊の發遣、來迎の義を表するなり。

●本尊釋迦、彌陀二尊は安阿彌作と傳ふ。寺寶として阿彌陀如來木像(慈覺作)・眞向阿彌陀佛像(慈心筆)・不動明王畫像(曾良筆)・慈惠大師木像(自作)・虚空藏菩薩畫像(覺齋筆)・普賢菩薩畫像(筆者未詳)・法然上人畫像(觀齋筆)等を蔵す。境内に歡喜天、辨財天の祠あり、歡喜天は輿轡著して賽者多し。因みに伏見街道の舊址には近年淨土宗西山派の門徒協力して小庵を營建せり。

松林院

●淨土宗。清和天皇の御宇皇太后宮順子北白河の地に之を創建し給ふと傳ふ。もと二階坊又は松林院と稱し、圓仁を開基とす。次で眞忍入りて融通念佛の道場と定む、觀空本寺を法然に附屬し、爾來法然の常住となりしより、世に之を白河御坊と稱す。承久、建武の兩度、兵火に罹りしが、正平八年には山徒の燒く所となる。元中二年、第七世敬法、後龜山天皇慈照慶門院の舊殿を賜ひて再興す。同六年院號の下賜あり勸願所に列せらる。明應五年、清淨華院境内に寺基を移す。山科言觀、立入宗廟、嵯峨公棟、楠小路公知、玉松眞弘等諸僧の宿院たりしを以て聞ゆ。

廬山寺

●天台宗。評さには廬山天台講寺と云ふ。天慶元年、眞源(慈惠僧正)の開創に係り、初め北山に在りて興願金剛院と號す。圓融天皇勅して七堂伽藍を建營せしめ給ふ第三世、住心寺門を中興し、また深く法然上人に歸依して宗風を改む。寛元三年、後醍醐天皇の勅に依り、住心之を船岡山の南に移し廬山天台講寺と改號す。天台、淨土、律、眞言(一に法相)四宗兼學なり。現に一條北に廬山寺通の名あるは即ちこの舊地なり。嘉祥年間、住僧明導、後醍醐天皇の歸依を被りて勸願所となり、大師堂を建て莊園を賜ふ。應永四年、住僧志玉照珍入宋して法義を傳へしより、山號を日本廬山と稱す。應仁の兵火に罹り、天正元年現地に移りて再建す。時



(堂本寺山廬)

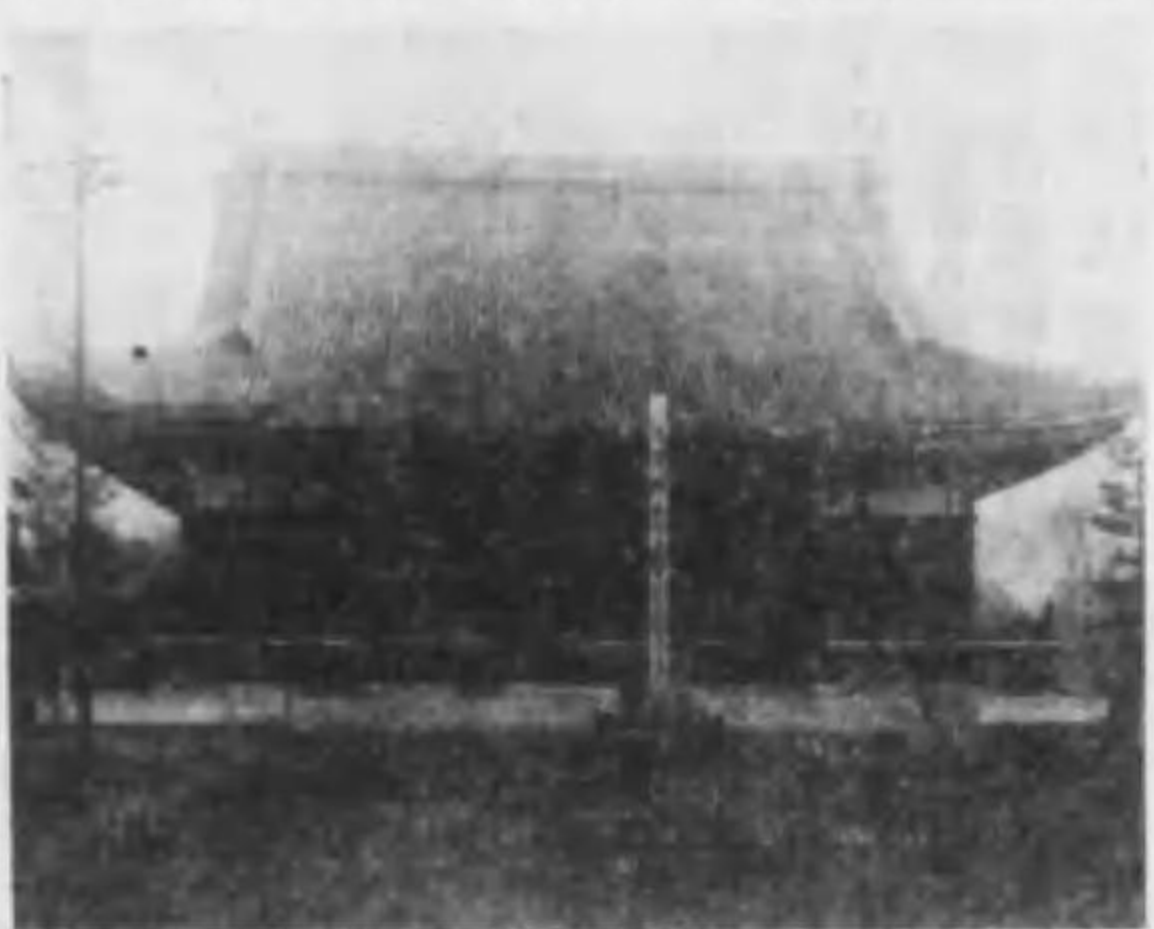
に銀子及び諸后妃の殿宇を賜はると云ふ。天明八年再び焼亡、現在の本院は寛政六年院興典親王(慶光太)境内に後光嚴院后、後圓融院母公、四辻附左大臣曾孫公女の爲めに牌堂を新築す。安政三年、尊牌殿を建立して光格天皇、新清和院皇后等の尊牌を奉安す。斯の如く當寺古來皇室との關係淺からず依て禁裏御内佛殿とも稱せられ、近世寺縁五十七石を有せり。

中、如意輪観音は推古佛の模倣にして製作期的確ならざるも大略鎌倉末期を下らざるべし。選擇集は詳かに選擇本願念佛集と稱し、建久九年、源空、九條兼實の請に因り撰述する所と傳へて、實に淨土宗諸派の本典のみならず、我國淨土教の最も重要な聖典なり。第一第二の兩章は弟子の安樂房第三章以下は眞觀房の各執筆に係り、卷首の内題二十一字は實に源空の自筆にして、珍重すべき稀観本たり。

宿清寺

●本門法華宗。

●青
●本山
●御山
●大本山
●妙蓮寺
●末に
●現
●佛立
●會に
●中
●老日
●開基
●延慶
●年、日
●辨京
●の孫
●識す
●可しが



(攝道本願講立佛一所教説出派寺清宿)

宿清寺を買得し、本尊を此處に移す。近世克順に歸せしが、明治二年一月、日蓮妙蓮寺實主日成に請うて本寺を借受け、佛立習學所の札を掲ぐ。是より先き日蓮深く宗門の不振を慨き、安政四年正月大津追分八昌堂に於て本門佛立講なる一派を創始す。爾來、歴次道害に遇ひしが、京都本能寺を追はるゝに及び當寺に入りり平易なる表現にて弘法に努む。既にして花持佛立講三十三組約一萬人の信徒を得、寺内の修學所快慶を告げし爲め同十四年、當寺門前の地所に栴行八間、鑿間十五間の觀會場を建設す。日蓮、同二十三年七月十七日本寺に遷化す。後嗣日圓(御牧現善)次で當寺を重し、兼以て佛立講第二世となる。爾來、講制の整備と共に、教線次第に延び、京都の本部を中心として全國に支部、支院、教會所(觀會場)、假觀會場漸く増加せしが、御前通りの觀會場は、大正十三年九月に佛立財福に編入せられ、其主要なる事務所となれり。昭和五年、北野下ノ森福壽町に新觀會場建設の工を興し、昭和七年十月、本堂、庫裡、山門等を成就す。直に其遷座開堂式を舉行し、當派の根本道場となす。久しからずして本道場に宿清寺の寺號を移す計畫なりと云ふ。

●具足山と號し、當宗本山にして所謂龍華三具足山の一たり。元亨元年、日蓮の開基に係り、初め四條大宮の西橋筋に在りて龍華院龍華寺と稱す。明徳四年、日齊の時、押小路堀川の西南に移る。明應五年六月、後土御門天皇特旨を以て勅願所の繪旨を賜ふ。降りて後水尾法皇の御降依又厚く、曾て本寺に臨幸あり、住持日齊に就きて法華經を聞き給ひしが、後山鳩色の法衣並に客殿一字、圓林堂の三字額を下賜し給ふと云ふ。寶永五年、同縁の英に罹りしを以て寺基を移して



(堂本寺本立)

立本寺

●日蓮宗。

現寺地を定む。天明元年、鐘樓を再建し、同七年梵鐘成るや、深草の歌僧元政(日政)爲に鐘銘を撰す。現に塔頭教法、光源、大輪、正行の四院及び末寺七十餘箇寺を統ぶ。

長徳院

●浄土宗。

●智山と號す。文祿元年、英齊西堂の開基に係り辨阿聖光を開山となす。西堂曾て此地を過ぎ地中に一黄金佛を得て、本寺を創すと傳ふ。後延寶年間、圓樂友堂入りて大いに堂宇を修築す。爾來、寺運隆盛にして塔頭二院を有せしも、維新の際、塔頭殿寺となり寺領寺買又四散して漸く昔日の盛衰を失ふ。明治三十八年、遷善安達入りて住するや、大いに堂宇を修築し大正十一年、辨財天堂並に同守堂を新築し寺觀を一新せり。現に黒谷金武光明寺末なり。

智恵光院

●浄土宗。

●攝政聖司家の由緒寺院たるを以て著聞し古くは七

光院の一に列す。慶司家の祖藤原兼平の創建にして如一國師を開山となす。もと東山高齋寺の地にありしが、後現地に寺基を轉す。

地福寺

●眞言宗醍醐派。

●寶珠山と號し、洛陽十二樂師の第五に列す。もと大奈の地にあり、弘仁年間、照堂の開創に係る。古來無本寺にして三論、天台、眞言、律四宗の兼學道場たり。平安中期、惠心僧都來住し、地蔵菩薩を自刻せりと云ふ。其後、義天道龍之を中興す。享保十二年、應司房照室の難病を祈念して靈驗ありしより、房照、現地に寺基を移し、同時に現宗に改む。

安養寺

●眞宗本願寺派。

●文永十年八月、親鸞の弟子專阿彌陀佛の開創する所なり。專阿彌陀佛は藤原信實の男と傳へ、鏡の御影(西本願寺藏)、親鸞畫像の筆者として著名なり。親鸞の門に入りて西武者小路常盤井殿太子堂に幽棲す。これ即ち當寺の遷居にして現に西武者小路常盤井辻子の安養寺舊址是なり。後年現地に移轉す。安永二年八月、冷泉大納言爲色法名澄覺、信實の五百三十三年忌を修し、親鸞、專阿彌陀佛、寂西、如圓の像を描き之を當寺に納むと云ふ。

●寺實に本尊阿彌陀佛立像一軀(圓仁作)・親鸞木像一軀・親鸞、開基專阿彌陀佛坐像一軸・同上畫像

●心和尚慈眼院と號し、准門跡寺院たり。寛文九年伏見宮邦尚親王の御創製にして果山を開山となす。初め四宗を兼學し、聲實庵と號せしが、文祿の火災後、眞教親王の御再建ありて現稱に改めらる。

光清寺

●臨濟宗建仁寺派。

●寺宇には法堂・方丈・總門等あり。別に鎮守堂・勝軍地藏堂(慈覺大師作)傳ふる。地藏尊を嗣る。往古伏見宮舊址より移安せしものと云ふ。等を具ふ。

順興寺

●眞宗本願寺派。

●延徳元年、蓮如の開基する所にして、現に當派別格寺たり。もと河内國茨田郡枚方に一坊を興し、順興寺(世俗枚方御坊と稱す)と號す。永祿年間、蓮如の第二十七子兼賢(實從)請に應じて住持となる。寛永二年十一月、二條通堀川西入に寺基を移せしが、同十年、更に現寺地に移る。

本禪寺

●法華宗。

●光了山と號し、當宗本山にして、應永十三年、日

陣、西陣橋井の地(現、智恵光院五辻下ル)に之を開創す。日陣は越後の人、本國寺日靜に師事し、正平二十四年、越後國本成寺を日靜に授く。應永年間、本國寺日靜と本迹の義を争ひ、本迹勝芳の義を唱へしが、同十三年に至りて本寺を開く。第五世日覺、後奈良天皇の勅を奉じて内裏に法華經を講誦し遂に勅願所の列に入る。天文法皇に本寺亦其真蹟に編り、堂宇等悉く烏有に歸せしが、同十二年、講堂の再建成り、次で天正十九年、現地に移る。爾來、寺運稍々衰微せしが、嘉永二年四月、第三十世日但堂字を再興して復興す。これ即ち現在の堂宇なり。

●寺域二千八百四坪。寺實に日蓮眞筆曼荼羅大小二幅及び三箇重寶の釋迦佛像等を藏す。境内に、畫家岸駒、佛匠梅室の墓あり。

護淨院(清光院) 京都市上京區荒神口通寺町。

●天台宗。
●常陸長壽寺と號す。本尊清淨三寶大菩薩は光仁天皇の皇子僧開成の作と傳ふ。もと攝津津尾寺清淨寶閣にありしが、後小松天皇の勅により、洛中願ヶ井高辻に勧請し、清淨院と稱せり。文祿三年、更に後陽成天皇の勅により現地に移り清光院の勅額を賜へり云ふ。

高桐院 京都市上京區紫野大徳寺町。

●臨濟宗大徳寺派。
●大徳寺塔頭。慶長年間、細川忠興の創建にして、玉雨稲隆(細川幽齋の弟)を開祖とす。世代に清岩、宗賢、天倫、覺印、義隆、大心、義統等を出す。

●堂宇中、著名なるものに茶室二あり、一を鳳來と云ひ、他を松向と稱す。什寶中、絹本着書山水圖二幅、絹本着色牡丹圖二幅は國寶に指定せらる。前者は傳に吳道子筆と云へど、宋代山水畫の一派の筆なるべく、兩圖とも暢達自由なる筆致を以て、複雑極まる自然を描き其の滲濁なく支那山水畫中の逸品として注目せらる。所なり。後者は錢舜舉筆と傳ふるも、宋末元初の院體畫家の作に係るべし。彩色豊麗、筆致輕秀にして、畫品頗る高し。他に絹本着色清暉和尚像(自贊)一幅、絹本淡彩清暉和尚行脚像(自贊)一幅、絹本着色細川休齊公孝養像一幅、紙本淡彩瑞慶庵(傳永徳筆)一幅、絹本着色釋迦三尊像(探幽筆)三幅、山王祭圖(傳光興筆)、六曲屏風一雙、過去心不可得(寧一山筆)一幅、清暉和尚遺像一幅、大徳寺諸師墨蹟卷一巻、八角磨盤空裡走(紹隆筆)一幅、細川三寶消息(七月廿日三寶宗立、ローマ字印あり)一幅、忠興遺像等を藏す。墓地に細川家歴代の墓あり。就中、忠興のもの墓碑として石燈籠を用ふるに依りて著せる。又忠興の遺臣與津留五右衛門外四士の墓存す。忠興の三回忌に當り、彌五右衛門は舟岡山上にて、四士は當院にて殉死せしなり。

孤蓬庵 京都市上京區紫野大徳寺町。

●臨濟宗大徳寺派。
●大徳寺塔頭。慶長年間の創建にして、開基は小堀政一遠州、開祖は小堀政一(遠州の猶子)にして江月宗玩の嗣法なる江雲宗龍なり。政一亦茶寮を設けて之に居る。もと龍光院門内に在りしが、後現地に移れり。後年出雲松江城主松平治綱(不昧公)之が修理に當り、新たに家廣大開庵を建て、茶室を作る。歿する前年茶會披きを行ひ、其集に傳る幾多の名器を寄贈す。其後茶室は焼失せしも本庵及び廟所は免れて今日に至る。現に尙小堀遠州の流儀を傳へ茶道、花道、遠州流家元たり。

●堂宇には本堂(方丈)、忘筌、山雲の二茶室・書院・大圓庵等あり。各者風折して東南より西北に連なる。現在の建物はずべて寛政年間第九世雲海の修築にかゝり、本堂、忘筌、書院何れも國寶建造物なり。本堂即ち方丈(桁行七間、梁間三間、單層、屋根入母屋造、檜瓦葺)は軒高極、前面に廣縁、落縁を設け、次で長き香脫石を置く。左側縁端唐破風造三間一面の玄關あり。左右兩側面には狭き縁を附す。内部中央には本尊

玉林院 京都市上京區紫野大徳寺町。

●臨濟宗大徳寺派。
●大徳寺塔頭。慶長三年、曲淵養安院の創建に係り月半宋印を開祖す。和尙の塔所たり、初め玉林院と稱せしが、後今の如くに改む。享保年間、羅波の宮家池池氏、寺主大僧に歸して、其祖山中幸盛の墳墓を造り一家の昭堂として南明庵を建てつと云ふ。

●堂宇中、廣床養庵の二茶室著せる。客殿禮堂は狩野探幽、片山尙景等之を描く。什寶中、絹本着色釋迦

し、直入軒山雲床、佛間、水屋、圓間、諸の間等あり。各間悉く同一手法に出でず、各々變化ありて然も未だ諧調を破らざる一箇の纏まりたる建築にして、瀟洒の妙と莊重の體と相俟りて非凡の姿あり、茶寮として最も滋味と奇趣とを凝らせるものといふべし。寺寶中紙本墨書大燈師墨蹟(建武三祀孟冬下)一幅、高麗茶盤一箇は國寶に指定せらる。後者は一に、本多井戸また喜左衛門井戸と稱し、古來茶人間に有名なり。其他、聖一、一休、春屋、雪舟、探幽等の書畫頗る多し。墓地に小堀遠州、小石玄瑞、中西耕石等の墓あり。

三玄院 京都市上京區紫野大徳寺町。

●臨濟宗大徳寺派。
●大徳寺塔頭。開祖は春屋宗圓(圓圓國師)なり。天正十四年國師の參徒、石田三成、淺野幸長、森可成等の施財を以て創建せらる。維新の際堂宇を取除き現地に移る。又茶寮殿内氏當院の檀越たるを以て院内に茶室を建てつ。

●什寶中、絹本着色大寶圓圓國師像(文祿三龍樹白贊)一幅は國寶に指定せらる。他に納戸地雲聚水高模樓金剛製(摩具通)一幅、紙本昨雲清涼(春屋筆)二幅、同五井(玉室筆)一幅、絹本着色鶴鳴盆石・睡鴨圖(傳隆宗皇帝筆)二幅等を所藏す。寺内に石田三成、古田繼部等の墓あり。

正受院 京都市上京區紫野大徳寺町。

●臨濟宗大徳寺派。
●大徳寺塔頭。天文年間の創立に係り、開祖は清庵宗賢なり。伊勢の國氏、美濃の蜂屋氏等の檀越に依り

て堂宇完成す。連歌師里村紹巴、清庵に參じて入所し死後院内に葬らるといふ。維新の際、本堂庫裡を失ひしも、近來、本堂、茶室を再建す。

●什寶中、紙本墨書後奈良天皇宸筆金剛般若經(奧書に天文十六年九月八日、機寫之爲萬壽令付與清庵和尚畢、御花押)一帖は國寶に指定せらる。他に後奈良天皇宸筆御消息一幅、傳法衣(清庵和尚所用)一領等を藏す。寺内に里村紹巴の墓あり。境内梅花多く、早春館を曳くもの多し。

聚光院 京都市上京區紫野大徳寺町。

●臨濟宗大徳寺派。
●大徳寺塔頭。永祿九年七月、三好義隆養父長慶普提の爲め一字を創建し、大徳寺榮宗宗派を請じて開祖とす。聚光院の名は即ち長慶の法諱に因む。後千利休檀越となるに及び千家の香華所となりて今日に至る。舊朱印領四十二石を有す。

●境内五百餘坪。寺寶中、山水花鳥圖(十六面、山水圖(八面、遊猿圖(四面、竹皮圖(二面、蓮花藻魚圖(四面、八面(以上紙本墨畫)・紙本淡彩琴書畫圖



(寶圖)(堂本庵茶室)



(堂之休利内院光聚)

丹波四面は何れも國寶に指定せらる。すべてこれ狩野永徳の筆と傳ふるも、定かならず。されど筆力剛健にしてよく狩野家純正の傳統を保持する所、狩野一門名匠の筆なる事否定すべからず。其他紙本着色六祖大經師像(自贊)一幅・同澤庵師像(自贊)一幅・絹本着色本光師像(自贊)一幅・高麗茶盤等を藏す。城内に利休の墓あり。塔樓蒼古、其中央部を空虚となし佛像を安置す。もと船岡山火葬所の供養塔なりしが、利休其形狀の雅味なるを愛で遺命して墓表になせりと云ふ。又三好長慶の墓あり。

●利休忌(毎月二十八日)。

眞珠庵

京都市上京區紫野大徳寺町。

●臨濟宗大徳寺派。

●大徳寺塔頭。この地もと藤原保昌の宅址と傳へ、庵は永享年間創建せられしが、應仁の亂に焼失す。文明年間、一休、に臨濟軒を營み、且つ本庵の再興を企てし。未だ復舊を見ずして示寂す。延徳三年、祖深宗臨、遺志を繼ぎて遂に再興を成す。寛永年間、客殿新築され、舊客殿を移して庫裡改築さる。現在の建物即ち之なり。舊寺額六十七石餘を有せり。

●境内二千坪。大徳寺方丈の北に位置す。由來大徳寺及び其諸塔頭は珠光、利休等の茶人と關係深く、茶室用の什器に於て特に見るべきもの多し。併して塔頭眞珠庵、龍光院、孤蓬庵の如きは其建築方面を代表するものにして、何れも簡淨清麗を旨とせる茶人趣味のものなり。本庵堂宇中、國寶に指定せらるるは方丈、通儀院(書院)の二字なり。方丈(桁行七間、梁間六間、單層、屋根入母屋造、檜皮葺)はもと一休の庵室にして現堂は寛永十五年の建築なり。軒二重檜に於て反

轉あり、姿態に輕妙の趣き多し。構造様式大略大徳寺方丈に近く、室内竿縁天井、床疊敷にして數間に分ち中央間後壁に據して佛壇を設く一休禪師の像を安す。周仕切には襖障子をたて曾我純足筆と傳ふる紙本墨畫眞山水圖八面、同花鳥圖十六面、同草山水圖五面、長谷川等伯筆と云ふ紙本墨畫四倍圖八面、同観子猪頭圖八面等貼付さる。何れも筆力雄健風姿絶倫にして現に國寶に指定せらるる所なり。通儀院は方丈の北に續き東南に面す。もと正親町天皇女御の殿を移設せしものにして、半井誠庵の寄進に係る傳ふ書院造にして單層、屋根入母屋、起破風栴檀の建築なり。其廣縁に附書院を出し隔子を作り、書院際より茶室に入るべく上方欄間を拵ふ。蓋し當建築の如き其材料簡素にして其構造様式は輕快、全態の意匠頗る幽致にして、清楚瀟灑の趣きあり。當時豪華華美を極める反面に淡泊清涼を求めし時代精神を表現し、住居的意義を含める茶室を設けて、閑雅の趣味を味ひしものなるべし。尙ほ茶室は庭五軒と稱して殊に著名なり。庭園又史蹟名勝指定地たり。寺宇中、國寶に指定のもの次の如し。紙本着色苦行釋迦圖一幅は蛇足の筆と傳へ、康正二年の一作の贊あり。紙本墨畫達磨像一幅は墨麁の筆、上一休の寛正六年の贊を有す。紙本淡彩臨濟和尚像亦蛇足筆と傳へ一休の贊あり。紙本墨畫白衣觀音像一幅は春浦宗照の贊を持つ。絹本着色六祖大師禪師像一幅は釋宗の第六祖慧能の像にして「東風供奉官陳就」一と落款し、上に南宋無垢居士張九成の贊を書す。紙本墨畫山水圖一幅は墨麁の筆なる。墨麁は一休正續の法嗣にして、當時既に畫家として名あるも遺作は頗る稀少にして當國唯一例と稱せらる。紙本墨畫看經眞經榜一卷は大燈國師妙超の筆蹟にして奔放自在逸氣横溢す絹本墨畫觀音像一幅には正平七年二月十八日義享の贊

總見院

京都市上京區紫野大徳寺町。

●臨濟宗大徳寺派。

●大徳寺塔頭。天正十年、信長公を祀らん爲に開基する所にして、豊臣秀吉、開山は玉甫紹隆、勸請開山は古溪宗陳なり。院號即ち信長の法號に因む所なり。舊朱印額二百石なり。維新の際、舊建築を毀ち、一時雲納道場として禪堂を建設せられしが、近時道場を他に移して舊地に復したり。

●什寶中、紙本墨畫芙蓉圖(傳牧溪筆)一幅(附、利休添文一幅)は國寶に指定せらる。利休の添文中に「牧溪ふよう御繪」の文句あり。豊臣秀吉の寄進と傳ふ。寫意畫にして釋宗の趣味横溢し、牧溪一派の筆たるに疑ひなきが如し。其表装は絢爛たる古金襴にして、織物として貴重なる價値をもつ。他に絹本着色釋迦文殊普賢像(傳狩野正信筆)三幅等を藏す。受城に織田信長、同信忠、同信雄、豊臣秀勝等の墓碑を存す。

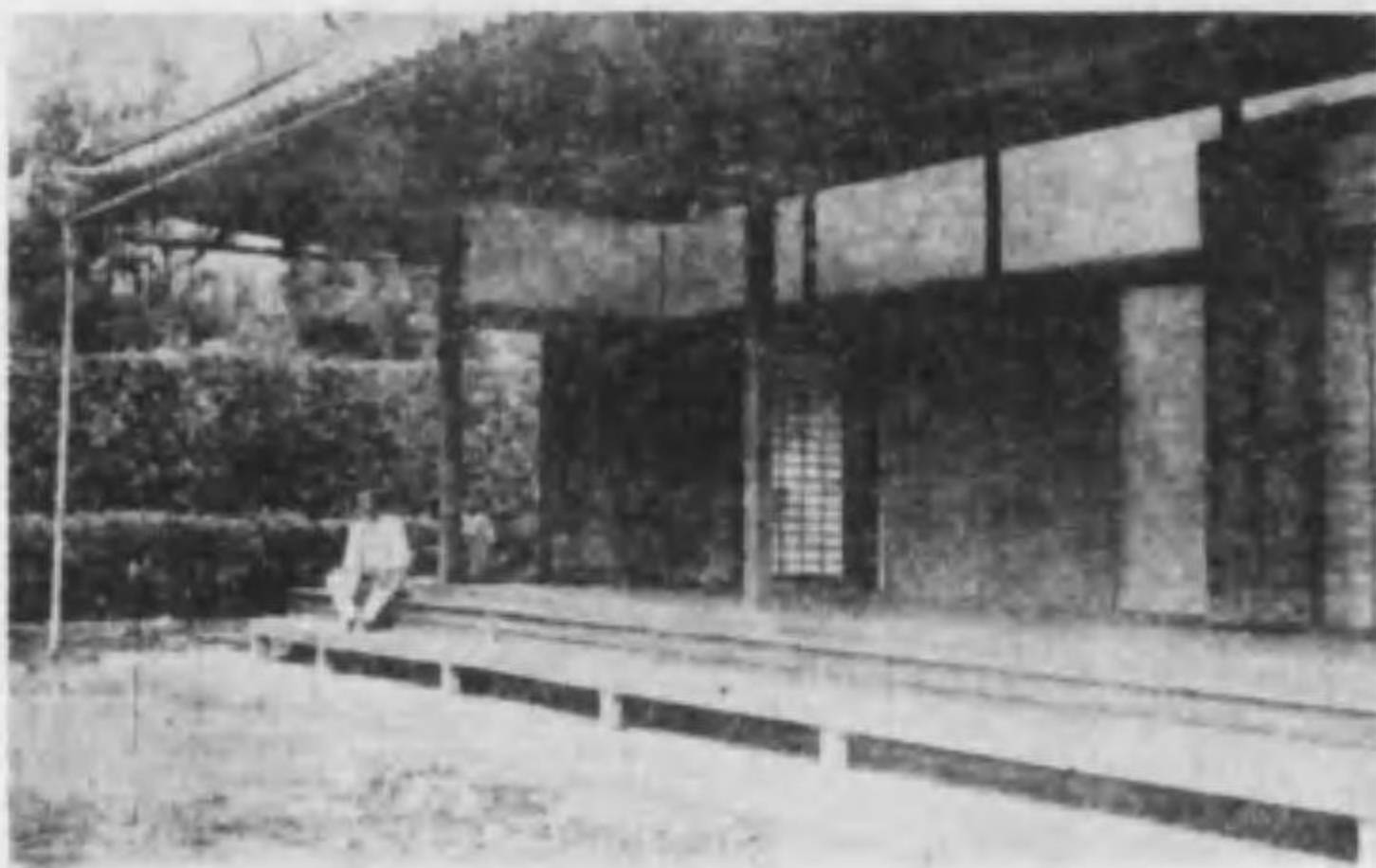
大仙院

京都市上京區紫野大徳寺町。

●臨濟宗大徳寺派。

●大徳寺塔頭。永正六年の創建に係り、開祖は古巖宗且(大聖國師大徳寺七十六世)にして宗且は六角近江守高頼の舍弟なり。古來富山北派の本庵なり。明治維新の際、庫裡を取除きしも、近年再興す。

●境内八百坪。堂宇中、方丈(本堂)及び玄關は創建當初のまゝにして共に國寶建造物なり。方丈(桁行五間、梁間四間、單層、屋根入母屋造、檜皮葺)「現今假模瓦葺」は書院造にして、姿態頗る變化に富み、相阿彌築く所の庭園(史蹟名勝地)と相俟つて諧調の美珠に見るべし。玄關(桁行二間、梁間一間、單層、屋根切妻造、檜皮葺)現今假模瓦葺は本堂に附屬し、其様式本堂と齊しくよく室町後期の特質を示す。屋蓋の勾配緩かにして反轉あり。全態の構衛頗る優美なり。本堂と共に各部に施せざる彫刻裝飾亦精秀にしてよく時代の精神を表現す。尙寺寶中國寶指定のものに、襖に描かれたる紙本淡彩傳之信筆四季耕作圖八枚・紙本着色傳元信筆花鳥圖八枚・紙本墨畫傳相阿彌筆山水圖八枚、及び紙成作牡丹孔雀樓樣



(實圖) (堂本院仙大)

大徳寺

京都市上京區紫野大徳寺町。

●臨濟宗大徳寺派。

●龍寶山と號し、俗に紫野大徳寺と稱せられ、本派大本山たり。正中元年の開基に係り、宗肇妙超之が開山たり。即ち延慶年間、妙超、洛東雲居寺に住せしが元應元年赤松則村、紫野に一小宇を創して妙超を請す。正中元年、妙して雲林院北方の地を賜ひ、伽藍を創建して龍寶山大徳寺と號す。時に花園上皇の御歸崇極に厚く妙超に興禪大燈國師の號を賜ひ、同二年、其勳願所となる。嘉祥元年、四月開堂式を舉ぐ。元弘三年八月、後醍醐天皇、勅して本朝無雙禪苑となし給ひ、又國師に高麗正燈國師の號を加増せらる。十月、五山の一に列し、四年正月、五山の上刹となし南禪寺に准ぜられ、細々寺地を擴張して所領を増加せらる。當時境内の四至、東は舟岡山西は鷹峰の土手より南渡山寺、北千束東師山の北邊に至り、諸堂堂を列ね禪林松風起つて一大偉觀たり。建武四年、國師入寂後、弟子徹翁義享法を嗣ぐ。後ち室町幕府五山十刹の序を變じ、當寺を十刹の第九とせしめ、文安二年、宗義叟頼勅を拜して入寺するや、再び元弘の舊規に復せらる。享徳二年祝融の災に遭ひ、再興未だ成らざるに再び應仁の兵火に焼失す。依て住持一休宗純寶器を持して一時



(實圖) (門山寺徳大)

地未益一面・紙本墨畫大燈國師墨蹟(元徳二年五月)一幅等あり。就中、元信筆と稱する花鳥畫最も有名にして、筆路豪壯、濃彩を交へて莊麗なる趣あり、明代花鳥畫より桃山時代轉畫への過渡的作品として注目すべき遺品なり。四季耕作圖は筆法簡正、相阿彌筆と傳ふる山水圖は畫法所謂玉潤風になり、二者共に各流派の正しき典型を示せる傑作なり。

願を和泉に遷けしが、文明五年、後土御門天皇より復興の諭旨を蒙り、堺の巨商那波宗隆並に壽源等を勧進して再興を圖り、同十年二月、方丈上棟す。次で春屋、古橋等の名僧出で、諸大名宮家等歸依する者多く、信長、秀吉、家康各所領安堵狀を附し織田氏の總見院、豊臣氏の水鏡寺等從ひて建立せられ、宗風殊に振起す蓋し本寺塔頭の過半は當時の開創に係る。天正十年十一月、豊臣秀吉、信長の稱禮を當寺に營む。未嘗有の盛儀なりきと云ふ其後諸堂漸次に修營せられ、寛文年間に至り七堂伽藍悉く完備し、洛北隨一の巨刹となる。近世寺額二千二百石を有す。明治維新の際寺額を失ひ、塔頭の廢絶せらるもの亦少からずと雖も、現に二十箇院を存し、又末寺二百二箇寺を統ぶ。昭和五年四月より着手せし山詣堂宇

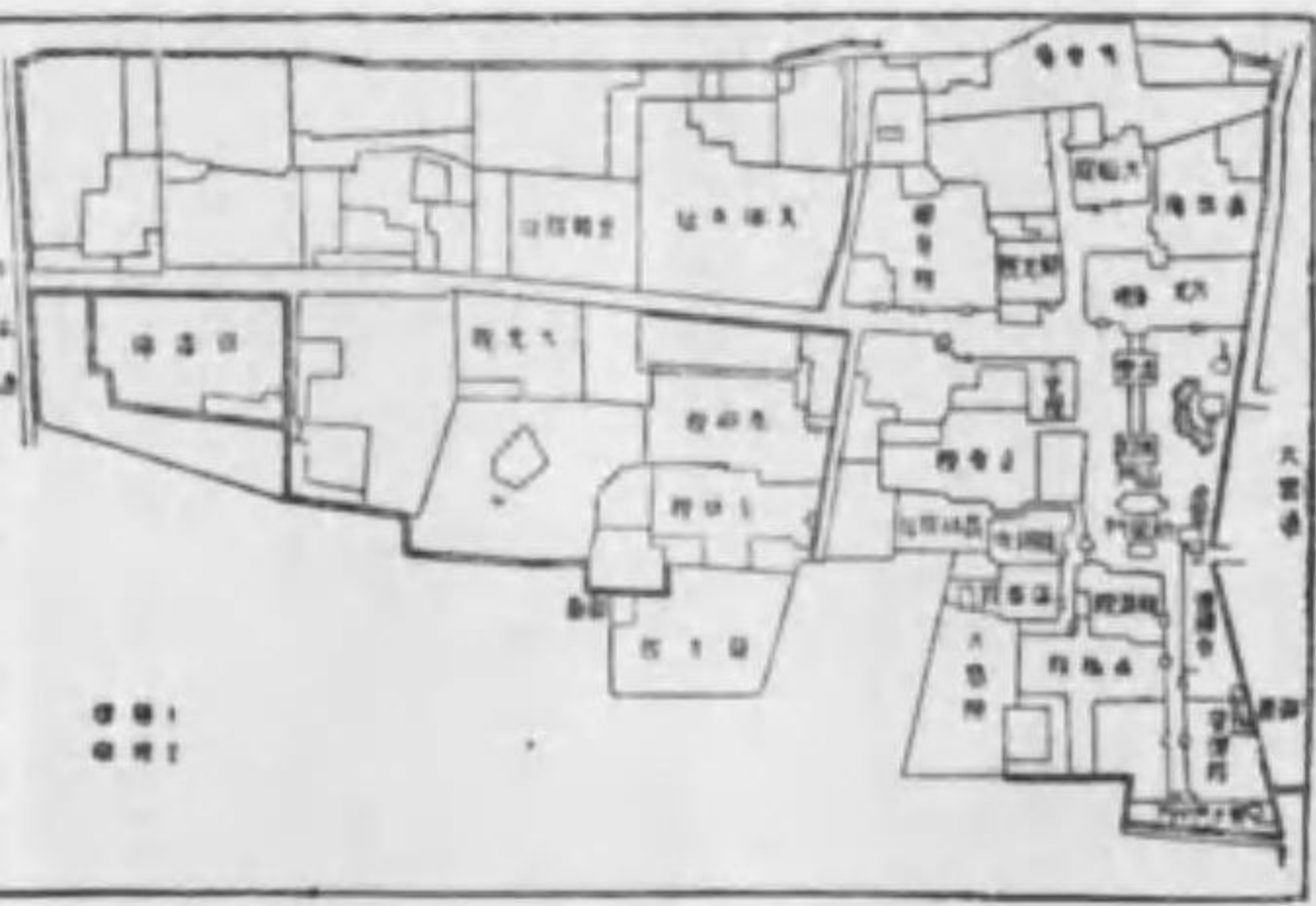
の修理漸く成り、寺觀こゝに革まりて鉅然たる偉容を成就せり。



(寶圓) (堂法寺德大)

永十七年に當寺に賜はりて修葺せしものなりと云ふ。本堂即ち佛殿(桁行五間、梁間四間、重層、本瓦葺)は一に大雄殿とも云ふ、寛文四年の再建、中央に本尊釋迦坐像、脇壇に梵天、帝釋、達磨、臨濟、百丈及び開山國師の像を各奉安す。法堂(桁行七間、梁間六間、重層、屋根入母屋造、本瓦葺)は寛永十三年新築正則の再建に係り、横式唐様にして形構整齊、本堂と共によく禪刹の特徴を發揮し、當時禪宗建築の典型たり。内陣鏡天井には狩野探幽の描ける丸龍あり。山門(五門三戸樓門、本瓦葺)は珍觀閣又は解脱門と稱し、閣上の額に金毛閣と題す。初め蓮歌師宗長、大永六年に初層のみを建てしを、天正十七年千利休の檀施に依り上層を造るといひ、唐様山門最古の遺構なり。樓上には釋迦、十六羅漢等の木像を安置し、中の間の天井及び左右の間に長谷川等伯の筆になる丸龍並びに天人あり。浴室(桁行六間、梁間五間、單層、本瓦葺)は元和八年京都の灰屋結由之を建設す。經藏(二間三間、單層、屋根四注、本瓦葺)は一に轉輪藏と云ひ、寛永十三年、那波宗旦の建つる所純唐様の手法になる。方丈(桁行四間、後八間、梁間左側三間、右側四間、單層、屋根入母屋造、檜皮葺(現在檜瓦を載す)はもと文明年間建立のものなりしを、寛永十三年、後藤登勝これを改築し、舊材を以て庫裡を造るといふ。構造様式全く書院造にして徳川初期に於ける書院造の典型となすべし。經間に本朝無雙禪苑の動額を掲げ、佛壇には開山國師の像を安置す。樓の輪は狩野探幽の墨畫。庭園は小堀遠州の好みに成り、東山の遺蹟を收め、巨巖若樹の按排、能く自然の風景を利用して絶妙なり。(現に史蹟名勝園となり)玄關(一間一面、單層、屋根唐破風造、檜皮葺、今檜瓦葺)及び廊下(桁行五間、梁間一間、單層、屋根切妻造)は寛永十三年

の建築。寢堂(桁行二間、梁間三間、單層、檜皮葺)は寛永七年發田元祥の再建する所なり。構造清淡、構衛整備す。當堂に續く渡廊及び玄關等變化に富み、しかもよく諧調を保ちて一種の美觀を添ふ。庫裡(桁行二間、梁間三間、單層、檜瓦葺)及び待具寮(桁行五間、梁間一間、單層、屋根切妻造、檜瓦葺)は室町時代の様式を有し、前者は古建築中庫裡として最古の遺構に屬し、後者は一種の住宅建築として共に貴重なる遺物なり。右の外に鐘樓(桁行三間、梁間二間、重層、移體、屋根入母屋造、檜瓦葺)も亦國寶たり。由來本寺歴朝の御崇敬厚く、且つ織田、豊臣二氏に關係深きを以て什寶極めて多し。就中、後醍醐天皇宸翰一軸、後醍醐天皇大燈國師御問答二幅、大燈國師像等最も著名なり、以下國寶に指定せらるる所を列記すれば次の如し。絹本墨畫中觀音左右攝龜圖(牧溪筆)三幅、同龍虎圖(傳牧溪筆)



(圖界圓塔及寺德大)

德 寺

京都府上京區紫野大德寺町。

二幅・絹本水墨畫虎圖(牧溪筆)二幅・絹本着色佛觀音音像一幅・同大燈國師像(建武元年自贊)一幅・同後醍醐天皇御像(傳後醍醐天皇御像)一幅・同五百羅漢像(林庭珪周季常等筆)八十二幅・同楊柳觀音像一幅・同運庵和尚像(嘉定十一年自贊)一幅・同虛堂和尚像(成淳改元自贊)一幅・同大燈國師像(正應改元自贊)一幅・紙本墨畫柏崖畫圖(二直庵筆)六曲屏風一雙、紙本淡彩畫和尙像(文清筆、享德元年九月養父自贊)一幅・同楊柳和尚像(文清筆、養父自贊)一幅・紙本墨畫後醍醐天皇宸翰(元弘三年八月二十四日)一幅・同後醍醐天皇大燈國師御問答二幅・同蒙藏文體一卷・同注涅槃經卷第九四一巻、尙其他佛畫、佛像、書畫、寫真、古器物等無數に所藏す。因みに塔頭二十箇院は養徳院、徳禪寺、黃梅院、大慈院、瑞峯院、龍源院、龍翔寺、正受院、三玄院、聚光院、總見院、眞珠庵、大仙院、芳春院、高桐院、玉付院、龍光院、大光院、孤蓬庵、興應院なり。



(圖湖香院恭芳)

●臨濟宗大德寺派。●德禪寺塔頭。慶長十三年前田利家の室、芳春の開基に係り、玉室宗珩を開祖とす。寛政八年祝融の災に罹り、堂宇烏有に歸せし、同十年、前田治翁再建すを附せらる。

芳 院

京都府上京區紫野大德寺町。

●臨濟宗大德寺派。●大德寺塔頭。永享年間、足利滿詮(義滿の弟、養徳院勝山道賢と號す)先室妙法院善室慶の爲に創建する所にして、初め洛東祇園林に在りき。當時、大宗教浦亦大隆庵を同地に創て住せしかば、春滿を請じて開山となし、妙法院と號す。後永享年間、滿詮の歿後其法號に因み養徳院と改號す。應仁の兵火に罹り明應年間この地に移る。

養 院

京都府上京區紫野大德寺町。

●臨濟宗大德寺派。●大德寺塔頭。慶長十一年、黒田長政、父孝高(龍光院殿)の爲に建立、江月宗玩を開祖となす。時に有栖川宮好仁親王、宗玩に歸依あり、爾來又有有栖川宮家御菩提所となれり。維新の際、本堂を除きしに依り、今は昭堂を以て本堂に充つ。

る廻廊、観音、勢至の三尊並に礎石、義満の像を安置す。其水造義満像一軀は玉眼入り、極彩色の像にして國寶に指定せらる。もこの金閣は佛閣として造營せられしものにあらず、義満の營める北山殿の遺物に



(寶蹟)(園金寺苑興)

して住宅建築の一と見るべく、各部の用材比較的細く屋根の傾斜は緩にして、且薄き軒先は兩端に於て上方に反轉し、全體に頗る輕快優雅なる外觀を呈す。右方池中に牙出せる切妻造りの附屬風(漱清といふ)は池

に臨みて一段の風趣を添ふ。蓋し、本閣一見直ちに其設計の方針、専ら周圍の明麗なる風光との調和にあるを看取すべし。而もこの建築各部の形式手法を比較するに、頗る周到巧妙なる方法を以て縱横に意匠の變化を試みたり。即ち各層の平面を見るに下層と中層とは共に長方形にして、柱の位置も亦上下一致せるも、上層は特に其形を變へて正方形とせり。更に各層を詳細に對比するに、初層は正面全部を唐縁とし、建具を主として唐戸を用ひ、外部は白木造白壁となす、中層は正面左中部のみを唐縁に充て、建具は唐瓦戸及び板唐戸を用ひ、内外すべて唐色塗とす。上層は唐縁を設けず周圍の入口には唐戸を建て、其兩脇に火燈窓を設く。されば下層は藤原時代の殿造に擬し、中層は鎌倉時代の武家造の仰を存し、上層は室町佛殿に多く慣用されし純粋の唐様を取り入れしものといふべし。意匠の自由豊富にして、手法の變化多端なるにも拘はらず、全體として温雅清新の氣分の下によく統一せられ、些の不快感滯の感なし。現に國寶建造物たり。園中に夕佳亭あり。亭は後水尾天皇歡茶御遊の跡にして萩の遠岡、雨天の床柱を以て著る。續いて拱北樓あり、樓は義滿の居間にして、其階層後、尙は當樓にありて政務を執ると云ふ。林泉又金閣と共に著聞し、夙に史蹟名勝庭園に指定せらる。泉水を説明池と號し、夜泊、夜啼、九山、八海等の奇石、藤原、淡路等の孤嶼池中に散在し、池畔には各種の名花珍木鬱蒼たり。又北丘には龍門湯、銀河泉、安民澤等あり、總じて山内に於て六勝、八景、十境を數ふ。寺寶に後水尾天皇寫輪・夢窓國師筆蹟・足利義滿筆和歌等其地佛畫・佛畫・寶藏・皇族・高僧、公卿、武將各筆蹟・古什器等枚舉に遑あらず。

●(開山忌)十一月二十一日。

地蔵院(權寺) 京都市上京區大將軍西町。

●淨土宗。

●其陽山地蔵院と號し、俗に權寺と云ふ。寺傳に神龜三年行基、聖武天皇の勅を奉じ、一刀三體の地藏尊を彫刻し衣笠山の麓に本寺を創建して安置す。これ所謂行基四十九院の一にして本寺の濫觴なりと云ふ。明徳二年、内野の合戦に當り堂宇灰燼に歸せしかば、足利義滿、金閣寺造營の餘材を以て假堂を營む天文年間遺清之を中興す。大開記に明智光秀



(佛殿院藏地)

本龍寺懸崖に當り、當寺に本陣を置きたりと云へば、當時本寺の境域廣闊なりしこと察し得べし。寛文十一年三月、善現の時淨土宗となり、爾來知恩院末寺として現在に至る。●本堂安置の彌陀如來は寺傳後乘房重源の將來と傳ふ。地藏堂安置の地藏尊は扇形地藏尊と稱せられ安置守護の尊像として著名なり。觀音堂は洛陽三十三所第

三十番の札所にして十一面觀音脇士面童子、春日兼神等を奉安す。境内の名木散椿は豐臣秀吉の愛樹と傳へ、もと北野の庭園にありしを、當時地蔵尊に獻供せりといふ。星霜實に三百數十年猶々繁茂し、陽春四月の候、眞紅、薄紅、純白、紅白絞りに咲き、其花瓣の一片々櫻の如く散るを以て散椿と稱す。この椿守護に椿大明神奉祀され、痔疾の治癒を祈願する者多し。側に天野屋利兵衛の墓あり。利兵衛字は直之、浪華の豪商にて家世々赤穂城主の恩顧に浴せしかば、元祿の擧に大いに義士の爲に盡し、爲に獄に投ぜられしが、遁れて當寺に閑居し名を松水士齋と改め、享保十八年八月六日齡七十三を以て本寺に歿す。寺寶には知恩院宮尊統法親王御像・天野屋利兵衛像及び其墓標等を藏す。

眞如寺 京都市上京區等持院北町。

●臨濟宗相國寺派。

●萬年山と號す。弘安八年、無著如大尼一字を此地に創觀、萬年山正脈處と稱し、其師、無學祖元の爪髮を奉じて其塔所となせり。其後、康永元年、高師直之を重修し、夢窓疎石を請じて住せしむ。依て疎石、改めて師祖元を開山に推し。自らは第二世となり、舊稱を改めて眞如寺と號せり。野應四年、十刹の首位に定まり、相國、建仁、東福三派に港る西堂本山たりしも應仁の兵亂に堂舎悉く燒亡し、再建後は相國寺に屬することとなり。足利氏制して禪宗尼院の首位に班せしむ。明應二年、後水尾天皇再興し給ひしが、次で皇女寶鏡寺宮月鏡尼公住せられる。爾來、寶鏡寺尼宮歴代の菩提所となり。昭和四年、庫裡を改築す。



(堂法寺如眞)

等持院 京都市上京區等持院北町。

●臨濟宗天龍寺派。

●萬年山と號し、京都十刹の一なり。野應四年、足利尊氏の創建にして夢窓疎石を開祖となす。延文三年尊氏薨するや、本院に歸り、等持院殿と號す。即ち當院は尊氏の法號に因む所なり。爾來、足利氏累代の廟所となり。堂宇又輪奐の美を極めしも、長祿年間回祿に罹り、灰燼に歸す。將軍義政、尊氏の百年忌に當り之を再興す。時に諸堂宇を始め、功運院、壽慶庵、大圓院、福泉庵、龍泉庵、正受院、德源院、松廣院、集

雲庵等の寺中稱比したれども其後再度炎上して寺運次第に衰頹す。後三條高倉院内の等持寺を本寺に合併して天龍寺の末寺となる。慶長十一年五月、豐臣秀頼重興す。文化五年四月、三度火を失して諸堂悉く燒亡せしが、其後、文政元年八月、復舊成る。現存の堂宇即ち是れなり。●寺域九千餘坪。堂宇は本堂・靈屋・庫裡並に塔頭功運院等あり。本堂には本尊として傳教大師作と傳ふる利運地藏尊を安置し、脇壇には達磨、疎石及び尊氏以下十二代の像並列す。幕末勤王論盛んなりし頃、在京の眞士尊氏以下三代の代像の首を取首を取首を取りて三條河原に擧す。●此像は此像なり。寺寶中繪圖、紙本淡彩一幅は足利尊氏、義隆等累代の花押を有し、現に、國寶に指定せらる。尙に方丈東北に寶篋印塔型の足利尊氏墓あり。



(景前院持等)

一様庵

京都市上京區大宮通師山東町。

正徳年間、隱居輝尼の開創に係る、近衛基熙開尼に歸依し、殿舎を寄進し、其室光相院の祭料として十石を附す。一時尼僧の一叢林として寺運盛大なりしが明治維新の際、祭料廢止せらる。現に長福庵、淨心庵、長寧庵等の子院を有す。

神光院

京都市上京區西賀茂神光院町。

眞言宗醍醐派。



(堂山開院光神)

放光山と號し、西賀茂の弘法及び蓮月尼の隱棲地として著名なり。草創開基空海なりといふも詳かならず。建保五年、上賀茂社務松下能久、明神の夢告によりて本寺を興建し、和州三輪の僧慶圓を請じて開山となす。第十四世隆海以後は醍醐寺金剛王院に管轄せられしが、金剛王院無住となるに及びて、三寶院門跡の管轄所となる。天保年間、火災に罹り、堂宇並に古記録の大半を失ふ。維新の際、一時廢寺となりしが、時に太田垣蓮月尼此地に隱棲す。明治十一年、三寶院住持和田智滿、官許を得て再興す。近世寺領七十餘石を有せり。

境域一千九百三十八坪。寺境頗る閑雅なり。本堂、開山堂・庫裡・客殿・太子堂・辨天堂・書庫・茶所等を具へ、何れも天保年間以後の遺營に係る。本尊弘法大師像は俗に厄除大師と云ひ、東寺、仁和寺の祖像と共に京都三弘法と稱せられ、尊像者多し。又茶所にも蓮月尼隱棲の屋宇なりと云ふ。寺寶中紙本着色白描書料紙金光明經卷第三(建久三年四月書寫跋)一卷、絹本着色佛眼曼荼羅圖一幅、紙本着書傳弘法大師筆金剛般若波羅密經開題紙本一卷、紙本着書佛石調陶第五(一巻・紙本着書曼荼羅一巻(寛治八年七月書寫跋)の五點は國寶に指定せらる。就中、金剛經開題一巻は空海の稿本にして、一部は高松宮家に分藏され、書法の妙見るべく、佛眼曼荼羅圖は細線を用ひ、巧みなる配色法を施して藤原末期の優婉なる女性的趣味を表現せしもの亦以て當代の一名品たり。其他、神光院古記録一巻・後西院天皇宮輪・十一面觀音(本尊脇侍)緣起一巻・大般若經六百卷等を藏す。

正傳寺

京都市上京區西賀茂鎮守庵町。

臨濟宗南禪寺派。

吉祥山と號す。東廣惠安の開基に係る。初め、弘長年間宋僧元菴普寧一休今出川の地に一字を創し、吉祥山正傳護國寺と號せしが文永二年、其歸宋後、法嗣東慶之に住す。後之を現寺地に移す。時に偶ま元寇の難あり、東慶、岩清水八幡宮に轉宮に異教降伏の事を誓願す。龜山天皇深く之を喜し給ひ、護國の勅號を賜ふ。爾來、寺運愈々隆盛にして、後醍醐天皇元亨三年勅願所の繪旨を賜ひ、足利義滿亦祈願所と定む。後ち豐臣秀吉、徳川家康等の崇敬厚く世々朱印狀を附せられ、寛永年間、伏見桃山城の遺構を移して寺觀を葺めたり。舊時境内十四町餘、寺領百五十



(寶園)(堂本寺傳正)

石、坊舎六字を有せり。

境内地五千七百坪。堂宇に本堂(佛方丈)・妙見堂・庫裡等を具ふ。本堂は現に國寶建造物に列し、寛永年間、桃山城御成殿の遺構を移せしものにして、當寺舊方丈なり。堂は境内中央にありて東面し、桁行三間、梁間四間、單層、屋根入母屋造、柿葺、外観全く書院造の形式を具へ、正面廣縁の板天井は世に血天井と稱し、伏見城内鳥居元忠割腹の遺物として有名なり。又屋臺入母屋破風に施せる三つ花玄魚の彫刻は精巧奇抜アカンサス模様に近き系統に屬し、奇抜なる意匠多き桃山時代にありて珍奇奇たるを失はず。堂内部は悉く疊敷、中央左右三區に分ち、更に之を六室に區分す。中央は即ち佛壇の間に於て釋迦如來、普賢、妙徳二菩薩像並に元菴普寧像を安置し、各間仕切欄干には狩野山樂筆淡彩山水樓閣圖を貼る、其雅致亦稱すべし。蓋し本字は外観の清通典麗よく山城醍醐三寶院書院及び南禪寺大方丈と同一趣致に出で、桃山朝書院造の貴重なる遺構となすべし。寺寶中、絹本着色元菴和尚像(一巻・同元菴和尚像(自贊)一幅・紙本着書東廣惠安堂古降伏祈願文(同八年九月二十五日)一巻、同東廣惠安堂號勅書(同二年三月二十三日)一幅は共に國寶たり。元菴和尚像一幅は現に恩賜京都博物館に出陳中なり。他に古文書、古書畫等多數を藏せり。

靈源寺

京都市上京區西賀茂。

臨濟宗相國寺派。
清涼山と號し、當派本山たり。初め後水尾天皇、一絲文守に歸依し給ひ、丹波千ヶ畑の草庵より京都に

迎へ給ふ。一絲即ちこの地を相して草庵を結び寛永十五年、帝より靈源庵の名を賜はる。爾來靈源庵極めて厚く、寛文五年には御幸あり、翌六年清涼山靈源寺の勅額及び一派本山の寶輪を賜ふ。時に寺域擴張さる。法皇の遺勅に依り、法體香衣の形像を作り、其の御胸中に象牙を納めらる。靈元天皇勅願所の繪旨を賜ふ。一絲も岩倉家なるを以て、爾來同家の關係を深く明許の變には尙具痛當寺に遺れ、降りて具觀公また顯を此地に避けしと云ふ。



(堂本寺源靈)

光悅寺

京都市上京區靈峯光悅町。

日蓮宗。

境内九百八十坪、墓域に岩倉家の墓あり。什寶には宮輪、御賜物及び禪家の遺墨多し山上に幸茶壇と稱する茶亭あり。後水尾法皇御幸ありて終日當山の景を御遊覽ありし御舊跡なりと傳ふ。

大徳山と號し、本法寺米なり。元和二年、徳川幕府此地を本阿彌光悅に賜ふ。光悅即ち一字を創し、其敬する所の本法寺第十二世日慈を請じて開基とす。寛永十四年二月三日、光悅歿し、特に本寺に葬る。境域約一千坪、山頂層重し風光極めて佳、特に秋季の紅楓を稱せる。本堂には光悅の木像を安置す。寺寶には光悅筆、光悅畫、光悅書、佛、愛玩の壺等を藏す。庭園は光悅の築つ所にして夙に著名なり。園中茶席四棟あり、大徳庵は即ち光悅の遺跡たり。境内に光悅の墓あり。



(堂本寺悅光)

源光庵

京都市上京區靈峯北靈峯町。

曹洞宗。
靈峯山と號す。貞和三年、菅野大徳寺二世嚴壽

寺運衰々たるに引きかへ、遠谷佛光寺は庶民群衆して繁昌極まりなしと述べたり。十三世光教の時、後土御門天皇より門跡寺たるの綸旨を賜ふ。以て眞宗最初の門跡なりと云ふ。次で應仁の兵燹に堂宇悉く焼亡せしが、文明十五年に至りて再建成る。是より先文明元年、光教職を性善の男經家譲りしが、經家は本願寺蓮如の化に歸して其門に投ぜしに依り、遂に經家を退け、其弟經家をして十四世と定めたり。仍りて經家、佛光寺を出で、山科の地に一字を祖し眞正寺の舊號を稱す。これ即ち現眞正寺派眞正寺の祖なり。時に佛光寺の末寺四十八坊中の四十六坊及び諸國門徒數萬人經家に從ひて本願寺の門徒となり、佛光寺に留まりしもの僅に境内の六坊其他一小部分のみなりきと云ふ。

爾來佛光寺の寺運頓に衰頹す。天正十四年、十六世紀總の時、豐臣秀吉、東山邊谷の地に大佛殿の遺體を企圖し、其別圖五條坊門高倉の地方、百間及び黄金若干米五百石を附して本寺を移轉せしむ。之れ即ち現寺地なり。寛政二年、兩堂の再建を企て、翌年梵鐘を改鑄し、文化八年、祖堂を落慶す。天保十三年、學寮を起し、宗學の興隆に努む。元治元年七月、兩堂兵燹に罹りて烏有に歸す。慶應二年、家教伏見宮家より入りて當寺二十六世の法統を嗣ぐ。明治十六年、御影堂を重興し、明治三十八年四月、阿彌陀堂の再建を成就したり。現に末寺三百四十一箇寺、教所二十六を統ぶ。

●寺域五千六百餘坪。堂宇には阿彌陀堂・御影堂・寫殿・白書院・典御殿・黒書院・茶所・鐘樓等あり。寺寶には、法然自作木像・觀賢自作木像各一軀、後醍醐天皇宸翰・觀賢傳傳二卷等其多數を藏す。

●了海上人忌(一月七日、八日)、報恩講(十一月二十一日―二十八日)。

平等寺 (因幡)

●新義眞言宗智山派。京都市下京區松原通烏丸東入。

●日本三如来の一にして、俗に因幡樂師及び因幡堂の名を以て著聞す。寺傳に據れば、本尊樂師如来は天竺祇園精舍療病院の本尊なりしが、後三國に流轉し、長徳三年、因幡國司權行平賀路津沖の海中に之を得、引上げて以て安置し奉る。行平任滿ち歸京するや、長保五年四月七日、飄然として彼像烏丸高辻の行平の宅に飛來す、依りて其像を基盤の上に安置し、邸を寺となして因幡堂と號せり。其の後光、台座は因幡國に止りて座光寺の本尊となるといふ。これに依りて當樂師如来像、古來善光寺阿彌陀如来、嵯峨釋迦堂(清涼寺)の釋迦如来と共に世に三國傳來の日本三如来と稱せられたり。一に又天徳三年、行平勅使として因幡國一ノ宮に下向、神事既に終りて歸京せんとせしに、端なく病を得て臥床す。時に夢告を蒙り、賀留津の海中を採りて之を得しかば歸京後、邸を寺とし、之を安置す。されど三代實錄には、貞觀元年正月十日の條に、既に正三位權中納言行平朝臣高檢奏請して山城國葛野郡別墅を道場として平等寺と稱せしことを載せたり。草創年代思ふべし。承安元年四月、行平の男光朝の本願に依り、高倉天皇より平等寺の勅額を賜ふと云ふ。後ち治承元年四月、回祿に罹り、同三年、願屋を賜ひて再建す。其後屢々火災に罹り、永享二年、將軍足利義教之を再建し、自筆の緣起三卷を納む。室町時代、衆庶の信仰特に盛なりし事、狂言等に凡ゆる所にて知らる。其後天明の大火に堂塔寶藏等延焼し、什寶等總て烏有に歸す。元治元年、復又兵燹に罹り、荒廢其極に墮す。後ち殿堂の重修を圖り、明治十九年、其工を竣

徳正寺

●眞宗大谷派。京都市下京區富小路通四條下ル。

●喜愛山と號す。元和年間、善了の創建にして、其祖願知を開基とす。もと勝久寺と號し東山大谷の邊にあり。寛正六年、山徒大谷を襲ひ觀賢の廟墓を破却せんとするや、願知よく祖廟を守護して變事なからしむ依りて蓮如之を慕して感狀を寄せ、其子孫ながら永く祖廟を監せしめたり。願知六世の孫善了の時、織田氏の來政ありしも、亦能く其護持に努む。時に善了改めて之を寺刹となすや、願知を以て開基に推す。次で買元を経て、寛文元年、元澄の時に至り現派に屬し、其後寺號を改めて徳正寺とす。後ち二條猪熊に移りしが、二條城遺體の御、三轉して現寺地を定め、以て今日に及ぶ。

●境内地三百餘坪。堂宇に本堂・庫裡・納骨堂・山門等を具ふ。本尊阿彌陀如来立像は丈高二尺餘、安阿彌の作と傳ふ。

淨教寺 (燈籠)

●浄土宗。京都市下京區寺町通四條下ル。

●多聞山と號す。承安四年秋、平重盛、小松第中に方十二間の一字を建立して淨教寺と號し、在世中常に四十八の燈籠を掲げ二百八十餘人の女房と共に念佛行道せし所謂燈籠堂の古蹟なり(正林寺の項參照)。後ち文安年間、僧立譽定意、一色左京之進と企り東洞院五條に移す。(今東洞院通高辻下の燈籠町之なり)。後花園天皇康正年間、開基重盛を追憶せられ、其古蹟再興の舉を嘉し、淨教寺の宸翰勅額を賜ひ、更に隔門門匠筋脚を御寄附せらる。天正十九年、京洛の條坊整理に際し、今の寺町四條下の地に移轉し、更に朱印六石を附せらる。徳川氏又之を編ぐ。

●境内地三百七十六坪。本堂は桁行六間、梁間七間入母屋造、本瓦葺の建築にして、文政十三年六月改修なり。庫裡・客殿は文久二年十一月の再興に係る。其他鎮守熊野三社権現等あり、本堂前には有栖川宮徳仁親王顯字、知恩院門主編御定撰文になる燈籠堂記念碑建つ。

大雲院

●浄土宗。京都市下京區寺町通四條下ル。

●龍池山眞安寺と號し、天正十五年、眞安の開創に係る。眞安は安土宗論に於ける淨土宗側の一人として著れ、初め、天正十年、織田信長父子本能寺に憤死するや、其生前の知遇を偲び小庵を營みて其菩提を弔ひしが、同十五年、勅命を蒙りて、信忠自及の地御池御



(堂本院雲大)

●境内地二千八百餘坪。堂宇に本堂(梁間十一間、桁行十二間、單層)・圓山堂(元和元年信譽建立)・釋迦堂(天正十八年眞安建立)・地藏堂(俗稱變入地藏天保三年觀譽建立)・金佛堂(天正年間眞安建立)・經藏(元祿二十年十月觀譽建立)・鐘樓(豐臣秀吉建立秀頼再

法然寺

●浄土宗。京都市下京區寺町通佛光寺下ル。

●法然山と號し、一に極樂殿と云ふ。圓光大師二十五輩場の一なり。法然の門弟熊谷蓮生房の開創を傳ふ初め、錦小路東洞院に在りて熊谷寺と稱す。寺傳に依れば、蓮生房經國武藏に歸らんとするに方り、師法然に請ひて自作の木像を得、歸郷して一字を削し之に安置せしが、後ち再び京に上り草庵を結び、彼の木像を亦此處に移安す。是れ本寺の起源なりと。後伏見天皇御不豫の際本像の夢告により阿彌陀佛に歸依せられ、御不豫ありしかば本像を齋中に迎へ給ひ本寺に宸筆の勅額を賜へり云ふ。天正年間、寺基を現地に移す。

●日蓮宗。京都市下京區五條通堀川南入。

●大光山と號し、當宗大本山の一なり。宗祖日蓮を以て開山となす。初め、日蓮、建長五年八月、鎌倉の松葉谷に草庵を結び法華堂と號す。弘長三年五月、之に大光山本願寺の號を命じ、其上足日明に付囑す。嘉祥三年十一月、後醍醐天皇本寺を勸願所とせらる。其後、教派の分裂ありしが、宗風日に隆盛となり貞和元年、



(景全寺園本)

梅通の現地に移せり。爾來、寺運漸く隆盛に赴き、遂に塔頭一十院を算するに至る。康永の頃より宗號に就きて對立せし山門對本宗の軋は天文五年三月、叡山西塔の華王房對本宗信德松本某の法論に導火せられ、同年六月、山徒は大兵を擁して京洛内外日蓮宗寺院二十一箇寺を擧げ之を悉く破却したり。之れ所謂天文の

法亂にして時に本寺亦其難を免れず、僧徒多くは塚に逃る。幕府亦一時禁教の令を發せしが、後天文十一年十一月、歸洛の勅許あり、本寺亦之に再興さる。正親町天皇永祿十一年、足利義昭の上洛に際し、當寺其居館となり、三好黨の襲撃を受けしも、本堂其他には災害なきを得たり。天正十三年十一月、豐臣秀吉兼川村の内寺領百七十石を付す。徳川家康亦之に従ふ。第十七世日輪は今出川家の出にして、爾來歴代住持は同家の嫡子たるを例とせり。現存の塔頭子院は勸持、眞如、戒善、證量、了圓、林昌、本妙、智妙、本栖、了光、智了、英鏡、一音、本立、智光、久成、瑞雲、多門、圓觀、本質、松岡、常證、一妙、信正の二十五箇院にして、現に統轄する末寺約二百九十箇寺なり。

●寺域二萬一千三百餘坪を有し、本堂・祖師堂・立像堂・羅刹堂・仁王門・三光社・經藏・方丈・入藏社等あり。就中、經藏は國寶建造物にして、一に輪藏とも稱し、三間四面、屋根寶形造、本瓦葺の建築、もそ足利義政之を建立し、東叡山板の大藏經を寄せしが天文五年に上り現在の堂は慶長十二年、太田實高の再建に係る。内部の藏經は今尙完全に維持せられ、内外の彩色並びに裝飾、壁面に描かれたる羅漢天人像(長谷川與一重治筆)等鮮明に當初の面影を殘せり。寺傳によれば仁王門又經藏と共に當時の建立に係ると云ふ。本堂は西面し、本尊に法華經及び日助像を安置す。祖師堂は本堂の南に並び中央に日蓮、脇壇に日朝、日印、日靜、日傳等の各像を置く。本堂の南に立像堂あり。本尊釋迦佛は日蓮伊東の配所にて感得する所の靈像なりと傳ふ。寺寶に日蓮筆夕顏曼荼羅・宋徽宗皇帝筆蘭荷等其多數を藏す。●建修會(四月二十八日)、伊東法親會(五月十二日)

松葉谷法親會(八月二十七日)、御會式(十月十二日)。

光園寺

京都市下京區松原通西洞院東入。

●眞宗大谷派。

●草創沿革詳ならず。一に此地は九條堂買の別業花園亭の故址なりと云ふ。顯賢の反古裏書に見ゆる觀賢の往生地所謂西洞院の禪坊として著名なり。然るに萬壽寺通西洞院東入大泉寺(次項參照)亦同禪坊の舊址と稱す(尙ほ觀賢の往生地に就きては上京區小山下總町法泉寺、右京區山ノ内町角坊別院の各項參照)

大泉寺

京都市下京區萬壽寺通西洞院東入。

●淨土宗。

●花降山と號す。創建年代不詳なれども松原通西洞院東入光園寺(前項參照)と同じく本地寺も九條關白堂買の別業の地に於て、本寺亦觀賢禪坊の禪坊とせられ、霞御坊又花園院と稱せらる。中比、賢公堂宇を中興す。寛永七年、賢觀の時本尊阿彌陀佛に就きて天華降下の奇瑞ありしより一に花降如來と稱せらる。

明王院

京都市下京區松原通西洞院東入。

●眞言宗東寺派。

●俗に松原不動の名を以て著聞す。本尊に弘法大師作石佛不動明王を安んず、朱鳥五年、道觀の草創と傳ふ。平安遷都の後空堀此地に來り石佛を作りて安置す。時に風謠ありて王城鎮護の爲め四方に石藏を作り經典を收む。此地亦其一二なりと傳ふ。天曆年間、鴨川氾濫し、堂舎流失し、爾來荒廢に歸せしを山門の僧普慈

新善光寺

京都市下京區五條通寺町西入。

●時宗。

●維新前まで時宗御影堂派の本山にして、現に時宗別格寺、一に御影堂と稱す。天長年間、檀林皇后(橘嘉智子)の御建立に係り、開基は空海なりと傳ふ。初め、信濃國善光寺如來を模影して本尊とす。是れ新善光寺又御影堂の稱ある所以なり。弘安年間、住持王阿時宗開祖一編に歸して二祖他阿の門に入り、眞言宗を改めて時宗となし、御影堂派(王阿派)の一派を始む。もと洛西關原にあり、後東洞院春日町に移りて檀林寺の別所たりし尼寺なりしが、承安年間の喪上後、更に寺基を東河原院に移す。其後應永二十八年の佐女牛室町の北、享祿二年、五條新町の北等に轉々し、天正十五年、遂に現寺地を定む。明治の初年、回祿に罹り、同二十七年、古堂を移建す。俗に名高き御影堂扇は往古平教盛の妻女清照入道して蓮華院尼と號し、當寺に閉居して阿古女扇を製作す。偶々疫病流行し、帝寬阿闍梨其扇面に呪文を書して甚だ靈驗ありしかば久壽の扇としてはやすに至れり。

●寺域二百五十餘坪。寺寶中、地蔵菩薩半跏像一軀並に紙本着色一週上人繪卷四卷は國寶に指定せらる。地蔵菩薩は壬生寺所藏のものと同形にして玉眼入、粉混塗、極彩色にして、鎌倉時代の製作なり。一週上人繪傳は一週傳の別傳にして全部十二卷中、當寺藏するは其第三、六、七、八の四卷なり。他は現に前田家に

金寶寺

京都市下京區新町通正面下ル。

●眞宗本願寺派。

●もと天台宗に屬す。寺傳に依れば、桓武天皇延暦十一年、最澄夢告に感して樂師如來像を刻し、京都四條橋熊野に一字を刻して之を安置し、妙法蓮華堂と號す。爾來歷年春秋二季、聖朝無窮國家安康の祈禱を修せしが、醍醐天皇弘仁九年、準澄の時、崇德殿金寶寺の勅號を賜はる。醍醐天皇延長三年夏、聖上御病あり宣下を蒙りて祈禱を奉修せしに、忽ち御平癒あらせられ、詔を奉じて本尊開扉を修行す。延應元年三月二十八日、當寺五十七世道珍、觀賢の門に入りて明隆と號せしより、天台宗を改めて現宗となす。即ち明隆(俗名水無瀬基信弘安四年九月寂)を以て當寺中興とす。同年九月、觀賢の來謁あり、明隆新に一庵を營み、同年十二月、之に請す。觀賢の居住凡そ五年と傳ふ。嘉祥元年、存覺來住して大藏經を閲し、且つ本尊靈驗記、創建記、道珍傳文等を著す。天正十九年十月に至り、寺基を六條堀川通に移し、次で慶長六年、明賢の時、觀賢自畫像を修復し、准如より英書を加へらる。天明四年、明賢の時、法如より觀賢自畫像を寄せらる。明治二十九年五月、本願寺門前の地に寺域擴張のことありて、現地に移る。

●寺寶として、伏見天皇宮藏二幅・觀賢自畫像一幅

明覺寺

京都市下京區新町通正面下ル。

●眞宗本願寺派。

●延徳年中、教宗の開創に係る。教宗は補氏、攝津の人なり。延徳二年、蓮如に歸して其門に入り教宗と號す。次で越前島下郡桂本郷に一寺を草創するや、蓮如之に明覺寺の號を寄す。慶長十三年三月、准如の命に依りて寺基を京都七條堀川本願寺門前町に徙す。明治二十九年三月、本願寺の門前に空地を這るに當り更に現地に三轉す。

常樂寺

京都市下京區花屋町東中筋東入。

●眞宗本願寺派。

●本願寺三世覺如の長子存覺、歷應元年、洛西大宮(六條)の地に一僧坊を營み、常樂庵と號して是れに居る。以て本寺の濫觴となす。存覺は光玄、正應三年六月四日生る。幼にして南都北嶺に遊び、學深く顯密二道に達し、識博く外典餘業に貫る。延慶三年正月、覺如の嗣法となりしが、爾來、覺如に従ひて東海、北陸の諸地方に巡化し、入りては祖書の講述に努めて大いに宗意を顯揚す。元亨二年、康永元年の兩度故ありて覺如と父子の誼を斷ちしが、觀應元年、舊に復す。門侶中、存覺の學識に隨す頗る多く、就中、佛光寺了

源最も顯れ、其山科興正寺(後の佛光寺)の確立は存師
興正寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師
興正寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師

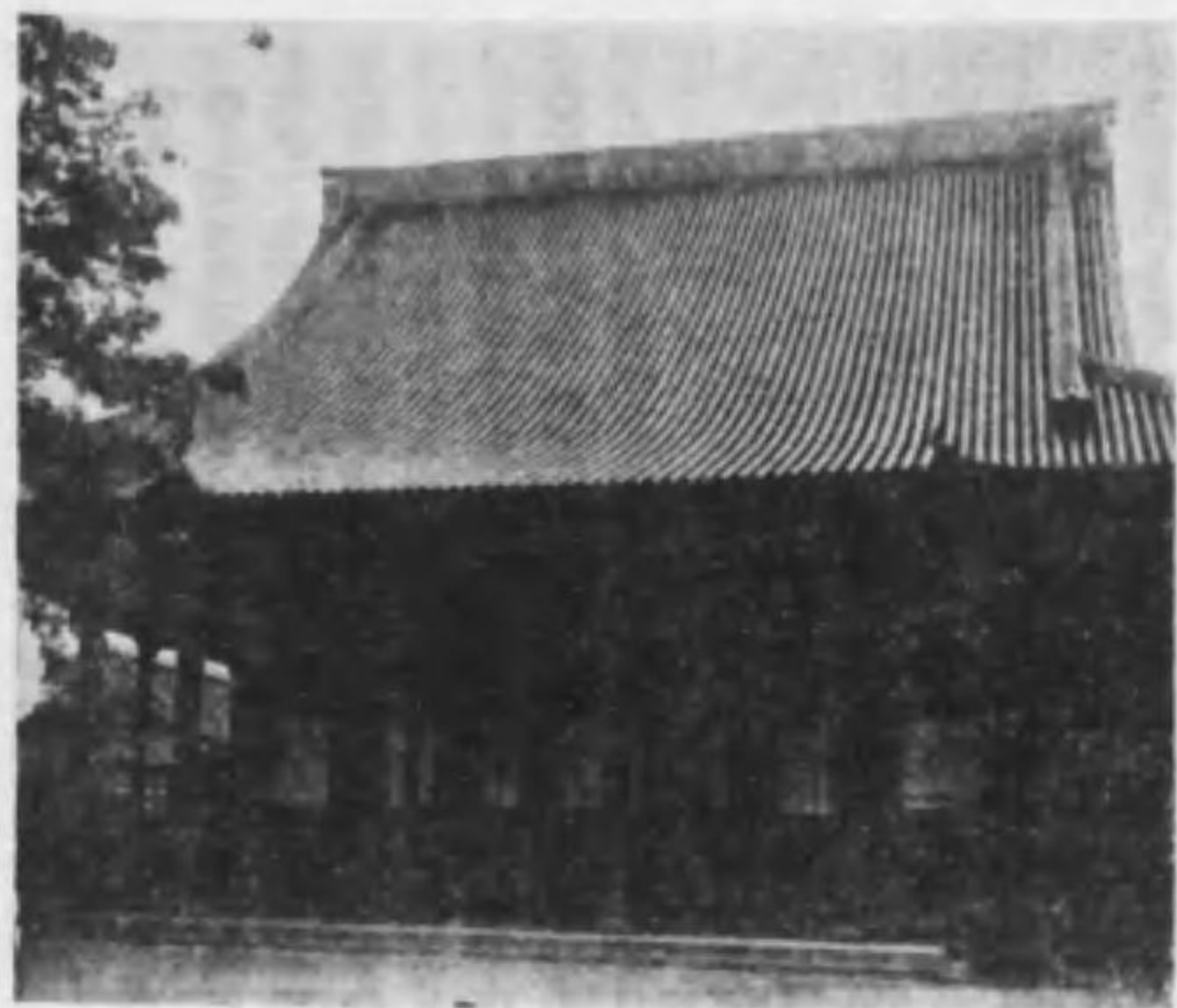
興正寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師
興正寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師

興正寺

京都市下京區堀川通七條上ル

眞宗興正寺派

興正寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師
興正寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師



(堂本寺正興)

興正寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師
興正寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師

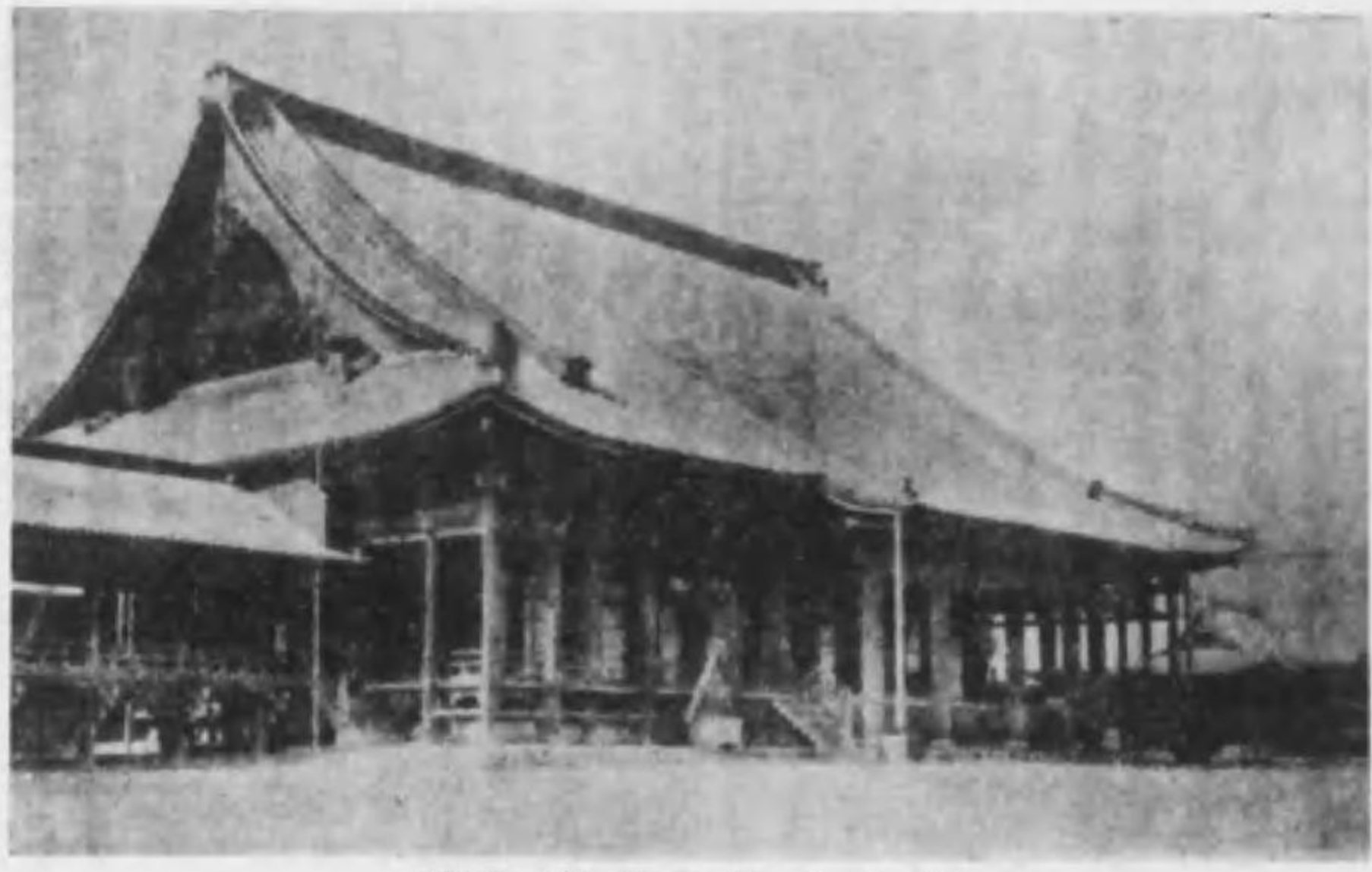
興正寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師
興正寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師

本願寺

京都市下京區堀川通七條上ル

眞宗本願寺派

本願寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師
本願寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師



(堂院新阿寺願本)

本願寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師
本願寺(京都市下京區堀川通七條上ル)の確立は存師

末亦大いに振ひ、本願寺中興の業茲に成る。明應五年九月、大阪石山に坊舎を營み、晩年を茲に過せり。かくて山科本願寺は日に隆盛に向ひ、時人「寺中廣大無邊、許殿只如佛國」、在家又「異洛中」と嘆賞するに至りしが、天文元年八月、近江六角定頼の日蓮宗徒と共に來攻するに遭ひ、一山堂宇悉く焼亡せしに依り第十世證如は祖像を奉じて大阪石山の別堂に遷り此地に本寺を營構す。永祿十二年、第十一世顯如の時後奈良、正親町兩天皇御即位の資を獻ぜし功により、勅して門跡に列せらる。これより先き同七年十二月、堂宇焼亡せしが、後ち幾許もなくして舊に復す。元龜元年、織田信長本寺の境内に城砦を築かんとし、寺基を他に移さしめんせしが、顯如之を拒みしにより、同年九月、信長數萬の兵を以て來攻す。爾來、年月を重ねて遂に之を攻略する能はず、即ち天正八年朝廷に奏して本願寺と和親を結ばん事を請ふ。朝命一度出づるや顯如地を擧げて之を附し、祖像を奉じて紀伊蘇我に移る。同十一年七月、和泉貝塚に移り、同十三年、更に天滿に移り堂宇を營む。同十九年八月、豐臣秀吉京都七條坊門堀川の地を寄せ之に移らしむ。即ち現今の地なり。文祿元年二月、天滿の祖堂を茲に移し、舊地を興正寺に附す。同月顯如示寂し、教如後を繼ぎしが、慶長元年十月、秀吉教如を説きて隱遁せしめ、弟准如を推立す。これ顯如の遺志によること云ふ。同七年二月、教如別に一寺を建て、同じく本願寺と稱し、門下の一部亦これに赴く。これ即ち東本願寺なり。同八年十月、幕命によりて祖墳を延年寺山に移す。元和三年十二月、浴室より火を發し、堂宇第宅悉く焼亡す。翌年冬、影堂並に本堂を再興するや、方向を變じて東方を正面とす。寛永十三年八月、第十三世眞如の時祖殿成る、即ち現今の堂宇なり。同十五年十二月、本堂



(實圖) (國靈飛寺願本)

の西北に學寮を起し、門下の子弟をして宗學を研鑽せしむ。寛永九年、聚樂、伏見兩城の建造物取除かるや、其一部たりし四脚門、車寄、大玄關、大廣間、白書院、同じく附屬の能樂臺、飛雲亭等に移して茲に建

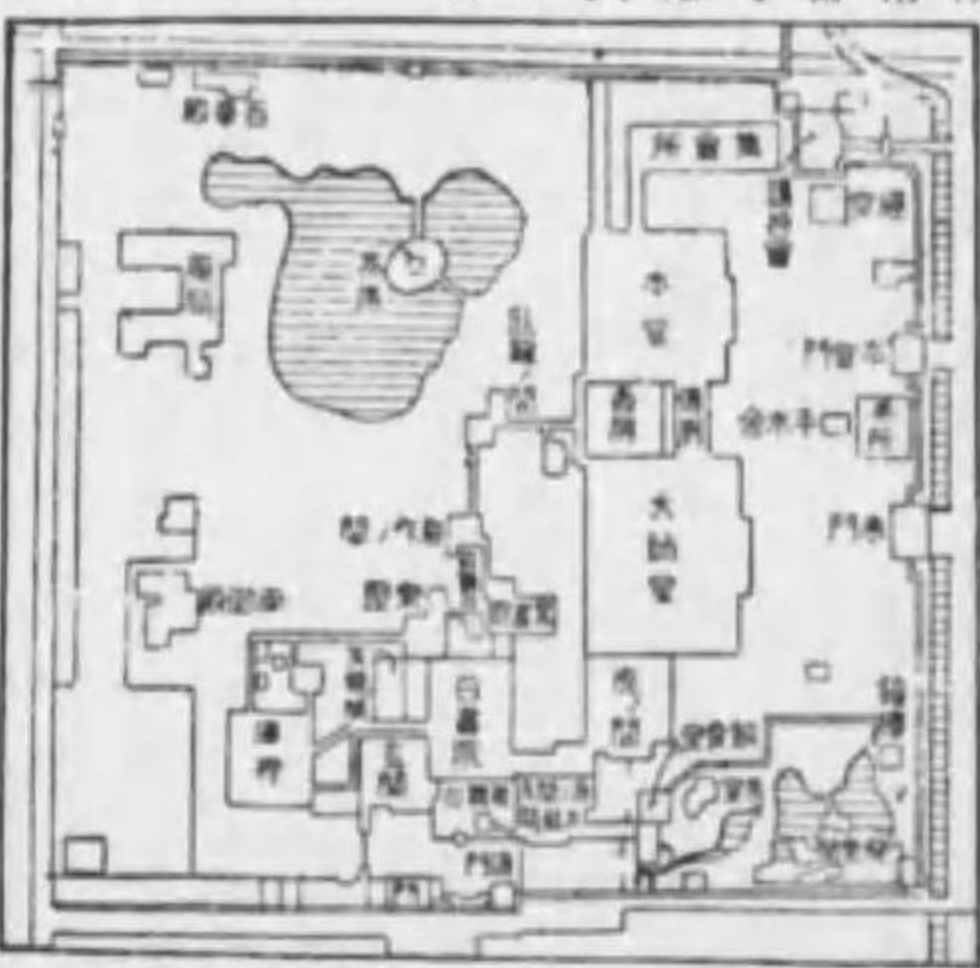
堂は西山久遠寺に移す。時に新築或は重建せる堂宇跡からず、大いに輪奐の美を添ふ。寛政元年正月、市内の大火に本堂の正門及び接待所焼損す。よりに大阪津村別院の正門を茲に移建す。文久元年三月、第二十世廣如の時、宗祖の六百回忌法要を修し、孝明天皇宣筆の報恩講式、歌徳文各一卷を下賜せらる。明治十二年九月、勅額見眞二大字を賜はり、之を祖堂に掲ぐ。同二十九年、門前の地を買添へ、官に乞ひて境内八千七百七十坪を復舊す。又大仲居(台所)の建築を起し、翌年十一月成る。蓋し舊大仲居は伏見城の遺物にして、結構他に比類なかりしが、明治維新の際故ありて取毀つといふ。又總會所を油小路御前通下(西側)の地に再建し、専ら布教の道場となす。同四十四年、祖忌を修するに當り、朝廷より御紋章附製香爐並に香華料を賜ひ、昭和二年、先住明如に従一位を追贈せらる。現今末寺九千七百六十五箇寺、教會說教所一千四百四十七を統ぶ。
●寺城西六條に於て、東は堀川通、南は北小路通、西は大宮通、北は花屋町通に限らる、三萬六千坪の地を占め、堂宇東面し、堀川通に臨みて表門、本堂門を開く。本堂門を入れば正面に本堂即ち阿彌陀堂あり。桁行五間、梁間七間(實尺東西二十一間餘、南北二十三間)單層、屋根入母屋造、本瓦葺の大建築にして、寶曆十年、當寺第十七世法如の再興に係る。其規模の宏大にして、木割の雄大なる、眞に木造建築として世界稀有の大建築たり。其細部の繪棟彫刻、裝飾彩色等何れも麗麗華奢にして、よく徳川中期の特色を發揮す。内陣中央須彌壇上には本尊阿彌陀如来立像を安置し、左脇壇に龍樹、曇鸞、善導の畫幅(筆者洞簀)、右脇壇に天親、通禪、源信の畫幅(筆者養朴)を掛く。内陣の兩側に餘間あり、北に聖德太子、南に圓光大師の畫像

を安す。本堂の北には集會所、南に大師堂あり、各渡廊を以て連絡す。大師堂即ち御影堂は其規模本堂より稍々大にして桁行七間、梁間九間(實尺東西二十四間半、南北三十一間半)、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、寛永十三年、第十三世眞如の再建に係る。内陣中央須彌壇に厨子を置き、内に寛元元年、七十一歳自作と傳ふる宗祖親鸞坐像を安置す。左壇には前住上人、右壇には歴代蓮座像の雙幅をかけ、北餘間に十字尊號、南餘間に九字尊號を安んず。蓋し大師堂は常に其規模の大なるのみならず、各部の木割、斗栱の制、繪棟彫刻其他の手法等何れも徳川初期の特色を發揮せる貴重なる遺構なり。殊に其内部の構造に於て、外陣の配分大なるは一般信徒の參集に具ふるものにして、よく眞宗佛堂の典型を示せり。大師



(實圖) (台師能真寺願本)

堂の南に虎の間を設け、桁行十五間、梁間十一間三尺五寸、弘化四年冬落成せしものにして廣如の建立に係る。境内の東南隅に鐘樓あり。桁行梁間各一間、單層屋根切妻造、本瓦葺、第十二世准如元和六年二月の再建に係り、寛元元年、之を修飾す。其建築年代徳川時代に屬すと雖、様式手法等すべて桃山時代の餘影を帯び、内部所吊の銅鐘一口には藤原通憲入道信西の銘、及び仁和寺門跡の梵字書あり。太秦廣隆寺より移せるものにして、現に國寶に指定せらる。表門と本堂門の間に茶所、本堂門の北に經堂あり。其北即ち境内の東北隅に鼓樓ありて東南隅の鐘樓と相對す。寺の南側、北小路に面し、東より四脚門、大玄關門、台所門並ぶ。四脚門は一に日暮門といひ、其結構善美を盡せり。形式四脚唐門にして、屋根檜皮葺、前後に大唐破風を附し、左右千鳥破風入母屋造なり。伏見城の遺構なりしを寛永九年に移建すと云ふ。斗栱間、軒下及び左右側壁に種々の動植物、人物の丸彫を嵌め、扉も上部は透彫、下部は嵌板に獅子の半肉彫を打附け、門の内外共黒塗地に鍍金の金具を用ひ、彫刻又悉く彩色を施す。今剥落して人目を眩射するものなしと雖、却つて古色拘すべく、大徳寺唐門と共に桃山時代の精神を遺憾なく發揮せるものといふべし。台所門を入れば正面に庫裡、更に進めば本堂、大師堂の西裏に當り南御殿、奥局、百華殿、臥龍の間、耕作の間等園池を繞りて點在す。玄關門を入り、正面玄關を進み芙蓉の間を経て書院(對面所及び白書院)に至る。桁行十八間、梁間十四間、上中下段、前及び裏子縁附、屋根入母屋、妻入造本瓦葺にして、内部は南側に鴻の間(對面所)西側に菊の間、雁の間、雀の間、白書院あり、白書院亦裝束の間、若明間、二の間、三の間に分たる。伏見城の建築を寛永六年に移建したるものなり。上段の間及び下段



(圖界寺願本西)

の間の上部には大欄ありて廣或は雲龍の透彫を飾り、各室の欄楯、屏風繪は狩野與意、狩野了庵、狩野秀信、狩野探幽、圓山應瑞、海北友雪等徳川初期畫壇の巨擘の筆に成るもの多し。其前面の空地に北面して表能舞台あり、單層、屋根切妻造、檜皮葺にして、其桁行四間、梁間一間、單層、屋根切妻造、檜皮葺の橋掛は前記四脚門の東北側に南面せる玄關より連りて舞台に通ず。共に伏見城の遺構なりといふ。前記白書院對面所の東南隅に當り、斗栱間、軒下及び左右側壁に種々の動植物、人物の丸彫を嵌め、扉も上部は透彫、下部は嵌板に獅子の半肉彫を打附け、門の内外共黒塗地に鍍金の金具を用ひ、彫刻又悉く彩色を施す。今剥落して人目を眩射するものなしと雖、却つて古色拘すべく、大徳寺唐門と共に桃山時代の精神を遺憾なく發揮せるものといふべし。台所門を入れば正面に庫裡、更に進めば本堂、大師堂の西裏に當り南御殿、奥局、百華殿、臥龍の間、耕作の間等園池を繞りて點在す。玄關門を入り、正面玄關を進み芙蓉の間を経て書院(對面所及び白書院)に至る。桁行十八間、梁間十四間、上中下段、前及び裏子縁附、屋根入母屋、妻入造本瓦葺にして、内部は南側に鴻の間(對面所)西側に菊の間、雁の間、雀の間、白書院あり、白書院亦裝束の間、若明間、二の間、三の間に分たる。伏見城の建築を寛永六年に移建したるものなり。上段の間及び下段

の園あり、瀨の間天井には狩野永徳波瀾を圖し、松戸... 瀨の間天井には狩野永徳波瀾を圖し、松戸... 瀨の間天井には狩野永徳波瀾を圖し、松戸...

西光寺(九條) 京都市下京區九條下町七條上... 西光寺(九條) 京都市下京區九條下町七條上... 西光寺(九條) 京都市下京區九條下町七條上...

金光寺(市屋) 京都市下京區下町五條下... 金光寺(市屋) 京都市下京區下町五條下... 金光寺(市屋) 京都市下京區下町五條下...

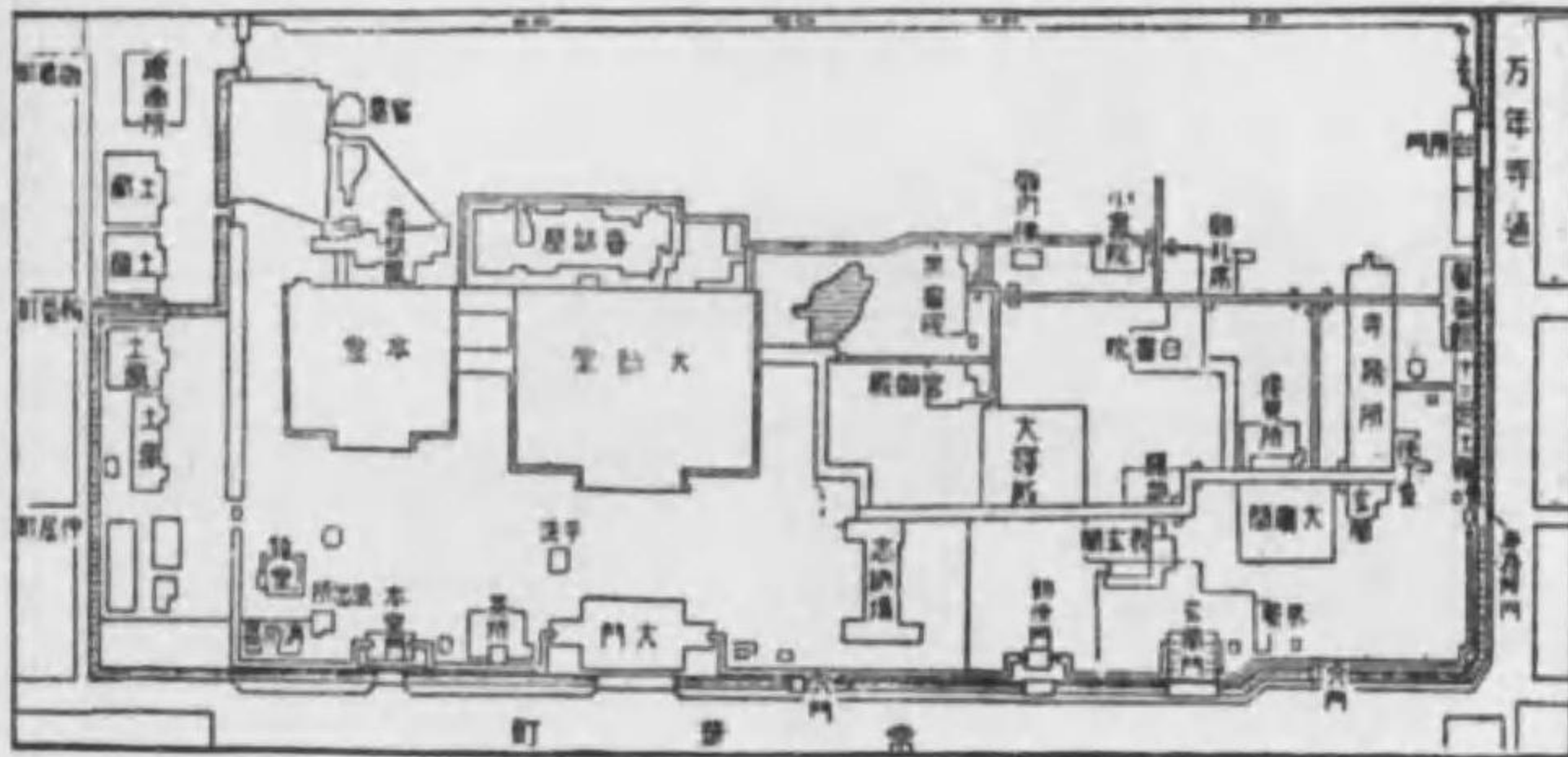
二百軒を遺蹟の賣に上ると云ふ。文治四年六月、六條... 二百軒を遺蹟の賣に上ると云ふ。文治四年六月、六條... 二百軒を遺蹟の賣に上ると云ふ。文治四年六月、六條...

淨土宗 京都市下京區下町市廳下... 淨土宗 京都市下京區下町市廳下... 淨土宗 京都市下京區下町市廳下...

正行院(寺) 京都市下京區東洞院通七條下... 正行院(寺) 京都市下京區東洞院通七條下... 正行院(寺) 京都市下京區東洞院通七條下...

各通に限らる。堂宇東面して鳥丸通に、本堂門、大門、動使門、玄關門を開く。本堂門を入れば、本堂即ち阿彌陀堂あり、桁行四十二間五尺、梁行二十六間二尺、棟高十五間五尺にして、内陣中央に本尊阿彌陀如来、右に天皇陛下聖壽萬歳、左に孝明、明治兩天皇の尊牌を各奉安す。北脇壇には聖德太子、南脇壇には元祖法然を安置し、餘間には龜山天皇尊像、龍樹、天親、曇鸞、道綽、善導、源信の六祖畫像を安す。大師堂は本堂の北に隣り、桁行三十五間、梁行三十二間三尺、棟高二十一間、夙に世界第一の木造建造物を以て稱せらる。内陣須彌壇上の厨子中に宗祖觀覺自作の坐像を安置す。北脇壇には前法主、南脇壇には歴代法主畫像を安じ、北餘間六字名號、南餘間九字十字の名號を掲ぐ。大聖殿は其北にあり、各堂宇皆渡廊を以て連絡す。本堂門は四脚門にして、初め家康、桃山城の遺構を寄せしが、數度の火災に罹り、現に菊及び桐の紋章ある扉を残すのみなり。大師堂門は所謂大門にして、屋根重層の樓門なり。樓上樓下共に三間に區劃さる。樓上には、釋迦、彌勒、阿彌の三尊を安置し、以て大經說法の會座を表すと云ふ。鏡天井の天人飛來の圖は竹内栖鳳の筆に係る。動使門は殿庭の正面にあり、門扉に菊花の六紋章あり、古來菊の門と稱す。本堂門と同じく、桃山城の遺構を移せし、數度の火災を経て現在のものは明治四十四年の再建に係り、樓に其門扉に昔日の面影を残すといふ。鐘樓堂は本堂の東南に在り、これ又桃山城の遺構と云ひ、明治二十七年往時の結構を模して復興せり。其他宮御殿、寶殿、白書院、黒書院等共に大師堂の北に一列をなす。就中、宮御殿は御所の一字を賜ひしものと云ふ。別邸池成園は下京區岡之町通中津敷町に在り、其廣袤に依りて百間屋敷とも稱せられしが、現に一萬六百餘坪を有し巨

殿廊の名を以て著るこれ周圍に根柢を繞らすに因る云ふ。又本山の正東に當るを以て、古來、東殿或ひは東園とも稱せらる。往古、嵯峨天皇第二皇子、源融公の別業たりしが、其後、宇多法皇に獻じて仙洞となし、後、祇陀林寺に改められし、水害ありて遂に廢絶すと云ふ。然るに寛永十六年以降、本寺の有に歸するや、伏見桃山の建築を移し、石川丈山をして林泉の風致を帯はしめ、以て宗主隱退の所となせり。後、安政、元治の二



(圖寺願本東)

度、殿廊の夾に福りしも、直ちに復舊され、風趣を改變することなかりき。園中、十三景あり、浦翠軒は欄前の池水に臨み、翠樹は水に反影し、樹間遙かに、比叡の連櫓を指見して絶佳なり。梅花園は、櫻樹の間に雙亭、石川丈山圖する磁石形の十二支は閣上の天井にあり、軒には直貫、敦盛(野水納筆)の像を掲ぐ。西は圓風亭に近く、東は印月池を臨み、池水深々たる間に二島あり、南島に在りし古への臥龍堂、今は僅かに遺址を存するのみ、南に雙梅齋あり、東方の漱枕居は印月池に臨み、類は妙法院宮眞仁親王の筆たり。東南の池上別に小島あり、源融の古墳と傳ふる九層の石塔を存す。繪道亭は、華頂宮尊親親王の扁額を掲ぐ。亭前の水盤は融公道愛の鑿窟と云ふ。亭を降れば東北に架せる四神窟あり、紫藤岸は東面に相對す。岸の邊は後水尾天皇より賜ふといふ。廊を去り、溪流を渡りて、西に出づれば、丹楓溪あり、櫻樹徑を覆ふ。亭觀中、圓風亭は園内の中央に在りて、園中の佳觀たり、嘉樂は聖上臨幸の際、玉座となりし所たり。其他、持佛を奉安する園林堂ありて園内幽靜なる地を占む。庭は小堀遠州の好みに在り、一樹一石の布配よく周圍と調和す。本園古來、騷人墨客の來遊盛んにして從て其詠賦又多く、就中、頼山陽の滄園記著者なり。本寺藏す所の寺寶頗る多く、今著名なるを舉ぐれば次の如し。觀覺木像一軀(常業の御影)、同上二軀(隨御影影教如作)、同上三軀(蓮位佛傳經)、後奈良天皇御影、輪跡集、後陽成天皇御影、孝明天皇御影、淨土三部經一部四册、同御製經十葉、法然筆六字名號、同筆一紙起請文、觀覺筆教東本教行信證六卷(東京淺草報恩寺舊藏、近年本寺に納寄せらる。同寺墨蹟、同淨土文類聚抄、同筆一念多念證文、同筆唯信抄文意、覺

如筆聖德太子奉讀一册・存覺筆讀本懷集一册・蓮如筆報恩講私記一册・金後筆薩知上人一期記・高麗版一切經等多くを藏す。

●報恩講(十一月二十一日―二十八日)。

宗徳寺(堂) 京都市下京區岩上通八條坊門北入。

●淨土宗西山派。
●世に粟島堂の名を以て著聞す。創建年代不詳なるも傳に曰く、應永年間、南慶と云へる僧、紀州粟島にて本地佛虚空藏菩薩の尊像を得得し、上洛の途次本寺に到るや、尊像俄かに重くして動かさず。依りて當寺を以て有縁の地となし、尊像を安置せし。古來、皇室御歴代の御歸依厚く、特に光格、孝明兩天皇の御尊信淺からざりき。維新後、荒廢甚しく、寺觀舊時の面影を有せざりしが、近年漸次復舊す。

九品寺(成善院) 京都市下京區九條町。

●淨土宗。
●一に成善院と號す。天承元年、鳥羽上皇城南の別宮にて九體の阿彌陀如来を供養し給ひ、又九品の淨土に擬して九箇所に寺刹を建立せられ、各九品佛を安置せらる。本寺は其遺跡の隨一にして、初め竹田村にありしを、文明三年現地に寺基を轉す。又本宗九品寺派の祖たる覺明房長西の所住も亦九品寺にして、上記九箇寺中の一たりしなるべし。落北平野附近にありて一流の本寺たりしが、九品寺流の衰滅と共に廢滅す。其他七箇寺に關しては詳ならず。

觀智院 京都市下京區大宮通八條下序。

●眞言宗東寺派。
●東寺(教王護國寺)の塔頭に於て、又現に當派別格本山なり。古來、諸塔頭中最も著れ永く其學頭及び別當職たりき。初め、正應年間、後宇多法皇西院に御隱棲あり。次で徳治、延慶年間、其御願によりて東寺二十一箇院建立さる。當院は即ち其願一にして、時の第三傳果實開山となり、賢實第二世たり。果實、賢實は賢實と共に東寺三賢と稱せられ何れも當時著名なる



(實觀又殿客院智觀)

學匠なり。慶長十一年、書院建立さる。創建以來五百有餘年、師資連綿として瑜伽三密の教を研め、其間堂宇亦災あることなく、近世、徳川家康、古書、古文書搜索の興、當院より得る所頗る多かりしといふ。
●境域、東寺境内北大門の東北畔にあり、堂宇に本堂・客殿・方丈・庫裡・山門等を具ふ。客殿は現に國寶建造物にして、本堂の西側にありて南面す。寺傳に慶長十一年建立と稱し、桁行七間、梁間(東側五間、西側四間)單層、屋根入母屋造、柿葺にして、前面屋根の一部に唐破風を置き、下石階段隱しの形をなす。形態輕妙にして書院造建築として格好の権衡を保ち、細部様式彫刻等取に至る迄よく桃山時代の特徵を存す。

悲み、官府に請ひて彼地青龍寺に安置せられし當像を承和十四年、本邦に將來すと傳ふ。初め、安祥寺に安置せられしが、承和二年、當寺に移る。法界虚空藏(古座禮に依る)安祥寺寶財帳に「五佛綠色」と見えたり。當寺移安前に大破し、機に本尊を殘せしを承和二年、大修理を加へ、爾來大正八年迄に四回の修理を行ふ。像は五軀共に鳥獸に乘り(金剛虚空藏(獅子)、寶光虚空藏(象)、法界虚空藏(馬)、業用虚空藏(迦樓羅)蓮華虚空藏(孔雀))、其の中法界最もよく當初の形を存し、金剛、寶光之に次ぐ、寶光の頭部半面、業用、蓮華の腰部、全部の寶冠、法界を除く寶髮持物、金剛裝身具、動物等總て後補に係る。作法何れも佛體蓮肉一本彫成、經衣等には所謂日本密教圖像に見ざる異制あり。彫刻素朴なるも、密教的精神の充溢せるを見るべく、入唐諸僧將來佛菩薩像の殆ど灰燼に歸せし今日、獨り茲に本像を見るは以て快事とすべし。雲龍圖屏風は夙に應舉の大作として顯れ、雲波の間に双龍を描き筆致精到、雄氣畫面に横溢す。古文尙書には元亨三年九月十六日左衛門權佐長賴書寫の奥書あり。

教王護國寺(東寺) 京都市下京區大宮通八條下ル。

●眞言宗東寺派。 一に金光明四天王教王護國寺秘密護法院と號し東に在りしを以て、西寺に對して東寺と稱し、又西寺を右寺又は右大寺と稱するに對し、之を左寺又は左大寺と稱す。現に東寺派の總本山にして末寺百四十二箇寺を統轄す。初め、桓武天皇、長岡より平安の地に都を移し給ふや、延暦十五年、大納言藤原伊勢人遣寺長官に任じ羅城門の左右に東西兩寺を建立して左右兩

京の鎮護とし、併せて新京の南門を莊嚴せしめ給ふ。之れ本寺の起原なり。これに就きて或は延暦十二年或は弘仁年間等の諸説存するも、新京への遷都十三年本寺建立十五年説を以て妥當とすべし。次いで同二十三年、多治比真人、遣寺次官となり、引續き伽藍の造營に努む。嵯峨天皇亦皇讓をつきて、當寺の興隆に御惠念あり。弘仁三年許田施人の時の御起請と傳ふるものに、「以三代々國王二爲二我寺檀越、若伽藍興復、天下興復伽藍資弊天下衰弊」とあり、以て如何に至聖の御崇敬厚かりしかを知るべし。同四年、東西二寺に於て始めて坐夏を行ひ、其布施供養は諸大寺の例に準ぜらる。同十四年正月十九日、嵯峨天皇、藤原眞房を勅使として西寺を守護に、本寺を空海に賜ひ、永く眞言密教の根本道場と定めらる。同年十月十日、本寺に五十口の定額僧を置き、専ら眞言宗の經律論三藏を研修せしめ、他宗僧との雜住制禁の官符を賜ふ。此の制は後ち二十四日となりしも、正暦五年八月八日を、長元九年十二月八日を、永久元年十一月更に十口を増加して舊制に復せり。天長元年六月勅して師資相承の道場、眞言弘傳の本所と定め、空海を以て遣東寺別當となし給ふ。同月二十日、參議左大臣直世王を勅使とし、講堂を建立し、仁王護國の本尊、並びに自刻の五佛、講善薩、五大忿怒、梵王、帝釋、四天王等の諸尊を安置す。時に初めて教王護國寺と號す。同三年十一月、大塔建立の工を興し、同四年正月、淳和天皇御不豫のため、本寺に於て樂師能過法を修し、御體快癒を祈願す、承和元年、始めて三綱の制を布き、空海を大阿闍梨とし、長者に補任す。これ東寺長者の初任なり。尙ほ、これに就き東寺勸賜の弘仁十四年説、又天長元年の別當就任期等の諸説あり。同二年正月、後七日の修法を營み、天地長久玉體安穩を祈り、此の事、爾後恒例とな



(寶圖)(門大南寺國護王教)

る。同月、年分僧試度の制創まり、寺基次第に整備充實せしが、此年三月二十一日、空海遂に入定す。翌年五月十日、其高足實慧、東寺長者第二世に補せらる。實慧亦大師相承の法燈を冒す事なく灌頂院を建立し、綜攝補智院法却の資を以て、東寺傳法結縁灌頂を創む。承和八年十一月初めて本寺に二ノ長者を置き眞濟をしてこれに就かしむ。同十四年十一月實慧に代りて眞濟長者第三世となる。第四世眞雅を経て第五世眞の代元慶三年五月清和天皇、師に就きて御落飾あり、第六世眞然の時、大塔雷火に罹り、損傷す。昌泰二年十月、清和天皇の高風に慣ひて、宇多天皇亦第七世の長者益信を師として御落飾あり。續いて延喜元年十二月、本寺に於て傳法灌頂御入壇あり、以て皇帝灌頂の儀失とす。益信の後を承

けて聖賢長者となるや、大いに諸堂を修營す。次代親賢の時、延喜十年三月、始めて御影供を修行す。承平天慶の頃擾亂絶えず、本寺に於て朝服退散、天下安泰の新願屢々行はる。長保二年、寶藏回祿に罹り、什寶寺家官符等の古文書多くは此時焼失せるもの、如し。承暦四年、白河天皇中宮賢子、御願成就祝賀の爲め大塔の遺建の工を起し、應徳三年に至り、七箇年の星霜を経て遺立の工を竣ふ。之より先き堂宇の朽損著しきものあり、延久元年九月、大風に遭ひ、灌頂院正堂、禮堂、護摩堂倒壞する等修營の必要に迫られ、屢々官廳に之が修造を請ふ。康和長治年間に至り、法橋忠實を別當とし鳥羽天皇の外戚三條大納言の支援により爾後、七箇年に亘りて堂舎佛像等一切の大修繕行はれし、悉くは完成に及ばず。大治二年三月、再び寶藏回祿に罹り、古記録重寶を烏有に歸せしむ。後保元平治の亂、治承元年の京師大火、源平の兵火等に罹り寺觀の衰頹著しく昔日の壯麗を失ひしが、建久八年、文慶、朝廷より播磨國を賜ひ、又鎌倉幕府の援助を得て、大いに伽藍を修造す。次で文慶佐渡に配流せられしに依り、工程一時頓挫せしが、後五直に修營の事進められ、順行は文永七年四月焼亡の五重大塔を再建し、四面築塼等を造營する等、かくて弘安永仁年間に至り文慶の企圖大略完成す。後宇多法皇、富山西院に入り修法三箇年に涉らせ給ひしが、次で許多の寺領を施入し、伽藍僧房を興し、觀智院、寶菩提院等塔頭二十一箇院(一説十五箇院)の建立を企圖し給ふ等當寺史に於ける法皇の位置は誠に重大なりと云ふべし。尙ほ寶菩提院等塔頭の建立は一に順行に依るの説あり。後醍醐天皇亦當寺に御體依厚く、正中元年、當寺の御舍利奉請の宮輪を下し、同三年には最勝光院を合併せしめ本寺紹隆の六箇條の御願を發し、「當寺之中興者、我



(寶圖)(堂金寺國護王教)

朝再昌也」と宣ひ、盛に諸法會を興隆せらる。如ふるに、足利尊氏、義隆亦當寺を崇敬する事厚く、此間光嚴院、光明院の御臨幸あり、且つ河内國新開庄を寄進せらる。等、兩朝の厚き崇敬を辱けなふしたり。建武二年八月、諸伽藍の修營了し、大塔供養會を修す。北朝野應康水の文、泉涌寺我神動化して、堂宇を修理す。前に東寺三寶と稱せられし願寶、果實、賢實の三大學匠の輩出によつて興隆せしめられし教學は當寺當代擾亂の世に入りて學侶は散逸し經書は漸く衰退す。次で足利義滿東西九條の地を寄せて永代東寺營造料所に充てしが、應安二年、講堂の修營に着手す。康暦元年十二月、空海の住坊たりし西院(御影堂)回祿に罹りて烏有に歸せしが、翌年再建の繪旨を賜ふ。義滿亦之を授實す。續いて永徳二年八足門の建立を授け、庄園寄進の事少からず。室町時代、中期以降足利氏徳政の名の下に概政を布くや、屢々土一擧起りて本寺に罹り

寶善提院(張子)

京都府下京區日暮筋八條下ル。
●眞言宗東寺派。
●教王護國寺の塔頭。現に當派別格本山にして俗に張子大師の稱を以て顯はる。開基は亮前にして、其草創は徳治、延慶年間、後宇多法皇東寺御中興の際なり。翌智院と並びて東寺別當職たるを例とせり。

●什寶中、絹本着色愛染明王像(傳範俊僧正筆)一幅、同寶標團曼荼羅圖一幅は國寶に指定せらる。前者は藤原時代の様式手法を踏襲して其の描繪趣意々々繊細巧緻に趣く鎌倉期佛畫の好典型なり。後者は、藤原時代より鎌倉時代にかけて屢次行はれたる本曼荼羅を本尊とする修法の遺品にして、華麗なる裝飾を用ひず、概して密教的の嚴肅なる趣致を帶ぶ。兩者共日下東京帝國博物館に寄託中なり。

大通寺

京都市下京區西九條比水城町。

●眞言宗東寺派。
●萬祥山圓心院と號す。應和年間、源滿仲の創建なりと傳へ、も八條町六孫王神社の北に在り。初め三論、眞言、律三宗の兼學道場たりしが、後ち眞言一宗專修となり。貞應元年、源實朝室坊門氏、鎌倉より歸り、尼となりて本覺尼と號し、本寺中に一字を建立して本覺寺と稱す。時に又藤原爲家室四條別墅して阿佛尼と號し、共に本寺に居る。これより本覺寺又は八條禪院と稱す。又單に尼寺とも云ふ。平政子實朝追福の爲め本寺に寺領を附す。或は云ふ。政子の歸京するや西八條亭の古槐門を以て佛刹となし、政子の近親藤原定親の嫡子僧眞空(圓心宗師)を請じて圓心院の開

基たらしむ。其後兵燹に罹りしも足利尊氏寺領を寄せ、之を再建す。應永五年七月、再び同縁の災に罹り足利義滿伊豫の舊領を寄せて之を再建し、尊で塔頭恩徳院を創建せり。同院の僧貞音律に長じ、十二律を究めしが、爾來、詮譽、詮純等世々聲明一流の師範たり。後ち寺門荒廢せしが、永祿十一年九月、織田信長本寺に於て亂妨狼藉するを禁じ、天正十三年、豐臣秀吉寺領二百八十石を附し、後三石を加増す。これより寺門大いに興隆し、漸次塔頭の勢を見たり。即ち東林院、實法院、清涼院、成就院、大雲院、眞住院、慈眼院等之れなり。慶長五年、徳川家康先規に依り二百八十三石及び境内東西三町、南北二町の寺地安堵の朱印を下す。元禄二年僧照什(南谷)本寺を重興し、同十二年徳川氏に請ふて六孫王廟を造營し、祭祀を興す等寺運の興隆に努む。照什、歳三十にして本寺中多聞院に住して講席を開き、梵網古述記及び諸經論を講じ、聽衆常に千に充つと云ふ。晚年本寺中東林院に遷棲し専ら淨業を修せしが、書を能くする傍らまた林泉園藝の技に長じ、乙訓郡大原野より樹石を採り、東林院、恩徳院(この二院庭園のこゝ林泉名勝園繪に見ゆ)方丈、東寺觀音院、同坊官竹内氏の庭園を造る。明治維新に際し塔頭四院を廢し、舊領は一旦上地となり、更に高百五十六石を附せらる。同三年五月、寺領を除せられ、塔頭三院更に廢せらる。同八年、本堂は市内寺町警願寺に移され、寶殿は梅運小學校の校舍となり、本寺の東北に在りし塔頭東林院を以て本寺に充つ。舊時獨立本山なりしが、後ち東寺と並べり。同四十四年三月十三日、敷地舉て鐵道の用地となるを以て、西九條町に新に敷地を買得し、翌年六月二十五日移轉せり。
●本堂には遷慶作阿闍陀如來坐像及び四天王像・源

西寺

京都市下京區唐橋平垣町。

●淨土宗西山派。
●桓武天皇延暦十五年、藤原伊勢人を以て造寺長官に任じ、東西二寺を建立し、以て左右兩京の鎮護となし給ふ。一に又藤原伊勢人は造東寺長官にして、坂上田村麿、造西寺長者たりと云ふ。何れも方二町の境域を有せし巨刹にして、時に少僧都慶俊之に住す。弘

淨禪寺

京都市下京區上島羽岩ノ本

●淨土宗西山派。
●沿革不詳なるも、古來、戀塚及び洛陽六地藏の四番として著名なり。境内に製鉄御前の墓と稱するものありて戀塚と稱す。因りて寺號を一に戀塚寺と云へども、これに就きて三説あり。一は即ち文覺在俗の日誤りて源渡の妻製鉄御前を新り、此地に其首を埋めしにより俗に戀塚と稱するに至るとするもの、二は此地の字名に起る小枝塚の誤りとし、三はこれ戀塚にして戀塚にあらざる、往時附近の池中に住める大鯉魚の塚なりと。尚ほ下島羽字塚上に同じく戀塚寺ありて同様の傳説を存す。(伏見區戀塚寺參照)
●堂宇には本堂・觀音堂・地藏堂等あり。地藏堂安置の地藏尊即ち洛陽六地藏の隨一鳥羽地藏にして、保元二年七月、水精の里より移安すと傳ふ。門前の林羅山撰文なる名碑戀塚は昔く世に喧傳せらる、所なり。

神泉苑

京都市中京區神泉苑町通池下ル。

●眞言宗東寺派。
●もと桓武天皇平安遷都に當り、創設せられし大内裏禁苑にして、拾芥抄に二條南、三條北、壬生東の地を占むと見へ、封境廣大にして林泉、殿閣、其の美を極め、歴代天皇御遊の所たりき。淳和天皇長年間、大早あり、空海に勅して神池に臨み、請雨の法を修せしめられしに靈驗あり、天皇親感の餘り和氣眞綱を遣し、龍王の寶前に幣帛を捧げしむ。爾來大早ある毎に眞言僧侶をして此苑に修法せしめ給ひき。又大般若讀經の勅會を修するを恒例とし、且つ大誓會に當り標

本能寺

京都市中京區寺町通池下ル。

●本門法華宗。
●本宗五大本山の一にして、應永二十二年、日隆の開創に係る。日隆は妙顯寺第四世日齊の法弟にして第五世日明と好からず、遂に同寺を去り、油小路高辻と五條坊門の間内野の地を相し一字を建立して本能寺と號す。然も其の後獲許もなくして本應寺月明の徒によりて破却せらる。依りて、爾來日隆再興に勵心せしが永享五年遂に如意王丸の發願により六角大宮の地に内野の伽藍を再建し、本能寺と改め、本門八品能弘の大

吉祥院

京都市下京區吉祥院政所町。

●淨土宗。
●往時菅原家の氏寺にして、累代此地を領し、も其別業の所在地たりき。本寺の草創に關しては元慶四年菅原道眞、父是善の薨後、其遺福のため本院を創すと云ひ、一説に道眞の祖父清公の建立なりとも傳へ、或は是善、渡唐の朝、風浪に遭ひ、吉祥天女の靈驗を蒙りしかば、後年之を祀りて吉祥院と號すとも云ひて諸説定まらず。治暦二年、別に天神堂を營造し道眞の靈をも奉祀せしより、天神御靈、聖靈と稱せられ、西寺、上出雲寺と共に三所御靈と呼稱せられたり。

罹災たらしむ。而して當寺を其布教の本據とし、同じく日隆開基の尼ヶ崎本興寺を其教學研究の道場とし、故勢大いに揚がる。爾來日信、日明、日興、日僧、日禮相次いで法脈を嗣ぎ、七世日侶の代に至り、所謂天文の法親勃發し、同五年七月、叡山衆徒の燒却する所となり、寺僧難を泉州堺に遷す。同十一年歸洛の勅許を得、金剛院日承首となる。日承は伏見宮貞敦親王の王子にして、徳望見一世に高し。同十四年、寺基を西洞院小川に移し、新に殿宇を造營す。幾年ならずして大伽藍完成し、棟頭高く雲際を聳え、三十餘の塔頭これを圍み、洛中の一大偉觀たりしが、天正十年六月二日、第九世日信の代明智光秀、總田信長を本寺に擧撃するや、其兵燹に罹りて一山爲めに焦土に歸す。次で信長第三子信孝境内に父の廟所を建つ、同年十一月、日信再建を發願し、次で十世日運の代、工程殆ど成就せんとして、同十七年、豐臣秀吉のため現地に所換を命ぜらる。天正二十年、本堂、書院、庫裡以下塔頭十數院の再建なり、爾後祖師堂、開山堂、香神堂等次第に完備し、佛領四十石を受け、漸次舊觀に復したり。然るに天明八年、三十五世日順の代、所謂日恩の大火に遭過し、一山の堂宇を燒燼す。四十三世日恩の時に至りて漸く諸堂の重建成る。元治元年、四十七世日高の世、薩長の砲火に罹り、寶藏及び子院一字を残し一山悉く燒亡す。加之、維新佛毀釋に遭過し、再建の業成り難く、僅かに伏見大龜谷に在りし舊隆開基學室の講堂を移して假本堂とし、方丈亦花園妙心寺塔頭を買受けて之に充て、塔頭七院共に假建築をなせしに過ぎざりき。大正八年に至り本堂再建に着手、爾來十年の歳月を経て昭和三年現在の大本堂を落慶す。現に塔頭惠昇院、蓮承院、定性院、高院、本行院、源妙院、龍雲院の七院並びに末寺三百二十六箇寺、教會所



(堂本寺能本)

百四十七を統ぶ。
 ●舊寺城八千二百餘坪なりしが、現今は四千四百六十二坪餘となり。本堂・方丈・山門・寺務所・寶物殿等存す。本堂は單層、入母屋造、本瓦葺、桁行十三間、梁間十二間、正面三間向拜附の大字にして近世建築學の粹を集む。寺寶の中、銅鏡(梅樹雄雀文様)一面、紙

頗る多し。境内東南隅に織田信長の廟所あり。近年大修理を加へ、奉拜殿を新築す。また日承、島津龍伯室、竹屋家、壽家浦上春琴、玉堂父子等の墓あり。

矢田寺(地蔵)

京都市中京區寺町通三條上ル。

淨土寺西山派

大和國生駒郡矢田村に矢田寺(金剛山寺)あり、天武天皇四年の創建にして開山は智通僧正なり。現に古義眞言宗高野派に屬す。本寺は後世大和の矢田寺の分派なりと稱するも其年代は未だ詳ならず。

●本堂地蔵尊は、生駒矢田寺中興滿米上人の作なりと云ふ。什寶中、矢田地蔵緣起紙本着色二卷は現に國寶に指定せらる。大和生駒矢田寺地蔵尊の靈驗を描きしものにして、調書と繪圖より成るは通行の如く、唯其彩色鮮麗に保存せられ、配色極めて巧みなるを見るべし。鎌倉末期の繪巻中の傑作たるを失はず。

善導寺

京都市中京區二條通木屋町。

淨土宗

●水鏡年間、筑後の僧清善、夢中に善導大師像を感得し、京師に上り、六角堂頂法寺の傍に一字を建立し善導寺と稱す。後天明の大火に罹り、現地に寺基を構じ、以て現在に至る。

專修寺別院

京都市中京區河原町通二條上ル。

眞宗高田派

京町六條坊門の裡室に住し、類りに妙法の弘通に努む是れ本寺の淵源なり。康應年間、之に妙塔山妙滿寺の號を附す。應永二年、同様に罹る、仍りて綾小路堀川の西に移り、大いに堂塔を營造す。天文元年、後奈良

●高山山と號す。天文年間、本山專修寺第十二世眞、親賢居住の舊蹟たる柳原一條の地に一字を創建し、一條柳原坊と稱す。是れ本寺の淵源なり。後同様に罹りしが、第十三世光惠其遺志を繼承し、慶長十年、間之町小路下の地に再建し、寺號を本誓寺と改む其後、再び親賢の英に罹り、元和三年、惠隆現在の地に堂宇を營建し、專修寺懸所又は里坊と稱す。寶永五年三月八日、經藏、鐘樓等を除き、堂宇悉く灰燼に歸す。享保九年五月、再建成りしが、天明八年正月、復又炎上し、寛政二年三月、假堂建立せられ、寛政十一年、本堂以下の再建成る。明治九年三月、高田御坊と改稱し、同十五年九月、專修寺別院と改む。今寺中として龍源寺、誠心寺、安立寺、常樂寺、大仙寺の五箇寺あり。

●寺域千三百四十八坪。本堂・鐘樓・庫裡・寺中五箇院等の諸堂あり。本堂は一光三尊の阿彌陀如來にして、櫻町天皇の勅に依り善光寺本尊の分身なる下野國高田山專修寺本尊を模倣せしものと傳へ、始め宮中に安置せられしを、天皇崩御後、寶曆元年、佛前の御翠庵と共に當寺に御寄進あらせらると云ふ。寺寶には後陽成天皇御筆六字名號一幅、後西院天皇御筆六字名號一幅、後水尾天皇御筆釋迦牟尼佛號一幅、親賢筆十字名號一幅、法然筆竹布名號一幅等其の外多數を藏す。

行願寺(堂)

京都市中京區寺町通竹屋町上ル。

●天台宗。
 ●俗に草堂と稱し、西國三十三所第十九番札所及び洛陽七觀音の一として著聞す。寛弘二年、僧行圓の開

創にして、も一條通小川の地にあり。行圓も其眞部氏、名を刑部と稱す。性持嚴を好み、一日山に入り一頭の牝鹿を射たるに、其鹿一子を生み、命絶ゆる迄之を愛撫養育す。刑部即ち之を見て一念發起し佛門に入り、恒に其牝鹿の皮裘を身に纏ひて諸國を行化す。依りて世人彼を草上人と稱す。寛弘二年、京師に入り偶々感得の靈木を以て丈六の觀音像を刻し、堂宇を營建して之を安置す。是れ即ち本寺の起源なりと云ふ。後一條天皇の御宇勸願所となり、寛仁三年、多寶塔を造建す。後一條天皇亦本寺を勸願所と定めらる。元久元年正月、後鳥羽上皇の御幸ありき。天正年間、豐臣秀吉現地に寺基を移す。天明年間、洛中の大火に罹燒せしが、文化十三年、再建せらる。現在の堂宇は即ち是なり。

妙滿寺

京都市中京區二條通寺町下ル。

眞本法華宗

●妙塔山と號し、眞本法華宗の總本山たり。永德三年、日什の開基に係る。日什は所謂八祖の一日常の法系に出て、中山法華經寺の學徒たりしが、弘和元年京師に上り、撰する所の治國策一篇を日運の立正安國論と共に關白二條真人を介し後醍醐天皇に上る。觀感を蒙りて、永德元年、遂に京都弘通を聽許せられしも遽かに堂宇を興すに至らず。同三年、信者眞妙の私邸



(堂本寺滿妙)

天皇勸願所の繪旨を賜ふ。同五年の法親に寺僧難を和泉の正興寺に遷け、七年の後歸洛して堀川の舊地に假住す。天正十一年十二月、豐臣氏の命によりて現地に移り堂宇を再建せしが、幕末、元治元年兵火に遭ひ

笠沙門なる者再興を計り、禪閣一條堂其勸進講を作
り、同年六月二十六日上機式を行ふ。爾後、永正六年
天元五年、天文元年の四度回祿に罹る。天正十三年、
豊臣秀吉命じて今の地に移さしめ、其側室松丸殿及び
京極氏(松丸殿は京極氏の出なり)諸堂を造營す。其の
結構まづ表門は六角通寺町に西面し、裏面は三條通に
北面し、境内六千餘坪塔頭十八箇寺、本堂、阿彌陀堂、
方丈、三重塔等ありて寺域廣大、輪奐華嚴なる大刹な
りしが、後天明八年火災に罹る。木食行者誓阿、弘
化二年の表上後、之を再興せしが、元治元年、兵燹に
罹りて悉く烏有に歸す。其後、哲空は本堂を、首座は
庫裡、書院、講所を再建し、凌空は明治四十四年大書
院及び庫裡を改築して面目を一新せしが、大正十三年
一月二十二日、類焼の厄に遭ひ大書院、庫裡の全部を
焼失せり。昭和二年大書院及び庫裡の再建成りしが、
昭和七年本堂焼亡す同年直に假本堂を修造し、爾來、
一山門末を擧げて復興に努めつゝあり。現に末寺二百
二十五箇寺、教會、説教所二十四を統ぶ。
●境内千二百五十坪。寺寶中、絹本着色觀音菩薩起
三幅は其中二幅を土佐光信筆、他を海北友松の補畫と
傳へ、藤原時代の作なる木造毘沙門天立像一軀と共に
國寶に指定せられしが、毘沙門天立像は不幸にして昭
和七年の火災に焼失す。其他の什寶に絹本着色涅槃像
一幅(傳牧溪筆)、紙本着色密畫觀音波羅屏風一幅(傳野
元信筆)等あり。

誠心院(和泉) 京都市中京區新橋六角下ル。

●眞言宗泉涌寺派。
●華岳山と號す。藤原道長の創建なりと傳ふ。初め
京極今出川北東北院の内にあり、和泉式部制置して本

寺に住せりと云ふ。後ち寺基を現地に移せり。
●境内に和泉式部塔あり。阿彌陀二十五菩薩を刻せ
る高さ八尺の寶篋印塔にして、俗に齋齋に齋齋ありと
て齋者多し。

安養寺(華) 京都市中京區新橋樂師下ル。

●浄土宗西山派。
●初め、大和國葛城郡富麻郷に在りて、華嚴院と號
す。寛和年間、惠心僧都の開基にして、僧都の妹安養
尼其第二世となりて住す。由つて寺號を安養寺と改む
と云ふ。天永年間、隆運之を京都に移す。其後、西山
派祖龍空の弟子證入茲に住し、一流の念佛義を唱導す
東山流是なり。一説に證入此時安養寺の側に阿彌陀院
を造る。是東山流の末寺なりしを後に安養寺と合併せ
らるゝと稱す。尙ほ東山流は久しからずして廢滅す。
●本尊阿彌陀如来立像六尺三寸は、傳に春日作と稱
し、八雲蓮華を倒にせる華蓋に立てり。これ女人胸中
の蓮華倒にあるを表し、女人引接の相を顯はし給ふな
りとして、倒蓮華と稱し世に聞ゆ。堂上安養寺の額は後
深草天皇の宸筆なり。

妙心寺 京都市中京區新橋東側町。

●浄土宗西山派。
●當地も古源本山、圓福寺の寺址なり。圓福寺は
建長三年、西山護聖善慧の高足に立信(圓空)を開山と
す。立信、當國紀伊郡深草に眞宗院を創し、深草義の
一流を起す。永仁元年、雷火に罹り、第二世道教願意
大和國高市郡に移して復興す。建治元年、再び京師に
移り、猪熊親小路に再興す。正和五年圓福寺の勸進を

下し、勸進所となる。文明六年、兵火に類焼し、足利
義政寺地を寄せて再興を授けず。天文十四年、第十一
世賢智三河國崇福寺より入寺するや、諸方に勸進し佛
開庫院を再建す。天正七年、更に四條坊門に寺基を轉
じ、慶安二年第三十世徹翁の時諸堂を修葺し、大いに
寺門を刷新す。其後屢次回祿に罹り、寺觀衰頹し、第
六十三世開空悟道三河國眞知寺より入りて本寺を革新
に及び、三河國の妙心寺と名稱の交換を決し、明治十
六年五月官許を得、圓福寺の名稱並びに本山格を讓渡
す。本寺は現に本宗檀林たり。(愛知縣額田郡圓福寺の
項参照)。

瑞泉寺(齋生) 京都市中京區木屋町通三條下ル。

●浄土宗西山派。
●慈舟山と號し、慶長十七年、豊臣秀次菩提の爲め
角倉了以の開基する所なり、立空柱を以て開山とな
す。秀次は三好武藏守吉房入道一路の子、母は豊臣秀
吉の姉日秀尼にして永祿十一年生る。幼名次兵衛、孫
七郎と通稱し、初め三好康長に養はる。天正十一年以
降、秀吉に従ひ、諸所に戦ふ。同十九年八月、秀吉の
子葉君天折せしにより、同年十一月、秀吉の養子とな
り、十二月四日、内大臣に、同月二十八日、關白とな
る。征韓の役起るや、秀次聚樂第に居り、秀吉に代り
て政務を執る。然れども秀頼誕生するに及び、秀吉の
愛、漸く秀頼に傾く。こゝに於て秀次快々として樂し
ます、其言行次第に粗筆に流れ、暴虐甚だし。秀吉依
りて文祿四年七月十五日、秀次を高野山にて自害せし
む。享年二十八。また秀次の妻妾子女三十四人を斬り
一坑に埋めて畜生塚(一に秀次遺體塚と云ふ)と呼ぶ。
慶長十七年、角倉了以、高瀬川開闢の際、これに移し

大佛殿建立の役材を以て本寺を建立せしなり。
●寺域四百餘坪。境内西側に畜生塚あり。六角形に
して、表面に瑞泉寺殿前關白秀次入道高瀬道意尊像
死諸大名、下方に靈通塚、裏面に文祿四年七月十六日
其左右に妻妾子女の法號を刻す。當寺藏する寶物には
善像大師像・圓光大師像・秀次妻妾自筆辭世二十幅・
秀次の遺品並に和歌三百等あり。

壬生寺 京都市中京區壬生櫛ノ宮町。

●律宗。
●一に寶幢三昧院、略して寶幢寺浄光院、地蔵院
等と號し、當宗別格本山にして、舊時洛陽六地蔵の一
たりき。夙に壬生狂言を以て顯る。天平寶字五年、僧
經眞、聖武天皇の勅を奉じ、創建せる靈刹の故址なりと
稱す。正暦二年、僧快賢之を開創し、地蔵菩薩を本尊
とす。寛弘二年、本堂を完成し、其落慶供養を修す。
時に一棟天皇の勸願寺となれり。快賢も三井寺の僧
たりしを以て、當時小三井寺と號す。白河天皇承暦元
年、勸して伽藍を修造せしめ、落慶の日親しく御幸あ
り、地蔵院の勸願を賜ひ、勸願寺と名し給ふ。大永元
年、鳥羽天皇行幸あらせらる。順德天皇建保元年、平
宗平、當寺本尊の靈顯に感じ、五條坊門坊地に伽藍を
修造し、田園を寄進す。正嘉元年二月二十八日、類焼
に災せられて一山の諸堂悉く灰燼に歸す。正元元年、
宗平の息平政平、諸堂を重建し、寺號を改めて寶幢三
昧院と號す。正安年間、圓覺、堂宇を修葺し、新に坊
舎を興し、寺號を改めて心淨光院と號す。寺傳には、
時に融通大念佛會を創め、壬生狂言の起原となると云
へり。(四項参照)康永年間、新田義治の一黨香匂高遠
足利方に攻めらるゝや、難を本寺に避く。寶正五年、



(堂本寺生壬)

足利義政の附依厚く、伽藍を修葺す。慶長十六年、後
陽成天皇、國家鎮護を御立願あり、本尊齋座並に諸
堂宇を修營せしめらる。當時僧堂坊舎を連れ、洛西
の一條殿たりしが、天明八年正月二十八日、洛中の大
火に一山の堂房燒盡す。文政八年、再建成る。往時、
十支院を有せしが現に地蔵院承暦年間、白河天皇の勸
によりて宮殿
を移し
て創立
す。文
化八年
再建、
明治四
十三年
修造今
の本坊
是なり
、中之
坊(寛
永年間
本真の
創建、
文政十
二年再
建、大正二年三月改築)の兩院の外、他悉く廢頹す。
●寺域三千二百坪、主なる堂宇に本堂(文政八年
再建、大正四年修築)・觀音堂(文化十二年沙門乳海再
建、大正二年修築)・阿彌陀堂(天保十四年前川五郎左
衛門再建、大念佛堂(文政八年建立)一夜天神堂(嘉永
五年再建)・辨天堂(明治二十七年再建)・六所明神社(文

ば、本寺のもの又夫に遠からざる時期に始源を置くべく、結果の流行鎌倉末期より漸く甚しければ、結果の影響に依りて本任言の形を整へし、又室町初頭と云ひて大過なるべし。古來此法會に當りては、時の將軍三十石を下し、之が興行を授けたり。維新前迄法會の初日、本尊に獻供せる山吹の花を御所始め奉行所へ獻納に參殿し、其歸向するを待ちて執行するを定法とす奉行所にては件の花を四人の門口にかけ、四人を竹矢來の内迄出し、地蔵菩薩の攝化結縁に浴せしめ來りしが、維新後此事止む。曲目には桶取、花燈人、紅葉狩、猿、愛宕參、狐釣、炮烙割り、鶴、頼光山人、盲人川渡、節分、花見、猿引、團圓角力、餓鬼責、曾我、實河原、神樂、性急坊主、熊坂、羅生門、湯立、葵上、男伊達、棒振等の二十九番(或は二十五曲といふ)あり。皆古式に則り、念佛同體の妙理勸善懲惡、因果應報の道理を所作にて示す一種の無言劇なり。本念佛と同様のものに千本の釋迦堂及び團圓堂、羅喉釋迦堂、神樂苑(明治三十四年壬生狂言方の一部の分派せるもの)等のそれがあり、團圓堂に於ては現に例年之を行へり。(各項參照)

聖護院 京都市左京區聖護院中町。

●天台宗寺門派。
●本派大本山にして、三門跡の一、古來、修驗道本山派の本寺として著る。圓珍の開基に係り、往時は愛宕郡長谷村に在りて普光院と號す。寛治年間、關城寺の聖護院増入寺してより、其號に因みて現稱に改む、増入は藤原經輔の男にして、後ら佛門に入り、顯密二教を究明し、白河上皇、堀河天皇の御歸崇奉りしが寛治四年、白河上皇熊野御入峯の際、其先達となり、



(院 護 聖)

聖護院持の祈願を奉修す。白河天皇第十皇子靜憲法親王入室あり、之を本院門跡の鼻祖とし、以後法親王本院を相承し、寺門派の長吏並に熊野三山の別當を兼ね、慶長十八年五月、江戸幕府修驗道本山法親王とし、本山派の山伏を直管せしむ。元和年間、同様に繼りて、鳥丸今出川の地に轉ず。延寶三年十一月、再度火災に罹りて堂宇烏有に歸し、翌年道見法親王現地に再興せらる。同八年本堂、表門、支園、書院、醫館等を造營し、享保十八年、庫裡を建立す、即ち現今の堂會是れなり。天明八年、皇居表上するや光格天皇の假宮となり、嘉永七年の表上に孝明天皇の假宮となる。かくて明治維新に至る迄三十六代、其中十二代は攝家關白の公達入寺相續し、二十六代は皇子皇孫御相續せられし、明治初年、諸門跡と共に其稱號を廢せらる。同十八年、門跡號を復せ

しが、山階宮の假館となりしにより、住持退いて別院に移る。同二十七年、親王丸太町の別業に遷徙し給ふや、寺門派に復せり。舊時寺領千四百三十石を有す。●境域約六千坪。現今の堂宇は主として延寶四年の建築に係り、大經殿・本堂・書院・小書院・北殿・光格天皇御座所・庫裡等を其主要なるものとす。寺寶中國寶に指定せらる、もの次の如し。本尊木造不動明王立像一軀・不動明王立像一軀は共に藤原末期の作なり。木造智證大師坐像一軀は、大正十一年其胎内より出でし紙本墨書智證大師像遺立覺惠願文一通に依り、康永二年八月、覺惠が三室戸に於て佛師真成に命じ、關城寺唐院なる智證大師像を模造せしめ、其像背の一部を長方形に刻して以下二文書と共に併せ納めしことを知る。即ち紙本墨書智證大師入唐求法目錄一卷は天安三年四月十八日の奥書あり、圓珍の自筆にして、時の太政大臣藤原真房に錄せしもの、最澄空海のそれと並稱すべき貴書なり。軸身に佛舍利を納め、錦袋入斑竹筒を納ふ。同知意輪中心眞言觀一通又同じく圓珍の眞筆なり。尙ほ當像も三室戸にありしが、後ら落北長谷解脫寺に移り維新の際本寺に移管されしものなり。像模造なるも、當代首領彫刻の優作として推賞さる。其外、國寶に紙本墨書光格天皇靈筆神變大菩薩觀音勸書一幅及び後關成天皇靈筆御消息(初冬二十日)一幅あり。前者は文書に寛政十一年消息法親王が高祖役行者の千百年遠忌を修せらるゝに際し、光格天皇の下し給へる賜勸書なり。其他歴代御書翰並に探幽、探赜、訂陶、永徳書畫等を蔵す。●恒例主要行事として、古來著名なる大入あり。蓋し修驗道に於ける最要なる修行の一にして始祖役行者の芳躰に従ふ。平安中期以降、所謂熊野詣の流行と共に奉入の盛んなる權相を呈せし事蹟文獻の載する所

なり。例年四月より九月迄、一山の門主、諸國修驗者數千名を率ひ、大和大學の險阻を經過し、自らの修行を積むと共に、實許の無窮玉體の安穩を祈り奉るものにして、本寺本山派の熊野より入りて、吉野に出づるを願事と云ひ、隨願寺當山派の金峯より入りて熊野に出づるを願事と稱したり。正親町天皇の永祿年間より、御遺物を拜して之を奉持す。爾後以て明治維新に及びしが、維新後も毎歲不退の行事として右修驗され大正三年以後は賀陽宮御遺物を奉持し、例年七月十日に出發する定めとされり。

積善寺 (准臨濟) 京都市左京區聖護院中町。

●天台宗寺門派。
●俗に准臨濟と稱し、聖護院境内にあり。もと熊野神社境内に在りしが、維新の際、神佛分離して、東南境外の現地に移さる。●寺寶中、木造不動明王立像一軀は國寶にして、肥厚なる體軀に莊重なる威容を示現する藤原末期の彫像なり。

金戒光明寺 (黒谷) 京都市左京區黒谷町。

●淨土宗。
●新雲山と號す。當宗四大本山の一にして、圓光大師二十五靈場第二十四番札所なり。此地もと栗原岡と云ひ、白河禪房所在し、叡山の所領なりしが、叡空、叡山黒谷を法然に附屬せし時、併せて此禪房を授く。法然、此處にありて念佛說法す。是れ本寺の遺蹟にして、叡山黒谷に對し新黒谷と稱せしが、後ら黒谷と略稱するに至れり。爾來、信空、法空等法脈を相承す。



(堂 本 寺 明 光 戒 金)

五世圓智の時、初めて佛殿、影堂を建立して新雲山光明寺と號し、八世通空の代、後光嚴院の御授戒により更に金戒の二寺を賜ひ、十世等閑の代、後小松天皇、淨土眞宗最初門の勸願を下賜せらる。其後、應仁の兵火に一山の堂宇悉く炎上せしが、十七世理聖、天台座主尊應法親王御筆の勸進狀を奉じて復舊に努め、諸堂再建の業を遂ぐ。時に後柏原天皇金佛門に御數信厚く法然眞蹟一枚起請文に表顯を賜ふて、一枚起請文法然上人眞筆の寫繪を添へらる。二十一世法山、織田信長、豐臣秀吉二將の歸依を受け、天正二年、信長は制

狀を、同十三年秀吉は寺領百三十石の朱印狀を寄す。慶長十年、二十五世眞把の時、豐臣秀頼の本願により阿彌陀堂再建さる。同十七年九月、御影堂炎上せしが同じく又豐臣秀頼之が再建を授實す。寛文二年二月、三十二世順賢、參内して一枚起請文其他の寺寶を天覽に供す。三十六世寂如、千代田城中に於て徳川綱吉に淨土法門を説き、三十人扶持を賞與せらる。安永五年十月、御影堂、大方丈等再び燒失、四十五世神樂靈の勸進に従事せし事半ばにして寂し、寛政年間、四十六世覺譽靈長の時、再建の工を發す。四十九世原澄の時、尊超法親王白河禪房の額を寄せらる。文政年間、五十世順海の代、三門再建の業を起し、萬延元年、五十六世定圓の時に至りて落成す。文久二年九月、一山京都守護職會津藩主松平容保の宿障となりしに依り、明治元年薩藩兵士の攻圍する所となりし、幸ふじて兵火を免れたり。同三十一年十一月、大正天皇東宮の御、行啓の榮を拜す。昭和四年、庫裡の一部を改造して清和殿を建て、之を廣く一般に開放して教化事業、社會事業等に資す。近年、塔頭の改築せらる、もの多く、寺觀愈々華まれり。徳川中期、塔頭三十二、格庵十八を算せしが、現に超覺院、上靈院、西住院、光安軒、善教院、淨源院、瑞泉院、長安院、常光院、金光院、永雲院、西翁院、榮攝院、龍光院、顯孝院、勢至堂、蓮池院(能谷堂、別項參照)、清心院、松樹軒、西雲院(紫雲石、別項參照)の二十院を有し、末寺三百五十餘箇寺を統ぶ。●寺域は落東野景の地を占め、巖然たる堂房翠樹の間に隱見す。境内四萬四千餘坪、高麗門(萬延年、定圓の建立)を入りて數級の礎道を登れば山門に達す。後小松天皇靈輪淨土眞宗最初門の勸願を掲げ、樓上に釋迦、文殊、普賢の三尊及び十六羅漢像を安置す。天

井邊の繪は中殿の筆なり。山門を入りて西に往時の總門ありし西門あり、此附近に超覺、上雲、西住、光安、善敬、淨源、瑞泉、長安、常光、金光の諸院堂を連ね。西門の北に浴室、山門の左方に鐘堂あり。鐘堂は元和九年、徳川於六の局の建立にして、梵鐘は京都大龍寺寶樂の勸進に依り、袋中真定の撰文あり。御影堂前茶所より北門に到る附近に永運、西翁、榮攝、龍光、願孝五院あり。茶所の東南に經藏(元禄二年建立、黄髮版一切經を納む)。其右方に觀音堂あり。堂は吉備大臣の創立なりと傳へ、往昔、吉田近衛坂の邊に在りて吉田寺と號せしが、寛文八年、幕命により現地に轉ず。安置する傳行基作觀音菩薩像は安産守護の本尊として、皇室の御崇敬厚く、夙に洛陽七觀音の一として著名なり。觀音堂の右方、御影堂前方の阿彌陀堂(佛殿)は、慶長十年、豐臣秀頼大佛殿建立の餘材を以て再建せしものにて、初め南面なりしを、延寶六年、今の如く西向に改む。本尊阿彌陀如来は善心僧都最終の作にして、其彫刻の器具凡て腹中に納めらるる傳へ依りて乙女如来或は聖納めの如来と稱す。山門の正面に本堂あり、法然の像を安置する御影堂にして、寛政年間再建にして桁行十六間半、梁間十五間半の大堂宇なり。本尊は法然七十五歳の自作なりと傳ふ。是れ徳川家康の命により、安藤國福戸田光明坊より運座せしものなり。後方勢至菩薩の壁畫は法眼探求の筆に成る。堂前に熊谷直實總持あり。其後背に納骨堂(大正十三年建立にして一に蓮華藏、羅漢堂とも稱す)、東に七方丈(講堂とも稱し尊經法親王御筆白河禪房懸額を掲ぐ。享和二年再建、久保田米仙筆龍虎風扇獅子及び今尾景年筆楊柳の金箔掛襖あり)之に接続して小方丈(小書院とも云ひ法然草庵の遺址なりといふ。寛政四年再建、前に一池水あり、鏡の池と稱す。熊谷直

實、此池に被着の鏡を洗ひたりと傳ふ。園内に懸西樓、今日庵、觀水亭等の遺址あり。幽邃の景趣に富む。樓繪は山田介堂の筆に係る等あり。當山墓地の頂上に存する、文殊塔は三重塔にして、本尊文殊菩薩並に脇侍は傳運慶作、日本三文殊の一なりといふ。往昔、中山寶藏寺に在りしが、寛永年間、現地に移轉再興さる。尙ほ大玄關より正面の證道を下り、極樂橋より又證道を登れば法然上人御廟に至る。應仁の兵亂後、善香、五輪塔を建立し、延寶四年今の堂宇成る。塔上に本地勢至菩薩の像を安置し、勢至堂と號す。正面に曼珠院宮真向法親王筆勢至堂の額を掲ぐ。堂前に熊谷直實、平教盛の石塔あり。附近に清心、松樹、西雲の諸院あり。寺宇中、絹本着色山越阿彌陀如来及び地藏菩薩圓三曲屏風一雙は國寶なり。中央山上に金色阿彌陀三尊の出現を描き、其左右に地藏菩薩を配せし崇高なる繪畫にして、古來、山越の彌陀と稱せられて著名なり。寺傳及び本圖上方色紙形の銘に言ふ如く善心の作にあらざるも、尙ほ鎌倉時代佛畫中の傑作なり。其他に後陽成、後水尾兩天皇宮輪六字名號・尊應法親王御筆墨谷勸進帳・世尊寺行能贊觀佛影・土佐光信筆依藤大輪卷・狩野探幽筆熊谷直實・墨谷總持・吉田寺總持・法然及び九條實資・熊谷蓮生房の遺品等極めて優秀なるもの多し。就中、一枚起請文は本寺前の一重實にして、建曆二年正月二十三日、法然往生の前三日、弟子勢觀房の請により書興へしと傳ふる念佛の要旨なり。後柏原天皇の宮輪表裏並に一体の贊を有す。尙ほ境内に觀懸松(熊谷直實の額を懸し松なりと云ふ。古樹は前年枯朽し、現在は新木なり)、石井筒(塔頭長安院にあり。手洗石にして桃山城の遺物なり)、明泉水(塔頭榮攝院にあり)、墨谷八景等あり。も當山城城は中山と稱し其北境を栗原と呼び、本朝最古の茶屋所たりき。學城

には駿河大納言・春日局・鎌田一家・岡玄珠・深村大學・山崎闇齋・山中鹿之助・吉田元隆・藤村唐軒・橋南齋・八橋檢校・玉蘭女史等の碑石あり。
◎修正會(一月元旦)、御忌定(一月二十五日)、忠魂祭(四月三日)、宗祖降誕會(四月七日)、御忌法會(四月十九日―二十五日)、宗祖御廟會(八月一日)、千部會(十月十三日―十五日)、吉備祭(十一月十五日)、佛名會(十二月六日―八日)、宗祖御身拭式(十二月二十五日)
西雲院(紫雲石) 京都市左京區黒谷町。
◎淨土宗。



(石雲紫雲西)

蓮池院(熊谷堂) 京都市左京區黒谷町。
◎淨土宗。
◎金戒光明寺塔頭にして、一に熊谷堂と稱す。熊谷直實剃髮後(蓮生房と號す)居住せし所と云ふ。も其房號に因みて蓮生庵と號す。安貞二年九月、源賴朝の室政子。熊谷直家をして庵の側に池を掘り蓮を栽えしむ。これ今の蓮池にして爾來、蓮池院と改む。現に堂宇改築準備中なり。
◎寺寶として熊谷蓮生房自作自像・教盛木像・法然母尼の御影・源氏白旗名號等を藏す。
◎熊谷忌(十月十四日)。

榎行十間、内陣中央に阿彌陀如来木像、左右兩脇に觀聲及び東本願寺二十一世慈如の畫像を各安置す。本堂の西に小池あり。鏡池又は菱見の池と稱す。觀聲北越に配流の湖此池に姿をうつせりといふ。殿舎の西に幽庭に在り。香樹院總持、南部侯に賜ひ、之を本山に獻する所と云ひ、夙に開池禪亭の美を以て著聞す。中に圓形の池ありて數丈の把柄を築す。其西南に台閣ありて延寶齋と名付く。既望快湖にして、中に粟田朝朝、大日咩夕照、南無寺時鐘、永觀堂櫻花、神樂岡晴鶴、如意園圓月、獅子淡鳴鹿、華頂山晴雪の八景あり。臺上に右大將基豐公の額及び諸家の詩歌を掲ぐ。池東に翠雲亭あり、雷寶禪師の額を掲ぐ。園の南に學館に在り、明治二十二年、本山より之を移興せしものにして佛間・教場・復習場・客間・御房間・教師控間・從者控間・玄關等を具ふ。新門跡の修學所なり。

◎示現山と號す。寺傳に據れば天慶三年七月、右京七條多治比文字子(菅公婢なりと稱す)之を創建し朝日寺の最終を開山とし、不動明王像を本尊とす。時に菅公右近馬場に示現せるを以て、示現山滿願寺と號せりと云ふ。永和四年、後醍醐天皇勸願所の繪旨を賜ふ。初め眞言宗に屬せしが、元禄十年、住持宗滿、立本寺の日享に歸し、本寺を之に附し、改めて日蓮宗となす。同十四年、洛東岡崎なる法勝寺の舊地に移り、次で堂宇を建立す。寶永七年、勅を奉じて新廟修法せしが、爾來、此事恒例となる。
◎境域千九百八十六坪。本堂・祖師堂等具はる。境内には文字天神社・開伽井・後覺遺跡の碑等あり。

岡崎別院(岡崎御坊)京都市左京區岡崎東天王町。
◎眞宗大谷派。
◎俗に岡崎御坊と稱し、享和元年、大谷派本願寺二十世達如の創建に係る。觀聲はじめ觀山を下り、吉水法然の門に入りて後ら此地に幽棲す。爾來、其故址、觀聲屋敷と稱せられしが、享和元年、達如其芳址を慕ひて堂宇を建立し岡崎御坊と稱す。明治九年、別院と改稱して現在に至る。
◎寺域二千三百九十五坪。堂宇は本堂・御殿・禮席・庫裡・表門・裏門等あり。本堂は南面し、梁間八間。

◎日蓮宗。
◎妙惠山と號す。慶長元年、豐臣秀次の母瑞龍院日秀尼秀次追福の爲め一寺を建立し、其法蓮善正院殿高岸道意に因みて善正寺と號す。開山は日蓮なり。當初洛西院峨岷山にありしが、慶長五年、現地に寺基を移す。寛永元年、第四世日演の時京都六檀林の一に列す。
◎寺域二千六百餘坪にして、釋迦堂・秀次三位法印塔・瑞龍院塔・秀次室教祥院塔等あり。附近に歌道柱園派の祖香川景樹の宅址あり。

◎不詳。
◎元應寺の舊地にして、同寺は後宇多天皇の御願に因り、元應年間、後醍醐天皇の御建立に係る。開山は傳信興圓なり。其法弟慈威靈藏次で住持となり、戒壇を築き圓頓戒を興隆す。後醍醐天皇時に尊貴の身を以て親しく、これが工作に與り給へりと云ふ。住持は法勝寺と共に圓戒弘通の道場として伽藍壯觀を極め、貴紳衆庶の崇敬厚かりしが、應仁二年八月、兵火の爲め、堂宇灰燼に歸してより、本堂並びに寺基を滋賀東坂本來迎寺に移し、文明二年、遂に同寺に併合せらる。後ら舊地に一字を建立し、地藏寺と稱す。現に俗に草地藏と云ふ。
◎本尊地藏菩薩・脇士毘沙門・觀世音の三軀は住時安置の古佛なりと傳ふ。

光雲寺 京都市左京區南禪寺北ノ坊町。

臨濟宗南禪寺派。
●龍芝山安國光雲禪寺と號し、南禪寺塔頭なり。後宇多天皇弘安年間、南禪寺開山無獨普門(大明國師)の創業に係る。初め攝津國難波の地にありしが、寛文二年、天授庵の英神、後水尾法皇並に東福門院の御旨を奉じ、寺基を現在の地に移して之を中興し、南禪寺北之坊とす。其の後回祿の災厄に遭ふこと數回にして寺觀著しく衰頽せしが近年に至り久遠宮家御菩提所となり、漸次寺運衰微に復せり。



(寺觀景)

●境内約三千坪。東山の翠峯に圍繞せらる、幽靜の地なり。堂宇に法堂・方丈・庫裡・鐘樓等所在す。寺寶として後水尾、明正兩天皇宸翰・東福門院御筆跋・開御竹像・光嚴司軍羅漢像及び大明國師頂相・王若水筆花鳥圖・王啓祥筆十六羅漢像・進川家綱筆竹皮圖・木下長嘯の助老僧杖具等を所藏す。

禪林寺(水觀堂) 京都市左京區水觀堂町。

淨土宗西山派。
●聖衆來迎山無量壽院と號し俗に水觀堂の名を以て著聞す。現に西山禪林寺派の總本山たり。齊衡二年、清和天皇の勅願に基づき空海の弟子眞紹の創建する所なり。眞紹、曾て仁明天皇の聖恩奉報の爲め五佛像を河内國觀心寺に造納せしが、後之を京師に移さんと欲し、齊衡二年、上表して藤原國雄の東山莊を改めて一寺とし、彼の五佛像を安置して奉新寶莊、眞國家の道場となす。貞觀五年、勅して定額を下し、號を禪林寺と賜ふ。眞紹の俗甥宗觀第二世となりしが、清和天皇の御歸依厚く、元慶元年三月二十七日、勅して當國愛宕郡公田四町を施入し、又隣境に圓覺寺を建てて當寺の兼管地となし給ふ。次で宗觀を戒師として御落飾入道あり、暫く仙傳を駐め給ひしが、同四年十二月此地に崩御あらせらる。三世眞如法親王は平城天皇の皇子に在し、宗觀と共に入唐せられ、渡天の途次不審入寂し給ひし事は、著明なる事實なり。五世眞忠は宇多法皇の皇孫、敦圓親王の王子にして、初め仁和寺に在し、後ち當山に轉す。此の如く皇子皇孫、高僧碩徳相繼ぎ、大いに眞言の宗風を弘通せしが、承暦年間三輪宗の永觀入住し、境内に東南院を建立して、三論及び淨土の念佛を唱導す。因りて永觀を中興開山とし、永觀堂の稱こゝに起る。延久五年五月七日、後三條天皇崩御あり、十七日神樂岡東原に奉葬し、御骨を當山に奉安す。更に數傳して、平安末期、高倉上皇の勅により靜觀(池大納言賴盛)入山す。靜觀、法然に歸して心親房と號し、法然を當山第一世となし、其尊像を靈堂に受けて安置し、他力念佛一門の法源とす。時に寺

●東山遠味盡掃の麓にあり、寺域四千七百餘坪、松林、楓樹池等を繞りて千古清寂の氣に充ち、諸堂房其間に隱見す。所在の堂宇は本堂・祖師堂・方丈(釋迦堂)・瑞雲殿(傳授堂)・講堂・祖師堂・寶藏・山門・書院・侍者寮・茶所・勸學院・辨天堂・藏守堂・智願院等なり。本堂は西面し、安置の本尊は俗に見返り阿彌陀如來と稱せられて著名なり。傳に曰く、永保元年二月十五日、永觀晨朝動行の朝、壇を降りて共に行道せられしにより、永觀慈愍のあまり乾の方にて躊躇せしに佛像顯みて水觀運しと呼び給ふと。脇壇に永觀自作立像、空海作地藏像、淨土變茶經等を奉安す。祖師堂(御影堂)には中央に善導大師の立像、左に法然、右に龍空の各坐像を安置す。藏する所の寶物頗る多きも、今國寶指定のもの略述すれば次の如し。

●二十五菩薩來迎圖(十二枚)は善導大師厨子の屏にして、繪材の上に漆し、極彩色にて二十五菩薩各奏樂する圖を描き、來迎藝術の一例なるも、今は厨子及び本尊を缺ぐ。鎌倉時代の作なり。絹本着色釋迦十六菩薩圖(一幅)は室町時代の作、同樂師如來像(一幅)は鎌倉時代の作に係る。同十界圖(二幅)は地蔵を中心とし、一幅は彌陀を中心として六道及び四苦等の苦患を描きしもの、紙本着色波濤十二幅はもと本寺方丈の襖畫にして、江戸初期、曾我派の筆に成れり。絹本金彩阿彌陀如來二十五菩薩來迎圖(一幅)は鎌倉時代の作、絹本着色來迎阿彌陀如來像(一幅)亦鎌倉末葉の作にして同十六羅漢十六幅と共に東京帝室博物館に委託せらる

門の殿盛其極に達し、境内の廣袤北は現若王子神社を鎮守として鹿ヶ谷に接し、西は舊白河の地即ち鴨川の流を界として夫より北一帶に及び、南は今の南禪寺の地一帯に及びしと云ふ。源賴朝深く靜運に歸し、建久六年、上洛の御當山に詣りて、天下靜穩の爲め大般若經を轉讀せしむ。其規今に絶えず。文永年間、淨土宗西山派祖觀空の弟子にして、西山西谷流の祖たる淨音在任して盛んに念佛の弘通に努む。爾來其本寺となれり。時に後醍醐天皇中宮落飾して本寺に入り、尼院を建てて住せらる。然るに西山、西谷兩派の寂後觀智、行觀を経て、寺門漸く衰退の兆あり、南禪林寺の境域には龜山法皇の皇居設けらる。之れ即ち後の南禪寺なり。嘉祥年間、第二十世覺願、永觀の靈告を蒙りて荒廢せる諸堂を復興す。應永の頃大内義弘、此地を管領するに及び寺門興隆の志ありしも果せず、後小松天皇御母通關門院資を授じて本堂、僧房の荒廢を興して、寺領を寄せらる。應仁年間、兵燹に罹り鳥有に歸せしが、明應六年、第三十二世永承客殿を建立し、第三十四世舜叔亦寺門の復興に努む。第三十六世南無叔風に高徳の譽あり、檀林の威風舊に倍し朝野の尊崇厚く、什寶田地の寄進漸く多し。三十七世果空、天正の亂後に出で、當山を再興す、豐臣秀吉之に歸して淨土寺村に四十三石の朱印を附す。又元和元年、徳川家康より二條城に相見して當流總本山たるの條目並に寺領の朱印を受く。爾來四十一世清盛の代、講堂、御影堂、四十三世善慶(本堂、地藏堂、衆頭寮等)、四十五世眞準(地藏堂、衆寮)四十八世助三(本堂、食堂)四十九世普賢及(玄關、中門、衆寮)、五十世炬範(經藏、食堂)、五十三世眞義(御影堂)等各堂舎の建造、修營に力を致し、寺觀次第に整備す。明治維新に及び、一時衰頽せしが、明治九年、西鎮兩派合同の大教院より獨立して宗務を統理す。明治



(堂觀禪寺林禪)

●佛體製圖(一幅)は善心僧都筆と傳へ、同釋迦十大弟子像三幅は張墨悲筆と云ふ。紙本着色融通念佛緣起二卷は善土佐光信と傳へ、調書は公家の寄書にして、寛正四年より同六年に至る年月を各銘記せり。紙本淡彩釋迦三尊像(一幅)は狩野元信の筆に成る。絹本着色山越阿彌陀如來圖(一幅)は、其圖樣金戒光明寺本とは稍々異なり。彌陀猶ほ山の彼方にあるに、二菩薩は既に此方に全身を現せり。配するに四天王及び童子を以てす。書法大略光明寺本と等しきも、本圖僅かに宋畫の影響を見る三尊と自然との調和一段と優れ、畫趣亦彼圖より深し。同じく善心筆を傳ふるも、これ又鎌倉期の作と認めらる。銅造蓮華機杼(一面)は本寺第二世宗觀の將來せしものと云ひ、紙本着色當麻變茶經緣起(一卷)は弘長二年十一月二十日觀惠の書あり。この外一山の重寶として著名なるは法然筆決定往生集、西山國師筆大經宗要、近

天授庵 京都市左京區南禪寺福地町。

●臨濟宗南禪寺派。
●南禪寺塔頭に在り、山門の南にあり。南禪寺開山大明國師(普門)の開基に係り、其塔所たりしが、延元四年、光明天皇勅して虎關師謙に其塔基を賜ひ、天授

庵を築し、塔を靈光と云ふ。明徳四年、祝融の災に罹りて夷せしが、性海之を再興す。慶長七年、細川幽齋を改修し、爾來、其舊所となす。更に嘉永年間、庫裡、書院等を修營して今日に及べり。

●境内地二千餘坪。堂宇に本堂・庫裡・書院・山門等々を具ふ。又堂城には國師塔並に細川幽齋夫妻、宮津城主京極安智、横井小橋、磯川星麻夫妻等の墓碑を存す。寺寶中、絹本着色細川幽齋夫妻像(幽齋慶長壬子崇傳贊、夫人像元和四戊午重主贊)二幅は現に國寶に列す。他に大明國師自贊畫像等を藏せり。

●檀信徒精進供養會(五月、十一月兩度)、細川幽齋忌(十月六日)、大明國師忌(十一月十一日、十二日)。

金地院

京都市左京區南禪寺福地町。

臨濟宗南禪寺派

●南禪寺塔頭にして、應永年間、大業の開基たり。もと北山にあり、足利義持の歸依後からざりしが、後ち現地に移る。徳川時代の初め、崇傳(本光國師)當院より出て、幕府の權權に參し、又天下僧録司となりて國內寺院僧侶の事を掌る。即ち當代、金地院崇傳の名聲は、黒衣宰相として、慈眼大師天海と共に都鄙に著聞せり。爾來、維新に至る迄累世天下僧録司を稱す。尙は崇傳、慶長十六年、伏見桃山城の遺構を移して諸堂宇を修營せり。舊寺額七百石なりき。

●諸堂宇中、方丈は國寶建造物なり。伏見桃山城の遺構にして、慶長十六年の移建に係り、桁行十一間、梁間七間、單層、屋根入母屋造、柿葺の建築南禪寺方丈に見る如き輕妙の趣致に映ぐと雖も、頗る莊重の氣あり。内部は、上間、室中、下間の三區より成り、上之間上段に本床、邊間、左横に頓齋席、右横に附書院



(寶圖) (方丈院地金)

を下して五山の首位に列せしめらる。かくて宗風漸く興りや、山門の徒之を統率し、明徳四年、山門建立に關し強訴し、諸伽藍遂に彼等の爲に燒却せらる。其後再建せられしが文安四年、同様に罹り、次で應仁の兵燹に堂房六十餘宇悉く烏有に歸し、寺僧四方に奔竄す。時に戰國亂世、屢次、再興を圖りて成らず、寺額頗る荒廢す。然るに天正、文祿の頃、玄圃住持たるや豐臣秀吉に遇せられ、征韓役に文書及び應接の事に當りしが、慶長十一年、秀頼後陽成天皇の勅を奉じ、佛殿を再建し、爾後、漸く復興の機運に向ふ次で金地院崇傳徳川家康の信任を得、其權機に參與し僧録に補せられ、同十六年後陽成天皇より清涼殿を賜ひて方丈となし、又桃山舊殿を移して小方丈となす。寛永五年、藤堂高虎更に山門を再建す。明正天皇寛永十八年日華門を賜ふ、元祿年間、南禪院再興せられ、此の如くにして稍々往時の觀を復したり其後、明治二十八年一月回縁に罹り、本堂、僧堂等燒燬せしが、明治四十二年四月、本堂の再建成る。本寺塔頭子院其盛時には六十二院を數へしが、近世二十八院に減じ、現に南禪院(別項參照)、天授庵(別項參照)、歸雲院(第二世祖圓の塔所)、金地院(別項參照)、光雲寺(別項參照)、聽松院(舊名を瑞松院と云ひ、第十四世清拙正澄の塔所なり。管領細川滿元入道して岩橋院遺徳、或ひは聽松軒と號し、本院を再興し聽松院と改む)、慈氏院(第四十四世義堂周信の塔所なり)、眞乘院、正酌院、正因寺、法皇寺等十二院を殘せり。現に南禪寺派總本山にして末寺四百五十九箇寺を統ぶ。

●三條街道を隔て、東山連峯の再び起伏する所、幽靜閑寂の淨境なり。寺域三萬三千餘坪。老松の間に佛殿・大方丈・小方丈・三門・勸使門・總門・僧堂、順正書院・諸塔頭點在す。就中、三門、方丈は國寶建造物に列せらる。三門は一天下龍門と稱し、上間を五鳳樓と云ふ。寛永五年九月、藤堂高虎の再建立に係り五間三戸樓門、屋根入母屋造、木瓦葺の建築にして、兩側に山廊を附す。純然たる禪宗式の大樓門にして、其手法、東福寺三門に等しく、當代有數の三門建築たり。樓上内部は極彩色にして畫工狩野守信、繪所土佐法眼徳悅の兩手に成れりと云ふ。正面に釋尊の坐像及び十六羅漢を奉安し、家康、高虎の木像及び藤堂家歴代、其家臣七十餘名の靈牌を置く。石川五右衛門隠れし



(寶圖) (門山寺禪南)

●三條街道を隔て、東山連峯の再び起伏する所、幽靜閑寂の淨境なり。寺域三萬三千餘坪。老松の間に佛殿・大方丈・小方丈・三門・勸使門・總門・僧堂、順正書院・諸塔頭點在す。就中、三門、方丈は國寶建造物に列せらる。三門は一天下龍門と稱し、上間を五鳳樓と云ふ。寛永五年九月、藤堂高虎の再建立に係り五間三戸樓門、屋根入母屋造、木瓦葺の建築にして、兩側に山廊を附す。純然たる禪宗式の大樓門にして、其手法、東福寺三門に等しく、當代有數の三門建築たり。樓上内部は極彩色にして畫工狩野守信、繪所土佐法眼徳悅の兩手に成れりと云ふ。正面に釋尊の坐像及び十六羅漢を奉安し、家康、高虎の木像及び藤堂家歴代、其家臣七十餘名の靈牌を置く。石川五右衛門隠れし



(寶圖) (大方寺禪南)

●三條街道を隔て、東山連峯の再び起伏する所、幽靜閑寂の淨境なり。寺域三萬三千餘坪。老松の間に佛殿・大方丈・小方丈・三門・勸使門・總門・僧堂、順正書院・諸塔頭點在す。就中、三門、方丈は國寶建造物に列せらる。三門は一天下龍門と稱し、上間を五鳳樓と云ふ。寛永五年九月、藤堂高虎の再建立に係り五間三戸樓門、屋根入母屋造、木瓦葺の建築にして、兩側に山廊を附す。純然たる禪宗式の大樓門にして、其手法、東福寺三門に等しく、當代有數の三門建築たり。樓上内部は極彩色にして畫工狩野守信、繪所土佐法眼徳悅の兩手に成れりと云ふ。正面に釋尊の坐像及び十六羅漢を奉安し、家康、高虎の木像及び藤堂家歴代、其家臣七十餘名の靈牌を置く。石川五右衛門隠れし

等あり。各室障障子に探幽、尙信、雲信等狩野派の畫を貼附す。建築樞樞、狩野派畫中の傑作を以て推さる南禪寺方丈内部の如き絢爛たるものなきも、西本願寺書院等と共に桃山時代の貴重なる遺構なり。林泉は鶴龜の庭と稱し、八窓の茶室と共に小堀遠江守政一の作として著聞す。

南禪寺

京都市左京區南禪寺福地町。

臨濟宗南禪寺派

●瑞龍山と號し、評さには太平興國南禪寺と稱す京都市五山の首位にして、現に富深本山なり。初め、此地に三井寺の別院最勝光院ありて、道智、胸僧正之に住す。後ち久しく荒廢せしが、弘安年間に至り、龜山上皇此地に離宮を造營し給ふ。然るに、正應の始め、宮中春りに妖怪異變の事あり、依りて上皇東福寺の無

豊臣氏の遺徳に係る。薄清涼殿を賜ひて移建せしものなり。小方丈は寶福堂一に虎の間と稱し、もと伏見桃山城の遺構、同年、徳川氏の寄進する所なり。小方丈は大方向の右側に連り矩形をなし、全體として内部十四室(内清涼殿八室、虎の間六室)に區せらる。虎の間三室(後の竹林虎園三十九面(國寶)は狩野探幽筆の傳へたり。前庭は有名な虎子渡の庭園にして小堀遠州の作、風に名園として喧傳せらる。尙ほ佛殿は桁行十三間、棟間十一間の大堂宇、明治四十二年の再建にして天井瓦葺は今尾景年の作なり。什寶中、國寶指定のものゝ挙げれば次の如し。絹本着色大明國師像一幅(平田慈約の贊あり)・同南院國師像一幅(慶長十七年四月二日後陽成天皇宣筆の絶海中津波あり)・同釋迦十六善神像一幅(重寶山下の釋迦三尊十六善神を大和繪風に描きし、鎌倉時代の作なり)・紙本着色薄雲圖一幅(祥雲筆)・絹本着色佛涅槃圖一幅(室町時代の作)・絹本着色江山漁舟圖一幅(壽三松筆)・絹本淡彩泰山李錫問答圖一幅・紙本着色群鹿圖(虎の間三十三枚、貼付三枚、腰障子六枚、傳探幽筆)・三十九面・絹本墨畫聖僧文殊像一幅(南無比丘尼正澄贊あり)・牡丹繡樓香盒一合(鎌倉彫と稱せらる、ものにして、意匠、牡丹三葉を中に三方に花を配し鎌倉末期の製作と推せらる)・紙本着色薄雲圖(慶長十六年、清涼殿を賜ひて方丈となせし際の記録なり)等なり。尙ほ古來、境内の風趣を稱して十勝を數ふ。即ち獨秀峯、羊角峯、薄雲洞、響龍池、曇華堂、鎮春亭、蓮羅庵、鏡月閣、愈妙亭、磨齒林等はなり。

●龜山上皇忌(例月十五日、十月十五日に正當大法會を修す)、開山忌(十一月十二日)。

南禪院

京都市左京區南禪寺福地町。

●臨濟宗南禪寺派。
●現に南禪寺別院にして龜山上皇御廟殿たり。弘安年間、龜山上皇南禪寺の地に離宮を造營し給ひしが、後ら上下兩宮の中、下宮を神廟となし給ふに及び、上皇乃ち上宮に御仙居あらせらる。本院は即ち上宮の古蹟なり。嘉元三年、上皇崩御の後遺詔を奉じて御分骨所を設け、廟殿となし、御法體の尊像を安置して奉祀す。後ら應仁の大亂後、久しく荒廢せしを、天正以降、玄圃、崇徳の輩出に依り、南禪寺復興するや、本院亦これに伴ひて漸次舊觀を復せしが、元祿十五年、將軍徳川綱吉の母桂昌院之を重興せり。大正八年、庫裡、玄圃、書院を再建して寺觀を一一新す。

●別殿・庫裡・書院・玄圃等を具備し、上皇御法體の尊像を奉安し、禮繪は總て狩野常信の筆に係る。境内に上皇の御分骨塔あり。龜山の淨金剛院高野山金剛峯寺と合せ稱して三御分骨所となす。林泉は天下三名園の一として著聞し、池を曹溪と號し、池中の島を心高島と云ふ。池畔老樹繁りて幽靜寂雅、總てこれ上皇御愛好の遺構と傳へ、大正十二年、保護庭園に指定せらる。

●淨土宗。
●香氣山萬無寺と號す。開光大師二十五靈場の一なり。建永元年、法然の門弟住蓮、安樂此の地にありて如法念佛を修し、六時禮懺を創む。時に都門の士女參するもの甚だ多しと云ふ。其後頗増し、總に一小字を存して其遺跡を傳へしが、寛永年間増設廟殿に漸せり。

法然院

京都市左京區鹿ヶ谷法然院町。

仍て知恩院の靈岩之が再興を企てしも能はず。延寶八年、知恩院三十八世心阿萬無、弟子忍源と共に靈岩の遺志を繼ぎ、幕府に請ひて特に二千坪を得、本寺を重興す。貞享八年、後西院天皇の皇女誠子内親王の御座所を下賜せらる。後ら沙門眞亮境内に近江國阿育王山石塔寺を模して阿育王塔を建立す。

●本堂・方丈・客殿・鐘樓堂・經藏・地藏堂・山門等を具備す。本堂には惠心作阿彌陀佛坐像並に法然自作坐像を安置し、地藏堂には忍源作の磨銅地藏尊像を安置す。經藏には忍源が門下十餘名と共に數年を費して校訂せし大藏經を納め、釋迦、多聞天、韋駄天の三像を安す。方丈は桃山御殿の遺物を移建せしものと云ひ中に存する金地着色竹園(床間壁貼付三、禮貼付四)開若松圖(遠州壁貼付三)、同權海受圖(禮貼付四)は中井圭水正の寄進に係り、寄進の年代は不明なれど、己



(景 前 院 然 法)

靈鑑寺

京都市左京區鹿ヶ谷御所ノ段町。

●臨濟宗南禪寺派。
●圓成山、一に谷御所と稱し、由緒寺院なり。承應三年、後水尾天皇の御本願に依り、舊圓成寺の遺址に就きて建立され、皇女淨法身院宮宗澄尼(多利宮)を開基とし、寺領百二十石を賜ふ。時に隣地如意寺荒廢せしより其如意輪觀音と靈鏡とを本寺に併せ、以て靈鑑寺と號すと云ふ。初め現寺地の南隣溪流に滙ひて建造せられしも、貞享四年、後西院天皇御所を賜ひ、現地に移建せらる。歴代皇女住持職を繼承せられしより、靈鑑寺尼宮と稱し、本寺を谷御所或は鹿ヶ谷比丘尼御所と呼ぶ。明治二十三年迄伏見宗淳宮住持あらせらる。現に由緒寺院として御下賜金に與る。

●境内二千七百六十六坪。本堂・書院・庫裡・表門等あり。本堂は徳川家の寄進に係り、圓珍作と傳ふる不動明王を安置す。寺寶に後奈良、正親町、後水尾、後西院各天皇の宮輪・親王女玉の御眞蹟・東福門院御禮服等を始め其他多數を藏す。

●例年、天皇、皇后、各宮の御息を奉修す。

安樂寺

京都市左京區鹿ヶ谷法然院町。

●淨土宗西山派。
●住蓮山と號し、法然の弟子住蓮、安樂の遺跡なり。二僧は念佛聲明に達し、鹿ヶ谷に草庵を結びて衆を教化す。時に後鳥羽上皇の二寵姫、松島、鈴島、其諸音の美妙なるを聞き、一向専修の教を信敬し、發心して大内裏を忍び出で之に隨ひ齋養して尼となる。此事上皇の遺訓に觸れ忍に念佛停止の令下り、二僧を遺放して近江國馬瀨(一に安樂は六條河原と云ふ)に於て諱せしめ給ひ、承元二年、其師法然を土佐に流し給ふ。爾來、其輩至久しく荒廢せしが、後人念佛弘法の芳跡なりとて現地に寺院を建營し、以て其舊址を傳ふ。菴室はもと靈鑑寺の東、山上に在りしといふ。

●境内高敞にして展望甚だ佳なり。本堂中央には惠心作と傳ふる阿彌陀如來坐像を奉安す。脇士は觀音勢至にして、共に運慶の作と云ふ。脇壇に松島・鈴島の坐像各々一尺五寸許なるを安置す。左脇壇に延命地藏あり、智證大師の作と傳ふ。松島・鈴島の塔は堂前東の山の方にあり。五輪の小石塔二基相懸ぶ。住蓮、安樂の塔廟は北門の側にあり。共に亦五輪の小石塔なり。名木桃樹一樹を存す。

●天台宗。
●鈴聲山と號し、永觀二年、一條天皇母后東三條院藤原詮子の御願に係る。初め東三條院深く佛法に歸し延壽寺行堂の聖陀佛を神樂岡東の離宮に遷せしが、正暦三年、遂に離宮を捨て、寺となし給ふ。開山は戒尊なり同五年一條天皇勅して本堂を建立し、勧願寺と



(堂 本 堂 如 眞)